

2020年度（令和2年度）

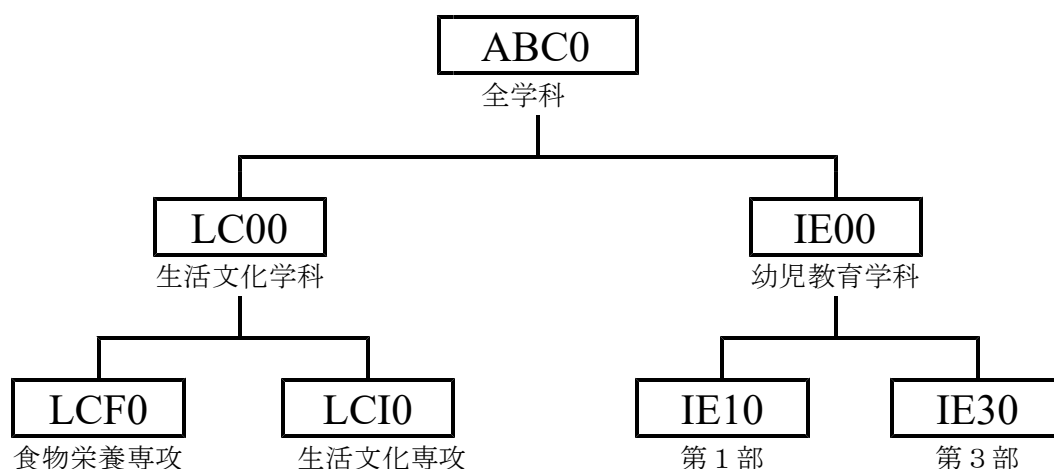
授業内容案内(シラバス)

# 科目ナンバリング

「科目ナンバリング」とは、皆さんが受講するすべての科目に対して、その科目がどの学科・専攻(コース)対象のものか、その科目を履修することによりどのような学習成果が得られるか、いつ受講する科目なのかが分かるように7桁のアルファベットと数字を組み合わせたものです。

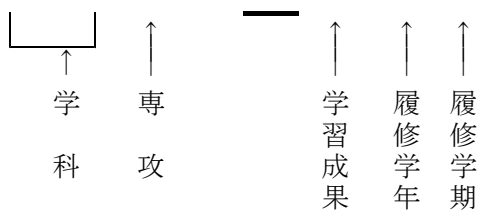
前の4桁が対象学科・専攻(コース)、後の3桁が得られる学習成果、履修学年、履修学期を表しています。「現代教養基礎」のように全学科を対象とするものは前の4桁が ABC0 となっています。

なお、学習成果は履修案内の「カリキュラム・ツリー」に掲載しています。



(例)

## LCF0\_A12



※履修学年  
1…第1学年  
2…第2学年  
3…第3学年  
9…学年問わず

上の例は、  
生活文化学科・食物栄養専攻  
学習成果 A (K、A、B、C、……)  
第1学年後期に履修する科目  
を表しています。

※履修学期  
1…前期  
2…後期  
9…通年

		DP	シラバス
生活文化学科 食物栄養専攻	建学の精神を基に	1. 栄養士としての「プロフェッショナリズム」、「栄養」と「食」の質と「安全」の知識・技能を有する。(知に明るい心)	
		①栄養、調理、給食経営、衛生の知識・技能を有する	食DP1
		②栄養士の職業倫理を理解している	食DP2
		2. 多様な社会と対象者をより豊かに、健康にするため、学修を生かし、主体的に連携・協働できる(和やかな心、信じ信じ合える心)	
		①多様な社会、対象者を理解できる	食DP3
		②栄養士の専門的知識、生活文化に関わる学修、豊かな教養を生かし「思考・判断・表現」ができる	食DP4
		③社会人基礎力を有し、主体的に課題を解決できる	食DP5
3. 常に最新の知見を学ぶ実践者(正しい心)			
	①栄養士の生涯教育制度、地域、社会における生涯学習制度を理解し、利用できる	食DP6	
生活文化学科 生活文化専攻	建学の精神を基に	1. 医療秘書又はビジネス実務の知識、技術を有する。(知識・技能)(知に明るい心)	
		①専門的知識、技能を有する。	生DP1
		②社会人としての必要なビジネススキルを身につけている。	生DP2
		2. 幅広い教養とホスピタリティの心を身につけている。(人物・人柄)(和やかな心、信じ信じ合える心)	
		①好印象を与え、信頼される人材。	生DP3
		②生活文化に関わる学修、豊かな教養を生かし「思考・判断・表現」ができる	生DP4
		③ホスピタリティの心を持ち、協働して活動できる。	生DP5
		3. 多様な社会をより豊かにするため学び続ける人材。(正しい心)	
	①主体的に社会に貢献できる	生DP6	
	②専門的知識と社会人基礎力、生涯学習	生DP7	
	③多様なコミュニケーション力	生DP8	
幼児教育学科	建学の精神を基に 豊かな教養を身に 付け	1. 信じ信じ合える心	
		①様々な体験から達成感を高め、自分を肯定することができる	幼DP1
		②多様なバックグラウンドを持つ他者に対し、思いやることができる	幼DP2
		2. 多様な社会をより豊かにする保育者(正しい心、和やかな心)	
		①語彙力を高め、自分で考え自分の言葉で話すことができる	幼DP3
		②柔軟性・傾聴力・共感力・協調性などの社会人基礎力を有している	幼DP4
		③多様な社会を理解できる	幼DP5
		3. 学び続ける生涯保育者(知に明るい心)	
			①専門分野における知識・技能を有し活用できる
	②失敗から気づき、一歩前に踏み出すことができる	幼DP7	
	③保育者としてのキャリアビジョンを有する	幼DP8	

# 1 基礎科目

**[科目名]** 現代教養基礎  
**[担当教員名]** 奥村 智子・古山 敬子・朴 賢晶・  
阿隅 和余・坂口 みゆき・藤原 淳子  
西澤 早紀子・玉田 裕人・田村 佳世  
上島 遥・庄子 佳吾・山口 由貴  
砂田 治弥・岡田 摩紀  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
幼児教育 第1部・第3部

(専攻)

**[開講学期]** 1年前期 **[科目コード]** AB00\_K11  
**[単位数]** 2単位 **[授業形態]** 講義

#### [授業概要]

本学の教育理念「正明和信」に基づいた人間性豊かな、人材育成の基礎となる科目である。初年次教育として、「社会の仕組みの理解」、「社会参加のための表現方法」を専門家によるオムニバス方式で受講する。毎回グループワークを行い、KJ法、プレゼンテーション発表法について実践的に学ぶ。「社会の一員としていかに信頼される女性として行動するか」について、関心と意欲を持って主体的に行動できる素地をつくる。

#### [学習成果] [K]

社会人の基礎となる力（能力）、社会で活躍するために求められる知識や教養の修得、及び社会で活躍できる女性として生きる力を身につけることができる。

グループワークを通じて、社会人基礎力として必須となる「考える力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」を身につけ、人生100年時代に向けて、自己実現や社会貢献にむけてどう学び、どう活躍するかを考えることができるようになる。学科・専攻の枠を超えたグループでの受講により、新たな人間関係を形成する機会をつくり、「柔軟性」（視野が広がった、意見の違いを受け入れられた）を高め、アクティブラーニングで、コミュニケーション能力が身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 「正明和信」と地域貢献
- 3 情報リテラシー情報収集方法
- 4 防災―稲沢市の取り組みから学ぶ
- 5 ゴミの減量―稲沢市の取り組みから学ぶ
- 6 好感度アップのビジュアルマナー
- 7 好印象を与えるコミュニケーションマナー
- 8 実践講座 ① GW
- 9 実践講座 ② 発表
- 10 自分を活かすことば力
- 11 実践講座 ① GW
- 12 実践講座 ② 発表
- 13 みんなで一緒に考えよう
- 14 実践講座① GW
- 15 実践講座② 発表

#### [授業方法]

講義とアクティブラーニングを組み合わせですすめる。毎回、理解度を確保するための小テスト、レポート課題を行う。最後に発表コンテストを行う。

#### [成績評価]

レポート(45%)  
授業への取り組み状況 (25%)  
発表(30%)

#### [教科書]

愛知文教女子短期大学 現代教養基礎2020

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業後に示すレポートを提出すること。また、授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。これらを含め授業外学習に180分程度取り組むこと。発表の前には、各グループで時間を作り練習を行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

毎回、興味をもって積極的に学び、ディスカッションにおいても自主的な発言を期待する。

**[科目名]** キャリアプラス  
**[担当教員名]** 奥村 智子  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
幼児教育 第1部・第3部  
(専攻)

**[開講学期]** 1・2・3年全期 **[科目コード]** AB00\_K99  
**[単位数]** 2単位 **[授業形態]** 演習

#### [授業概要]

学生自らが目指す職業人になるために「プラス」となる講座を選択し学ぶことで、社会で活躍するための知識と教養を修得する。この科目を受講することで各自のキャリア形成の一助とすることがねらいである。

#### [学習成果] [K]

自ら選択した研修や講座の受講を通して、人間として、女性としての「在り方生き方」を考えることができる。さらに、この講座で学んだ知識や技術を各自の卒業後の仕事に活かすことができる。

#### [授業計画]

以下の二通りの方法がある。  
○オーストラリア海外研修(事前研修、研修報告書、発表会等を含む)に参加

○キャリア(職業履歴)にプラスされる講義や活動(下記①②)を15回修得することにより単位が取得できる。

① 足立学園総合研究所で開講する講座のうち「キャリアプラス」の授業と認められた講座の受講

② 「キャリアプラス」と認められた研修、ボランティア活動等を受講又は参加  
キャリアプラス事前指導

↓  
受講又は参加

↓  
キャリアプラス事後指導

#### [授業方法]

オーストラリア海外研修については事前研修、研修報告書の提出、報告会での発表を含めて単位取得とする。

キャリアプラスの講座、ボランティア活動への参加は15回の出席に加えて、まとめのレポートの提出で卒業学年の後期に単位取得とする。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

適宜配布

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

毎回の事前学習(予習)と反省を含めたまとめのレポート作成がキャリアプラスにつながる。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

地域志向科目

[科目名] キャリアデザイン I  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 幼児教育学科 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

「キャリア」とは特別な地位や経歴、或いは能力のことではない。キャリアをデザインするとは「自分自身を知って、自分のブランドを創る」ことである。この先、変化する世の中においても充実した日々を送るために、自分自身のことをよく見つけ、知り、そして「今何を考え、何を為すべきか」を広く、そして深く考えることでこの先の自分自身の「道標(みちしるべ)」を描がける力を身につけることである。

そのためにも「考える力」、そして考えた事を整理する「構想する力」、さらに構想したことを他にコミュニケーションできる「表現する力」を高めてゆく必要がある。個人ワークやグループワークを通じて「3つの力」も高めていく。

就職活動を意識したメニューも組み込むが、就職はゴールではなく新たなスタートである。社会に出た組織人として、また家庭で、貴女を取巻く環境が大きく変化する中でも自分自身を見失うことなく「貴女らしく、貴女ならではの」の生き方を見つけ、行動する自分Way(自分スタイル)を得る。

[学習成果] [K]

自分自身に向き合って、自分自身を正確に把握できていて、短期・中期・長期での自分の「あるべき姿」が描けるようになっていく。そして「あるべき姿」の実現のために執るべき行動がイメージできている。また、1分間で自分自身をアピールできている。

[授業計画] GW: グループワーク PW: 個人ワーク

- 1 オリエンテーション
- 2 将来を読む1(メガトレンドが教えてくれること:GW)
- 3 将来を読む2(将来変化への自分としての問題化:PW)
- 4 「働く」を考える1…昨今業界情報 GW
- 5 「働く」を考える2…必要なもの、大切なもの GW
- 6 自分ブランディング1…自分SWOT分析 PW
- 7 自分ブランディング2…ライフストーリー PW
- 8 自分ブランディング3…「らしさ」「ならではの」を考える PW
- 9 能力要件チェック 中間レポート作成 PW
- 10 あるべき姿を考える1 GW
- 11 あるべき姿を考える2 GW
- 12 自分シート創作&自己PR作成 PW
- 13 自分シート創作&自己PR作成 PW
- 14 グループワーク:GW・1分間スピーチ(自己PR)
- 15 クロージングセッション(ブランド)

※授業の進捗、情報環境の変化でシラバスの改訂もあります。(事前に案内)

[授業方法]

講義+個人ワーク・グループワーク(アクティブラーニング導入)

[成績評価]

授業への取組状況(60%)  
中間レポート(15%)  
期末試験(25%)

[教科書]

「キャリアデザイン入門 [I] 基礎力編(第二版)」  
大久保幸夫(日本経済新聞出版社)

[参考書]

講義毎に資料を配布

[準備学習(予習・復習)]

毎授業後に出席確認を兼ねた理解レポート提出。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

積極的なグループワーク参加を期待する。

[科目名] キャリアデザイン I  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 幼児教育学科 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_K22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

「キャリア」とは特別な地位や経歴、或いは能力のことではない。キャリアをデザインするとは「自分自身を知って、自分のブランドを創る」ことである。この先、変化する世の中においても充実した日々を送るために、自分自身のことをよく見つけ、知り、そして「今何を考え、何を為すべきか」を広く、そして深く考えることでこの先の自分自身の「道標(みちしるべ)」を描がける力を身につけることである。

そのためにも「考える力」、そして考えた事を整理する「構想する力」、さらに構想したことを他にコミュニケーションできる「表現する力」を高めてゆく必要がある。個人ワークやグループワークを通じて「3つの力」も高めていく。

就職活動を意識したメニューも組み込むが、就職はゴールではなく新たなスタートである。社会に出た組織人として、また家庭で、貴女を取巻く環境が大きく変化する中でも自分自身を見失うことなく「貴女らしく、貴女ならではの」の生き方を見つけ、行動する自分Way(自分スタイル)を得る。

[学習成果] [K]

自分自身に向き合って、自分自身を正確に把握できていて、短期・中期・長期での自分の「あるべき姿」が描けるようになっていく。そして「あるべき姿」の実現のために執るべき行動がイメージできている。また、1分間で自分自身をアピールできている。

[授業計画] GW: グループワーク PW: 個人ワーク

- 1 オリエンテーション
- 2 将来を読む1(メガトレンドが教えてくれること:GW)
- 3 将来を読む2(将来変化への自分としての問題化:PW)
- 4 「働く」を考える1…昨今業界情報 GW
- 5 「働く」を考える2…必要なもの、大切なもの GW
- 6 自分ブランディング1…自分SWOT分析 PW
- 7 自分ブランディング2…ライフストーリー PW
- 8 自分ブランディング3…「らしさ」「ならではの」を考える PW
- 9 能力要件チェック 中間レポート作成 PW
- 10 あるべき姿を考える1 GW
- 11 あるべき姿を考える2 GW
- 12 自分シート創作&自己PR作成 PW
- 13 自分シート創作&自己PR作成 PW
- 14 実習情報交換GW・1分間スピーチ(自己PR)
- 15 クロージングセッション(ブランド)

※授業の進捗、情報環境の変化でシラバスの改訂もあります。(事前に案内)

[授業方法]

講義+個人ワーク・グループワーク(アクティブラーニング導入)

[成績評価]

授業への取組状況(60%)  
中間レポート(15%)  
期末試験(25%)

[教科書]

「キャリアデザイン入門 [I] 基礎力編(第二版)」  
大久保幸夫(日本経済新聞出版社)

[参考書]

講義毎に資料を配布

[準備学習(予習・復習)]

毎授業後に出席確認を兼ねた理解レポート提出。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

積極的なグループワーク参加を期待する。

**[科目名]** キャリアデザインⅡ  
**[担当教員名]** 大成 真里  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育学科 第1部  
(専攻)  
**[開講学期]** 1年後期 **[科目コード]** IE10\_K12  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

#### **[授業概要]**

本授業においては、自分自身を客観的に分析していく作業を丁寧に行い、長所や強み、好みを確認すると共に、地域社会、日本・世界の現状に視野を広げ、現在から未来に対する自分なりの理解を持ち、その上で今後の生き方を具体的に決めていけるように促す。

#### **[学習成果] [K]**

自分自身の人生を大きく左右する職業に関し、その就職を成功させると共に、困難に際しても揺るがず継続できることを目標に、自分自身の特性や好みに沿った職業の路線を大きく見定め、その将来性や、社会的役割を自分自身で確認し、そこに到達するため必要な行動はどのようなものであるかを自ら情報収集し、短い短大の期間内に本学でどのようなことを学んでいくべきかを計画、実行していきけるよう学習し、それを基礎として、具体的に就職活動に必要な文章の作成や、面接に対応できる力を身につける。

#### **[授業計画]**

- 1 オリエンテーション 就職活動について
- 2 自己分析 (これまでの経験の作文作成)  
自身の特性、長所の発見
- 3 職業研究・時事問題研究・発表  
求められている人材とは何かを考察
- 4 職業研究・時事問題研究・発表  
就職に有利なスキルについて考察
- 5 応募書類の書き方 自己PRの作成
- 6 応募書類の書き方 志望動機の作成
- 7 面接試験対策  
自己PRと志望動機から個人指導
- 8 面接試験対策  
面接のマナーとポイントについて確認
- 9 論作文対策  
職場、地域、社会の現状について考察
- 10 論作文対策  
コミュニケーションについての考察
- 11 論作文対策 個人指導
- 12 面接試験対策 個人模擬面接 (ロールプレイング)
- 13 面接試験対策 個人模擬面接 (ロールプレイング)
- 14 面接試験対策 集団模擬面接 (ロールプレイング)
- 15 キャリアデザイン計画まとめ

#### **[授業方法]**

予め職業について、時事問題について調べる作業を行わせ、その情報を発表、共有するアクティブラーニングを実施。自分自身を掘り下げ、職業や社会に対する理解を深めるため作文を複数回提出添削、個人指導を行う。ビジネスマナーの体得の為グループで相互に練習を行う。

#### **[成績評価]**

授業への取組状況 (60%)  
レポート提出・発表 (40%)

#### **[教科書]**

必要に応じて適宜資料を配布する。

#### **[参考書]**

必要な文献は適宜講義内で紹介する。

#### **[準備学習 (予習・復習)]**

予習：時事問題や職業に関しての情報を調べるよう宿題を出すため行ってくる。作文、論作文についても宿題としてあらかじめ作成し、授業内で仕上げられるよう準備してくる。

復習：仕上げた作文・論作文に関しては添削、個人指導を毎回実施するため、必ず書き直して提出すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### **[備考]**

**[科目名]** キャリアデザインⅡ  
**[担当教員名]** 大成 真里  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育学科 第3部  
(専攻)  
**[開講学期]** 2年前期 **[科目コード]** IE30\_K21  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

#### **[授業概要]**

本授業においては、自分自身を客観的に分析していく作業を丁寧に行い、長所や強み、好みを確認すると共に、地域社会、日本・世界の現状に視野を広げ、現在から未来に対する自分なりの理解を持ち、その上で今後の生き方を具体的に決めていけるように促す。

#### **[学習成果] [K]**

自分自身の人生を大きく左右する職業に関し、その就職を成功させると共に、困難に際しても揺るがず継続できることを目標に、自分自身の特性や好みに沿った職業の路線を大きく見定め、その将来性や、社会的役割を自分自身で確認し、そこに到達するため必要な行動はどのようなものであるかを自ら情報収集し、短い短大の期間内に本学でどのようなことを学んでいくべきかを計画、実行していきけるよう学習し、それを基礎として、具体的に就職活動に必要な文章の作成や、面接に対応できる力を身につける。

#### **[授業計画]**

- 1 オリエンテーション 就職活動について
- 2 自己分析 (これまでの経験の作文作成)  
自身の特性、長所の発見
- 3 職業研究・時事問題研究・発表  
求められている人材とは何かを考察
- 4 職業研究・時事問題研究・発表  
就職に有利なスキルについて考察
- 5 応募書類の書き方 自己PRの作成
- 6 応募書類の書き方 志望動機の作成
- 7 面接試験対策  
自己PRと志望動機から個人指導
- 8 面接試験対策  
面接のマナーとポイントについて確認
- 9 論作文対策  
職場、地域、社会の現状について考察
- 10 論作文対策  
コミュニケーションについての考察
- 11 論作文対策 個人指導
- 12 面接試験対策 個人模擬面接 (ロールプレイング)
- 13 面接試験対策 個人模擬面接 (ロールプレイング)
- 14 面接試験対策 集団模擬面接 (ロールプレイング)
- 15 キャリアデザイン計画まとめ

#### **[授業方法]**

予め職業について、時事問題について調べる作業を行わせ、その情報を発表、共有するアクティブラーニングを実施。自分自身を掘り下げ、職業や社会に対する理解を深めるため作文を複数回提出添削、個人指導を行う。ビジネスマナーの体得の為グループで相互に練習を行う。

#### **[成績評価]**

授業への取組状況 (60%)  
レポート提出・発表 (40%)

#### **[教科書]**

必要に応じて適宜資料を配布する。

#### **[参考書]**

必要な文献は適宜講義内で紹介する。

#### **[準備学習 (予習・復習)]**

予習：時事問題や職業に関しての情報を調べるよう宿題を出すため行ってくる。作文、論作文についても宿題としてあらかじめ作成し、授業内で仕上げられるよう準備してくる。

復習：仕上げた作文・論作文に関しては添削、個人指導を毎回実施するため、必ず書き直して提出すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### **[備考]**

[科目名] 日本国憲法  
[担当教員名] 鮎川 潤  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻)  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LC00\_K21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

#### [学習成果] [K]

日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来栄養教諭等の教育関係はもとより、情報、福祉、医療、栄養をはじめとあらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。今後人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を生かすことができるようにする。

#### [授業計画]

- 1 日本国憲法誕生の経緯と歴史
- 2 日本国憲法の基本原理および概観
- 3 法の下の平等
- 4 自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
- 5 自由権(2) 精神的自由：  
思想、信教、表現、結社の自由ほか
- 6 自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
- 7 自由権(4) 法定手続の保障
- 8 社会権 生存権、労働基本権など
- 9 教育を受ける権利、国務請求権、国民の義務
- 10 立法
- 11 行政
- 12 司法
- 13 天皇、財政
- 14 地方自治、憲法改正
- 15 日本国憲法についてのまとめと今後の展望

#### [授業方法]

講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解でき、日常生活に生かすことができるように努めたい。

#### [成績評価]

筆記試験 (60%)  
報告・発表およびレポート (30%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

初宿正典他『目で見える憲法』有斐閣、最新版

#### [参考書]

鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。(特に第2、3、9、12、15回に関して)

#### [準備学習(予習・復習)]

予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 日本国憲法  
[担当教員名] 鮎川 潤  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_K21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

#### [学習成果] [K]

日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来幼稚園教諭・保育士をはじめとする教育児童福祉関係の仕事に就いた場合はもとより、あらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。今後人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を生かすことができるようにしたい。

#### [授業計画]

- 1 日本国憲法誕生の経緯と歴史
- 2 日本国憲法の基本原理および概観
- 3 法の下の平等
- 4 自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
- 5 自由権(2) 精神的自由：  
思想、信教、表現、結社の自由ほか
- 6 自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
- 7 自由権(4) 法定手続の保障
- 8 教育を受ける権利、生存権、労働基本権
- 9 参政権、国務請求権、国民の義務
- 10 立法
- 11 行政
- 12 司法
- 13 天皇、財政
- 14 地方自治、憲法改正
- 15 日本国憲法についてのまとめと今後の展望

#### [授業方法]

講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解でき、日常生活に生かすことができるように努めたい。

#### [成績評価]

筆記試験 (60%)  
報告・発表およびレポート (30%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

初宿正典他『目で見える憲法』有斐閣、最新版

#### [参考書]

鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。(特に第2、3、9、12、15回に関して)

#### [準備学習(予習・復習)]

予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]



[科目名] 日本国憲法  
[担当教員名] 鮎川 潤  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_K22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

日本国憲法についての基本的知識および重要条文に関する理解と知見を得る。私たちの日常生活にどのように日本国憲法が関係しているのかを理解し、現代社会において発生する社会的諸問題を日本国憲法の観点から認識し検討することによって、どのような考察と解決がもたらされるのかを理解する。

#### [学習成果] [K]

日本国憲法の基本的概念や精神および条文を、学生として、また将来幼稚園教諭・保育士をはじめとする教育児童福祉関係の仕事に就いた場合はもとより、あらゆる種類の職業や日常生活において生かしていくことができるような能力を養いたい。今後人生において出会うさまざまな社会的諸問題の認識と解決について、日本国憲法を学習して得られた知見を生かすことができるようにする。

#### [授業計画]

- 1 日本国憲法誕生の経緯と歴史
- 2 日本国憲法の基本原理および概観
- 3 法の下での平等
- 4 自由権(1) 生命、自由、幸福追求権
- 5 自由権(2) 精神的自由：  
思想、信教、表現、結社の自由ほか
- 6 自由権(3) 経済的自由、通信の秘密、住居の不可侵
- 7 自由権(4) 法定手続の保障
- 8 教育を受ける権利、生存権、労働基本権
- 9 参政権、国務請求権、国民の義務
- 10 立法
- 11 行政
- 12 司法
- 13 天皇、財政
- 14 地方自治、憲法改正
- 15 日本国憲法についてのまとめと今後の展望

#### [授業方法]

講義が中心であるが、グループ学習によるアクティブラーニングを実施し、調査した内容や意見を発表しあってディスカッションを行い、受講生が日本国憲法をより深く理解でき、日常生活に生かすことができるように努めたい。

#### [成績評価]

筆記試験 (60%)  
報告・発表およびレポート (30%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

初宿正典他『目で見る憲法』有斐閣、最新版

#### [参考書]

鮎川潤『新しい視点で考える犯罪と刑事政策』昭和堂、2017年。(特に第2、3、9、12、15回に関して)

#### [準備学習(予習・復習)]

予習として、各授業の回のテーマに関する教科書の該当の章をあらかじめ読んで理解に努めるとともに、復習として、授業で学習した内容について、該当する章の記述を再読し理解を深めること。また、憲法と関係のあると思われるニュース報道に関心を払って自分なりに検討を試みてほしい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 地球と生命  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_K11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

ヒトは地球上の生物の一員である。生物学は、より豊かにこの地球上で生物として活動していくための基礎教養である。今後、栄養士養成では、栄養学、解剖生理学、生化学などを学ぶことになるが、この講義が、生命の仕組みを理解する第一歩となる。

- 細胞の構造、小器官の名称・働きの理解
- 細胞分裂の仕組みの理解
- 核酸の構造と複製・遺伝の理解
- 免疫の仕組みの理解
- 神経系・内分泌系による調節機構の理解ができる。

#### [学習成果] [K]

栄養士養成の関連科目の基礎となる知識を修得し、身体を構成する細胞の構造と働き、恒常性を維持する仕組みを理解、生物を取り巻く社会的な問題についても考えることができるようになる、また、それを表現する力が修得できる。

#### [授業計画]

- 1 生物とは
- 2 細胞 (1) 原核生物と真核生物
- 3 細胞 (2) 細胞の構造と機能 ①
- 4 細胞 (3) 細胞の構造と機能 ②
- 5 細胞 (4) 細胞の構造と機能 ③
- 6 細胞の分裂と増殖 (1) 核酸
- 7 細胞の分裂と増殖 (2) 細胞分裂①
- 8 細胞の分裂と増殖 (3) 細胞分裂②
- 9 核酸と遺伝 (1) 遺伝子とタンパク質合成
- 10 核酸と遺伝 (2) 遺伝性疾患
- 11 免疫 (1) 細胞性免疫
- 12 免疫 (2) 体液性免疫
- 13 免疫 (3) 食物アレルギー
- 14 からだの調節の仕組み (1) 神経系による調節
- 15 からだの調節の仕組み (2) 内分泌系による調節

#### [授業方法]

講義が主体だが、生体内の動的な仕組みの理解を目的にビデオや動画の視聴も実施する。ディスカッションも取り入れ、お互いの意見を交流させ、より深く考える場を提供する。毎回、自分自身の理解を振り返るシートを活用し、学びの定着を図る。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (60%)  
授業・課題への取組状況 (40%)

#### [教科書]

「栄養科学シリーズNEXT 生化学」加藤秀夫他著  
(講談社サイエンフィク)

#### [参考書]

「わかる生物学」小野廣紀他著(化学同人)  
「好きになる分子生物学」萩原清文著  
(講談社サイエンティフィク)

#### [準備学習(予習・復習)]

予習・復習課題に取り組み、提出すること。  
これまで生物学を学ぶ機会がなかった学生が対応できるよう、基礎的な解説から行う。高等学校等で学んだことがある学生には、その復習を望む。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 基礎数学  
[担当教員名] 水野 重夫  
[授業クラス] (学科) 生活文化・幼児教育 第1部  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] AB00\_K11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

数学のいろいろな話題や問題に取り組み、数学を一層興味のある、親しみやすいものにしたい。また、数学を学ぶことを通して、数学的なものの見方や考え方を身につけ、数学のよさを認識することにより、これからの人生をより豊かなものにしてもらいたい。

#### [学習成果] [K]

一見解くことが困難であると思われる問題も、解法の糸口を見つけ、それを突破口にして筋道を立てて考えることにより、正解にたどり着くことができるようになる。この授業を通して、数学の世界にとどまらず、社会に出た時に会う、解決しなければならない様々な問題に対して、自信を持って対処できるようにしたいと考えている。

#### [授業計画]

- 1 数と式
- 2 最大公約数と最小公倍数
- 3 集合
- 4 割合
- 5 速さ・時間・距離
- 6 順列と組合せ
- 7 確率
- 8 平面図形1
- 9 平面図形2
- 10 平面図形3
- 11 論理1
- 12 論理2
- 13 論理3
- 14 いろいろな問題1
- 15 いろいろな問題2

#### [授業方法]

あらかじめ配布する授業プリントの問題について、解決の糸口をどう見つければよいのか、糸口が見つかったら正解に至るまでにどのような考え方をしたらよいのかについて、詳しく解説する。小・中・高で学習した内容で、忘れていたり曖昧になっている事柄については復習しながら授業を進める。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題や授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

授業プリントを配布

#### [参考書]

特になし

#### [準備学習 (予習・復習)]

予習としては、授業プリントの問題を自分で解いてみる。復習としては、授業で解説した問題の解き方を理解すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

数学が不得意で、授業についていけるかどうか心配している人も多いと思うが、授業はできる限りわかりやすく、ゆっくりとしたペースで進めていくので、頑張ってきてほしい。  
あらかじめ授業プリントを配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。

[科目名] 基礎数学  
[担当教員名] 水野 重夫  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_K12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

数学のいろいろな話題や問題に取り組み、数学を一層興味のある、親しみやすいものにしたい。また、数学を学ぶことを通して、数学的なものの見方や考え方を身につけ、数学のよさを認識することにより、これからの人生をより豊かなものにしてもらいたい。

#### [学習成果] [K]

一見解くことが困難であると思われる問題も、解法の糸口を見つけ、それを突破口にして筋道を立てて考えることにより、正解にたどり着くことができるようになる。この授業を通して、数学の世界にとどまらず、社会に出た時に会う、解決しなければならない様々な問題に対して、自信を持って対処できるようにしたいと考えている。

#### [授業計画]

- 1 数と式
- 2 最大公約数と最小公倍数
- 3 集合
- 4 割合
- 5 速さ・時間・距離
- 6 順列と組合せ
- 7 確率
- 8 平面図形1
- 9 平面図形2
- 10 平面図形3
- 11 論理1
- 12 論理2
- 13 論理3
- 14 いろいろな問題1
- 15 いろいろな問題2

#### [授業方法]

あらかじめ配布する授業プリントの問題について、解決の糸口をどう見つければよいのか、糸口が見つかったら正解に至るまでにどのような考え方をしたらよいのかについて、詳しく解説する。小・中・高で学習した内容で、忘れていたり曖昧になっている事柄については復習しながら授業を進める。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題や授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

授業プリントを配布

#### [参考書]

特になし

#### [準備学習 (予習・復習)]

予習としては、授業プリントの問題を自分で解いてみる。復習としては、授業で解説した問題の解き方を理解すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

数学が不得意で、授業についていけるかどうか心配している人も多いと思うが、授業はできる限りわかりやすく、ゆっくりとしたペースで進めていくので、頑張ってきてほしい。  
あらかじめ授業プリントを配布するので、予習をして授業に臨んでほしい。

[科目名] 英語演習Ⅰ  
[担当教員名] 山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養・生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC00\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

旅行や日本文化の紹介など、実際に英語を使うシチュエーションの設定で、実践的な英語を学習する。ビジネスシーンや食を題材としたグループワーク形式の授業により、グローバル社会に必要なコミュニケーション力と表現力を磨く。

[学習成果] [K]

英語でのコミュニケーションに関心を持ち、聞き取り、話すという日常英語ができるようになる。将来の職業に関する英語学習やビジネスシーンにおけるロールプレイを通じて、実務で役立つ英語を習得する。

[授業計画]

- 1 Introducing ourselves
- 2 Where are you from?
- 3 (1) Would you like chicken or fish?
- 4 (2) Can I have your passport, please?
- 5 (3) My mother has her own business.
- 6 (4) Can I check my email?
- 7 (5) Are you ready to order?
- 8 At the reception
- 9 (6) Where's the station?
- 10 (7) Can I use my card in this ATM?
- 11 (8) Do you have a non-smoking room?
- 12 (9) I have a stomachache.
- 13 (10) I'm from Japan.
- 14 Cooking instructions
- 15 Expressing your opinion

[授業方法]

ロールプレイやディスカッションなどのグループワークが授業の中心となる。毎授業の復習に関して、ライティングの課題を提出する。ビデオ視聴によるリスニングを行う。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
レポート・課題発表の成果 (30%)  
授業内の小テスト (30%)

[教科書]

PASSPORT 1 (OXFORD)  
授業プリントを配布

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

毎授業後に提示する課題を提出すること。  
小テストのための単語や文章を復習すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

英語や外国文化を身近なものとして興味を持って、積極的に授業に取り組んでほしい。

[科目名] 英語演習Ⅱ  
[担当教員名] 山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養・生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LC00\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

旅行や日本文化の紹介など、実際に英語を使うシチュエーションの設定で、実践的な英語を学習する。ビジネスシーンや食を題材としたグループワーク形式の授業により、グローバル社会に必要なコミュニケーション力と表現力を磨く。

[学習成果] [K]

英語でのコミュニケーションに関心を持ち、聞き取り、話すという日常英語ができるようになる。将来の職業に関する英語学習やビジネスシーンにおけるロールプレイを通じて、実務で役立つ英語を習得する。

[授業計画]

- 1 How was your vacation?
- 2 (11) What time does it start?
- 3 (12) Have you been to the islands?
- 4 (13) I really like rugby!
- 5 (14) Where should we meet?
- 6 (15) How about 400 baht for two?
- 7 Cultural differences
- 8 (16) I'd like to send this to Japan, please.
- 9 Decision making
- 10 (17) We're staying five more days.
- 11 (18) I lost my bag!
- 12 (19) Which bus goes to the airport?
- 13 (20) What did you like the best?
- 14 Telephone conversation
- 15 Planning some events

[授業方法]

ロールプレイやディスカッションなどのグループワークが授業の中心となる。毎授業の復習に関して、ライティングの課題を提出する。ビデオ視聴によるリスニングを行う。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
レポート・課題発表の成果 (30%)  
授業内の小テスト (30%)

[教科書]

PASSPORT 1 (OXFORD)  
授業プリントを配布

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

毎授業後に提示する課題を提出すること。  
小テストのための単語や文章を復習すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

英語や外国文化を身近なものとして興味を持って、積極的に授業に取り組んでほしい。

[科目名] 英語演習Ⅰ  
[担当教員名] 山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を身につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

[学習成果] [K]

日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび、自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠ることなく、正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

[授業計画]

- 1 Rules for Classroom Behaviour
- 2 Self-introduction & Interview
- 3 英語のリズム・イントネーションの訓練
- 4 Basic Grammar 1
- 5 Basic Grammar 2
- 6 Basic Grammar 3
- 7 Review
- 8 First Step to Childcare English
- 9 Welcome to Minato Nursery School!
- 10 Time and Numbers 1
- 11 Time and Numbers 2
- 12 Time and Numbers 3
- 13 Directions 1
- 14 Directions 2
- 15 Review

[授業方法]

毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う。ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする。英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ、幼保英語検定に対応できる英語力をつける。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

試験 (70%)  
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

[教科書]

保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

[参考書]

Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習（予習・復習）]

授業前に前回の授業を復習し、小テストに備える。また、予習として授業プリントを参考にして重要語句の整理しておく。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むことと、間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科目名] 英語演習Ⅱ  
[担当教員名] 山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を身につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

[学習成果] [K]

日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび、自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠ることなく、正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

[授業計画]

- 1 Davy Meets His Classmate Takashi
- 2 Dropping Davy off and Picking Him Up
- 3 Jobs at Nursery School 1
- 4 Jobs at Nursery School 2
- 5 Lunchtime
- 6 Toilet Dialog
- 7 Fighting
- 8 Review
- 9 Injuries and illnesses 1
- 10 Injuries and illnesses 2
- 11 Telephone Calls
- 12 Field Trip
- 13 Baby Care
- 14 Graduation Day
- 15 Review

[授業方法]

毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う。ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする。英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ、幼保英語検定に対応できる英語力をつける。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

試験 (70%)  
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

[教科書]

保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

[参考書]

Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)

[準備学習（予習・復習）]

授業前に前回の授業を復習し、小テストに備える。また、予習として授業プリントを参考にして重要語句の整理しておく。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むことと、間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科目名] 中国語演習Ⅰ  
[担当教員名] 森村 森鳳  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

アジア諸国で公用語とされている中国語（北京語）を学び、グローバル社会に適応出来る人材育成を図る。

[学習成果] [K]

発音、基本的な構文及び会話を習得する。初級中国語で特に大事な発音を一年を通して何度も振り返り、丁寧に学ぶ。アクティブラーニングを取り入れ、語彙や学習の成果についての確認、必要に応じゲーム形式での学習及びグループ学習も行う。楽しく学んで、実際に話せる中国語をめざす。

[授業計画] (習得速度により追加変更の可能性あり)

- 1 中国語とは。発音 単語
- 2 発音① 名前① 単語
- 3 発音② 名前② 単語
- 4 発音③ 名前③ 単語 会話
- 5 第1課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 6 第1課② 練習、応用会話
- 7 第2課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 8 第2課② 練習、応用会話
- 9 第3課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 10 第3課② 練習、応用会話
- 11 第4課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 12 第4課② 練習、応用会話
- 13 第5課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 14 第5課② 練習、応用会話
- 15 第6課① 新出単語、発音、基本文、文法

[授業方法]

テキスト及び補助プリントを用いて、簡体字の練習～応用練習を行う。中国語版の語彙かるたを用いて語彙の練習をしたり、席を立ち、グループや遠くに座っているクラスメートと中国語でコミュニケーションをとる練習もする。

アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 試験 (20%)
- 授業への取組状況 (80%)

[教科書]

「恋する莎莎」(朝日出版社)

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

適切な予習・復習時間を課す。  
「宿題やテーマを与える」  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

- 使用機材：CD、プロジェクター、PC 等
- 予習・復習：授業内容により課す場合も有

[科目名] 中国語演習Ⅱ  
[担当教員名] 森村 森鳳  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LC10\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

アジア諸国で公用語とされている中国語（北京語）を学び、グローバル社会に適応出来る人材育成を図る。

[学習成果] [K]

発音、基本的な構文及び会話を習得する。初級中国語で特に大事な発音を一年を通して何度も振り返り、丁寧に学ぶ。アクティブラーニングを取り入れ、語彙や学習の成果についての確認、必要に応じゲーム形式での学習及びグループ学習も行う。楽しく学んで、実際に話せる中国語をめざす。

[授業計画] (習得速度により追加変更の可能性あり)

- 1 第6課② 練習、応用会話
- 2 第7課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 3 第7課② 会話練習、練習問題、ロールプレイ
- 4 第8課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 5 第8課② 練習、応用会話
- 6 第9課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 7 第9課② 練習、応用会話
- 8 第10課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 9 第10課② 練習、応用会話
- 10 第11課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 11 第11課② 練習、応用会話
- 12 第12課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 13 第12課② 練習、応用会話
- 14 第13課① 新出単語、発音、基本文、文法
- 15 第13課② まとめ

[授業方法]

テキスト及び補助プリントを用いて、簡体字の練習～応用練習を行う。中国語版の語彙かるたを用いて語彙の練習をしたり、席を立ち、グループや遠くに座っているクラスメートと中国語でコミュニケーションをとる練習もする。

アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 試験 (20%)
- 授業への取組状況 (80%)

[教科書]

「恋する莎莎」(朝日出版社)

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

適切な予習・復習時間を課す。  
「宿題やテーマを与える」  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

- 使用機材：CD、プロジェクター、PC 等
- 予習・復習：授業内容により課す場合も有

[科目名] 英会話Ⅰ  
[担当教員名] 山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を身につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

#### [学習成果] [K]

日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび、自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠ることなく、正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 Rules for Classroom Behaviour
- 2 Self-introduction & Interview
- 3 英語のリズム・イントネーションの訓練
- 4 Basic Grammar 1
- 5 Basic Grammar 2
- 6 Basic Grammar 3
- 7 Review
- 8 First Step to Childcare English
- 9 Welcome to Minato Nursery School!
- 10 Time and Numbers 1
- 11 Time and Numbers 2
- 12 Time and Numbers 3
- 13 Directions 1
- 14 Directions 2
- 15 Review

#### [授業方法]

毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う。ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする。英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ、幼保英語検定に対応できる英語力をつける。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

#### [参考書]

Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)'

#### [準備学習（予習・復習）]

授業前に前回の授業を復習し、小テストに備える。また、予習として授業プリントを参考にして重要語句の整理をしておく。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むことと、間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科目名] 英会話Ⅱ  
[担当教員名] 山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育に関する話題を中心に双方向のコミュニケーション活動を行う。それぞれの話題について土台となる語彙、表現を身につけ（インプット）、授業でそれらの語彙、表現を使ってアウトプットする機会（ペアワーク・グループワーク等）をもつことにより、確実に自己表現ができ、相手が伝えたい情報を把握することができる英語力を体得する。

#### [学習成果] [K]

日本語を介在することなく、伝えたい情報に関する語彙、表現がすぐに頭に浮かび、自然に口を衝いて出るようになる。個々の発音に縛られて口籠ることなく、正しいリズム・イントネーションを使って話すことができる。また、ネイティブスピーカーの自然な発話が理解できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 Davy Meets His Classmate Takashi
- 2 Dropping Davy off and Picking Him Up
- 3 Jobs at Nursery School 1
- 4 Jobs at Nursery School 2
- 5 Lunchtime
- 6 Toilet Dialog
- 7 Fighting
- 8 Review
- 9 Injuries and illnesses 1
- 10 Injuries and illnesses 2
- 11 Telephone Calls
- 12 Field Trip
- 13 Baby Care
- 14 Graduation Day
- 15 Review

#### [授業方法]

毎回、授業の最初に前回の授業内容に関する復習小テストを行う。ペアワークやマザーグース等の歌唱などを通して自然に楽しく英語が身につくようにする。英語力の伸張に応じてスピーチ等も取り入れ、幼保英語検定に対応できる英語力をつける。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
小テスト及び授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

保育の英会話（萌文書林）・授業プリント

#### [参考書]

Essential Grammar in Use (Cambridge Univ. Press)'

#### [準備学習（予習・復習）]

授業前に前回の授業を復習し、小テストに備える。また、予習として授業プリントを参考にして重要語句の整理をしておく。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

復習を怠らずに毎回実施する小テストにきちんと取り組むことと、間違うことを恐れずに積極的に授業に参加する姿勢をもつことが大切である。

[科目名] 英会話Ⅰ  
[担当教員名] ジェフリークラブ  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
                  幼児教育 第1部  
                  (専攻) 食物栄養・生活文化  
[開講学期] 2年前期           [科目コード] AB00\_K21  
[単位数] 1単位           [授業形態] 演習

[授業概要]

Lessons will be conducted in English using the Prescribed textbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.

Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.

Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]

Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[授業計画]

- 1 Course explanation, and getting to know you – teacher introduction quiz
- 2 Unit 1 Hello! : Introductions
- 3 Unit 1 How are you? : Everyday English
- 4 Unit 1 Vocabulary and Speaking
- 5 Unit 2 Your World: Countries
- 6 Unit 2 Cities and Countries
- 7 Unit 2 Reading and Speaking: Everyday English
- 8 Unit 3 All about you: Personal Information
- 9 Unit 3 The Audition - interview
- 10 Unit 3 Reading and Listening: Everyday English
- 11 Unit 4 Family and Friends: relationships
- 12 Unit 4 Relationships
- 13 Unit 4 Reading and Writing
- 14 Unit 4 Everyday English
- 15 Review for Test

[授業方法]

Students work in pairs and/or small groups. Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]

Test and participation (100%)

[教科書]

New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: Oxford University Press  
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

About one hour spent on homework exercises and preparation for following class  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科目名] 英会話Ⅱ  
[担当教員名] ジェフリークラブ  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
                  幼児教育 第1部  
                  (専攻) 食物栄養・生活文化  
[開講学期] 2年後期           [科目コード] AB00\_K22  
[単位数] 1単位           [授業形態] 演習

[授業概要]

Lessons will be conducted in English using the Prescribed textbook which includes the four skills of reading, speaking, listening and writing.

Everyday English will allow students to practice conversations in pairs, build up vocabulary and improve grammar through exercises which additionally broaden their horizons with interesting topics.

Continual assessment and end of term written test.

[学習成果] [K]

Students will improve their speaking, listening, reading and writing skills through a variety of exercises.

[授業計画]

- 1 Welcome back, and summer holidays review and quiz
- 2 Unit 5 The Way I Live: Present Simple; Sports/Food/Drink
- 3 Unit 5 Reading and Speaking: Jobs
- 4 Unit 5 Vocabulary and Pronunciation; Listening and Speaking
- 5 Unit 6 Everyday: Time
- 6 Unit 6 Elliot's Day
- 7 Unit 6 Lois's Day: Vocabulary and Speaking
- 8 Unit 7 My favourites
- 9 Unit 7 Things I like: Vocabulary
- 10 Unit 7 Reading and Writing: Everyday English
- 11 Unit 8 Where I live?: Rooms
- 12 Unit 8 Robert's Bedroom: Prepositions/ Reading and Vocabulary
- 13 Unit 8 Listening and Writing
- 14 Unit 8 Everyday English
- 15 Review for Test

[授業方法]

Students work in pairs and/or small groups. Supplementary materials will be used with additional worksheets to provide variety and support in learning.

[成績評価]

Test and participation (100%)

[教科書]

New Headway (Fourth Edition): Beginner Student's Book by Liz and John Soars: Publisher: Oxford University Press  
ISBN 978-0-19-477104-7

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

About one hour spent on homework exercises and preparation for following class  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科目名] O A演習 I  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

本演習は、ワープロソフト (Word)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

#### [学習成果] [K]

文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション  
電子メール・インターネット活用・基本操作
- 2 PowerPointスライド作成
- 3 PowerPoint発表
- 4 Word基礎 1
- 5 Word基礎 2
- 6 Word基礎 3
- 7 ビジネス文書作成 1
- 8 ビジネス文書作成 2
- 9 ビジネス文書作成 3
- 10 Word応用 案内文作成
- 11 Word応用 カード・はがき作成
- 12 Word応用 テンプレート活用
- 13 Word応用 給食だより作成 1
- 14 Word応用 給食だより作成 2
- 15 まとめ

#### [授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

#### [教科書]

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

#### [参考書]

検定問題集  
Word・PowerPoint操作方法書 など

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科目名] O A演習 I  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

本演習は、ワープロソフト (Word)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

#### [学習成果] [K]

文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション  
電子メール・インターネット活用・基本操作
- 2 PowerPointスライド作成
- 3 PowerPoint発表
- 4 Word基礎 1
- 5 Word基礎 2
- 6 Word基礎 3
- 7 ビジネス文書作成 1
- 8 ビジネス文書作成 2
- 9 ビジネス文書作成 3
- 10 Word応用 案内文作成
- 11 Word応用 カード・はがき作成
- 12 Word応用 テンプレート活用
- 13 Word応用 企業・病院だより作成 1
- 14 Word応用 企業・病院だより作成 2
- 15 まとめ

#### [授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

#### [教科書]

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

#### [参考書]

検定問題集  
Word・PowerPoint操作方法書 など

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。



[科目名] O A演習 I  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_K21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

**[授業概要]**

本演習は、ワープロソフト (Word)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

**[学習成果] [K]**

文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信など情報活用能力を身につける。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション  
電子メール・インターネット活用・基本操作
- 2 PowerPointスライド作成
- 3 PowerPoint発表
- 4 Word基礎 1
- 5 Word基礎 2
- 6 Word基礎 3
- 7 ビジネス文書作成 1
- 8 ビジネス文書作成 2
- 9 ビジネス文書作成 3
- 10 Word応用 案内文作成
- 11 Word応用 カード・はがき作成
- 12 Word応用 テンプレート活用
- 13 Word応用 園だより作成 1
- 14 Word応用 園だより作成 2
- 15 まとめ

**[授業方法]**

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

**[成績評価]**

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

**[教科書]**

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

**[参考書]**

検定問題集  
Word・PowerPoint操作方法書 など

**[準備学習 (予習・復習)]**

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

**[備考]**

日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科目名] O A演習 I  
[担当教員名] 河村 純子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_K31  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

**[授業概要]**

本演習は、ワープロソフト (Word)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint) を使用し、一般的なビジネス文書からいろいろな機能を活用して、表現力豊かな文書作成を学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

**[学習成果] [K]**

文書作成を中心に、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信ができるようにする。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション  
電子メール・インターネット活用
- 2 Windows基礎・PowerPoint基礎 1
- 3 PowerPoint基礎 2
- 4 PowerPoint発表
- 5 Word基礎 1
- 6 Word基礎 2
- 7 ビジネス文書作成 1
- 8 ビジネス文書作成 2
- 9 ビジネス文書作成 3
- 10 Word応用 案内文作成
- 11 Word応用 カード・はがき作成
- 12 Word応用 テンプレート活用
- 13 Word応用 園だより作成 1
- 14 Word応用 園だより作成 2
- 15 まとめ

**[授業方法]**

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

**[成績評価]**

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

**[教科書]**

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

**[参考書]**

検定問題集  
Word・PowerPoint操作方法書 など

**[準備学習 (予習・復習)]**

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回に授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

**[備考]**

日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科目名] O A演習Ⅱ  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

本演習は、ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)、ムービーメーカー等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成、ムービー作成などを学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]

文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[授業計画]

- 1 情報リテラシー (情報セキュリティと情報モラル)
- 2 PowerPoint活用 1
- 3 PowerPoint活用 2
- 4 スライド作成 1
- 5 スライド作成 2
- 6 スライド作成 3
- 7 プレゼンテーション (発表・評価)
- 8 アンケート作成
- 9 アンケート集計・分析
- 10 報告書・レポート作成
- 11 リーフレット作成
- 12 ビジネス文書 1
- 13 ビジネス文書 2
- 14 ビジネス文書 3
- 15 まとめ

[授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

[成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

[教科書]

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

[参考書]

検定問題集  
Word、Excel、PowerPoint、操作方法書 など

[準備学習 (予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

日本語ワープロ検定・文書デザイン検定・情報処理検定の資格取得を目指す。

[科目名] O A演習Ⅱ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

本演習は、ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)、ムービーメーカー等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成、ムービー作成などを学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

[学習成果] [K]

文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など情報利活用能力を身につける。

[授業計画]

- 1 情報リテラシー (情報セキュリティと情報モラル)
- 2 PowerPoint活用 1
- 3 PowerPoint活用 2
- 4 スライド作成 1
- 5 スライド作成 2
- 6 スライド作成 3
- 7 プレゼンテーション (発表・評価)
- 8 アンケート作成
- 9 アンケート集計・分析
- 10 報告書・レポート作成
- 11 リーフレット作成
- 12 ビジネス文書 1
- 13 ビジネス文書 2
- 14 ビジネス文書 3
- 15 まとめ

[授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

[成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

[教科書]

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

[参考書]

検定問題集  
Word、Excel、PowerPoint、操作方法書 など

[準備学習 (予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

日本語ワープロ検定・文書デザイン検定・情報処理検定の資格取得を目指す。

[科目名] O A 演習 II

[担当教員名] 小川 美樹

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期

[科目コード] IE10\_K22

[単位数] 1単位

[授業形態] 演習

#### [授業概要]

本演習は、ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)、ムービーメーカー等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成、ムービー作成などを学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

#### [学習成果] [K]

文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、必要な情報収集や情報発信など、情報利活用能力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 情報リテラシー (セキュリティと情報モラル)
- 2 PowerPoint活用
- 3 スライド作成 1
- 4 スライド作成 2
- 5 スライド作成 3
- 6 プレゼンテーション (発表・評価)
- 7 アンケート作成
- 8 アンケート集計
- 9 報告書・レポート作成
- 10 ムービー作成
- 11 リーフレット作成
- 12 Excel基礎 1
- 13 Excel基礎 2
- 14 Word、Excel活用
- 15 まとめ

#### [授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

#### [教科書]

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

#### [参考書]

検定問題集  
Word、Excel、PowerPoint、操作方法書 など

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科目名] O A 演習 II

[担当教員名] 河村 純子

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年後期

[科目コード] IE30\_K32

[単位数] 1単位

[授業形態] 演習

#### [授業概要]

本演習は、ワープロソフト (Word)、表計算ソフト (Excel)、プレゼンテーションソフト (PowerPoint)、ムービーメーカー等の操作方法を習得し、表現力豊かな文書作成や資料作成、スライド作成、ムービー作成などを学ぶ。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

#### [学習成果] [K]

文書作成、表計算、プレゼンテーション、ムービー作成など、実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信ができるようにする。

#### [授業計画]

- 1 情報リテラシー (セキュリティと情報モラル)
- 2 PowerPoint活用 1
- 3 PowerPoint活用 2
- 4 スライド作成 1
- 5 スライド作成 2
- 6 スライド作成 3
- 7 プレゼンテーション (発表)
- 8 アンケート作成
- 9 アンケート集計
- 10 報告書
- 11 ムービー作成
- 12 Excel基礎 1
- 13 Excel基礎 2
- 14 Word、Excel活用
- 15 まとめ

#### [授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード (ファイルを開く) して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールまたは共有フォルダを活用する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題、試験 (70%)

#### [教科書]

メールにファイルを添付  
授業プリントを配布

#### [参考書]

検定問題集  
Word、Excel、PowerPoint、操作方法書 など

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

日本語ワープロ検定の資格取得を目指す。

[科目名] スポーツと健康 I  
[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] AB00\_K11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義・実技

#### [授業概要]

健康な学生生活を送るために健康教育と身体作りの実践という二つの柱で授業を展開する。実技では体力作りの運動、各種スポーツを体験し、講義では豊かなライフスタイルを確立するための健康科学の知識を得ることを目的とする。

#### [学習成果] [K]

スポーツを通しての仲間作りや他者との協力・協調性を理解し、今後の学生生活を充実させる人間関係を確立することができる。また、大人としての健康的な生活を送る基礎を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 ガイダンス、授業への準備、心構え
- 2 ソフトバレーボール (基礎とルールの理解)
- 3 ソフトバレーボール (戦術と試合の進め方)
- 4 ソフトバレーボール (ゲーム)
- 5 ソフトバレーボール (リーグ戦)
- 6 アキュラシー (フライングディスク、握り方)
- 7 アルティメット (基礎とルールの理解)
- 8 アルティメット (戦術と試合の進め方)
- 9 アルティメット (ゲーム)
- 10 バドミントン (基礎とルールの理解)
- 11 バドミントン (ダブルスの戦術)
- 12 バドミントン (ダブルスのゲーム)
- 13 バドミントン (トーナメント戦)
- 14 健康を維持するための体力測定
- 15 健康と運動の意義・まとめ

#### [授業方法]

実技中心の授業で、チームスポーツを中心に展開し、ゲームは毎回チーム編成を行う事により学生間のコミュニケーションを図る。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配付

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。

また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科目名] スポーツと健康 I

[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義・実技

#### [授業概要]

健康な学生生活を送るために健康教育と身体作りの実践という二つの柱で授業を展開する。実技では体力作りの運動、各種スポーツを体験し、講義では豊かなライフスタイルを確立するための健康科学の知識を得ることを目的とする。

#### [学習成果] [K]

スポーツを通しての仲間作りや他者との協力・協調性を理解し、今後の学生生活を充実させる人間関係を確立することができる。また、大人としての健康的な生活を送る基礎を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 ガイダンス、授業への準備、心構え
- 2 ソフトバレーボール (基礎とルールの理解)
- 3 ソフトバレーボール (戦術と試合の進め方)
- 4 ソフトバレーボール (ゲーム)
- 5 ソフトバレーボール (リーグ戦)
- 6 アキュラシー (フライングディスク、握り方)
- 7 アルティメット (基礎とルールの理解)
- 8 アルティメット (戦術と試合の進め方)
- 9 アルティメット (ゲーム)
- 10 バドミントン (基礎とルールの理解)
- 11 バドミントン (ダブルスの戦術)
- 12 バドミントン (ダブルスのゲーム)
- 13 バドミントン (トーナメント戦)
- 14 健康を維持するための体力測定
- 15 健康と運動の意義・まとめ

#### [授業方法]

実技中心の授業で、チームスポーツを中心に展開し、ゲームは毎回チーム編成を行う事により学生間のコミュニケーションを図る。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配付

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。

また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科目名] スポーツと健康Ⅱ  
[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_K12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義・実技

[授業概要]

スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間(時間・空間・仲間)の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

[学習成果] [K]

チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

[授業計画]

- 1 ガイダンス
- 2 ニュースポーツ(ペタンク)
- 3 ニュースポーツ(キャッチ ザ スティック)
- 4 ニュースポーツ(スポーツてんか)
- 5 ソフトバレー(ルールの理解)
- 6 ソフトバレー(チームでの戦術法)
- 7 ソフトバレー(リーグ戦①)
- 8 ソフトバレー(リーグ戦②)
- 9 キンボール(キンボールを使った導入)
- 10 キンボール(ルールの理解、ゲーム)
- 11 バドミントン(基本のストローク)
- 12 バドミントン(ダブルスのルール)
- 13 バドミントン(リーグ戦)
- 14 体力測定
- 15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

[授業方法]

スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

[成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

[教科書]

必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。

また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科目名] スポーツと健康Ⅱ  
[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCFO\_K22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義・実技

[授業概要]

スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間(時間・空間・仲間)の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

[学習成果] [K]

チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

[授業計画]

- 1 ガイダンス、スポーツと加齢
- 2 アルティメット(スローの基本)
- 3 アルティメット(ルールの理解)
- 4 アルティメット(戦術と試合の進め方)
- 5 アルティメット(チームの作り方とゲーム)
- 6 アルティメット(リーグ戦)
- 7 バドミントン(基本のストローク)
- 8 バドミントン(シングルのルール)
- 9 バドミントン(シングルス戦)
- 10 バドミントン(ダブルスのルール)
- 11 バドミントン(ダブルス戦)
- 12 キンボール(キンボールを使った導入ゲーム)
- 13 キンボール(ルールの理解)
- 14 キンボール(ゲーム)
- 15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

[授業方法]

スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

[成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

[教科書]

必要に応じて資料を配付

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

講義で実施されるスポーツなどの情報を予め調べておくことで、動きの理解を深めておく。

また、習得した技術を次回の授業内で活かせるように、空き時間を利用して復習を行うと望ましい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

実技に参加する場合はスポーツのできる服装とし、体調を整えておくこと。

[科目名] スポーツと健康Ⅱ  
[担当教員名] 星野 秀樹  
[授業クラス] (学科) 幼児教育第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_K22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義・実技

#### [授業概要]

スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間(時間・空間・仲間)の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

#### [学習成果] [K]

チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 ガイダンス、スポーツと加齢
- 2 アルティメット (スローの基本)
- 3 アルティメット (ルールの理解)
- 4 アルティメット (戦術と試合の進め方)
- 5 アルティメット (チームの作り方とゲーム)
- 6 アルティメット (リーグ戦)
- 7 バドミントン (基本のストローク)
- 8 バドミントン (シングルスルール)
- 9 バドミントン (シングルス戦)
- 10 バドミントン (ダブルスルール)
- 11 バドミントン (ダブルス戦)
- 12 キンボール (キンボールを使った導入ゲーム)
- 13 キンボール (ルールの理解)
- 14 キンボール (ゲーム)
- 15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

#### [授業方法]

スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配付

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

各種スポーツのルールやゲームの進め方について理解しておくこと。授業時間中、継続して積極的に活動を実践するために体調を整えておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実技に参加する場合はスポーツのできる服装、シューズ、タオル、飲料を用意しておくこと。

[科目名] スポーツと健康Ⅱ

[担当教員名] 星野 秀樹  
[授業クラス] (学科) 幼児教育第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_K21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義・実技

#### [授業概要]

スポーツと健康Ⅰを基礎とし運動を行うための3つの間(時間・空間・仲間)の重要性を理解するとともに、スポーツの実践を主体とし、卒業後も継続的に行うことができる運動習慣を養うことを目的とする。

#### [学習成果] [K]

チームスポーツを通してより深い人間関係を確立することができる。また、今後の生活の中でスポーツを継続して行うために必要な要素は何かを理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 ガイダンス、スポーツと加齢
- 2 アルティメット (スローの基本)
- 3 アルティメット (ルールの理解)
- 4 アルティメット (戦術と試合の進め方)
- 5 アルティメット (チームの作り方とゲーム)
- 6 アルティメット (リーグ戦)
- 7 バドミントン (基本のストローク)
- 8 バドミントン (シングルスルール)
- 9 バドミントン (シングルス戦)
- 10 バドミントン (ダブルスルール)
- 11 バドミントン (ダブルス戦)
- 12 キンボール (キンボールを使った導入ゲーム)
- 13 キンボール (ルールの理解)
- 14 キンボール (ゲーム)
- 15 スポーツの楽しさと仲間作りの大切さ・まとめ

#### [授業方法]

スポーツと健康Ⅰで確立された人間関係をさらに深めるためにニュースポーツを中心とした実技を通して勝敗にこだわらず体を動かす楽しさを実感する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配付

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

各種スポーツのルールやゲームの進め方について理解しておくこと。授業時間中、継続して積極的に活動を実践するために体調を整えておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実技に参加する場合はスポーツのできる服装、シューズ、タオル、飲料を用意しておくこと。

[科目名] 文教アワー I  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年全期 [科目コード] LCF0\_K19  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

社会で活躍するために求められる幅広い教養を身につけ、卒業後も主体的に、多角的な視点で、ライフデザイン、キャリアデザインを行うことができる能力を身につける。

#### [学習成果] [K]

社会で活躍するために求められる知識、よりよいコミュニケーション、表現方法が身につく。また、自身のライフデザイン、キャリアデザインのためのビジョンづくりができる。

#### [授業計画]

- 1 教養 栄養士業務を知る
- 2 ライフデザイン・キャリアデザイン<卒業生> I
- 3 教養 包丁技術
- 4 教養 私のチャレンジ報告会
- 5 教養 フレッシュダイエティション研修会
- 6 教養 コミュニケーション①企画・立案
- 7 教養 コミュニケーション②表現
- 8 教養 ビブリオバトル(言葉との出会い)
- 9 ライフデザイン・キャリアデザイン<卒業生> II
- 10 キャリア支援 流れ、リクルートスーツ
- 11 キャリア支援 求人票、メール、エントリー
- 12 キャリア支援 履歴書作成
- 13 キャリア支援 採用試験の理解と対策
- 14 キャリア支援 模擬筆記試験、合格から入社まで
- 15 キャリア支援 業界説明会

#### [授業方法]

講義、講演もあるが、アクティブラーニングが主である。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
課題 (20%)  
面接試験 (40%)

#### [教科書]

「栄養士に必要な計算・漢字」小田原女子短大(三恵社)  
「栄養士実力認定試験一問一答」川端照江ほか  
(女子栄養大学出版部)

#### [参考書]

「図解 栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック」西川真理子(化学同人)

#### [準備学習(予習・復習)]

予習・復習内容は講義内で指示する。  
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 文教アワー I  
[担当教員名] 奥村 智子・砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年全期 [科目コード] LCI0\_K19  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

「初年次教育」を行い、学生としての学び方を学ぶ。「社会人基礎力」の能力及び女性としての「教養」に必要なとされる資質を学び、演習を通じてひとりひとりの潜在能力の可能性を引き出す。また、社会人・職業人としてのとしてのキャリアに対する認識を高める。

#### [学習成果] [K]

大学における学び、社会につながる大学生活の送り方について意識を持ち、有意義に過ごせるようになる。キャリアデザインを主体的に行えるようになる。社会人としての漢字、ペン字といった知識や教養が身につく。

#### [授業計画]

- 1 初年次教育「大学で学ぶこと、授業の受け方」
- 2 初年次教育「研究とは、レポートの書き方」
- 3 社会人基礎力「グループワーク」災害時の食事
- 4 社会人基礎力「課題解決法」
- 5 教養 食物アレルギーとは
- 6 教養 企業の食物アレルギー対応について
- 7 教養 考えを文章にまとめる
- 8 教養 浴衣の装い・着付けからのヘアアレンジまで
- 9 教養 おもてなしの心を学ぶ
- 10 教養 普通救命救急講習
- 11 キャリア支援 ライフビジョンとキャリアビジョン
- 12 キャリア支援 業界・業種・職種の知識と情報収集
- 13 キャリア支援 就職活動の流れ
- 14 キャリア支援 履歴書・エントリーシート の書き方
- 15 キャリア支援 採用試験対策

#### [授業方法]

演習が主体だが、ディスカッション、グループ学習などそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
課題提出 (70%)

#### [教科書]

「社会人の常識漢字ドリル」(語研)  
「くせ字がなおる ペン字練習帳」(新星出版社)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

課題を各自期日までに自宅で取り組むこと。自分自身のキャリアビジョンを積極的に考え、企業研究など積極的に取り組むこと。  
特に漢字とペン字、筆記試験対策は、自主的に取り組むこと。  
(履修案内のII履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として、積極的な学びを期待する。  
地域志向科目

[科目名] 文教アワー I  
[担当教員名] 保科 潤一・真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年全期 [科目コード] IE10\_K19  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々な交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

[学習成果] [K]

- ①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
- ②実践力・専門性を習得する。

[授業計画]

- 1 社会人基礎力：人間関係の構築とマナー実践
- 2 教養：文教マナーの理解と実践
- 3 教養：美術館を訪問し芸術作品に触れる
- 4 教養：和室での演習を通して和の心を学ぶ
- 5 教養：卒業生からの経験知の伝達と学習
- 6 教養：幼教に必要な漢字の習得
- 7 キャリア支援：附属幼稚園実習の理解
- 8 キャリア支援：施設実習の理解
- 9 キャリア支援：幼稚園実習の理解
- 10 キャリア支援：保育実習Ⅱの理解
- 11 キャリア支援：卒学年生の就職活動報告から学習
- 12 キャリア支援：実習交流会（附属幼稚園）  
1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
- 13 キャリア支援：実習交流会（保育所）  
1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
- 14 キャリア支援：上級学年生の実技発表から学習
- 15 1年間の学びの振り返り

[授業方法]

学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 幼教漢字テスト (30%)  
授業への取組状況 (70%)

[教科書]

「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]

[準備学習（予習・復習）]

- 1 各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
  - 2 各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
- （履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科目名] 文教アワー I  
[担当教員名] 国藤 真理子・田村 佳世・山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年全期 [科目コード] IE30\_K19  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々な交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

[学習成果] [K]

- ①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
- ②実践力・専門性を習得する。

[授業計画]

- 1 社会人基礎力：人間関係の構築とマナー実践
- 2 教養：文教マナーの理解と実践
- 3 教養：幼稚園・保育所におけるマナーの理解と実践
- 4 教養：海外の保育について
- 5 教養：地元美術館訪問
- 6 教養：幼教に必要な漢字の習得
- 7 キャリア支援：附属幼稚園実習の理解
- 8 キャリア支援：保育実習Ⅰの理解
- 9 キャリア支援：施設実習の理解
- 10 キャリア支援：卒学年生の就職活動報告から学習
- 11 キャリア支援：進路ガイダンス
- 12 キャリア支援：実習交流会（附属幼稚園）  
3部2年生から3部1年生へ経験知の伝達
- 13 キャリア支援：上級学年生の実技発表から学習
- 14 キャリア支援：保育に必要な実技実践
- 15 1年間の学びの振り返り

[授業方法]

学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 幼教漢字テスト (30%)  
授業への取組状況 (70%)

[教科書]

「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

[参考書]

「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

[準備学習（予習・復習）]

- 1 各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
  - 2 各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
- （履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。



[科目名] 文教アワーⅡ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCF0\_K29  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

12月に開催される「みんないっしょのクリスマス」の実施に向け、学生主体の運営を通じて栄養士としての職業意識と専門意識を醸成する。また、キャリア支援も行う。

#### [学習成果] [K]

専門分野の幅広い教養と知識を身に付けることができる。また、卒業後に社会人として活躍するのに相応しい知識も身に付けることができる。

#### [授業計画]

- 1 スポーツ交流会
- 2 校外実習報告会準備
- 3 実習交流会
- 4 他職種を学ぶ
- 5 食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
- 6 食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
- 7 食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
- 8 食物アレルギー対応パーティの実施計画および運営準備
- 9 パーティ報告会
- 10 キャリア支援① 社会人としての基礎知識
- 11 キャリア支援② 校外実習報告会
- 12 キャリア支援③ 卒業生ヒアリング
- 13 キャリア支援④ 栄養士免許申請について
- 14 キャリア支援⑤ 就職試験対策
- 15 キャリア支援⑥ 栄養士の職業倫理

#### [授業方法]

専門教養については、講義、グループワーク、実習などを盛り込む。キャリア支援については、演習形式で実施。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
ノート、レポート等の評価 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

(専門教養) 授業前に1年次の「食物アレルギー演習」のプリントやノートで予習を行うこと。また、授業後にも復習を行うこと。(キャリア支援) 該当する授業の後にはレポート作成などの復習を行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 文教アワーⅡ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCI0\_K29  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

「社会人基礎力」を高め、女性としての「教養」、社会で必要とされる資質を身につける。「キャリア支援」では、これからのライフデザイン・キャリアデザインについても考える。

#### [学習成果] [K]

有意義な大学生活を送り、社会人として活躍できる力を身につけることができる。幅広い教養と知識を身につけ、主体的にキャリアデザインを行えるようになる。漢字、美しい文字の力が身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 キャリア支援 学内業界説明
- 2 キャリア支援 卒業生から学ぶ
- 3 キャリア支援 業界研究
- 4 キャリア支援 就職試験対策 筆記試験
- 5 キャリア支援 就職試験対策 適性試験
- 6 社会人基礎力 社会人基礎力チェック
- 7 社会人基礎力 グループワーク
- 8 社会人基礎力 課題解決力
- 9 社会人基礎力 発信力
- 10 教養 想いを伝える手紙
- 11 教養 おもてなし
- 12 教養 心と体の健康
- 13 教養 法律
- 14 専門教養 資格取得対策
- 15 専門教養 資格取得対策

#### [授業方法]

演習を主体とし、ディスカッション、グループワークなどそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。学外で実践的学びを行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
レポート・課題提出 (70%)

#### [教科書]

「社会人の常識漢字ドリル2」  
「社会人のための仕事に効く！3週間ペン字レッスン」

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。

授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

地域志向科目  
短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として、積極的な学びを期待する。

漢字とペン字は、自主的に取り組んでほしい。

課題は期日までに必ず提出すること。

[科目名] 文教アワーⅡ  
[担当教員名] 庄子 佳吾・伊藤 久美子・上島 遥  
[授業クラス] (学科) 幼児教育第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] IE10\_K29  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

#### [学習成果] [K]

- ①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
- ②実践力・専門性を習得する。

#### [授業計画]

- 1 社会人基礎力：社会人としてマナー実践
- 2 社会人基礎力：スポーツ大会
- 3 教養：幼教に必要な漢字の習得
- 4 キャリアビジョンの構築（就業レディネス向上を目指した実践力の習得）：卒業生からの経験知の伝達と学習
- 5 キャリアビジョンの構築：実習交流会（施設）3部3年生から1部2年生へ経験知の伝達
- 6 キャリアビジョンの構築：実習交流会準備（附属幼稚園）
- 7 キャリアビジョンの構築：実習交流会（附属幼稚園）1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
- 8 キャリアビジョンの構築：実習交流会準備（保育所）
- 9 キャリアビジョンの構築：実習交流会（保育所）1部2年生から1部1年生へ経験知の伝達
- 10 キャリアビジョンの構築：実技発表
- 11 キャリアビジョンの構築：就職活動報告
- 12 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス（面接対策）
- 13 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス（書類等作成）
- 14 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス（保育士登録等）
- 15 学生生活の振り返り

#### [授業方法]

学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 幼教漢字テスト (30%)  
授業への取組状況 (70%)

#### [教科書]

「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

#### [参考書]

「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

#### [準備学習（予習・復習）]

- 1 各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
- 2 各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科目名] 文教アワーⅡ  
[担当教員名] 仲森 みどり・禰宜 佐統美  
岡田 摩紀・赤塚 徳子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育第3部  
(専攻)  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] IE30\_K29  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけでなく、学年や1部・3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

#### [学習成果] [K]

- ①対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
- ②実践力・専門性を習得する。

#### [授業計画]

- 1 社会人基礎力：社会人マナー及び幼稚園・保育所におけるマナーの理解と実践①
- 2 社会人基礎力：社会人マナー及び幼稚園・保育所におけるマナーの理解と実践②
- 3 教養：卒業生からの経験知の伝達と学習
- 4 教養：幼教に必要な漢字の習得
- 5 キャリア支援：幼稚園実習の理解
- 6 キャリア支援：保育実習Ⅱの理解
- 7 キャリア支援：卒業学年の就職活動報告から学習
- 8 キャリア支援：進路ガイダンス
- 9 キャリア支援：実習交流会（保育所実習の理解）
- 10 キャリア支援：実習交流会（附属幼稚園の報告）
- 11 キャリア支援：実習交流会（施設実習の理解）
- 12 キャリア支援：上級学年生の実技発表から学習
- 13 キャリア支援 保育実技実践学習①
- 14 キャリア支援：保育実技実践学習②
- 15 1年間の学びの振り返り

#### [授業方法]

学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 幼教漢字テスト (30%)  
授業への取組状況 (70%)

#### [教科書]

「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

#### [参考書]

「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

#### [準備学習（予習・復習）]

- 1 各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
  - 2 各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
- （履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を育めるようにする。

[科目名] 文教アワーⅢ  
[担当教員名] 星野秀樹・小野内初美・玉田裕人  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年全期 [科目コード] IE30\_K39  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼児・保護者から愛され、信頼される幼稚園教諭・保育士になるためには、広い視野と教養、豊かな人間性・専門性を兼ね備える必要がある。クラス単位だけではなく、学年や1部、3部の垣根を超えて、幼児教育学科内で様々に交流することで、学生間の幅広い人間関係を構築する。

#### [学習成果] [K]

- ① 対人関係力、社会性、人間性、思いやりを育む。
- ② 実践力・専門性を習得する。

#### [授業計画]

- 1 学年交流会
- 2 教養：幼教に必要な漢字の習得
- 3 教養：幼教に必要な一般常識の習得
- 4 キャリアビジョンの構築：就業レディネス向上
- 5 キャリアビジョンの構築：実習交流会準備
- 6 キャリアビジョンの構築：実習交流会（施設）
- 7 キャリアビジョンの構築：実習交流会準備
- 8 キャリアビジョンの構築：実習交流会（保育所）
- 9 キャリアビジョンの構築：卒業生講話
- 10 キャリアビジョンの構築：実技発表
- 11 キャリアビジョンの構築：就職活動報告
- 12 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス  
（卒業生の就職実態調査から就職活動を考える）
- 13 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス  
（就職未内定者、内定者指導）
- 14 キャリアビジョンの構築：進路ガイダンス  
（保育士登録等）
- 15 学生生活振り返り

#### [授業方法]

学生が主体的に取り組めるように、アクティブラーニングを取り入れ、演習形式で進める。クラス単位が基本であるが、学年や学部を問わず合同で行うこともある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 幼教漢字テスト（30%）  
授業への取組状況（70%）

#### [教科書]

「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える  
保育の基礎用語」長島和代編（株）わかば社

#### [参考書]

「これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える  
保育のマナーと言葉」長島和代編（株）わかば社

#### [準備学習（予習・復習）]

- 1 各回のテーマに沿って発言内容を整理したり、各自の役割について確認しておく。パフォーマンスを伴う場合は、十分に練習しておく。事前アンケートがある場合は、アンケートの項目に答えておく。
  - 2 各回の幼教漢字テストに備えて十分な準備をしておく。
- （履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

自ら能動的に楽しく参加することにより、幅広い人間関係を築き、豊かな人間力を身につけるようにする。

## 2 専門科目

生活文化学科 食物栄養専攻 1年

[科目名] 社会福祉  
[担当教員名] 祢宜 佐統美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

#### [学習成果] [A]

社会福祉の歴史的背景や考え方や役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 社会福祉の考え方
- 3 日本における社会福祉のあゆみ
- 4 諸外国の社会福祉
- 5 変革期の社会福祉
- 6 社会福祉の制度・法体系・機関
- 7 生活保護
- 8 子どもと家庭の福祉
- 9 高齢者の福祉
- 10 介護保険制度
- 11 障がいのある人の福祉
- 12 地域の福祉
- 13 社会福祉とソーシャルワーク
- 14 現代社会と社会保障
- 15 事例検討

#### [授業方法]

講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単元ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (15%)  
課題 (15%)

#### [教科書]

「社会福祉を学ぶ」山田美津子・稲葉光彦編  
(株) みらい

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習すること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後に授業内容のポイントを復習しておくこと。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科目名] 解剖生理学  
[担当教員名] 日暮 陽子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_B11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

解剖学と生理学は生物学のなかでもっとも基礎的な学問で、前者は構造を後者は機能に関する領域を探究する学問である。しかし、構造と機能は互いに密接に関係して身体を形成していることから、形態と機能を切り離すことは不可能である。本講座では構造と機能を同時に学ぶことで、さまざまな組織・器官・臓器がどのように関連しあっているかを理解する。

#### [学習成果] [B]

解剖生理学を学ぶことは、食べるものの意味、食べたものが体内でどのように消化され吸収されるかなどを理解するうえで重要な基礎科目であることから、授業で得た知識は栄養関係の業務上必要とされる。さらには、日常的な場面においても学習成果が役立つ局面に出会うことが多い。なお、疾病を理解するうえで必須な知識であることから、2年次開講の病理学の履修内容を理解するための前提条件でもある。

#### [授業計画]

- 1 人体の構造：人体の解剖学的特徴と構成要素
- 2 人体の構造：細胞・組織・器官
- 3 骨格系：形状と構造、骨化と成長・機能、骨組成
- 4 筋肉系：構造と生理、主要骨格筋とその機能
- 5 循環器系：心・血管系の構造と機能
- 6 循環器系：血球の種類、血漿成分と凝固
- 7 呼吸器系：気道・肺の構造
- 8 呼吸器系：呼吸と肺機能、胸膜腔
- 9 消化器系：咀嚼、嚥下、消化管の構造・消化吸収
- 10 消化器系：肝臓・膵臓の構造および機能
- 11 泌尿器系：腎臓・膀胱の構造、排尿機構
- 12 泌尿器系：腎臓の機能
- 13 内分泌系：各ホルモンの働き
- 14 神経組織：中枢神経と末梢神経の構造と機能
- 15 感覚器系：感覚器の構造と機能、皮膚と体温調節

#### [授業方法]

教科書を主とし、プロジェクターを用いた授業提示資料を加えることで理解に役立てる。また、必要に応じて重要事項の理解度を確認するための復習プリントを配布する。

#### [成績評価]

定期試験 (80%)  
提出物・授業への取組状況等 (20%)

#### [教科書]

栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学 人体の構造と機能」(羊土社)

#### [参考書]

「トートラ 人体解剖生理学 原書10版」  
(丸善出版)

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回復習をして、ノートをまとめること。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 医学一般  
[担当教員名] 高橋 浩子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_B11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

医学的な基礎知識を学び、様々な疾患でどのような身体的障害が生じるか理解する。さらに、食事、スポーツ、環境が人体に及ぼす影響について理解を深める。

#### [学習成果] [B]

正しい医学的知識に基づいて、健康な人はどのような生活が健康を維持させるのか、どのような生活が疾患を引き起こすのかを理解できる。また様々な疾患を有する人はどのような生活が病状を悪化させ、どのような生活が望ましいのかを理解し、社会の制度についての知識を深めることができる。

#### [授業計画]

- 1 社会と健康、環境と健康
- 2 健康、疾病、行動にかかわる統計資料
- 3 健康状態・疾病の測定と評価
- 4 疫学
- 5 生活習慣の現状と対策
- 6 喫煙
- 7 飲酒、睡眠、ストレス
- 8 主要疾患の疫学と予防対策：①循環器、代謝疾患
- 9 主要疾患の疫学と予防対策：②がん
- 10 主要疾患の疫学と予防対策：③骨、感染症 他
- 11 主要疾患の疫学と予防対策：④その他の疾患
- 12 主要疾患の疫学と予防対策：⑤その他の疾患
- 13 保健、医療、福祉、介護の制度 1
- 14 保健、医療、福祉、介護の制度 2
- 15 保健、医療、福祉、介護の制度 3

#### [授業方法]

プロジェクターを用いたスライドによる授業。  
内科医師の実務経験に基づき、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（受講態度を含む）（30%）  
筆記試験（70%）

#### [教科書]

「社会・環境と健康」 大塚譲・河原和夫・須藤紀子編

#### [参考書]

#### [準備学習（予習・復習）]

毎回復習をして、ノートをまとめること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 生化学  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_B12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

ヒトの生体がどのようにして恒常性を維持し、生命活動を営んでいるのかを理解するために、私たちの体の中で、食事由来、あるいは体内で生成された物質がどのような化学反応によりエネルギーや生命活動に利用されるのかを理解する。

#### [学習成果] [B]

生きるために必要な糖質、脂質、たんぱく質等の栄養素および水の生体内利用の仕組みや生体内での生合成、代謝の仕組み、環境への適応について説明できるようになる。

具体的には  
●糖質のエネルギー産生の仕組み  
●血糖コントロールの仕組み  
●脂質の生合成とエネルギー産生の仕組み  
●リポタンパク質、コレステロール  
●タンパク質の機能・アミノ酸とその代謝  
●ビタミン、ミネラル、ホルモン、核酸の働きが理解できる。

#### [授業計画]

- 1 細胞、水の代謝、生体エネルギー
- 2 糖質の化学
- 3 糖質の代謝①解糖系とTCAサイクル
- 4 糖質の代謝②電子伝達系
- 5 糖質の貯蔵と糖新生
- 6 血糖を保つ仕組み
- 7 脂質の化学
- 8 脂質の代謝①生合成
- 9 脂質の代謝②β酸化
- 10 脂質の貯蔵とリポタンパク質
- 11 タンパク質の化学と代謝
- 12 アミノ酸の化学
- 13 酵素
- 14 核酸
- 15 ビタミン・ミネラルとホルモンの生理作用

#### [授業方法]

講義が主体となる。生体内での化学反応を、できる限り目で見て理解できるようビジュアル教材やイラスト教材を提供する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験（60%）  
授業・小テスト（課題）への取組状況（40%）

#### [教科書]

「栄養科学シリーズNEXT 生化学」 加藤秀夫他著  
（講談社サイエンフィク）

#### [参考書]

「生化学 ふしぎの世界の物語」 前場良太著  
（医歯薬出版）

#### [準備学習（予習・復習）]

1年前期に開講される地球と生命での学びが基礎となることから、この科目の復習を望む。  
毎回、予習・復習の課題を提示するので、（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）すること。

#### [備考]

目には見えないが、自身のからだの中で起きている諸現象に対し、興味と想像力を持って取り組むことを期待する。

[科目名] 食品学 I  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

食品学の基本は、食品の化学的、物理的性質とそれらの変化を明らかにすることにある。そのためにはまず食品成分について広く認識することが必要である。本講義では食品の主要成分の理解を基礎に、それらの相互の反応や栄養学的価値などについて学んでいく。

#### [学習成果] [C]

食品成分についての化学的、物理的知識を得ることができる。どの食品にどういった栄養素が含まれているか、その成分が調理や保存により、どのような変化を遂げるかを理解できる。また、栄養士として職務を遂行するための知識を蓄積できる。

#### [授業計画]

- 1 人間と食物
- 2 食品の分類と食品成分表①
- 3 食品の分類と食品成分表②
- 4 食品成分の特性と化学構造①
- 5 食品成分の特性と化学構造②
- 6 食品成分の特性と化学構造③
- 7 食品成分の特性と化学構造④
- 8 食品成分の特性と化学構造⑤
- 9 食品成分の変化と栄養①
- 10 食品成分の変化と栄養②
- 11 食品成分の変化と栄養③
- 12 食品成分の変化と栄養④
- 13 食品の機能性①
- 14 食品の機能性②
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「食べ物と健康 I」喜多野宣子他著  
(化学同人)

#### [参考書]

「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

食品に関する興味を常に持ち続けることは、その成分やそれらの化学変化への理解を助けることになる。実習で調理方法を習ったら、どうしてその材料をそのタイミングで入れるのか、皮むきの後、なぜ水にさらしたかなど、疑問を科学的に解決してみると、食品学への理解も一層深まると思われる。

[科目名] 食品学 I 実験  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実験

#### [授業概要]

本実験は、食品学 I で得た知識をもとに食品に関する化学実験の基礎技術の習得をねらいとする。

#### [学習成果] [C]

食品学 I で得た知識を実験することで、より具体的に食品成分の存在や変化を捉えることができる。また、基礎的な化学分析を行うことができる。

化学の基礎知識が十分でなく、化学実験を初めて経験する学生も基礎的な手技から実験操作を遂行することができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション 実験に対する心構え
- 2 基礎実験0.1M 水酸化ナトリウム溶液の調製と力価の測定
- 3 食酢中の酢酸の定量 (中和滴定)
- 4 食品中の水分定量
- 5 食品の灰化および灰分の定量
- 6 カルシウムの定量 (キレート滴定)
- 7 食塩の定量 (沈殿滴定)
- 8 糖質① 糖の定性反応
- 9 糖質② ベルトラン法による還元糖の定量
- 10 脂質① 油脂の酸価の測定
- 11 脂質② 油脂の過酸化物価の測定
- 12 たんぱく質とアミノ酸① たんぱく質の定性反応
- 13 たんぱく質とアミノ酸② アミノ酸のペーパークロマトグラフィーによる分離・同定
- 14 食品成分間の反応
- 15 まとめ

#### [授業方法]

5人または6人で1グループとなり、各回のテーマの内容を実験し、結果をまとめる。グループの代表者は、レポートをまとめて提出する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

レポートおよび実験ノート (40%)  
実験への取組状況 (60%)

#### [教科書]

授業プリントを配布

#### [参考書]

「Nブックス実験シリーズ 食品学実験」  
青柳康夫他編著 (建帛社)  
「食品学総論実験」江角彰彦著 (同文書院)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に、テーマに相当する部分の食品学 I の教科書を読んでおくこと。また授業後は実験結果に基づく考察およびレポート・ノート作成を行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実験は、出席して実際に実験に参加してこそ意義があるので、欠席しないように心がけること。毎回、何がテーマで、何を明らかにしようとしているのかを意識して、漫然と実験を行うことがないようにする。また、チームワークも大切ですので、グループ内のコミュニケーションにも気を配ること。

[科目名] 食品衛生学 I  
[授業クラス] 高見澤 一裕  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

生命と健康の維持に欠かすことのできない食物は、栄養価ばかりではなく、安全性に関しても同時に要求されるものである。有害物質が食品に含まれることがあつては決してならない。この授業では、食品の安全性を守り、健康障害を防止する食品衛生行政の仕組みや食品の安全性を損なう要因とその防止のための管理方法について学ぶ。

#### [学習成果] [C]

栄養士などのコメディカルに携わる職業はもちろん、一般的な社会生活においても食品衛生への知識は要求される。これらの社会的要求にこたえられる基本事項を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 食品衛生の概念、食品衛生行政と法規
- 2 食品の変質
- 3 食中毒(定義と分類、発生状況)
- 4 食中毒(自然毒・中毒毒)
- 5 食中毒(細菌・ウイルス中毒)
- 6 経口感染症・消化器系感染症
- 7 人獣共通感染症・寄生虫病
- 8 食品衛生管理(HACCP、一般衛生管理)
- 9 食品中の汚染物質(カビ毒)
- 10 食品中の汚染物質(化学物質7)
- 11 食品の器具と容器包装
- 12 食品添加物(安全性評価、使用基準)
- 13 食品添加物(種類と用途)
- 14 新たな食品の安全性問題(無農薬栽培食品・遺伝子組換え食品)
- 15 新たな食品の安全性問題(放射線照射食品、放射性物質)

#### [授業方法]

教科書に沿って講義を進める。合わせて、小テストを行い、到達度・習熟度を学生自らが把握できるようにする。なお、適宜、スライドを使用して理解を深めるようにする。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

定期試験(60%)  
小テスト(30%)  
授業への取組状況(10%)

#### [教科書]

イラスト「食品の安全性」小塚論編 東京教学社

#### [参考書]

「新食品衛生学要説」(第5版)  
細貝祐太郎・松本昌雄・廣末トシ子 編(医歯薬出版)  
「原色食品衛生図鑑」(第2版) (建帛社)

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業後に課す小テストを提出すること。予習と復習については、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照すること。

#### [備考]

[科目名] 栄養学 I  
[担当教員名] 有澤 文子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_D11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

栄養素を含め、栄養という現象にかかわるさまざまな物質は、消化と吸収という過程を経て体内に取り込まれ、私たちの生命活動を支えるものとなる。本講義では、栄養にかかわる物質と人体のかかわりの概略をつかみ、栄養学の最も基礎となる知識を身につける。

#### [学習成果] [D]

栄養学の基礎となる知識を習得することができる。また、基礎栄養学がカバーする幅広い領域を理解することにより、今後学ぶ様々な応用科目の土台とすることができる。

#### [授業計画]

- 1 栄養の概念、栄養学の歴史
- 2 現代社会が抱える栄養問題
- 3 消化と吸収(1)
- 4 消化と吸収(2)
- 5 糖質のはたらき(1)
- 6 糖質のはたらき(2)
- 7 脂質のはたらき(1)
- 8 脂質のはたらき(2)
- 9 たんぱく質のはたらき(1)
- 10 たんぱく質のはたらき(2)
- 11 ビタミン(1)
- 12 ビタミン(2)
- 13 ミネラル
- 14 水と食物繊維
- 15 エネルギー代謝

#### [授業方法]

講義主体だが、ディスカッションやグループワークなどを取り入れることもある。また、毎回授業の最初に小テストを行い学習内容の定着を図る。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験(70%)  
小テスト・課題(20%)  
授業への取組状況(10%)

#### [教科書]

「基礎栄養学」杉山英子他編著(化学同人)

#### [参考書]

随時紹介する

#### [準備学習(予習・復習)]

毎回、授業の最初に小テストをするので、予習と復習(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)をすること。

#### [備考]

栄養士免許の取得には必須の科目です。興味を持って取り組むこと。



[科目名] 臨床栄養学 I  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_D12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

これまでの病院での栄養士の業務内容は主に献立作成や発注業務、そして何よりも治療食の調理が中心であった。しかしこれからは患者の栄養状態の管理を行い、合併症の発症予防や在院日数の延長予防、QOLの向上に寄与する役割を担うことが求められるであろう。本講義では、卒業後に管理栄養士免許取得を目指す場合にも対応できる内容を考え、主に臨床栄養管理と各種アセスメントについて理解を深める。

#### [学習成果] [D]

傷病者に対する栄養アセスメントの知識を習得することができる。また、各種栄養補給法についても理解でき、臨床における栄養士を目指す人には、病院内における栄養士の役割についての基礎知識を得ることができる。

#### [授業計画]

- 1 臨床栄養学とはどんな学問か  
病院内の栄養士についてあなたが考えることは
- 2 臨床栄養の基礎①
- 3 臨床栄養の基礎②
- 4 栄養アセスメント①
- 5 栄養アセスメント②
- 6 栄養アセスメント③
- 7 栄養アセスメント④
- 8 栄養ケアプラン
- 9 栄養補給法①
- 10 栄養補給法②
- 11 栄養教育
- 12 チーム医療
- 13 医療・介護制度
- 14 食品と医薬品の相互作用
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

Visual栄養学テキスト  
臨床栄養学 I 総論 本田佳子 (中山書店)

#### [参考書]

「Nブックス三訂臨床栄養管理」 渡邊早苗他編  
(建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習 (要点まとめなど) を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

臨床栄養学の基礎を扱うこの科目は、健康でない人のための栄養学を学ぶ。病院において栄養士は、いまや調理に携わるだけでなく、ベッドサイドにおいて、患者さん個人に合わせた栄養ケアプランを立案することも求められている。将来病院の栄養士を目指す人はもちろん、そうでない人も、臨床の知識はあらゆるところで役立つので、真剣に取り組んでもらいたい講義である。

[科目名] 栄養指導論 I  
[担当教員名] 有澤 文子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_D12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

個人、集団及び地域の栄養指導の基本的役割や、栄養に関する各種統計について理解する。栄養士として、健康の保持増進、疾病の予防などを目的として、食生活・栄養改善を中心とした実践指導をするための基礎知識を身につける。

#### [学習成果] [D]

栄養指導を行う際に基盤となる知識を習得することができる。対象者がどのような特性を持っていても、柔軟に対応し、適切な指導を行うための考え方、実践方法を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 栄養教育とは
- 2 栄養指導と関係法規 (1)
- 3 栄養指導と関係法規 (2)
- 4 栄養指導と関係法規 (3)
- 5 栄養指導の基本 (1)
- 6 栄養指導の基本 (2)
- 7 栄養指導の基本 (3)
- 8 栄養指導に必要な基礎資料 (1)
- 9 栄養指導に必要な基礎資料 (2)
- 10 栄養指導に必要な基礎資料 (3)
- 11 行動変容に導くためのテクニック (1)
- 12 行動変容を導くためのテクニック (2)
- 13 行動変容を導くためのテクニック (3)
- 14 栄養マネジメント (1)
- 15 栄養マネジメント (2)

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループワークやプレゼンテーションなどを取り入れることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題・提出物 (20%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

「栄養教育論」 今中美栄他編著 (化学同人)

#### [参考書]

随時紹介する

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。予習と復習については、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照すること。

#### [備考]

栄養士は、単に栄養の知識を伝達するだけではなく、対象者を取り巻くさまざまな背景、心理的側面まで考えた指導が必要であるので、しっかりと取り組むこと。

[科目名] 栄養指導論実習Ⅰ  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_D12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

栄養指導は、対象者の実態把握と正しい評価なくして成果は得られない。そのための調査や情報収集の方法を学び、正しい栄養アセスメントを行う基本的な流れを習得する。

#### [学習成果] [D]

対象者を学生自身に設定し、様々な角度からアセスメントを行い、食事摂取基準を求めることで、栄養指導における献立作成の技術が身につく。また、1分間スピーチにより、多くの人前で話す際の注意点を理解できる。糖尿病および腎臓病の患者さんへの栄養指導の基礎として、食事療法における食品交換表を使い、単位計算や献立修正を行えるようになる。

#### [授業計画]

- 1 栄養指導の意義と方法①
- 2 栄養指導の意義と方法、1分間スピーチ
- 3 食物摂取状況調査
- 4 食事摂取基準の査定①
- 5 食事摂取基準の査定②
- 6 食事摂取基準の査定③
- 7 各栄養素の食事摂取基準の査定①
- 8 各栄養素の食事摂取基準の査定②
- 9 食事計画・食品構成表の作成
- 10 献立作成①
- 11 献立作成②
- 12 パソコンによる情報収集
- 13 パソコンによる栄養価計算
- 14 糖尿病の食事療法と交換表の活用
- 15 腎臓病の食事療法と交換表の活用

#### [授業方法]

実際に生活時間調査や食事記録を行い、計算するなど、実習が中心である。パソコンを用いる授業もあり、栄養価計算も個別に行う。1分間スピーチはビデオ録画を行う。栄養指導（病院）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 試験 (50%)
- 課題や授業への取組状況 (50%)

#### [教科書]

- 「すぐわかる栄養指導実習」田中ひさよ他著 (萌文書林)
- 「糖尿病食事療法のための食品交換表」日本糖尿病学会編 (文光堂)
- 「腎臓病食品交換表」中尾俊之他編 (医歯薬出版)

#### [参考書]

- 「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)
- 「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前にテーマに相当する部分の栄養指導論Ⅰの教科書を読んでおくこと。また、授業後は、実習内容をまとめ、課題を完成させるために学習すること。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

1分間スピーチは、初めて大勢の人前で話す経験になる人も多い。栄養士は人前で話すスキルも必要なため、思い切って大きな声を出すこと。食事摂取基準に見合う献立をたてることは容易ではないが、この実習でその基本的な技術を習得できれば、2年次の学内外実習でも役立つはずである。

[科目名] 調理学  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_E11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

調理は食材を食べられる状態にする最終の過程である。健康な生命を維持するための栄養を得るだけではなく、おいしさや喜びを提供するためにも、日常の調理操作の持つ意義や食材に合わせた調理操作の基本を学ぶ。

#### [学習成果] [E]

調理の意義を理解し、食材に適した調理法、調味方法、食環境、食文化についての知識を習得できる。食べていただく方の満足感を考える力がつく。献立の作成、栄養価計算方法を修得できる。給食業務を見据えた基礎的な調理に関する知識が修得できる。

具体的には

- 調理の意義
- おいしさを感じる仕組みとその評価方法
- 植物性、動物性、成分抽出食品の調理
- 調理操作と調味操作
- エネルギー源
- 食文化と献立作成

が理解できる。

#### [授業計画]

- 1 調理の意義・目的
- 2 おいしさとその評価、栄養価計算
- 3 植物性食品の調理①
- 4 植物性食品の調理②
- 5 植物性食品の調理③
- 6 動物性食品の調理①
- 7 動物性食品の調理②
- 8 成分抽出食品の調理、嗜好飲料
- 9 調理操作①非加熱調理
- 10 調理操作②加熱調理
- 11 調味操作
- 12 エネルギー源及び調理器具①
- 13 エネルギー源及び調理器具②
- 14 食事様式と食事計画
- 15 献立作成

#### [授業方法]

講義が主体である。食品を生かすための調理方法を解説する。毎回、自分自身の理解を振り返るシートを活用し、学びの定着を図る。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 試験 (60%)
- 授業・課題への取組状況 (40%)

#### [教科書]

- 「マスター調理学」(建帛社)
- 「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大学出版社)

#### [参考書]

- 「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)

#### [準備学習 (予習・復習)]

復習・予習については、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照すること。

#### [備考]

調理学実験や調理学実習と並行して講義が進むことから、これらの科目との関連性を意識しながら取り組むことを望む。

また、さまざまな食品と調理法、調理器具などに関心を持ち、これらに触れることができるとうい。

[科目名] 調理学実習Ⅰ

[担当教員名] 山口 由貴

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_E11

[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

調理の意義目的を理解し、調理の基本を学ぶ。日本料理を通して、様々な食材の特性を理解し、調理による変化を把握する。食文化、調理科学と関連させ、調理技術を身につけることをねらいとする。

#### [学習成果] [E]

日本料理を通して、調理の基礎、調理器具の操作方法、献立作成の基礎を習得することができる。

少人数でのグループワークでコミュニケーション能力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 調理の基本と日本の食文化
- 2 調理の基本①
- 3 調理の基本②
- 4 調理の基本③
- 5 調理の基本④
- 6 調理の基本⑤
- 7 調理の基本⑥
- 8 調理の基本⑦
- 9 調理の基本⑧
- 10 調理の基本⑨
- 11 日本料理の献立①
- 12 日本料理の献立②
- 13 日本料理の献立③
- 14 日本料理の献立④
- 15 日本料理の献立作成と調理

#### [授業方法]

前半は解説とデモンストレーション、その後3～4人のグループに分かれて調理実習を行う。試食、後片付けまでグループワークで進める。実習後は調理方法、栄養価、考察をレポートにまとめて毎回提出する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (45%)

提出物 (30%)

筆記試験 (25%)

#### [教科書]

「食育に役立つ調理学実習」西堀すき江編著 (建帛社)

#### [参考書]

「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)

「調理のためのベーシックデータ」  
(女子栄養大学出版社)

#### [準備学習(予習・復習)]

教科書を使って実習献立を予習しておくこと。

また、復習として毎回、実習レポートをまとめて提出する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

調理実習の際は、白衣と帽子を着用し、衛生管理の基本を身につける。

積極的に取り組み、調理技術の基礎を習得することに加えて、グループワークでのコミュニケーションスキルの向上を心がけること。

[科目名] 調理学実習Ⅱ

[担当教員名] 有尾 正子

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_E12

[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

日本料理とは異なる食文化やマナーを中国料理、西洋料理の調理実習から学ぶ。また、調理技術、調理上の特徴を習得する。

#### [学習成果] [E]

食様式の食文化やマナーについて学ぶことにより、食の伝承や供給することに役立てることができる。また、西洋食材、中国食材を知ることで、さまざまな料理に展開できる。

#### [授業計画]

- 1 西洋料理の食文化について
- 2 西洋料理①
- 3 西洋料理②
- 4 西洋料理③
- 5 西洋料理④
- 6 西洋料理⑤
- 7 西洋料理⑥
- 8 中国料理の食文化について
- 9 行食事
- 10 中国料理①
- 11 中国料理②
- 12 中国料理③
- 13 中国料理④
- 14 中国料理⑤
- 15 中国料理⑥

#### [授業方法]

実習する料理のテーマについて説明を加えながらデモンストレーションを行ったのち、各グループに分かれて調理をする。出来上がった料理を試食し、感想や考察を記録する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実習への取組状況 (40%)

試験 (40%)

提出物 (20%)

#### [教科書]

「食育に役立つ調理学実習」西堀すき江編著 (建帛社)

#### [参考書]

「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)

「調理のためのベーシックデータ 第5版」  
(女子栄養大学出版社)

#### [準備学習(予習・復習)]

次回実習する料理をノートに転記し、調理法を予習。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

食材の特性、調理工程による変化を実習を通じて感覚的にとらえ、料理作りと食べることの楽しさを知ってもらいたい。

[科目名] 調理学実験  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_E12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実験

#### [授業概要]

調理操作を施すことによって、食材が化学的・物理的に変化し、おいしさを与える。実験を通して、食材の特性や調理操作に関する基礎的知識と技術を科学的に学習し、調理操作の意義を学ぶ。  
また、実験の心構え、実験器具の使用について学ぶ。

#### [学習成果] [E]

食材を用いて実験することで、調理操作が及ぼす影響、食材と調理に関する調理学的知識を修得できる。実験ノートを作成し、実験を記録し、報告する技術が修得できる。

具体的には、

- 官能評価方法の実践
- でんぷんの調理法、炊飯
- 各種小麦粉とグルテン
- 砂糖、寒天、ゼラチン、でんぷんと加熱温度
- たんぱく質の調理による変化
- 野菜の色、食感の調理による変化を理解できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション、レポートの書き方
- 2 食品の物性と官能検査
- 3 米の調理性に関する実験
- 4 小麦粉の調理性に関する実験①
- 5 小麦粉の調理性に関する実験②
- 6 いも及びでんぷんの調理性に関する実験
- 7 砂糖の調理性に関する実験
- 8 卵の調理性に関する実験①
- 9 卵の調理性に関する実験②
- 10 肉の調理性に関する実験①
- 11 肉の調理性に関する実験②
- 12 魚の調理性に関する実験
- 13 寒天・ゼラチンの調理性に関する実験
- 14 野菜の調理性に関する実験①
- 15 野菜の調理性に関する実験②

#### [授業方法]

食材を試料に用い、実験を行う。食材に合った調理操作について、分析、考察する。グループ作業であることから、メンバー間で連携し、実験を遂行し、メンバー間評価も行う。実験結果は、ノートに記録し、適宜レポートとして提出する。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 提出物 (60%)
- 授業への取組状況 (40%)

#### [教科書]

プリント教材配布  
「図解 栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック」西川真理子著 (化学同人)

#### [参考書]

「マスター調理学」(建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

翌週の子習、前回までの実験の復習を行う必要がある。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

調理学、調理学実習と並行して実験が進むことから、関連性を意識しながら、積極的に取り組んでほしい。後期以降の実験においても、実験器具を使用していくことから器具の名前や使用法、洗浄方法などを理解してほしい。実験用白衣を着用し、衛生、安全に留意した服装で実験に臨むこと。また、レポート作成に向けてOA機器活用も学んでほしい。

[科目名] 給食管理論 I  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_E12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

給食のはじまりは明治時代からともいわれている。長い歴史の中で変遷を繰り返してきた給食について特定給食施設別の提供方法や特徴を学び、栄養士の業務との関わりを習得する。

#### [学習成果] [E]

特定給食施設で必要とされる人材である栄養士について、漠然としたイメージを明瞭でき、これから目指す栄養士の職務について理解することができる。また、給食運営に関する知識を身につけ、職業意識を高めることができる。

#### [授業計画]

- 1 給食の意義と歴史
- 2 特定給食の特徴
- 3 給食運営方法の種類 (1)
- 4 給食運営方法の種類 (2)
- 5 特定給食施設における栄養士業務 (1)
- 6 特定給食施設における栄養士業務 (2)
- 7 関係法規 (1)
- 8 関係法規 (2)
- 9 関係法規 (3)
- 10 分析図による食数管理と食材管理 (1)
- 11 分析図による食数管理と食材管理 (2)
- 12 特定給食施設別の献立作成方法 (1)
- 13 特定給食施設別の献立作成方法 (2)
- 14 特定給食施設別の献立作成方法 (3)
- 15 特定給食施設別の献立作成方法 (4)

#### [授業方法]

給食の概念について授業をすすめて、喫食対象者の満足度を得るための適切な調査方法を説明する。さらに食数管理、食材管理のグラフやデータを分析し、メニュー開発に反映させる方法を説明する。  
委託給食会社の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 試験 (60%)
- 課題への取組状況 (20%)
- 授業への取組状況 (20%)

#### [教科書]

「給食の運営-栄養管理・経営管理-」 (建帛社)

#### [参考書]

給食管理実習一校内編 殿塚婦美子他編著 (建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

関係法規について調べておく。また、授業後には復習をし、知識を定着させることを心掛ける。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

給食管理論は、栄養士の職務を理解でき、現場で活用できるものである。興味をもち授業に参加してもらいたい。

**[科目名]** 生活文化総合演習  
**[担当教員名]** 奥村 智子・渡辺 香織・安井 映理子・  
服部 礼美香・藤原 淳子・高橋 美千子・  
飯田 春子・浅野 順子・森本 智子  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
**[開講学期]** 1年後期 **[科目コード]** LCF0\_A12  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

#### **[授業概要]**

生活文化学科の共通科目として、日本文化に対する理解を深める。本学の教育理念「正・明・和・信」の情操を養い、家庭内での生活から卒業後の社会生活へ向けてより深く広い教養を身につける。

#### **[学習成果] [A]**

生活文化(家政学)に関する知識を幅広く身につけ実践できるようになる。2年次の専門教育に意欲的に取り組むことができる。

専攻の枠を超えた小グループでの開講により、新たな人間関係を形成する機会や幅広い考え方を育てるようになる。考えを文章としてまとめる力が身につく。

#### **[授業計画]**

- 1 オリエンテーション、レポートの書き方
- 2 「食物アレルギーの子どもを守る大学へ」のとりくみ
- 3 稲沢学・稲沢について考える日本文化…書道①
- 4 稲沢学・おでかけ市長室
- 5 稲沢学・学外見学
- 6 日本文化…書道
- 7 日本文化…茶道①
- 8 日本文化…茶道②
- 9 日本文化…和の心
- 10 色彩コーディネート
- 11 暮らしと環境
- 12 子どもと関わる
- 13 生活とお金
- 14 言葉①
- 15 言葉②

#### **[授業方法]**

演習が主体だが、ディスカッション、グループ学習などそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。毎回、学んだ内容、意見や考えを課題としてまとめ、最後にまとめとしてのレポート課題を課す。

アクティブラーニング導入。

#### **[成績評価]**

授業への取組状況(30%)  
課題提出(60%)  
まとめレポート(10%)

#### **[教科書]**

「愛知文教女子短期大学 生活文化総合演習2020」

#### **[参考書]**

随時紹介

#### **[準備学習(予習・復習)]**

授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。授業後は、振り返りレポート作成に取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### **[備考](地域志向科目)**

卒業時に授与される学位に付記される専攻分野「生活文化」をより深める科目である。短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として、積極的な学びを期待する。

**[科目名]** 食物アレルギー演習  
**[担当教員名]** 渡辺 香織・有尾 正子  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
**[開講学期]** 1年後期 **[科目コード]** LCF0\_D12  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

#### **[授業概要]**

食物アレルギーの発症例は年々増加の一途をたどっており、栄養士は様々な職域において、食物アレルギー患者と接する機会がある。本演習においては、理論と実践の両面から食物アレルギーを学び、栄養士の視点から備えておくべき基礎知識を習得することを目標とする。

#### **[学習成果] [D]**

食物アレルギーに関する基礎知識が習得できるほか、その知識を実際の調理や献立作成に活かせるようになる。また、食物アレルギー対応が栄養士以外の他職種との連携で行われることの意義を理解できる。

#### **[授業計画]**

- 1 アレルギーの変遷と現状
- 2 食物アレルギーの基礎知識①
- 3 食物アレルギーの基礎知識②
- 4 食物アレルギー疾患対応のポイント
- 5 栄養士に知ってほしいこと①
- 6 栄養士に知ってほしいこと②
- 7 食物アレルギー対応の取り組み
- 8 食物アレルギー対応食のポイント
- 9 食物アレルギー対応食の調理①
- 10 食物アレルギー対応食の調理②
- 11 食物アレルギー対応食の調理③
- 12 食物アレルギー対応食の調理④
- 13 食物アレルギー対応食の調理⑤
- 14 食物アレルギー対応食の調理⑥
- 15 食物アレルギー事故防止と多職種連携

#### **[授業方法]**

理論を学びながら、演習を中心とする。後半は食物アレルギー対応食の調理実習を行うことで食物アレルギー対応のポイントと事故防止への理解を深めていく。

アクティブラーニング導入。

栄養指導(病院)の実務経験がある教員を中心に、実践的な方法で授業を行う。

#### **[成績評価]**

授業への取組状況(20%)  
ノート、レポート等の評価(30%)  
筆記試験(50%)

#### **[教科書]**

新版 食物アレルギーの栄養指導  
海老澤元宏監修(医歯薬出版)

#### **[参考書]**

「愛知文教女子短期大学がお届けするみんないっしょの楽しい給食」安藤京子編著(芽ばえ社)

「食物アレルギーの基礎と対応」  
宇理須厚雄監修(みらい)

「よくわかる食物アレルギー対応ガイドブック」  
宇理須厚雄監修(環境再生保全機構)

#### **[準備学習(予習・復習)]**

開講前の夏季休暇中に、食物アレルギーに関する情報収集を行っておく。また、本学ホームページ [www.ai-bu.nkyo.ac.jp](http://www.ai-bu.nkyo.ac.jp) 内「はっぴーと」を見ておく。授業後には要点をまとめるなどの復習をすること。実習後は考察や栄養価計算、ノート作成などの課題に取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### **[備考]**

「食物アレルギー」に強い栄養士を目指して、日進月歩の食物アレルギー対応を学び、身につけていく。

[科目名] 色彩学  
[担当教員名] 森本 智子・高橋 美千子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

色彩の基礎と配色方法を学ぶ。色についての基礎知識とそれを暮らしに応用するノウハウを習得する。

色彩を生活の中に意識して取り入れ、他者への思いやり空間を作り出す方法を考える。

#### [学習成果] [A]

衣食住に関わる様々な色の仕組みを知ること、より専門的な視点で色を理解し、今後の暮らしや仕事に活かすことができる。

#### [授業計画]

- 1 私たちが目で見る世界 (色と光)
- 2 色の基礎1 (色相・明度・彩度)
- 3 色の基礎2 (トーン、色相環)
- 4 色の見え方・感じ方1 色の名前、季節、温度
- 5 色の見え方・感じ方2 錯視と色盲などについて
- 6 衣食住の色を考える (自宅でカラーハンティング)
- 7 自宅で見つけた色の発表と考察
- 8 色の歴史とトレンドカラー
- 9 配色技法1 カラーコーディネートワーク
- 10 配色技法2 9でのワークのプレゼンテーション
- 11 ファッションカラー
- 12 ファッションの配色レッスン
- 13 パーソナルカラー1 似合う色を知る
- 14 パーソナルカラー2 コーディネートを考える
- 15 カラーセラピー

#### [授業方法]

講義を中心に、ワークショップなど演習を取り入れ、実際に色に触れることで色彩感覚を身につける。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業の取組状況 (50%)  
課題等提出物 (50%)

#### [教科書]

色の教科書 (学研パブリッシング)

#### [参考書]

随時プリント配布

#### [準備学習 (予習・復習)]

身の回りにある色のイメージ、メッセージ性などに興味関心を持ち、インターネットや雑誌などで調べ学習をして臨むこと。授業後は、課題に取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

ライフカラー検定3級の取得に是非チャレンジして欲しい。

[科目名] 健康フィットネス演習 I  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_F11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

運動は健康の維持・増進に必要である。毎回のエアロビクスダンス等の実技によって、自分自身の健康的なからだ作りを目標に、運動、特に有酸素運動のエアロビクスダンスエクササイズの正しく、安全で効果的な方法、ADIの資格取得に向け実技を通して学ぶ。

#### [学習成果] [F]

健康の維持増進に、食事とともに欠かせない運動、フィットネス理論をエアロビクス実技により修得できる。

具体的には、

- エアロビクスの理解
- 体力学、トレーニング科学、運動処方
- 健康と運動 (心と運動を含む)
- 各種エアロビクスダンスエクササイズの実践

が理解できる。

#### [授業計画]

- 1 エアロビクスダンスエクササイズとは
- 2 エアロビクス、体力測定とその意義
- 3 エアロビクス、運動計画
- 4 エアロビクスとウォームアップ
- 5 エアロビクスとストレッチング
- 6 動作の基本
- 7 正確なアライメント
- 8 明確な動き
- 9 ローインパクト・ハイインパクト
- 10 ウォームダウン・クールダウン
- 11 トレーニング科学、各種トレーニングの理解
- 12 心と運動
- 13 エアロビクスダンスエクササイズ①
- 14 エアロビクスダンスエクササイズ②
- 15 エアロビクスダンスエクササイズ③

#### [授業方法]

エアロビクスダンスエクササイズのレッスン形式で行う。リズムに合わせてウォーミングアップ、メインエクササイズ、ウォームダウンの一連の流れを行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
課題 (10%)  
実技テスト (50%)

#### [教科書]

教材プリント配布

#### [参考書]

GFIのためのフィットネス基礎理論・  
エアロビクスダンスエクササイズ指導理論  
(社)日本フィットネス協会)

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回毎回の授業の振り返り、次週の学びについて解説を行うことから予習・復習をしておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

フィットネスウエア、運動シューズ、タオル、水分補給用の飲み物が毎回必要となる。どのようなものが適しているかは、初回のオリエンテーションで解説するので、各自用意願いたい。

[科目名] 健康フィットネス演習Ⅱ  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_F12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

運動は健康の維持・増進に必要である。前期の健康フィットネス演習Ⅰを発展させ、グループエクササイズについて実技を通して学ぶ。ADIの資格試験に向け、規定動作、プログラム作成、指導の実践について実技を通して修得する。

#### [学習成果] [F]

グループに向けた指導方法を習得できる。プログラミングと負荷強度の調節など指導の循環を理解し、インストラクターとして必要な実技スキルを習得する。

ADI資格取得のための知識、技術が習得できる。

具体的には、

- グループエクササイズの理解と実践
- 指導の循環の理解
- エアロビックダンスエクササイズの正しい動作と指導の実践ができる。

健康の維持増進に向け、運動と食事の両方の視点で、健康を考えることができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 音楽の役割
- 2 ステップのバリエーション
- 3 動きの組み合わせ・強度変化
- 4 プログラム構成
- 5 コレオグラフィーの手法
- 6 メインエクササイズプログラムの作成①
- 7 メインエクササイズプログラムの作成②
- 8 プログラムの指導テクニック①
- 9 プログラムの指導テクニック②
- 10 エアロビックダンスエクササイズプログラムの指導①
- 11 エアロビックダンスエクササイズプログラムの指導②
- 12 正しい動きの実践
- 13 正しい動きの実践と指示
- 14 グループ指導①
- 15 グループ指導②

#### [授業方法]

エアロビックダンスエクササイズのレッスン形式で行う。特に、エアロビックダンスエクササイズの正しい動作、指導、プログラム作成を行うための実技を練習する。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
実技 (60%)

#### [教科書]

教材プリント配布

#### [参考書]

GFIのためのフィットネス基礎理論  
エアロビックダンスエクササイズ指導理論  
グループエクササイズ指導理論  
(社)日本フィットネス協会)

#### [準備学習 (予習・復習)]

1年間の集大成として、エアロビックダンスエクササイズの授業外学習 (復習・予習)、練習に励むことを求める。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] ADI特別講義  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_F12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

公益社団法人日本フィットネス協会認定ADI資格取得のため資格取得のためのオムニバス形式の講義。ADI筆記試験対策も合わせて行い、インストラクターに必要な知識を修得する。

#### [学習成果] [F]

健康の維持増進の担い手、有酸素運動「エアロビックダンスエクササイズ(AD)」のインストラクターに求められる、理論を修得できる。

#### [授業計画]

- 1 フィットネス概論
- 2 運動器の基礎解剖学①
- 3 運動器の基礎解剖学②
- 4 運動生理学
- 5 体力学・トレーニング科学・運動処方
- 6 体力学・トレーニング科学・運動処方
- 7 心と運動
- 8 運動と安全管理、事故・障害の予防
- 9 有酸素性運動の基礎知識
- 10 ADの歴史と運動特性
- 11 ADの基本の動き
- 12 ADのプログラミング
- 13 ADの指導法、環境整備
- 14 グループエクササイズ①
- 15 グループエクササイズ②

#### [授業方法]

講義が主体である。オムニバス形式で、ADI資格取得に向けた筆記試験対策講座を行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
課題 (20%)  
テスト (40%)

#### [教科書]

「GFIのためのフィットネス基礎理論」  
「エアロビックダンスエクササイズ指導理論」  
「グループエクササイズ指導理論」  
(社)日本フィットネス協会)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回授業内で、予習内容、復習内容を指示する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

## 2 専門科目

生活文化学科 食物栄養専攻 2年



[科目名] 公衆衛生学  
[担当教員名] 高見澤 一裕  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

公衆衛生学は、ひとの命や健康を守るための学問で、臨床医学が個々の人を取り扱うのに対して、社会という集団で健康を取り扱う学問である。そのため、極めて幅の広い知識が必要となる。この授業では、広く社会・環境と健康について学ぶ。健康の概念から始まり、環境汚染と健康、保健統計、疫学の概念と実際、生活習慣の現状と対策、保健・医療・福祉の社会制度について講義する。

#### [学習成果] [A]

医療や保健の現場で、栄養士をはじめとしたコメディカルスタッフの役割は年々重要となり、要求される事項も複雑かつ高度なものとなってきている。これらの社会的要求にこたえられる基本事項を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 健康の概念・公衆衛生の概念
- 2 環境汚染と健康影響
- 3 環境衛生
- 4 保健統計
- 5 人口動態統計・人口動態統計・生命表
- 6 疫学の概念
- 7 疫学の方法
- 8 疫学の実践と栄養士倫理
- 9 生活習慣の現状と対策（飲酒、喫煙）
- 10 生活習慣の現状と対策（休養、歯科）
- 11 主要疾患の疫学と予防対策（がん、循環器疾患）
- 12 主要疾患の疫学と予防対策（代謝疾患、骨疾患）
- 13 主要疾患の疫学と予防対策（感染症、精神疾患）
- 14 保健・医療・福祉の制度（医療制度、保健制度）
- 15 保健・医療・福祉の制度（介護・福祉制度）

#### [授業方法]

教科書に沿って講義を進める。今週の公衆衛生学と題して学生が毎回1人5分のプレゼンテーションを行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

定期試験 (60%)  
プレゼンテーション (30%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

「社会・環境と健康〔公衆衛生学〕〔健康管理概論〕」  
(一社) 全国栄養士養成施設協会ら監修 (第一出版)

#### [参考書]

公衆衛生がみえる (メディックメディア)  
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

#### [準備学習 (予習・復習)]

直近1週間の新聞等に目を通し、公衆衛生に関連する事項を把握すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 解剖生理学実験  
[担当教員名] 日暮 陽子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_B22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実験

#### [授業概要]

解剖生理学の講義で得た知識をもとに、自らが体を動かして種々の実験と標本観察に積極的に取り組むことで、教科書のみでは得られない手技と知識を得ることができる。これにより解剖生理学を系統的により深く理解する能力を高めることをめざす。

#### [学習成果] [B]

生体の成り立ちについて、人体模型やラットを使用し、肉眼的・顕微鏡的な観察を実践することで構造と機能の関係をより深く理解でき、さらに生体の形成および維持の面での食品のもつ意義・重要性を理解することに役立つ。

#### [授業計画]

- 1 全体説明：概要・心得、レポート作成、人体の構造について
- 2 人体・臓器模型観察とスケッチ1
- 3 人体・臓器模型観察とスケッチ2
- 4 消化器について
- 5 組織標本観察スケッチ（胃・肝臓・腎臓）
- 6 ラットの解剖：肉眼的観察とスケッチ
- 7 細胞標本観察スケッチ（血球標本）
- 8 循環器実験：血圧測定（安静時、負荷時）
- 9 泌尿器実験：試験紙法による尿検査
- 10 皮膚感覚実験：二点弁別閾値測定、触点・痛点・温点・冷点測定
- 11 味覚実験
- 12 身体計測：肺活量・握力・背筋力・聴力
- 13 発表準備
- 14 人体の構造と機能について発表1
- 15 人体の構造と機能について発表2

#### [授業方法]

実習ごとにプリントを配布して説明することを基本とし、さらにスライド供覧や提示物を加えて理解しやすくする。項目によっては実施に先立ち、教員がデモンストラーションを実施する。学生は実験内容を少人数の班に分かれて実験し、班全員で検討、議論してレポートにまとめる。最後に与えられたテーマについて発表する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

提出物(70%)  
課題や授業への取組状況(30%)

#### [教科書]

使用なし (プリント配布)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回復習をしてノートにまとめておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 生化学実験  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_B22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実験

#### [授業概要]

生体内での栄養素の消化および代謝反応を実験によって理解する。

#### [学習成果] [B]

生きるために必要な糖質、脂質、たんぱく質等の栄養素および水の生体内利用の仕組みや生体内での生成、代謝の仕組み、環境への適応について、栄養成分や生体試料を用いて実験することで修得することができる。また、実験結果、血液成分値と疾病の関連を説明できるようになる。

具体的には、

- 生化学的実験手法の理解と実践
- 糖質、脂質、たんぱく質の消化の理解
- 酵素反応の理解
- 糖質、脂質、タンパク質の代謝の理解
- 核酸の理解

である。

また、仮説実証のプロセスを習得する。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション、緩衝液の性質
- 2 糖質の消化: 唾液アミラーゼ活性の測定①
- 3 糖質の消化: 唾液アミラーゼ活性の測定②
- 4 たんぱく質の消化: ペプシン活性の測定①
- 5 たんぱく質の消化: ペプシン活性の測定②
- 6 たんぱく質の消化: トリプシン活性の測定
- 7 脂質の消化: リパーゼ活性の測定①
- 8 脂質の消化: リパーゼ活性の測定②
- 9 分光光度計と検量線
- 10 糖質の代謝
- 11 タンパク質の代謝: 血清タンパク質濃度の測定
- 12 タンパク質の代謝: 尿中尿素濃度の測定
- 13 脂質の代謝: 血中コレステロール濃度の測定
- 14 核酸
- 15 核酸の代謝: 尿酸濃度の測定

#### [授業方法]

栄養成分や生体試料を用いて、生体内での反応などを、実験により確認する。グループ作業であることから、メンバー間で連携し、実験を遂行する。また、アクティブラーニングを導入し、仮説に基づく実験方法の組み立て、実験、考察までの一連を班ごとに考えて行い、グループワークにひとりひとりが積極的に取り組み、仮説実証のプロセスを習得できる。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 実験への取組状況(40%)
- 実験ノート(40%)
- 課題・レポート(20%)

#### [教科書]

プリント教材配布

#### [参考書]

「栄養科学シリーズNEXT生化学」  
(講談社サイエンフィク)

#### [準備学習(予習・復習)]

病態の理解、栄養ケアマネジメントについても併せて学習するため、生化学、栄養学、臨床栄養学の予習・復習を推奨する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

グループワークとなるので、主体的に実験に参加することを求める。白衣は実験用の白衣を使用し、衛生、安全に留意した服装で実験を行うこと。

[科目名] 病理学  
[担当教員名] 高橋 浩子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_B22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

病理学は疾病の本態を究明する学問であり、疾病の原因、機序、病変の広がりや経過、そして最終的にはどのような転帰をとるかなどについて、臓器、組織、細胞などの形態学的な変化を主な拠り所として追求していく。

講義では病気の基本的な概念を総論的に理解し、さらに重要疾患についての病変像をカラースライドで投影することでより理解を深められるようにする。

#### [学習成果] [B]

疾病を理解するための基礎的学問である病理学を履修することは食品機能、特に生体調節機能を考えるうえで有用かつ重要である。将来管理栄養士資格取得を目指す場合には必須の科目を修得できる。

#### [授業計画]

- 1 序論: 病理学の意義、病因、生体反応の流れ
- 2 総論: 退行性病変、循環障害
- 3 : 炎症と免疫
- 4 : 感染症
- 5 : 腫瘍
- 6 : 先天性異常
- 7 : 老化
- 8 : 全身性疾患
- 9 各論: 循環器
- 10 : 呼吸器
- 11 : 消化器 1
- 12 : 消化器 2
- 13 : 内分泌系
- 14 : 泌尿、生殖器系
- 15 : その他の疾患

#### [授業方法]

教科書を主とし、カラースライドや資料の提示を加えることで理解に役立てる。また、要に応じて重要事項の理解度を確認するための提出物を求めることをする。

内科医師の実務経験に基づき、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 定期試験の成績(70%)
- 授業への取組状況(受講態度を含む)(30%)

#### [教科書]

「わかりやすい病理学」(改定第6版)  
岩田隆子、恒吉正澄、小田義直 他 (南江堂)

#### [参考書]

「イラスト病理学」野々垣常正 ほか  
(東京教学社)

#### [準備学習(予習・復習)]

毎回復習をしてノートにまとめること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 食品学Ⅱ  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_C21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

栄養士業務を行う上で、献立の原材料となる食品について正しく詳しい知識を得ることは必須となる。本講義においては、各食品の名称、利用の現況、性質、栄養や機能成分、貯蔵法、調理加工法などを知り、さらに商品学的な面も学んで食品に関する必要な知識を得ることを目標とする。

#### [学習成果] [C]

幅広く食品について、その栄養学的特徴や貯蔵法、調理加工法の知識を得て、活用できる。献立作成や給食の運営において、正しい食品選択の目を持って業務を行うことができる。

#### [授業計画]

- 1 穀類の特性とその加工品
- 2 イモ類の特性とその加工品
- 3 種実類の特性とその加工品
- 4 豆類の特性とその加工品
- 5 野菜類の特性とその加工品
- 6 果実類の特性とその加工品
- 7 キノコ類の特性とその加工品
- 8 藻類の特性とその加工品
- 9 魚介類の特性とその加工品
- 10 食肉類の特性とその加工品
- 11 卵類の特性とその加工品
- 12 乳類の特性とその加工品
- 13 食用油脂、調味料、香辛料、嗜好品
- 14 食品の保存と規格
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「食べ物と健康Ⅱ」喜多野宣子他著 (化学同人)

#### [参考書]

「改訂原色食品図鑑第二版」菅原龍幸他編 (建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習 (要点まとめなど) を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

献立を立てるにしろ、調理を行うにしろ、使う食品について熟知していなければ、その幅は広がっていかない。  
改めて食品一つひとつの特徴や成分、加工方法などを学ぶこの講義は、栄養士としての知識の土台ともなる。「自分自身が食品辞典になる」という意気込みで授業に臨むこと。

[科目名] 食品衛生学Ⅱ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

栄養士の職務は、給食の運営である。大量に提供する給食は、衛生かつ安全に調理しなければならない。そのために大量調理施設衛生管理マニュアルを熟知し、食中毒、異物混入などの食に関する事故を未然に防ぐ知識を習得することをねらいとする。

#### [学習成果] [C]

HACCP (食品の危険分析・重要管理点) が基となっている大量調理施設衛生管理マニュアルについて学ぶことにより、さまざまな危機管理ができる。また、調理施設、調理器具などの洗浄・殺菌法を適切に知ることができる。

#### [授業計画]

- 1 大量調理施設衛生管理マニュアルとは
- 2 施設設備の構造と衛生管理
- 3 衛生管理体制の充実
- 4 調理従事者への衛生教育
- 5 衛生標準作業書とは
- 6 洗浄と殺菌
- 7 食材の管理方法
- 8 調理工程別重要管理点 (和え物)
- 9 調理工程別重要管理点 (焼き物)
- 10 調理工程別重要管理点 (炒め物)
- 11 調理工程別重要管理点 (煮物・汁物)
- 12 業態別衛生管理 (給食)
- 13 業態別衛生管理 (惣菜と弁当)
- 14 調理環境の衛生管理
- 15 食中毒発生事例と対応

#### [授業方法]

HACCP (食品の危険分析・重要管理点)、大量調理施設衛生管理マニュアルを中心に説明し、これをふまえて、調理工程における危険分析、重要管理点を探る。

#### [成績評価]

試験 (60%)  
課題への取組や授業への取組状況 (40%)

#### [教科書]

管理栄養士のための大量調理施設の衛生管理  
矢野俊博・岸本 満著 (幸書房)

#### [参考書]

調理施設の衛生管理 (社団法人日本食品衛生協会)

#### [準備学習 (予習・復習)]

特定給食施設や食品会社の衛生管理について調べる。  
前回の授業の内容を見直す。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

大量調理施設で食中毒や異物混入の事故を起こした場合、人命にもかかわり信頼をも失うこととなる。衛生管理の知識を備える必要性を理解してもらいたい。

[科目名] 食品衛生学実験  
[授業クラス] 高見澤 一裕  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実験

#### [授業概要]

食品衛生は飲食に起因する健康障害の発生を防止することにある。本実験では、基本的な衛生に関する実験から始めて、特に微生物学的検査について実習する。HACC P対応施設も見学して、実地の衛生管理を学ぶ。

#### [学習成果] [C]

食品衛生の概念を理解し、それを実証する基本的検査技術を身につけることができる。これらのスキルは、栄養士業務ばかりでなく食品関係の一般的な業務でも十分に生かすことができる。

#### [授業計画]

- 1 手指の消毒の判定: 手洗いチェッカー
- 2 食器の洗浄度検査: でんぷん、脂肪、タンパク質の残留
- 3 飲料水の検査: 残留塩素 (DPD法)
- 4 魚肉の鮮度検査: ヒスタミン (ろ紙クロマト)
- 5 食品添加物検査: 亜硝酸性窒素 (比色法)、ハム
- 6 食品添加物検査: 酸性エタノール色素 (TLC法)、シロップ
- 7 拭き取り法・スタンプ法による細菌汚染度検査:  
標準寒天培地、ドアノブ、手指、衣服など  
空中落下細菌による室内細菌汚染度検査:  
標準寒天培地、食堂、トイレなど
- 8 細菌検査: 普通染色、黄色ブドウ球菌、大腸菌
- 9 細菌検査: グラム染色、黄色ブドウ球菌、大腸菌
- 10 一般細菌検査: 標準寒天培地、調理実習野菜煮汁
- 11 大腸菌群検査: デソ培地、調理実習生肉および煮汁
- 12 乳酸菌検査: BCP加寒天培地、ヨーグルト、  
黄色ブドウ球菌検査: 卵黄加マンニット寒天培地、  
皮膚
- 13 腸炎ビブリオ検査: TCBS培地、あじ、するめいか、
- 14 アレルゲン検査: イムノクロマト法
- 15 HACCP施設見学

#### [授業方法]

実験方法を毎回の実習ごとに配布して説明する。適宜、スライドなどを使用して内容の理解と技術の習熟の助けとする。学生は5人前後の少人数での班に分かれて実験し、複数の教員などの指導の元、技術の取得を行う。実験内容を班やクラス全体で共有し議論して内容の習熟に努める。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実験ノートの提出(90%)  
実験への取組状況(10%)

#### [教科書]

「改訂 食品衛生学実験」後藤政幸編 (建帛社)  
プリント配布

#### [参考書]

「図解 食品衛生学実験」(第3版) 一戸正勝ら編  
(講談社)

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業後に必ず実験ノートを整理すること。授業前にそれまでの実験ノートに目を通すこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

顕微鏡観察などスケッチを行うことが多いので、色鉛筆やカラーマーカーペンを持参すること。

[科目名] 栄養学Ⅱ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_D22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

人は、健康な生涯を送ることが望まれる。そのためにも正しく栄養を摂取し生活習慣病やストレスから身体を守ることが重要である。健全な身体づくりのためにライフステージ別の栄養管理方法を習得する。

#### [学習成果] [D]

ライフステージ別の栄養管理方法を習得することで、栄養士として「栄養と健康」に関する知識を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 成人期①
- 2 成人期②
- 3 妊娠期①
- 4 妊娠期②
- 5 授乳期
- 6 乳児期①
- 7 乳児期②
- 8 幼児期①
- 9 幼児期②
- 10 学童期
- 11 思春期
- 12 更年期
- 13 高齢期
- 14 運動・スポーツ栄養
- 15 環境と栄養

#### [授業方法]

ライフステージにおける身体的、生理的特徴、病態を説明し、食事の組み立て方や注意点を探究する。また、ステージ終了の度に小テストを実施し、理解度を確認する。

#### [成績評価]

試験 (60%)  
小テスト (20%)  
授業への取組状況 (20%)

#### [教科書]

はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ6  
「応用栄養学」奥田あかり・上山恵子・尾関清子著  
(化学同人)

#### [参考書]

「栄養の基本がわかる図解事典」  
中村丁次監修 (成美堂出版)

#### [準備学習(予習・復習)]

ステージ終了時に実施する小テストに備え、授業前には復習をすること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

栄養士は人の健康管理に関わる職業である。そのためにも健康な状態でなければならない。まずは、自身の食生活を見直し、正しい栄養摂取方法を学んでもらいたい。

[科目名] 栄養学実習  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_D22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

平均寿命が延びる一方で、健康な状態で生活することが困難になってきている。健康寿命の延伸のためにも食事から栄養を摂り、活動できる身体を維持することが大切である。年代別の特徴を理解して、健康づくりのための栄養補給方法と食事を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

食事と健康、食事と環境の関りを知ることができる。  
また、献立パターンを習得し、ライフステージ別の献立を作成することができる。

#### [授業計画]

- 1 青年期の栄養①
- 2 青年期の栄養②
- 3 母性の栄養①
- 4 母性の栄養②
- 5 乳児期の栄養
- 6 幼児期の栄養①
- 7 幼児期の栄養②
- 8 学童期の栄養
- 9 思春期の栄養
- 10 壮年期の栄養
- 11 更年期の栄養
- 12 高齢期の栄養
- 13 スポーツ栄養
- 14 ストレスと栄養
- 15 特殊環境と栄養

#### [授業方法]

ライフステージ別の特徴や献立作成方法を解説したのち、実習する料理の調理法を説明する。各グループに分かれて調理、試食する。試食後は感想、考察をまとめ提出する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実習への取組状況 (40%)  
試験 (40%)  
提出物 (20%)

#### [教科書]

「ライフステージ栄養学実習書」  
堀江祥允・江上いすず・堀江和代編著 (光生館)

#### [参考書]

「栄養学の基本がまるごとわかる事典」  
足立香代子監修 (西東社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

ライフステージ別の栄養管理方法を予習しておく。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

どのような食行動が健康に影響を及ぼすのか、周囲の食生活に興味を持ち観察するとよい。

[科目名] 臨床栄養学Ⅱ  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_D21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

各疾患別の食事療法を実践し、傷病者の栄養管理を行う上で基本となる病態について学習する。具体的には各種疾患の特徴や原因、治療法、食事療法について解説し、臨床現場で活かせる知識を習得することを目標とする。

#### [学習成果] [D]

・各疾患別の食事療法に関する知識を習得できる。  
・臨床現場における栄養管理に必要な知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 代謝性疾患①
- 2 代謝性疾患②
- 3 循環器疾患①
- 4 循環器疾患②
- 5 消化管疾患
- 6 胆肝疾患
- 7 腎疾患
- 8 腎臓疾患①
- 9 腎臓疾患②
- 10 呼吸器疾患
- 11 血液疾患
- 12 免疫とアレルギー疾患
- 13 骨・骨格系疾患
- 14 摂食機能低下
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が中心の授業である。病態の理解を補助するプリントや小テストも配布、実施する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
筆記試験 (70%)

#### [教科書]

「臨床栄養学概論」友竹浩之・塚原丘美編 (講談社)

#### [参考書]

「Nブックス三訂臨床栄養管理」  
渡辺早苗他編著 (建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前には教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習 (要点まとめなど) を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

病態についての理解は、難解な語句も多く難しいと思うが、解剖生理学など他の科目の学習内容も参照しながら、積極的に学んで欲しいと思う。

[科目名] 臨床栄養学実習

[担当教員名] 渡辺 香織

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_D21

[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

「臨床栄養学」で習得した知識をもとに、各疾患、病態に応じた食事療法を実践する。献立作成・調理実習・症例研究などを通して臨床現場における栄養管理を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

- ・常食から治療食への献立展開が理解できる。
- ・治療食の種類と特徴を学び、臨床における栄養管理が実践できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーションおよび常食献立の立案
- 2 形態別治療食①流動食調理実習、経腸栄養剤
- 3 形態別治療食②軟食調理実習
- 4 常食からエネルギーコントロール食への展開
- 5 常食の調理実習
- 6 摂食・嚥下障害の栄養管理
- 7 エネルギーコントロール食の調理実習
- 8 たんぱく質コントロール食の食事計画、献立作成
- 9 食塩コントロール食の食事計画、献立作成
- 10 たんぱく質コントロール食の調理実習
- 11 食塩コントロール食の調理実習
- 12 脂質コントロール食の食事計画、献立作成
- 13 医療用特殊食品の種類と特徴
- 14 脂質コントロール食の調理実習
- 15 まとめ

#### [授業方法]

献立作成と、調理実習の双方により授業を進めていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (60%)  
実習ノート及び作成献立の評価 (40%)

#### [教科書]

「栄養食事療法の実習第8版」  
本田佳子編 (医歯薬出版)

#### [参考書]

「臨床栄養学概論」友竹浩之・塚原丘美編 (講談社)  
「臨床栄養学実習第4版」芳本信子編 (学建書院)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習 (ノート作成) を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

常食から各種治療食への展開は、臨床における栄養管理では基礎となる。また、現代の臨床現場では、「おいしい治療食の提供」が当たり前になりつつある。病院栄養士を目指す人はもちろん、他の業界の栄養士を目指す人も、しっかり取り組んでほしい。

[科目名] 栄養指導論Ⅱ

[担当教員名] 渡辺 香織

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_D21

[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

1年次の栄養指導論Ⅰでは栄養指導を行う際に基礎となる内容を学習した。この授業においては、妊娠・授乳期から高齢期までの人間のさまざまなライフステージに即した栄養指導の技術について、学んでいく。

#### [学習成果] [D]

各ライフステージ別の栄養指導方法を習得し、年齢や特性に合わせた指導ができる。

#### [授業計画]

- 1 栄養指導の技術と方法
- 2 妊娠・授乳期の栄養指導
- 3 乳児期・幼児期の栄養指導
- 4 食物アレルギーの栄養指導
- 5 学童期の栄養指導①
- 6 学童期の栄養指導②
- 7 思春期の栄養指導
- 8 成人期の栄養指導①
- 9 成人期の栄養指導②
- 10 生活習慣病予防の栄養指導
- 11 高齢期の栄養指導
- 12 疾患別栄養指導①
- 13 疾患別栄養指導②
- 14 特定給食施設における栄養指導
- 15 まとめ

#### [授業方法]

病院での栄養指導の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。講義が主体だが、ディスカッションを交えることもある。

アクティブラーニング導入。  
栄養指導 (病院) の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「栄養教育論」今中美栄他編著 (化学同人)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、授業後は復習 (要点まとめなど) を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

栄養指導の最終目標は、対象者のQOLの向上である。対象者が健常者であっても、傷病者であってもそれは同じである。理論をしっかり学んで、対象者に寄り添う指導が実践できる栄養士を目指すこと。

[科目名] 栄養指導論実習Ⅱ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_D21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

1年次の栄養指導論実習Ⅰを基に、栄養指導の計画から実施への基本的な方法を学ぶ。対象者は健康の維持増進を目的とする人から疾病を持った人、幼児から高齢者まで幅広い。それぞれに合わせたコミュニケーションスキルと指導方法を実践的に習得する。

#### [学習成果] [D]

対象者に合わせた媒体づくり、指導計画の作成ができる。

1年次の栄養士養成科目と関連づけ、栄養指導の方法を修得することができる。

#### [授業計画]

- 1 栄養指導の実際
- 2 学童期の栄養指導①立案
- 3 学童期の栄養指導②媒体作成
- 4 学童期の栄養指導③実施・評価
- 5 学童期の栄養指導④実施・評価
- 6 ライフステージ別栄養指導①立案
- 7 ライフステージ別栄養指導②媒体作成
- 8 ライフステージ別栄養指導③実施・評価
- 9 ライフステージ別栄養指導④実施・評価
- 10 病態別栄養指導①立案
- 11 病態別栄養指導②媒体作成
- 12 病態別栄養指導③実施・評価
- 13 病態別栄養指導④実施・評価
- 14 Power Pointを使つての媒体作成
- 15 Power Pointを使つての栄養指導の実施・評価

#### [授業方法]

グループワーク形式で実習をすすめる。最後には個人テーマでPower Pointを使つて媒体を作成、発表する。毎回、食と栄養に関する新聞記事を取り上げ、小レポートを作成、提出する。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (45%)  
提出物 (55%)

#### [教科書]

「すぐわかる栄養指導実習」田中ひさよ他著  
(萌文書林)

#### [参考書]

「みんないっしょの楽しい給食」(芽ばえ社)  
「新カラーチャート食品成分表」(教育図書)  
「調理のためのベーシックデータ」  
(女子栄養大学出版部)

#### [準備学習(予習・復習)]

授業前にはテーマについての下調べ等の予習が必要で  
す。復習として、発表(栄養指導の実施)の準備を必ず  
行い授業に臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準  
備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

健康管理のために食習慣を変えることは意外に難し  
い。対象者に合わせた話題提供のためにも、日ごろから  
食に関する情報収集を心がけること。

[科目名] 公衆栄養学  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_D22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

公衆栄養学は集団の健康問題が栄養上のどのような因  
子に基づくのか、そして問題解決のために栄養はどうあ  
るべきかを明らかにして、疾病予防・健康増進を図るた  
めの学問である。本講義では公衆栄養の歴史や現在の諸  
問題、栄養行政や、日本人の食事摂取基準について学ん  
でいく。

#### [学習成果] [D]

現代の日本が抱える健康・栄養の問題について、的確  
に捉えて理解し、その解決方法について考えることがで  
きる。日本の健康、栄養行政について知識を得ることが  
できる。また、将来栄養士として、地域保健行政に関わ  
った際に必要な疫学に関する知識を得ることができる。

#### [授業計画]

- 1 公衆栄養学の概念
- 2 国民の健康状態の変遷
- 3 高齢社会の現状と栄養・健康政策
- 4 わが国の食生活の変遷
- 5 食糧需給と自給率
- 6 公衆栄養マネジメント
- 7 公衆栄養プログラムの展開
- 8 栄養疫学の概要、食事調査の方法・活用
- 9 公衆栄養活動と関連行政・法規
- 10 わが国の健康づくり施策の変遷
- 11 栄養・健康指導のガイドライン
- 12 諸外国の健康・栄養政策
- 13 日本人の食事摂取基準(2015年版)①
- 14 日本人の食事摂取基準(2015年版)②
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、ディスカッションを交えることもあ  
る。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題への取組や授業への参加状況 (30%)

#### [教科書]

ステップアップ栄養・健康科学シリーズ  
公衆栄養学 荒牧礼子 他編(化学同人)

#### [参考書]

「国民衛生の動向」厚生統計協会編(厚生統計協会)

#### [準備学習(予習・復習)]

授業前に教科書の該当部分を読んでおくこと。また、  
授業後は復習(要点まとめ)を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準  
備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

私たちが暮らす日本は今、健康や栄養に関する諸問題  
を抱えている。個人の栄養改善を積み重ねて、国民全体  
が健康になるという考えを元に公衆栄養学という学問  
は生まれた。この講義を受けることにより、様々な現行  
の栄養政策に目を向け、将来栄養士として何ができるか  
をもう一度考える機会になればよいと思う。

[科目名] 調理学実習Ⅲ  
[担当教員名] 山本 景子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_E22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

1年次に学んだ実習を基礎として、諸外国の料理を学び、食文化の融合を把握して献立作成に活かす応用力を身につける。行事食についても実習することで、栄養士として食育に必要な知識と技術を習得する。

#### [学習成果] [E]

- ・実習を通して、多様化する食文化を理解できる。
- ・栄養士としての調理技術が習得できる。
- ・献立作成から食事の提供まで目的と対象者に合わせた調理ができる。

#### [授業計画]

- 1 アジア料理①
- 2 アジア料理②
- 3 ヨーロッパ料理①
- 4 ヨーロッパ料理②
- 5 ヨーロッパ料理③
- 6 ヨーロッパ料理④
- 7 中国料理応用①
- 8 中国料理応用②
- 9 スチコンを使った調理
- 10 行事食…正月料理①
- 11 行事食…クリスマス
- 12 行事食…食物アレルギー対応
- 13 日本料理応用①
- 14 日本料理応用②
- 15 自由献立 (女子大生ランチ)

#### [授業方法]

グループに分かれての実習形式で進める。途中でグループを組み替えることで、コミュニケーションスキルを高める。

最終回には調理学実習Ⅰ～Ⅲのまとめとしてグループごとに、献立作成・調理・盛り付けを行い、プレゼンテーションを行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況(45%)  
提出物 (55%)

#### [教科書]

「食育に役立つ調理学実習」  
西堀すき江編著 (建帛社)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回テーマについての予習を行い、実習に臨むこと。  
復習として、デモンストレーションの内容、実習内容について毎回レポートにまとめ、提出する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

予習をすることがデモンストレーションの理解につながる。積極的に実習することで、調理技術の向上に努め、栄養士としての資質の向上をめざす。

[科目名] 給食管理論Ⅱ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_E21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

給食運営における給与目標量の設定から献立作成及び管理項目を具体的に学ぶ。また、給食の評価から得られた結果をもとに改善法を導き出す方法を習得する。

#### [学習成果] [E]

各特定給食施設に合った食事管理、調理管理等を学ぶことにより、具体的な給食運営方法を身につけることができる。帳票類の作成についても栄養士の重要な業務である。必要に応じて作成できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 特定給食施設別の栄養管理 (1)
- 2 特定給食施設別の栄養管理 (2)
- 3 衛生・安全管理
- 4 労務管理 (1)
- 5 労務管理 (2)
- 6 施設・設備管理 (1)
- 7 施設・設備管理 (2)
- 8 作業管理 (1)
- 9 作業管理 (2)
- 10 大量調理の方法と技術 (1)
- 11 大量調理の方法と技術 (2)
- 12 帳票類の管理 (1)
- 13 帳票類の管理 (2)
- 14 特定給食施設の媒体作成 (1)
- 15 特定給食施設の媒体作成 (2)

#### [授業方法]

特定給食施設別の管理項目を学んだのち、帳票類の作成方法について説明をする。同時に帳票類のパソコンソフトについても触れる。また、届出事項については参考資料をもとに説明をする。

委託給食会社の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験 (60%)  
課題への取組や授業への取組状況 (40%)

#### [教科書]

「給食の運営—計画と実務—」 芦川修貳編著  
(同文書院)

#### [参考書]

「給食管理実習—校内編—」 殿塚婦美子他編著  
(建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

媒体作成に必要な資料を収集する。前回の授業の内容を見直す。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

栄養士は施設の特徴を理解し、管理しなければならない。日頃から市場価格や給食関連の情報収集に努めてもらいたい。



[科目名] 給食管理実習Ⅰ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_E21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

給食の運営は、単に食事を提供するだけでなく、計画性、食品流通の把握、調理技術、サービスのノウハウを総合的に網羅されていることが重要である。理論を踏まえて、グループを編成し業務分担を行い、学内において給食の運営を実習する。

#### [学習成果] [E]

給与栄養目標量の設定から献立作成、調理、提供までの一連の作業を行うことで、給食の現場で役立つマネージメント能力を養うことができる。

#### [授業計画]

- 1 給与栄養目標量の設定と食品構成の作成 (1)
- 2 給与栄養目標量の設定と食品構成の作成 (2)
- 3 厨房施設と大量調理機器の使用法
- 4 献立作成
- 5 試作・献立検討
- 6 販売計画・媒体作成
- 7 材料発注と検収方法
- 8 給食の調理と提供 (1)
- 9 給食の調理と提供 (2)
- 10 給食の調理と提供 (3)
- 11 給食の調理と提供 (4)
- 12 給食の調理と提供 (5)
- 13 給食の調理と提供 (6)
- 14 給食の調理と提供 (7)
- 15 給食の調理と提供 (8)

#### [授業方法]

給与栄養目標量の設定から食品構成を作成し、献立作成へと展開していく。試作を行い、グループで検討したのち、学内提供を行う。常食のほかにも病態対応食、行事食も提供する。

アクティブラーニング導入。

委託給食会社の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 実習への取組状況 (50%)
- 実習ノート等提出物 (50%)

#### [教科書]

「給食の運営－計画と実務－」 芦川修貳編著 (同文書院)  
「新カラーチャート食品成分表」 (教育図書)

#### [参考書]

「調理のためのベーシックデータ 第5版」 (女子栄養大学出版部)

#### [準備学習 (予習・復習)]

献立作成に必要な料理や調理法を事前に学習しておく。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

学内での提供であるが、喫食者のことを第一に考え緊張感を持ち臨んでもらいたい。

[科目名] 給食管理実習Ⅱ  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_E21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

学外実習は特定給食施設 (事業所・学校・病院・福祉施設) において実習を行う。各施設で給食運営、給食管理および栄養指導の実際を学ぶ。

#### [学習成果] [E]

栄養士の業務を実際に現場で実習することで、その役割を知り、必要とされる技術と知識を習得することができる。

#### [授業計画]

特定給食施設における実習内容

- ①実習施設の給食機構の概要
- ②給食の特性・・・栄養基準量の算定  
食品構成の作成  
献立作成
- ③調理
- ④衛生管理
- ⑤帳票の作成
- ⑥栄養教育の方法

#### [授業方法]

学外施設において、実習を行う。  
終了後、全体で各実習施設ごとにまとめを発表する報告会を行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 実習施設の評価 (80%)
- 実習ノート (20%)

#### [教科書]

「臨地・校外実習の実際」 (社) 日本栄養士会、  
(社) 全国栄養士養成施設協会編  
「校外実習ノート」 有尾正子著

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前に与えられた課題を期日までに行う。

実習後は報告書の作成をする。

予習・復習として、履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照すること。

#### [備考]

十分な事前準備 (予習) と実習中の健康管理に留意すること。

事後の報告会に向けて復習をしてノートをまとめ、他の実習施設の報告内容から栄養士業務の理解を深める。

[科目名] 卒業研究  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCF0\_A29  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

臨床栄養学に関するテーマの中から、各自が興味を持って取り組めるものを選択し、献立作成・指導媒体制作・調理などに取り組む。

12月に実施される栄養士実力認定試験の対策講座を組み入れる。

#### [学習成果] [A]

- ・臨床栄養学における食事療法の意義について、深く理解することができる。
- ・傷病者への栄養指導の技術が身につく。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 食事療法に関する知識①
- 3 食事療法に関する知識②
- 4 情報検索①
- 5 情報検索②
- 6 研究計画の作成
- 7 個人活動①
- 8 個人活動②
- 9 個人活動③
- 10 個人活動④
- 11 個人活動⑤
- 12 個人活動⑥
- 13 栄養士実力認定試験対策講座①
- 14 栄養士実力認定試験対策講座②
- 15 栄養士実力認定試験対策講座③
- 16 中間評価・反省
- 17 症例研究①
- 18 症例研究②
- 19 症例研究③
- 20 栄養士実力認定試験対策講座④
- 21 栄養士実力認定試験対策講座⑤
- 22 栄養士実力認定試験対策講座⑥
- 23 栄養士実力認定試験対策講座⑦
- 24 栄養士実力認定試験対策講座⑧
- 25 栄養士実力認定試験対策講座⑨
- 26 栄養士実力認定試験対策講座⑩
- 27 個人発表に向けての準備①
- 28 個人発表に向けての準備②
- 29 個人発表に向けての準備③
- 30 個人発表・まとめ

#### [授業方法]

演習や討論、文献検索など、さまざまな形態での授業を予定している。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

研究への取組状況 (70%)  
栄養士実力認定試験 (30%)

#### [教科書]

配付プリントなどで対応

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

臨床栄養学の教科書を見直すなど予習、復習をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

さまざまな傷病に合わせた食事療法の中から、自分が興味を抱いたテーマを深く掘り下げる。臨床栄養学の講義、実習とも関連付けて学習することもできる。

[科目名] 卒業研究  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCF0\_A29  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

伝統的に受け継がれてきた郷土料理や特産物を調査し、その料理や食材を活用して効果的な食育活動方法を研究する。また、日本の食文化を見直しつつ、世代に合った活動方法を見出していく。12月に実施される栄養士実力認定試験の対策講座も組み入れる。

#### [学習成果] [A]

郷土料理は、その土地の食文化を知る資料であり、その土地に暮らす人々の生活を反映しているため、受け入れられやすい。これらを活用した食育活動を理解し、幅広い世代に対応した指導ができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 郷土料理、特産物の資料収集
- 3 郷土料理、特産物の資料収集
- 4 郷土料理、特産物の資料収集
- 5 行事と郷土料理の資料作成
- 6 行事と郷土料理の資料作成
- 7 食育まつりの準備
- 8 食育まつりの準備
- 9 郷土料理の献立研究
- 10 郷土料理の献立研究
- 11 郷土料理の調理
- 12 郷土料理の調理
- 13 栄養士実力認定試験対策講座①
- 14 栄養士実力認定試験対策講座②
- 15 栄養士実力認定試験対策講座③
- 16 特産品を使った料理、菓子の調理・提供
- 17 調査計画①
- 18 調査計画②
- 19 アンケート調査表の作成
- 20 栄養士実力認定試験対策講座④
- 21 栄養士実力認定試験対策講座⑤
- 22 栄養士実力認定試験対策講座⑥
- 23 栄養士実力認定試験対策講座⑦
- 24 栄養士実力認定試験対策講座⑧
- 25 栄養士実力認定試験対策講座⑨
- 26 栄養士実力認定試験対策講座⑩
- 27 調査結果の集計
- 28 研究レポート作成
- 29 研究レポート作成
- 30 学科内卒業研究報告会

#### [授業方法]

資料収集、食材の分量起こし、試作、調査用の料理の決定をし、アンケート調査を実施する。その結果をもとに研究レポートの作成を行う。また、地域住民との調理実習、地域の行事へも参加する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
報告の内容 (30%)  
栄養士実力認定試験 (30%)

#### [教科書]

資料配布

「2020年版 栄養士実力認定試験過去問題集」

(社) 全国栄養士養成施設協会編 (建帛社)

「栄養士実力認定試験一問一答」

(女子栄養大学出版部)

#### [参考書]

文章術ハンドブック 西川真理子著 (化学同人)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に郷土料理、特産物の資料収集。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

地域志向科目  
探究心、研究心をもち取組んでもらいたい。

[科目名] 卒業研究  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCF0\_A29  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

1年次に開講された「健康フィットネス演習」での有酸素運動「エアロビックダンスエクササイズ」の継続的実践を通して、栄養と身体活動から自分自身の健康的なからだづくりを目指す。

12月に実施される栄養士実力認定試験の対策講座も組み入れる。

#### [学習成果] [A]

健康な身体の維持、増進に欠かすことのできない食事と運動の視野を身につけることができる。栄養士としての専門的知識に加え、自身のみならず、対象者に合った健康支援プログラムを提案、実施できる力をつける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション・エアロビクス実技
- 2 研究目標の設定
- 3 エアロビクスと体力測定・運動計画の理解と実践
- 4 エアロビクス応用①
- 5 エアロビクス応用②
- 6 さまざまな運動の種類①の理解
- 7 さまざまな運動の種類②の理解
- 8 身体活動と生活活動
- 9 地域を対象とした健康教育の企画と実践
- 10 対象者の理解
- 11 ライフステージに応じたエアロビクスの理解
- 12 スポーツと栄養①
- 13 栄養士実力認定試験対策講座①
- 14 栄養士実力認定試験対策講座②
- 15 栄養士実力認定試験対策講座③
- 16 身体活動と運動（ダンス）①
- 17 身体活動と運動（ダンス）②
- 18 身体活動と運動（ダンス）③
- 19 スポーツと栄養②
- 20 栄養士実力認定試験対策講座④
- 21 栄養士実力認定試験対策講座⑤
- 22 栄養士実力認定試験対策講座⑥
- 23 栄養士実力認定試験対策講座⑦
- 24 栄養士実力認定試験対策講座⑧
- 25 栄養士実力認定試験対策講座⑨
- 26 栄養士実力認定試験対策講座⑩
- 27 小学生に向けた運動プログラムの計画
- 28 小学生に向けた運動プログラムの計画
- 29 市内小学校での演習
- 30 卒業研究報告会準備

#### [授業方法]

社会的健康課題に対し、栄養と運動両面から多角的に分析できるよう、演習、課題研究に取り組む。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 授業への取組状況 (40%)
- 研究意欲および成果 (30%)
- 栄養士実力認定試験 (30%)

#### [教科書]

「栄養士実力認定試験一問一答」  
川端輝江他著（女子栄養大学出版社）

#### [参考書]

- 「GFIのためのフィットネス基礎理論」
- 「エアロビックダンスエクササイズ指導理論」
- 「グループエクササイズ指導理論」  
(社)日本フィットネス協会

#### [準備学習（予習・復習）]

研究の推進のため、予習復習は必須である。  
授業内で指示するe-ラーニングを活用すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

#### [備考]

地域志向科目

[科目名] 衣生活論  
[担当教員名] 奥村 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

「衣食住」の中の『衣』は人間特有のものであり、衣服は人間性や精神面と深く関わっており、人が服を着て社会生活を営む中でどのような関係があるかを様々な視点から考える。被服について、生産技術、歴史、素材、デザイン、設計、衛生、管理などを思考する基礎的な能力を養う。そしてより豊かで快適な衣生活を営む工夫を習得する。

#### [学習成果] [A]

衣生活の設計や素材の選択と認識、衣服の構成や管理など基礎知識を身につけることができる。また、より良い衣生活のあり方について考え、より良く装うことができるようになる。簡単な裁縫技術が身につく。

#### [授業計画]

- 1 装うことの意味
- 2 衣生活の歴史
- 3 衣服の形と民族衣装
- 4 既製服のサイズ知識
- 5 衣服の品質表示と衣服素材
- 6 衣服の取り扱い絵表示
- 7 衣服の管理：洗濯
- 8 衣服の管理：収納・保管
- 9 素材の特性を学ぶ
- 10 素材の特性を学ぶ
- 11 衣服のマナー
- 12 デザインの基礎
- 13 染色技術を学ぶ
- 14 裁縫技術：手縫いの基礎
- 15 裁縫技術：ミシン縫いの基礎

#### [授業方法]

講義形式で、資料を配付して授業を進める。毎回、理解度を確認するためのレポート課題を行う。演習的な取り組みをすることもある。

#### [成績評価]

- 提出物(70%)
- 授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

随時プリント配付

#### [参考書]

随時プリント配付

#### [準備学習（予習・復習）]

毎授業後に示すレポートを提出すること。また、授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

#### [備考]

製作のための材料費が一部必要である。

[科目名] 住生活論  
[担当教員名] 森本 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

住まい及び住生活に関する知識は、日々の暮らしに密接であるため、様々な分野（教育、保育、介護、医療、家庭など）で役立てることが出来る。

特に、実生活において、加齢と共にライフサイクルの変化する中で、住まい手として“快適で健康な空間とは何か”を考えることで、社会に求められる“快適で健康な空間とは何か”について考察する内容とし、住宅のプロの入口としてだけでなく、保育、医療、介護などの分野で応用のできるような授業とする。

#### [学習成果] [A]

住まいに関する基本的な知識と、応用力・想像力を身につけると同時に、関連資格取得を目指す。

特に、医療、介護の分野に特化した介護・住宅系の資格「福祉住環境コーディネーター」の受験を目指せる知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 第1章 空間計画は芸術か
- 2 第2章 人は自然の中でどんな住居を作ったか
- 3 第3章 現代における和風空間とは何か
- 4 第4章 空間は人のためにどのように作られたか
- 5 第5章 人は環境をどのように眺めているか
- 6 第6章 人の動きと空間の変化
- 7 第7章 インテリアイメージの世界
- 8 第8章 家事の合理性とは何か
- 9 第9章 快適感とは何か
- 10 第10章 人はいかに休むか
- 11 第11章 人の生理と空間設備
- 12 第12章 装飾は機能より劣るか
- 13 第13章 日常空間と非日常空間
- 14 第14章 コミュニケーション空間のインテリア
- 15 第15章 未来空間はどのように作られるか

#### [授業方法]

講義を中心に、レポートや小テストを織り交ぜながら、ディスカッションも行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

学習意欲を含めた授業への取組状況 (50%)  
課題等提出物 (50%)

#### [教科書]

インテリア教本 ～ワークブック～

#### [参考書]

福祉住環境コーディネーター3級検定試験公式  
テキスト (受験希望者)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業時に、その都度指示する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

福祉住環境コーディネーター3級の取得には是非チャレンジして欲しい。

[科目名] 保育学  
[担当教員名] 真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_F22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

少子化の現代、女性が活躍するための家庭の在り方、様々な子育て支援の現状を知り、ワークライフバランスについて課題意識を持ちながら、子どもが健やかに育つ未来、子どもを産み育てる環境と社会について考える。

#### [学習成果] [F]

少子化の現状と課題を認識し、現代の保育の問題に目を向けるとともに、子どもの発達や遊びを理解し、子どもとの関わり方や育児についての基本的な知識を身につく。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 保育を学ぶ意義
- 3 子どもの発達
- 4 実践演習 ～赤ちゃん人形を使って～
- 5 絵本・紙芝居の世界
- 6 実践演習 ～絵本を読んでみよう～
- 7 保育現場見学の事前指導
- 8 保育現場見学 フィールドワーク
- 9 保育現場見学の振り返り
- 10 フィールドワークのグループ発表
- 11 子どもが育つ環境
- 12 子どもの遊び ①
- 13 子どもの遊び ②
- 14 子どもの病気
- 15 まとめとレポート

#### [授業方法]

テーマごとに個人やグループで課題意識を持ちながら、子どもの発達や子どもとの関わり方について演習を取り入れながら学び、現代の子どもを取り巻く環境について考えを深める。適宜、赤ちゃん人形や折り紙などの保育教材等も使用しながら、後半には、おやこ園見学や児童館などを訪問して実際に子どもと触れ合い、子どもへの理解を深め保育と子育てについて考える。

#### [成績評価]

授業への取組状況・提出物 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

使用しない

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

日常的に出産や子育て関連のニュースや新聞記事に関心を持ち目を通しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

ここにこルームでの実践演習や、文教おやこ園の見学、学外に出向いて実際の保育現場で子どもたちと関わる体験等をするので、その心構えが必要である。

[科目名] 製菓・製パン実習

[担当教員名] 山本 景子

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_E22

[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

菓子・パンは、正確な材料の計量や温度管理などが仕上がりに大きな影響を与える。よって素材に対して十分な知識を持ち、調理過程における材料の科学的変化を理解することが重要となる。菓子・パンの実習を通し、必要な基礎的知識と技術を習得することをねらいとする。

#### [学習成果] [E]

製菓・製パンに必要な知識を学び、技術の向上を図る。正確かつ、美味しい菓子・パンを製作できるスキルが身に付くとともに、レシピを展開・応用する力も身につく。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション、菓子・パンの歴史と素材
- 2 洋菓子 (1)
- 3 洋菓子 (2)
- 4 洋菓子 (3)
- 5 洋菓子 (4)
- 6 洋菓子 (5)
- 7 パン (1)
- 8 パン (2)
- 9 パン (3)
- 10 パン (4)
- 11 和菓子
- 12 創作菓子のレシピ作成
- 13 洋菓子 (6)
- 14 洋菓子 (7)
- 15 創作菓子の制作・発表

#### [授業方法]

はじめに教員によるデモンストレーションを行ったのち、学生が菓子およびパンの製作を行う。この実習は、学生ひとりひとりが製作することを基本とする。実習中は個別に教員が指導する。毎回授業で学んだことをレジュメに書き留め、次の授業でふりかえりを実践する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実習への取組状況 (70%)  
創作菓子・レポート (30%) の総合評価

#### [教科書]

オリジナルレシピのレジュメ配布

#### [参考書]

適宜紹介する

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業で押さえたポイントをレジュメに書き留め、次の授業の前にふりかえり、授業で実習に活かすこと。また、創作菓子の制作に向けて日頃から市販されている菓子類や料理本を見るなど関心を持って授業に臨む。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

菓子やパン作りが好きである、技術を身に付けたいというだけでなく、不得意な場合も丁寧に指導していくので、安心して受講してほしい。  
なお、各自実習した菓子・パンは持ち帰る。

[科目名] 食育実践演習

[担当教員名] 有尾 正子

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCF0\_F29

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

食育のねらいは、よりよく食べて、よりよい人生を送ることである。そのためにも安心、安全な食べ物を選択する力を身に付ける必要がある。食育実践演習では、食物が発育、発達に不可欠であることを食事作りを通じて、子どもたちとともに学ぶ。

#### [学習成果] [F]

実際に子どもたちに指導することで、食に対する意識や関心度を知ることができる。また、学校や保育所で食育活動を行う場合の参考となる。

#### [授業計画]

- 1 食育基本法について
- 2 食育の意義
- 3 食育活動の計画
- 4 子どもたちの食環境事情
- 5 事例研究
- 6 食育講座の献立作成および試作①
- 7 食育講座の実施 (学内) ①
- 8 食育講座の献立作成および試作②
- 9 食育講座の実施 (学外) ②
- 10 食育用媒体作成方法
- 11 食育用媒体作成
- 12 食育講座の献立作成および試作③
- 13 食育講座の実施 (学内) ③
- 14 食育講座の献立作成および試作④
- 15 食育講座の実施 (学外) ④

#### [授業方法]

食育の基本や意義について学び、子どもたちに合わせた調理工程、手順を考慮した献立を作成する。試作後、再検討して食育講座を実施する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題への取組や授業への取組状況 (50%)  
食育講座への取組 (50%)

#### [教科書]

随時資料を配布

#### [参考書]

「子ども栄養と食育がわかる事典」 足立己幸監修  
(成美堂出版)

#### [準備学習 (予習・復習)]

学校や小学校で行われている食育活動について調べる。また、授業前には前回の授業内容を見直しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考] 地域志向科目

教職希望の者は受講してもらいたい。

[科目名] 社会心理学  
[担当教員名] 水谷 久康  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_A21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

人は、自分を知り、自分を表現し、社会の中で生きる自分を確立していく。包括的に家族との関係、社会との関係に関する人間行動を科学的に理解する力を身につける。

#### [学習成果] [A]

現代社会の中で自分らしく生きる自分を発見し、将来の自分らしい生き方について設計する能力を身につけ、自身の人生について自己選択、自己決定ができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 社会心理学とは？
- 2 将来の自分 (1) : 職業の選択
- 3 将来の自分 (2) : ライフデザイン
- 4 自分を知ること (1)
- 5 自分を知ること (2)
- 6 自分を表現すること (1)
- 7 自分を表現すること (2)
- 8 自分をプロデュースすること (1)
- 9 自分をプロデュースすること (2)
- 10 家族との関係 (1) : 家族とは何か
- 11 家族との関係 (2) : 家族の発達
- 12 家族との関係 (3) : 家族と臨床的諸問題
- 13 社会との関係 (1) : 女性と社会、男性と社会
- 14 社会との関係 (2) : 自然災害とその支援
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループディスカッション等を取り入れ様々な角度から学習する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題や授業への取組状況 (50%)  
筆記試験 (50%)

#### [教科書]

プリントを適宜配布

#### [参考書]

「家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助」  
中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子 (著)  
(有斐閣ブックス)

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前に、1時間程度は関連する分野の書籍、インターネット等にふれ問題意識を持って授業に臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

## 2 専門科目

生活文化学科 生活文化専攻

情報医療コース 1年

情報ビジネスコース 1年

**[科目名]** 生活文化総合演習  
**[担当教員名]** 奥村 智子・渡辺 香織・安井 映理子・  
服部 礼美香・藤原 淳子・高橋 美千子・  
飯田 春子・浅野 順子・森本 智子  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
**[開講学期]** 1年後期 **[科目コード]** LCI0\_D12  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

#### **[授業概要]**

生活文化学科の共通科目として、日本文化に対する理解を深める。本学の教育理念「正・明・和・信」の情操を養い、家庭内での生活から卒業後の社会生活へ向けてより深く広い教養を身につける。

#### **[学習成果] [D]**

生活文化（家政学）に関する知識を幅広く身につけ実践できるようになる。2年次の専門教育に意欲的に取り組むことができる。

専攻の枠を超えた小グループでの開講により、新たな人間関係を形成する機会や幅広い考え方を育てるようになる。考えを文章としてまとめる力が身につく。

#### **[授業計画]**

- 1 オリエンテーション、レポートの書き方
- 2 「食物アレルギーの子どもを守る大学へ」のとりくみ
- 3 稲沢学・稲沢について考える日本文化…書道①
- 4 稲沢学・おでかけ市長室
- 5 稲沢学・学外見学
- 6 日本文化…書道
- 7 日本文化…茶道①
- 8 日本文化…茶道②
- 9 日本文化…和の心
- 10 色彩コーディネート
- 11 暮らしと環境
- 12 子どもと関わる
- 13 生活とお金
- 14 言葉①
- 15 言葉②

#### **[授業方法]**

演習が主体だが、ディスカッション、グループ学習などそれぞれの項目に合わせて授業形態を変えて進めていく。毎回、学んだ内容、意見や考えを課題としてまとめ、最後にまとめとしてのレポート課題を課す。  
アクティブラーニング導入。

#### **[成績評価]**

授業への取組状況(30%)  
課題提出 (60%)  
まとめレポート (10%)

#### **[教科書]**

愛知文教女子短期大学 生活文化総合演習2020

#### **[参考書]**

随時紹介

#### **[準備学習(予習・復習)]**

授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。授業後は、振り返りレポート作成に取り組むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### **[備考](地域志向科目)**

卒業時に授与される学位に付記される専攻分野「生活文化」をより深める科目である。短期大学での学びを社会生活に結びつける科目として、積極的な学びを期待する。

**[科目名]** 色彩学  
**[担当教員名]** 森本 智子・高橋 美千子  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
**[開講学期]** 1年前期 **[科目コード]** LCI0\_D11  
**[単位数]** 2単位 **[授業形態]** 講義

#### **[授業概要]**

色彩の基礎と配色方法を学びます。色についての基礎知識とそれを暮らしに応用するノウハウを習得します。色彩を生活の中に意識して取り入れ、他者への思いやり空間を作り出す方法を考える。

#### **[学習成果] [D]**

衣食住に関わる様々な色の仕組みを知ることで、より専門的な視点で色を理解し、今後の暮らしや仕事に活かすことができる。

#### **[授業計画]**

- 1 私たちが目で見える世界(色と光)
- 2 色の基礎1(色相・明度・彩度)
- 3 色の基礎2(トーン、色相環)
- 4 色の見え方・感じ方1 色の名前、季節、温度
- 5 色の見え方・感じ方2 錯視と色盲などについて
- 6 衣食住の色を考える(自宅でカラーハンティング)
- 7 自宅で見つけた色の発表と考察
- 8 色の歴史とトレンドカラー
- 9 配色技法1 カラーコーディネートワーク
- 10 配色技法2 9でのワークのプレゼンテーション
- 11 ファッションカラー
- 12 ファッションの配色レッスン
- 13 パーソナルカラー1 似合う色を知る
- 14 パーソナルカラー2 コーディネートを考える
- 15 カラーセラピー

#### **[授業方法]**

講義を中心に、ワークショップなどを取り入れ、実際に色に触れることで色彩感覚を身につける。  
アクティブラーニング導入。

#### **[成績評価]**

授業の取組状況(50%)  
課題等提出物(50%)

#### **[教科書]**

色の教科書(学研パブリッシング)

#### **[参考書]**

随時プリント配布

#### **[準備学習(予習・復習)]**

身の回りにある色のイメージ、メッセージ性などに興味関心を持ち、インターネットや雑誌などで調べ学習をして臨むこと。授業後は、課題に取り組むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### **[備考]**

ライフカラー検定3級の取得に是非チャレンジしてほしい。



[科目名] ホスピタリティ総論  
[担当教員名] 阿隅 和余  
[授業クラス] (学科)生活文化  
(専攻)生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_B12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

ホスピタリティの基本的な考え方やビジネスマナーを学び、ビジネスの現場や日常生活で発揮できるホスピタリティの知識と実践力を学ぶ。

#### [学習成果] [B]

社会人として、公共の場やビジネスの現場でホスピタリティを発揮し、相手の立場に立った対応ができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 ホスピタリティの基本
- 2 ホスピタリマインドの理解
- 3 自分を知る
- 4 相手を知る
- 5 自分と相手との関係
- 6 ホスピタリティマナーⅠ
- 7 ホスピタリティマナーⅡ
- 8 ホスピタリティマナーⅢ
- 9 コミュニケーションとホスピタリティⅠ
- 10 コミュニケーションとホスピタリティⅡ
- 11 顧客満足とホスピタリティ
- 12 職場環境
- 13 ビジネスとホスピタリティⅠ
- 14 ビジネスとホスピタリティⅡ
- 15 まとめ

#### [授業方法]

ディスカッション、グループ学習、ロールプレイングなど、自らの体験を通し考える力を養っていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
試験 (60%)

#### [教科書]

随時プリント配布

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

授業で学んだ知識に関する分野のテレビ、インターネット、書籍に触れ、問題意識を持って臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

授業やテキストで学んだ知識を元に、社会生活で触れたサービス体験を通し、ホスピタリティの目的や重要性をしっかりと理解する。

[科目名] 社会心理学  
[担当教員名] 水谷 久康  
[授業クラス] (学科)生活文化  
(専攻)生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

人は、自分を知り、自分を表現し、社会の中で生きる自分を確立していく。包括的に家族との関係、社会との関係に関する人間行動を科学的に理解する力を身につける。

#### [学習成果] [A]

現代社会の中で自分らしく生きる自分を発見し、将来の自分らしい生き方について設計する能力を身につけ、自身の人生について自己選択、自己決定ができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 社会心理学とは？
- 2 将来の自分(1)：職業の選択
- 3 将来の自分(2)：ライフデザイン
- 4 自分を知ること(1)
- 5 自分を知ること(2)
- 6 自分を表現すること(1)
- 7 自分を表現すること(2)
- 8 自分をプロデュースすること(1)
- 9 自分をプロデュースすること(2)
- 10 家族との関係(1)：家族とは何か
- 11 家族との関係(2)：家族の発達
- 12 家族との関係(3)：家族と臨床的諸問題
- 13 社会との関係(1)：女性と社会、男性と社会
- 14 社会との関係(2)：自然災害とその支援
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループディスカッション等を取り入れ様々な角度から学習する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題や授業への取組状況 (50%)  
筆記試験 (50%)

#### [教科書]

プリントを適宜配布

#### [参考書]

「家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助」  
中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子(著)  
(有斐閣ブックス)

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業前に、1時間程度は関連する分野の書籍、インターネット等にふれ問題意識を持って授業に臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 国語表現法

[担当教員名] 保科 潤一

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LC10\_D12

[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

文章作成力を中心とした国語表現力の獲得に絞った学習内容とする。社会人としての基本的な国語表現力を習得することにより、就職等にも必要な自己表現ができるよう小論文についても学習していく。

#### [学習成果] [D]

社会人として、基本的な国語表現力を身につけることにより、様々な人生の局面における問題に対応していくことが可能になる。また、就職面接等においても必要な自己表現力を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 文章作成の基礎 I
- 3 文章作成の基礎 II
- 4 履歴書の書き方 I
- 5 履歴書の書き方 II
- 6 社会人としての基礎知識・・・敬語 I
- 7 社会人としての基礎知識・・・敬語 II
- 8 実用文・・・はがき・手紙
- 9 実用文・・・事務文書 I
- 10 実用文・・・事務文書 II
- 11 小論文・・・小論文とは
- 12 小論文・・・小論文の構成
- 13 小論文・・・小論文上達のポイント
- 14 小論文実践 I
- 15 小論文実践 II

#### [授業方法]

国語表現についての基礎的な知識は講義によりすすめていく。文章を書く基本知識をワークシートにより演習し確実に修得していく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (20%)

ワークシート (30%)

筆記試験 (50%)

#### [教科書]

「日本語表現法」 田上貞一郎著 (萌文書林)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

漢字テストの準備

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 点字

[担当教員名] 千葉 俊彦

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_D11

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

点字の発明・発展により視覚障がい者と健常者との情報格差がなくなり、視覚障がい者の地位向上がなされている。点字技術や点字の知識を習得することで、視覚障がい者の生活支援を考える機会とする。

#### [学習成果] [D]

視覚障がい者に対しての接し方や対応を、初歩的な点訳をとおして学び、障がい者全般に対しての思いやりを育てることができる。

#### [授業計画]

- 1 生活支援の視点からみた視覚障害者への視点
- 2 視覚障害者のおかれた現状と概要
- 3 点字の基本形と表記法
- 4 点字器およびその使用方法
- 5 母音と50音 (1)
- 6 母音と50音 (2)
- 7 拗音と特殊音
- 8 拗音と特殊音の使用論と各論
- 9 各種記号の表記法
- 10 各種記号の表記法の使用例
- 11 分かち書き (1)
- 12 分かち書き (2)
- 13 点字標記の実践 (1)
- 14 点字標記の実践 (2)
- 15 点字標記の実践 (3)

#### [授業方法]

点訳、見えない人と積極的にコミュニケーションをとることで、視覚障がい者の生活支援について学ぶ。

#### [成績評価]

レポート (40%)

試験 (60%)

#### [教科書]

プリント配布

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回復習をしておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 手話  
[担当教員名] 山口 道子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_D12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

聴覚に障害のある方は、情報不足から機能・能力・社会的不利等がある。この講義と実技では、「伝えあう心」きこえない人の大切な言語「手話」を学び、きこえない人の生活の背景を知る。障害者の生活の質と権利につながる理念「ノーマライゼーション」という視点をもって授業を進める。

#### [学習成果] [D]

聴覚障がい者に対しての接し方や対応を手話を通して学び、障がい者全般に対しての思いやりと優しさを育てることができる。

#### [授業計画]

- 1 実技：自己紹介 名前・家族  
講義：コミュニケーション方法、聴覚障害者の生活地域とのかかわり
- 2 実技：自己紹介 趣味・仕事  
講義：聴覚障害者の生活 労働
- 3 実技：自己紹介 誕生日・住所  
講義：聴覚障害者の生活 医療
- 4 実技：時の表現と疑問詞①  
講義：聴覚障害者の生活 教育
- 5 実技：時の表現と疑問詞②  
講義：聴覚障害者の生活 子育て
- 6 実技：自己紹介をしてみましょう  
講義：聴覚障害者の基礎知識 耳の仕組みときこえ
- 7 実技：介護・医療  
講義：聴覚障害者の基礎知識 言語習得と発達の過程
- 8 実技：介護・医療  
講義：聴覚障害者の基礎知識 身体障害者福祉法における障害認定
- 9 実技：介護・医療  
講義：手話の基礎知識 手話とは何か
- 10 実技：介護・医療  
講義：手話の基礎知識 ろう教育の始まりと手話の成立と歴史
- 11 実技：介護・医療  
講義：手話の基礎知識 手話の主な特徴
- 12 実技：介護・医療  
講義：手話の基礎知識 手話の構成要素
- 13 実技：総合実践
- 14 実技：総合実践
- 15 まとめ

#### [授業方法]

ロールプレイングで聞こえない人とのコミュニケーションをしながら手話を学ぶ。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (20%)  
実技 (40%)  
レポート (40%)

#### [教科書]

「入門 新・手話教室」  
(社会福祉法人全国手話研修センター)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎回必ず復習をしておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 介護技術  
[担当教員名] 祐宜 佐統美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

生活援助としての基本的な知識を理解し、食事、排泄、移動、移乗、その他介護を行うにあたっての基本的な介護技術を習得する。共感的理解や介護者としての基本的態度を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

介護される側と介護する側の両方を体験することにより、お互いの気持ちを理解し、尊厳や自律を理解することができる。また、介護される人が持っている能力を生かした介護を考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 介護技術の意義
- 2 環境整備の援助・ベッドメイキング
- 3 ボディメカニクス
- 4 コミュニケーション技法
- 5 健康状態の基本的観察
- 6 衣類の着脱の介護
- 7 食事の介護・口腔ケア
- 8 移乗・移動の介護
- 9 排泄の介護
- 10 身体清潔の介護
- 11 事例演習
- 12 実技試験の説明 (2事例の理解)
- 13 実技試験の練習
- 14 感染予防・緊急時の対応
- 15 認知症サポーター養成講座

#### [授業方法]

演習を中心に授業を行う。学生同士、介護される側と介護する側の両方の役割を経験する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実技試験 (60%)  
授業態度 (20%)  
課題 (20%)

#### [教科書]

プリントを配布

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

一つ一つの介護動作を、毎回の授業で繰り返し行います。毎授業後には自宅で30分程度は繰り返し練習して授業に臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

必ず動きやすい服装で、髪が長い場合はゴム等で縛ること。

[科目名] 秘書概論  
[担当教員名] 加藤 洋美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_B11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

組織における秘書の職務とは何か、秘書として必要な基礎および専門知識について学ぶ。

#### [学習成果] [B]

秘書の資質、役割をはじめ、組織・企業に関する知識、組織で働くうえでの基本的姿勢を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 秘書とキャリアデザイン
- 3 企業とは
- 4 補佐役としての秘書
- 5 秘書に求められる能力
- 6 秘書と身だしなみ
- 7 秘書に求められる資質
- 8 秘書の役割
- 9 秘書の機能
- 10 秘書の業務
- 11 定型業務と非定型業務について
- 12 秘書業務の向上
- 13 秘書と情報管理
- 14 財務会計の基礎知識
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義を主体とし、秘書検定の受験対策（理論分野）も含めて行う。

企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実績経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 試験（50%）
- 提出物（20%）
- 授業への取組状況（30%）

#### [教科書]

「秘書検定2,3級 合格教本」

#### [参考書]

- 新しい時代の秘書ビジネス論
- 秘書検定3級実問題集
- 秘書検定2級実問題集

#### [準備学習（予習・復習）]

授業で配布されたプリントは空欄のままにせず、毎回まとめておくこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 秘書実務Ⅰ  
[担当教員名] 阿隅 和余  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_B11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

秘書業務遂行のために、秘書概論の知識を相互に補充しつつ、具体的な秘書業務を学習する。実際にロールプレイングを行い即戦力を養う。

#### [学習成果] [B]

実務業務としての知識や技能を修得し、社会で幅広く活躍できるオフィスワーカーとしての資質を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 社会人としてのマナー
- 3 敬語
- 4 接遇用語
- 5 電話対応
- 6 来客対応
- 7 仕事の支持の受け方
- 8 冠婚葬祭
- 9 ビジネス文書
- 10 秘書としての心構え
- 11 秘書として求められる能力
- 12 秘書業務①
- 13 秘書業務②
- 14 企業のしくみ
- 15 まとめ

#### [授業方法]

テキストに沿って進めるが、ディスカッション、ロールプレイング等の演習をたくさん取り入れ実際の秘書業務を理解していく。

アクティブラーニング導入。

企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実績経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 課題・試験（70%）
- 授業への取組状況（30%）

#### [教科書]

「秘書検定2,3級 合格教本」

#### [参考書]

- 新しい時代の秘書ビジネス論
- 関連資料をプリント作成し配布する

#### [準備学習（予習・復習）]

次回の授業前に必ずテキストを読み内容を理解すること。

新聞、テレビ、雑誌を読み関連する分野の事項に問題意識を持って授業に臨むこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

秘書業務について理解しながら、社会人として、女性としてのマナーを学んでいく。

[科目名] 秘書実務Ⅱ  
[担当教員名] 阿隅 和余  
[授業クラス] (学科)生活文化  
(専攻)生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_B12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

前期に開講する秘書実務Ⅰを基礎として秘書業務遂行のために、秘書概論の知識を相互に補完しつつ、具体的な秘書業務を学習する。実際にロールプレイングを行い即戦力を養う。

#### [学習成果] [B]

実務業務としての知識や技能を修得し、社会で幅広く活躍できるオフィスワーカーとしての資質を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション・秘書実務Ⅰの復習
- 2 接遇ロールプレイング①
- 3 接遇ロールプレイング②
- 4 接遇ロールプレイング③
- 5 会社の知識
- 6 社内文書の書き方
- 7 社外文書の書き方
- 8 社交文書の書き方
- 9 グラフ作成
- 10 受信文書の取り扱い
- 11 郵便の知識
- 12 ファイリングの仕方
- 13 資料の整理
- 14 スケジュール管理
- 15 まとめ

#### [授業方法]

実際に技能を体験し、秘書業務の理解を深めていく。  
アクティブラーニング導入。  
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実績経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

課題・試験（70%）  
授業への取組状況（30%）

#### [教科書]

「秘書検定2,3級 合格教本」

#### [参考書]

新しい時代の秘書ビジネス論  
関連資料をプリント作成し配布する

#### [準備学習（予習・復習）]

次回の授業前の予習に加え、前回の授業内容を必ず復習し自分の知識として力をつけていくこと。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

秘書業務の理解度を深め、秘書検定取得を目指す。

[科目名] 表計算演習Ⅰ  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科)生活文化  
(専攻)生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

MicrosoftExcelの基本操作と関数を学ぶ。  
与えられたデータから表の作成、基礎的なグラフ化（線、棒、積み重ね、円、複合、レーダーチャート）、基礎的なデータベース機能を学ぶ。

#### [学習成果] [C]

表計算ソフトについての基本的な操作が実践できる。  
表計算を用いた基本的な課題を自らのチカラで解決する判断力を身につける。絶対参照や簡単な関数を利用して、効率的な数式を作成できる。

#### [授業計画]

- 1 セルの移動や選択の効率方法1
- 2 セルの移動や選択の効率方法2
- 3 セルの移動や選択の効率方法3
- 4 データ入力を補助する機能の活用1
- 5 データ入力を補助する機能の活用2
- 6 データ入力を補助する機能の活用3
- 7 データ入力を補助する機能の活用4
- 8 関数を使って再計算できる表作成1
- 9 関数を使って再計算できる表作成2
- 10 関数を使って再計算できる表作成3
- 11 さまざまな表に役立つ関数1
- 12 さまざまな表に役立つ関数2
- 13 さまざまな表に役立つ関数3
- 14 さまざまな表に役立つ関数4
- 15 書式の設定方法基礎

#### [授業方法]

演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。

学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

定期試験（50%）  
課題提出（50%）

#### [教科書]

「EXCEL」プリントを作成し配布する

#### [参考書]

#### [準備学習（予習・復習）]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず課題を完成させ提出すること。またメール等を確認し次回の授業の準備をすること。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 表計算演習Ⅱ  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

MicrosoftExcelの応用操作と関数を学ぶ。  
与えられたデータを統計的な処理を行い、書式の設定やマクロを使い見やすく使いやすいテンプレートを作成する。

#### [学習成果] [C]

表計算ソフトについて高度な操作が実践できる。表計算を用いた応用的な課題を自らのチカラで解決する判断力を身につける。高度な数式を作成できる。

#### [授業計画]

- 1 書式の設定方法1
- 2 書式の設定方法2
- 3 シートやブックの効率的な使い方1
- 4 シートやブックの効率的な使い方2
- 5 シートやブックの効率的な使い方3
- 6 マクロとアドインの使い方1
- 7 マクロとアドインの使い方2
- 8 マクロとアドインの使い方3
- 9 マクロとアドインの使い方4
- 10 入力データの集計方法1
- 11 入力データの集計方法2
- 12 入力データの集計方法3
- 13 シートの利益計画1
- 14 シートの利益計画2
- 15 シートの利益計画3

#### [授業方法]

演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。

学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 定期試験 (50%)
- 課題提出 (50%)

#### [教科書]

「EXCEL」プリントを作成し配布する

#### [参考書]

#### [準備学習（予習・復習）]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず課題を完成させ提出すること。またメール等を確認し次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

#### [備考]

各種資格取得を目指すこと。

[科目名] 情報処理総論  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_C12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

情報処理総論として情報処理における基礎的知識全般を学ぶ。特にITパスポート取得のために必要な分野について重点的に学ぶ。

#### [学習成果] [C]

本講義を受講することで基本的な情報処理技術の知識全体を学習する。また、(独)情報処理推進機構が実施している国家試験「情報処理技術者試験」の一部であるITパスポート試験の合格を目指すことができる。

#### [授業計画]

- 1 はじめに  
情報処理、ITパスポートについて
- 2 ハードウェアについて  
コンピュータの種類、プロセッサ、メモリ等
- 3 システムについて  
データ単位、文字コード、2進数
- 4 記録装置  
入出力装置、入出力インターフェイス等
- 5 ソフトウェア  
OS、パッケージ、ワープロ、表計算ソフト
- 6 システム構成  
システムの形態、分散処理システム、信頼性
- 7 ネットワーク (1)  
基本構成、通信プロトコル
- 8 ネットワーク (2)  
インターネットサービス
- 9 マルチメディア  
マルチメディア技術、グラフィックス処理
- 10 アルゴリズムとプログラミング (1)  
データ構造、基本アルゴリズム
- 11 アルゴリズムとプログラミング (2)  
探索アルゴリズム、マークアップ言語
- 12 システム開発技術
- 13 プロジェクトとサービスマネジメント
- 14 ITパスポート過去問題演習
- 15 まとめ

#### [授業方法]

板書による説明とパワーポイントを利用した授業を行う。受け身の授業にならないように随時考察、質問、小テスト等を行う予定である。

#### [成績評価]

- 課題・試験 (70%)
- 学習意欲・授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「パプロフくと学ぶITパスポート」よせだあつこ著  
(中央経済社)

#### [参考書]

ITパスポート関連の解説書（授業の中で紹介）

#### [準備学習（予習・復習）]

授業後、学んだ内容に対応する問題を解き、必ず復習すること。次回学習予定の教科書の範囲に、前もって目を通すこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

#### [備考]

情報処理の資格の入り口であるITパスポートを取得できるよう、日頃からコンピュータに対して興味を持って接すること。仲よくなるほど自然と試験にも合格できるような知識が身についていく。試験の分野は広大なため、できるだけ自分自身で教科書、問題集の予習復習を行うことを強く勧める。

[科目名] CG演習Ⅰ

[担当教員名] 砂田 治弥

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_C11

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

本演習ではDTPの基本ソフトであるPhotoshop、Illustratorの操作方法を通じて、コンピューターグラフィックス(CG)の基礎知識を学び理解を深める。また、CG検定に対応できる知識の習熟も目指す。

#### [学習成果] [C]

コンピューターを通じて学んだ基礎技術、操作方法を理解し駆使することで、デザインの発想、コンセプト等を明確に提案・表現できる能力を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 CGの基礎知識Ⅰ
- 2 Photoshopの基本操作  
(1) データの扱い方・保存等
- 3 Photoshopの基本操作  
(2) レイヤーの概念
- 4 Photoshopの基本操作  
(3) 文字
- 5 Photoshopの基本操作  
(4) フィルタ加工等
- 6 Photoshopの基本操作  
(5) レイアウトについて
- 7 コンペのための作品制作について
- 8 Illustratorの基本操作  
(1) ツール解説
- 9 Illustratorの基本操作  
(2) 画像の扱い等
- 10 Illustratorの基本操作  
(3) パスの説明
- 11 Illustratorの基本操作  
(4) 文字の扱い
- 12 Illustratorの基本操作  
(5) レイアウトについて
- 13 Photoshop・Illustratorの相互操作
- 14 版面デザインについて
- 15 まとめ

#### [授業方法]

板書による説明で補足するが、基本はパソコンを使用した演習が中心となる。

随時、ディスカッション、プレゼンテーション、小テストにより、受け身の授業とならないよう学習の意欲の向上と定着を計る。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題作品 (80%)

学習意欲・授業への取組状況 (20%)

#### [教科書]

「世界一わかりやすいIllustrator & Photoshop操作とデザインの教科書」(ピクセルハウス著)

#### [参考書]

MDN出版の各ソフト技術解説書(授業の中で紹介)

#### [準備学習(予習・復習)]

次回学習予定の教科書の範囲に、前もって目を通すこと。また自宅や学校などで、授業当日に学んだ内容を自分で必ず復習すること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

CGの技術をすべて授業内で網羅できるわけではないので、疑問、質問があれば積極的に声をかけること。本屋、図書館などで自発的に新しい技術・知識の参考書等を紐解いてみる。特にCGの技術解説書籍は一冊持っていると呼習復習に大変便利である。

[科目名] CG演習Ⅱ

[担当教員名] 奥村 智子

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_C12

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

前期のCG演習Ⅰの知識を中心に、さらなるソフトウェアの理解・習熟を図り、印刷入稿を前提としたデータ作成方法を課題を通して学ぶ。また、情報伝達におけるデザインの役割の重要性を知り、他者に伝えるデザインの面白さを体得することを目的とする。

#### [学習成果] [C]

Illustrator、Photoshopのより実践的な操作を身につけ、課題に添ったデータ作成ができるようになる。グラフィックデザインの基本を身につけ、発想、コンセプトを明確に表現・提案・発表する能力、デザインを通して共感する力、体感する力、新しい価値を生み出す力、伝える力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 Illustrator、Photoshopの基礎知識確認
- 2 素材を使わないデザイン アイデアと構想
- 3 素材を使わないデザイン 制作
- 4 ポスター制作 アイデアと構想
- 5 ポスター制作 制作
- 6 ランチョンマット制作 アイデアと構想
- 7 ランチョンマット制作 制作
- 8 プレゼンテーションと講評
- 9 規定のレイアウト枠に合わせたデザイン 制作
- 10 規定のレイアウト枠に合わせたデザイン 制作
- 11 レイアウト枠に合わせたデザイン アイデアと構想
- 12 レイアウト枠に合わせたデザイン 制作
- 13 ポートフォリオ作成 アイデアと構想
- 14 ポートフォリオ作成 制作
- 15 プレゼンテーションと講評

#### [授業方法]

適宜、資料による説明で補足するが、毎回、課題を提示し、作品の提出を求める。提出後、プレゼンテーションを行い、学生間で評価することもある。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題作品 (70%)

授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

特になし(随時プリント配布)

#### [参考書]

Photoshop&Illustrator操作とデザインの教科書(CG演習Ⅰで使用した教科書)

#### [準備学習(予習・復習)]

課題は、各自で考えたアイデアによって作成しなければならないので、授業前に、身の回りにあるデザインに興味・関心を持ちアイデアを持って臨むこと。授業時間内に完成できない場合は、期日までに自主的に作成に取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

Photoshop、Illustratorの二つのソフトを自由自在に行き来し、使いこなせるようになるためにはお互いのソフトの長所・短所を把握しておくことが大切になるので、前期で学んだことを復習しておくとう理解が早い。

[科目名] 簿記基礎Ⅰ  
[担当教員名] 鈴木 隆之  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCIO\_A11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

企業の経理事務における財務の基本知識を身につけるとともに、企業から営業や管理部門に必要な知識や態度が身につけていると評価されることをねらいとする。

#### [学習成果] [A]

日商簿記検定初級の内容を理解し、同級に合格できる。グループにおける役割を個々の特徴を生かしながら、企業等に就職後、職場から好まれ、必要とされる態度(表情、挨拶、行動、基本的な考え方)が身につく。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション、簿記の基礎知識(基本用語)
- 2 簿記の基礎概要
- 3 簿記の役割、会計期間
- 4 損益計算書、貸借対照表
- 5 5つの要素と借方・貸方
- 6 仕訳の8要素と結合関係
- 7 通常の商品売買(基本的な掛取引)
- 8 クレジット、返品、諸掛を含めた商品売買
- 9 現金、小切手
- 10 預金(普通預金、当座預金)
- 11 手形と電子記録債券
- 12 貸付金、借入金
- 13 後払いによる取引
- 14 前払いによる取引
- 15 前受けによる取引

#### [授業方法]

簿記の知識だけでなく、職場において必要とされる知識や態度についても理解し、実践できるよう、グループ学習や問題解決学習を取り入れ、さまざまな角度から問題の解決方法を探っていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験(70%)  
課題や授業への取組状況(30%)

#### [教科書]

スッキリわかる日商簿記初級(TAC出版)

#### [参考書]

なし

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業後に示すレポートを提出すること。  
また、次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

授業に必要なもの(赤ボールペン、電卓)  
原則として、2021年2月 日商簿記検定初級を受検する。日商簿記検定3級受験にも一部対応する。  
なお、日商簿記検定受験料は各自で負担する。

[科目名] 簿記基礎Ⅱ  
[担当教員名] 鈴木 隆之  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

簿記基礎Ⅰを基に企業の経理事務における財務の基本知識をさらに身につける。とともに、企業から営業や管理部門に必要な知識や態度が身につけていると評価されることをねらいとする。

#### [学習成果] [A]

日商簿記検定3級の内容を理解し、同級に合格できる。グループにおける役割を個々の特徴を生かしながら、企業等に就職後、職場から好まれ、必要とされる態度(表情、挨拶、行動、基本的な考え方)が身につく。

#### [授業計画]

- 1 仮払金・仮受金
- 2 先方負担分の立替え
- 3 立替金・預り金
- 4 消耗品
- 5 固定資産と減価償却
- 6 固定資産税と消費税
- 7 資本金(元入れと引出し)
- 8 帳簿
- 9 仕訳帳と総勘定元帳
- 10 帳簿の記入
- 11 合計試算表、残高試算表
- 12 合計残高試算表
- 13 三伝票(入金、出金)
- 14 三伝票(出金、一部入金・出金)
- 15 仕訳日計表と転記

#### [授業方法]

簿記の知識だけでなく、職場において必要とされる知識や態度についても理解し、実践できるよう、グループ学習や問題解決学習を取り入れ、さまざまな角度から問題の解決方法を探っていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験(70%)  
課題や授業への取組状況(30%)

#### [教科書]

スッキリわかる日商簿記初級(TAC出版)

#### [参考書]

なし

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業後に示すレポートを提出すること。  
また、次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

授業に必要なもの(赤ボールペン、電卓)  
原則として、2021年2月 日商簿記検定初級を受検する。日商簿記検定3級受験にも一部対応する。  
なお、日商簿記検定受験料は各自で負担する。



[科目名] ビジネス実務総論  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

将来を想定すると「グローバル」、「少子・高齢化」、「高度情報化」、などのキーワードの中、激しく社会環境やビジネス環境が変化する中で皆さんは社会人として、また家庭人として生活してゆくことになる。

社会の仕組みを学ぶとともに、進路をどのように決めるか？組織（企業）に入って、役割と責任をどう果たすか？など考えるべきことは沢山あるが、この講義では、実務力を高めるべく初歩的な経営学のツールも活用して、環境の捉え方、進路の検討する視点、組織の中で自分の役割を果たすための必要な能力など、「使える社会人」を目指した鍛錬に取り組みたい。

#### [学習成果] [A]

社会や企業を構成している仕組みを理解し、社会人として果たすべき役割や必要な能力について自分自身で見つけ出す能力を高める。第一歩として、進むべき方向性について社会の環境変化も踏まえて自分自身で見つけ出すセンスを得る。

#### [授業計画]

- 1 講義のオリエンテーション  
(何を学ぶか？ゴールは何か？)
- 2 社会を構成する組織  
(行政・民間・業界・業種・企業・団体)
- 3 将来環境変化を考える
- 4 成長する業界・縮小する業界
- 5 企業を考える（企業の評価の視点は何？）
- 6 環境を読む簡単な経営分析ツール
- 7 簡単な経営分析を行う（中間レポートとする）
- 8 自分の進路について考える  
(業界・業種・企業/組織)
- 9 企業で使う業務ツールを学ぶ  
(5W2H、RPDC、文章構成)
- 10 自己分析①（自分自身をマーケティングする）
- 11 自己分析②（自分自身のブランドを見つける）
- 12 自己分析③（自分自身のデータバンクの整備）
- 13 自己PR作成
- 14 自己PR作成&発表
- 15 クロージングセッション（進路策定戦略）

#### [授業方法]

配布資料とスライドを使用して進める。  
グループ討議等も組込む。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況（50%）  
中間レポート（20%）  
単位履修レポート（30%）

#### [教科書]

四季報 2020 業界情報

#### [参考書]

授業毎に資料を配布します。

#### [準備学習（予習・復習）]

日々の政治・経済のニュースに興味関心を持つこと（情報感度と情報センスのトレーニング）  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] プロジェクト演習 I  
[担当教員名] 奥村 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

課題に対してチームによる問題解決の体験を通じて能力発揮の仕方を学習する。実践の場において責任感を持って取り組み、自ら進んで現場のニーズに対応した行動を取れる柔軟な行動力の習得を目的とする。論理思考力や早く正しく判断をするためのスキルを身につけ、チームで役割を認識し協力して取り組む力を身につける。

#### [学習成果] [A]

実践の場での多様な関わりの中で責任を持って自分の役割を果たし、状況に応じた行動をとることができるようになる。戦略的な考え方の基礎を理解し、簡単な事業計画を構築する方法を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 問題解決の基礎知識①
- 2 問題解決の基礎知識②
- 3 課題の概要を知る
- 4 原因の特定
- 5 課題の分析
- 6 調査方法
- 7 調査
- 8 調査の分析
- 9 実行プラン作成①
- 10 実行プラン作成②
- 11 企画書の書き方
- 12 プレゼンテーションの基礎知識
- 13 報告会、報告書の準備
- 14 報告会、報告書の準備
- 15 プレゼンテーション

#### [授業方法]

与えられた市場課題に対して、グループに分かれて、必要な調査などを行い簡単な事業計画を立てプレゼンテーションするまでのプロセスを、一通り体験し、まとめとして、魅力的なプレゼンテーション資料にまとめ、分かりやすく人を引き付ける形でプレゼンテーションする。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況（45%）  
課題提出（35%）  
最終プレゼンテーション（20%）

#### [教科書]

随時プリント配付

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習（予習・復習）]

授業前に、関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネットなどで調べ学習をして臨むこと。自主的に調査・学習活動に取り組むこと。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考] 地域志向科目

グループ学習が中心となる。調査活動は授業時間外に行うこともある。積極的に調査・学習活動に取り組んでほしい。フィールドワークを行う際には、交通費等の実費が発生することがある。

**[科目名]** プロジェクト演習Ⅱ  
**[担当教員名]** 奥村 智子  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
**[開講学期]** 1年後期 **[科目コード]** LC10\_A12  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

**[授業概要]**

前期に計画した課題実行プランに対して、チームによる実施体験を通じて能力発揮の仕方を学習する。現実的な課題に対するアプローチの方法を体験的に習得することを目的とする。計画的実行能力とプレゼンテーション能力を身につけることを目標とし、視覚プレゼンテーションを用いて口頭で効果的に発表できる能力を身につける。

**[学習成果] [A]**

実践の場での多様な関わりの中で責任を持って自分の役割を果たし、状況に応じた行動をとることができるようになる。課題を発見して、調査、分析、整理を通じて、解決策を提案し、発表する能力が身につく。

**[授業計画]**

- 1 授業の概要説明 目的の理解
- 2 グループ活動の計画起案
- 3 活動の準備①
- 4 活動の準備②
- 5 活動の準備③
- 6 活動
- 7 活動の分析
- 8 課題発見
- 9 調査
- 10 分析
- 11 報告書の書き方
- 12 報告会、報告書の準備①
- 13 報告会、報告書の準備②
- 14 報告会、報告書の準備③
- 15 プレゼンテーション

**[授業方法]**

前期に計画した実施計画に対して、実施を行う。グループに分かれて、調査などを行いさらなる問題解決法を見つける。まとめとして、報告書を作成し、分かりやすく人を引き付ける形でプレゼンテーションする。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業への取組状況 (45%)  
報告書 (35%)  
最終プレゼンテーション (20%)

**[教科書]**

随時プリント配付

**[参考書]**

随時紹介

**[準備学習 (予習・復習)]**

授業前に、関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネットなどで調べ学習をして臨むこと。自主的に調査の検証、学習活動に取り組むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

**[備考]** 地域志向科目

グループ学習が中心となる。調査活動は授業時間外に行うこともある。積極的に調査・学習活動に取り組んでほしい。フィールドワークを行う際には、交通費等の実費が発生することがある。

**[科目名]** ファイナンシャルプランニング  
**[担当教員名]** 服部 礼美香  
**[授業クラス]** (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
**[開講学期]** 1年前期 **[科目コード]** LC10\_A11  
**[単位数]** 2単位 **[授業形態]** 講義

**[授業概要]**

情報が氾濫している昨今、金融経済は複雑になり、分かりにくくなっている一方で、高齢化社会になり、現在から未来へのライフプランを、お金と社会生活全般の幅広い知識を用いてサポートする、ファイナンシャル・プランナー (FP) のニーズが高まっている。

この講義では、FP3級の内容を勉強しながら、金融のしくみや低金利時代における家計運用の知識、実生活で役立つ幅広い知識を身につけることを目標とする。

**[学習成果] [A]**

FPとは何か、ファイナンシャル・プランニングに必要な資金計画やリスク管理、金融資産の運用管理、税金、不動産、相続分野などの基礎的事項を説明できるようになること。また社会で役立つ基礎的な知識を幅広く修得することにより、社会人になった時にその知識を活かして活躍できるようになること。

ファイナンシャルプランニング技能検定3級の試験合格を目指すきっかけになること。

**[授業計画]**

- 1 ライフプランニング① FPとは何か、公的医療保険、労災保険
- 2 ライフプランニング② 雇用保険、公的年金制度
- 3 ライフプランニング③ 公的年金からの給付、企業年金等
- 4 ライフプランニング④ ライフプランニングと資金計画
- 5 リスク管理① リスクマネジメント、生命保険の基礎知識
- 6 リスク管理② 生命保険商品、第三分野の保険
- 7 リスク管理③ 損害保険
- 8 金融資産運用① マーケット環境のしくみ、預貯金・金融類似商品
- 9 金融資産運用② 債権、株式投資、投資信託、外貨建商品、ポートフォリオ
- 10 タックスプランニング① わが国の税制、所得税のしくみ
- 11 タックスプランニング② 所得税の計算方法、個人住民税、個人事業税
- 12 不動産① 不動産の見方と取引、不動産に関する法令
- 13 不動産② 不動産にかかる税金、不動産の有効活用
- 14 相続・事業承継① 贈与と税金、相続と法律
- 15 相続・事業承継② 相続と税金、相続財産の評価、相続対策

**[授業方法]**

講義が主体だが、複雑な金融経済のしくみや基本的な知識を身近に感じることができるよう、調査学習や体験学習、ディスカッション、ロールプレイングなど、積極的に取り入れていく。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

試験 (60%)  
課題や授業への取組状況 (40%)

**[教科書]**

「19～20年度版FPの学校3級きほんテキスト」  
(ユーキャン自由国民社)

**[参考書]**

19～20年度版FPの学校3級これだけ！問題集  
(ユーキャン自由国民社)  
ファイナンシャル・プランニング入門 (日本FP協会)

**[準備学習 (予習・復習)]**

テキストの該当箇所を予習、復習すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

**[備考]**

日本FP協会 <http://www.jafp.or.jp>  
一般社団法人金融財政事情研究会  
<http://www.kinzai.or.jp>

[科目名] キャリアデザイン演習  
[担当教員名] 坂口 みゆき  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

キャリアデザインの基礎力をつけることにより、幅広い将来の選択ができることを目指す。

[学習成果] [A]

「将来なりたい自分」をしっかり描き、自己理解を深めることで、やりがいや充実感を感じられる自分らしい仕事につくことを目標とする。また、社会に出てから必要とされる基礎能力の向上を目指す。

[授業計画]

- 1 キャリアデザイン概要
- 2 人間関係を作るコミュニケーション
- 3 自己分析 その1
- 4 自己分析 その2
- 5 自己PR その1
- 6 将来の職業を考える その1
- 7 将来の職業を考える その2
- 8 女性のライフプランニング
- 9 収入について考える
- 10 将来必要なお金
- 11 現代社会の流れと自分
- 12 企業が求める人材
- 13 印象アップのビジュアル その1
- 14 印象アップのビジュアル その2
- 15 未来図を表現する

[授業方法]

講義形式だが、アクティブラーニング導入により自分たちで体感し、気づき、アクションをする。企業（広報および秘書教育）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]

授業への取組状況（60%）  
レポート（40%）

[教科書]

随時プリント配布

[参考書]

随時紹介

[準備学習（予習・復習）]

授業前には関連する内容をインターネットなどで調べ学習をして臨むこと。授業後は、授業で習得した内容を日常でも実践すること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

[科目名] マーケティング論  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

[授業概要]

普段の生活の中には「マーケティング」を学べる材料が溢れていて、その中に囲まれて生活をしている。そんな身近な材料から「マーケティング」に親しんでほしい。覚える理論ではなく、自由に使い込む理論の習得を目指す。マーケティングマインドやセンスを得ることで、賢い学生、賢い社会人、賢い家庭人として将来の活動や日々の生活に必ず役に立つ。マーケティングは価値を創造し、その価値を伝え、利用し、利用し続けていくための実務的な理論である。社会に出て、業種や業態を問わず有用に活用できるメリットも沢山ある。また、「マーケティング」を「個人」に置き換えると、「個人の価値を創造し」「個人の価値を伝える」ことにも活用でき、この講義の冒頭は個人のブランド創造...マーケティングを就活に利用することにもチャレンジする。

[学習成果] [A]

マーケティングが得意科目となり、基礎的なマーケティングセオリーを自在に使い、貴女を取巻く社会で日々継続的に行われているマーケティング事象について自身で評価し、方向性を考える能力が身につく。

[授業計画]

- 1 オリエンテーション&身の回りのマーケティング
- 2 マーケティング基礎①  
(環境分析とマーケティング)
- 3 マーケティング基礎② (価値創造 STP-4P)
- 4 マーケティング基礎③  
(価値の伝達：コミュニケーション)
- 5 マーケティング基礎④ (価値のブランド化)
- 6-7 マーケティング基礎⑤ (フィールドワーク：企業施設見学)
- 8 中間レポート作成①
- 9 中間レポート作成②
- 10 中間レポート発表とマーケティング評価
- 11 マーケティング演習に向けての講義
- 12 マーケティング演習①
- 13 マーケティング演習②
- 14 マーケティング演習③
- 15 クロージングセッション：就職に使うマーケティング

※フィールドワークはメンバーの都合日を相談して決定する。

※フィールドワークは2限分の内容を1日の中で実施する予定。

[授業方法]

講義＋個人、グループワーク  
アクティブラーニング導入。  
企業（マーケティング）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

[成績評価]

授業への取組状況（50%）  
期末レポート（30%）、中間レポート（20%）

[教科書]

「マーケティング基礎読本」  
（日経BP社 日経BPムック2017）

[参考書]

授業毎に資料を配布します。

[準備学習（予習・復習）]

興味関心をもって身の回りを観察すること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

[備考]

ワード、エクセル、パワーポイントを多用します。

[科目名] 社会調査法  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

社会調査法の入門編として、社会調査全体について幅広く学習し、社会調査の目的や役割についての理解をする。次に、社会人として、また一生活者として実務的に活用する場面が多く想定される「生活者への調査」にフォーカスし、初歩的な調査実務の講義を行う。その前段として講義最初の数時間については専門科目である「マーケティング論」の中で必要な一部の基礎的知識も先行学習として予定している。

調査実務で重要なことは、「何を調べるのか？」の調査目的の明確化、その目的に「最も適した調査方法を選択し」「最良の調査計画書」を作成することである。そして「調査票の作成」「実査」「集計」「分析」を行い、調査の目的に対しての調査データを基に結果を調査報告書として整理する。この講義では前半と後半に2つの調査実務を行う予定である。

#### [学習成果] [A]

調査の役割や目的、調査の種類や内容などの全体的な知識を得た上で、調査課題を設定し、具体的に調査の「設計」「実査」「集計」「分析」が実施できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション (社会調査概要)
- 2 マーケティング基礎1
- 3 マーケティング基礎2
- 4 調査の種類とそれぞれの特性
- 5 調査実務を行うにあたっての重要事項
- 6 調査実習1-1 (調査企画書～調査票)
- 7 調査実習1-2 (調査票完了)
- 8 調査実習1-3 (実査結果の集計～分析)
- 9 調査実習1-4 (分析～報告書)
- 10 実習1 調査報告会
- 11 調査実習2-1 (調査企画書～調査票)
- 12 調査実習2-2 (調査票完成)
- 13 調査実習2-3 (実査結果集計～報告書)
- 14 調査実習2-4 (報告書完成)
- 15 実習2 調査報告会・クロージングセッション  
※調査実務1はグループ単位での実習  
※調査実務2は個人単位での実習  
※シラバスは講義進捗度によって変更の可能性もあります (事前案内)

#### [授業方法]

講義+グループワーク、個人ワーク  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (60%)  
調査実習1 レポート (20%)  
調査実習2 レポート (20%)

#### [教科書]

必要な教材・資料は配布

#### [参考書]

必要な教材・資料は配布

#### [準備学習 (予習・復習)]

日常の自分自身の購買行動で「Why? (何故、買った?)」にこだわる。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

ワード・エクセル・パワーポイントを多用する。  
積極的なグループワークへの参加を期待する。

[科目名] 社会調査法演習  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LC10\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

社会調査論演習では、1年時に社会調査法の入門編を学習し、調査の基礎実務を体験いただきました。さらに学習されたマーケティング論の知識も活用し、より高度なマーケティングリサーチの演習を行う。

ポイントは、「調査計画書」「調査票作成」「実査」「集計」「分析」「報告書」の内、「報告書」の後半に「提案」を組み込むことである。マーケティング論で学習した「STP」や「4P」に繋げていく提案を組み込むことが「基礎編」と「演習編」の差である。

社会調査法演習は調査によって単に事実や実態を把握するに留まらず、「マーケティング」で学習した、「新しい価値を創造する」、「今の価値を持続する」、或いは、「強いブランドに育成する」ことのためにヒントになるような提案を付加できるかが重要である。

#### [学習成果] [A]

既学習のマーケティングの知識と調査実務の知識を合わせて、初級マーケティングリサーチ実務が出来るようになる。課題に応じて適切な調査計画書が企画でき、自分自身でも調査推進が可能なことと、調査専門家との基本的な交渉が可能になる。

実社会でマーケティングマインドを持ったビジネスリーダーとして活躍の入り口が作れる。

#### [授業計画]

- 1 イントロダクション (社会調査論/マーケティング論を振り返る)
- 2 調査実習1-1 (社会調査法での個人実施をベースにした調査続編を考える)
- 3 調査実習2-1 (調査企画書～調査票作成)
- 4 調査実習2-1 (調査票完成)
- 5 調査実習3-1 (実査結果集計～分析～報告書)
- 6 調査実習4-1 (報告書完成)
- 7 調査実習1 調査報告書発表 (特にマーケティング的提案を意識)
- 8 調査実習1-2 (グループインタビュー実習)
- 9 調査実習2-2 (グループインタビュー実習)
- 10 調査実務1-3 (与えられた課題に対しての調査企画書～調査票の作成)
- 11 調査実務2-3 (調査企画書と調査票の発表/議論…実査はしない)
- 12 調査実務: 自由課題 (個人設定課題: 調査企画書・調査票作成)
- 13 調査実務: 自由課題 (調査票完成)
- 14 調査実務: 自由課題 (実査結果集計と分析～報告書作成)
- 15 調査実務: 自由課題 (報告書完成: 期末レポート)  
※課題進捗によってはシラバスの内容変更の可能性有 (事前案内)

#### [授業方法]

講義+グループワーク、個人ワーク  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
調査実習1~3 (30%)  
調査実務 (期末レポート) (30%)

#### [教科書]

必要な教材・資料配布

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

自分自身、家族、友人の消費行動に関心、観察を行う。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

ワード、エクセル、パワーポイントの高いスキルを活用する。

[科目名] 医療秘書実務  
[担当教員名] 堀 智美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

医療機関の組織的しくみを理解し、医療秘書の役割や業務内容について学ぶ。

接遇・コミュニケーションの大切さを学び、技術を身に付ける。

#### [学習成果] [A]

医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応のイメージを持つことができる。ホスピタリティに富んだ患者対応やスタッフ同士のコミュニケーションを習得できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 医療秘書の役割
- 3 第一印象①
- 4 第一印象②
- 5 医療接遇
- 6 立ち居振る舞い
- 7 言葉遣い①
- 8 言葉遣い②
- 9 電話対応①
- 10 電話対応②
- 11 来客対応
- 12 クレーム対応
- 13 傾聴法
- 14 交際業務
- 15 総合実務

#### [授業方法]

各項目講義で理解を深めた後、必要に応じて課題に対応してロールプレイを行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題や授業への取組状況 (60%)

試験 (40%)

#### [教科書]

病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務

#### [参考書]

配布資料、随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。

授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

医療機関に関わることがあれば、そこで勤務するスタッフの行動や言動に着目し、観察してほしい。

[科目名] 医療事務総論  
[担当教員名] 坂下 重吾  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCIO\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

病院における事務職の中で、専門性の高い医療事務について、業務の流れ・仕事におけるルール・理解すべき知識を身に着けることで、医療秘書実務士の資格取得を目指す。

#### [学習成果] [A]

医療事務業務に必要な基礎的知識を習得できる。また、病院における医療チームの一員として、医療事務員がどのような関わりを持つかを理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 病院の組織と業務管理
- 3 医療を支える職種
- 4 病院組織とチーム医療
- 5 医療保険制度
- 6 公費負担医療
- 7 労災保険と自賠責保険
- 8 介護保険
- 9 医療法規
- 10 個人情報保護
- 11 保険請求業務
- 12 診療情報管理実務
- 13 統計・DPC・がん登録
- 14 患者接遇
- 15 まとめ (医療機関で求められる人材)

#### [授業方法]

講義が主体。実際の現場で起こっている話を紹介しながら、ディスカッションを織り交ぜ進めていく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)

課題及び授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「病院事務のための 医療事務総論/医療秘書実務」  
(建帛社)

#### [参考書]

配布資料 (随時)

#### [準備学習 (予習・復習)]

(予習) テキストを読み、疑問点 (医療用語) について調べる。

(復習) 学んだ事をノートに整理する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実際に医療現場に出て、患者さんの前に立った時、みなさんが、どのような振る舞いをし、どのような知識を得ていれば、自信を持って対応出来るのかを説明していく。最新の医療情報を織り交ぜながら話をするので、講義を通じて医療機関で働く楽しさを感じてほしい。

[科目名] 医療事務演習Ⅰ  
[担当教員名] 小川 美樹・早川 裕巳  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

**[授業概要]**

健康保険法等の基礎知識を習得し、医療現場で日常的に必要なとされる保険請求業務の仕組みを理解し、医療の現場で活躍できる人材を育成する。

**[学習成果] [A]**

医療保険制度や保険による診療の仕組み・規則及び算定方法など医療事務者として必要な知識を身につけることができる。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション
- 2 診療報酬明細書作成
- 3 医療保険制度① 医事業務と分類
- 4 医療保険制度② 保険診療のしくみ
- 5 医療保険制度③ 医療保険の種類 他
- 6 医療保険制度④
- 7 受付事務① 基礎知識、カルテ上書き
- 8 受付事務② 窓口徴収
- 9 受付事務③
- 10 基本診療料 初診料・再診料①
- 11 基本診療料 初診料・再診料②
- 12 基本診療料 入院料①
- 13 基本診療料 入院料②
- 14 特掲診療料 医学管理料
- 15 まとめ

**[授業方法]**

算定方法と診療報酬明細書の記載要領、明細書の作成、点検など演習を中心に行うが、医療保険制度・規則などはテキストに沿って行う。

**[成績評価]**

授業への取組状況 (20%)  
課題、レポート等 (30%)  
試験 (50%)

**[教科書]**

「医療事務講座 医科テキスト1、3」  
「医科スタディブック1」  
「医科ハンドブック」  
「診療点数早見表」

**[参考書]**

医科技能審査問題集

**[準備学習 (予習・復習)]**

授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、テキストで確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。次回の授業の準備をすること。問題集を活用し、積極的に自主学習をする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

**[備考]**

欠席をすると授業についていくことが難しくなる。配布資料をファイルすること。  
資格取得を目指す。

[科目名] 医療事務演習Ⅱ  
[担当教員名] 小川 美樹・早川 裕巳  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

**[授業概要]**

医療保険に基づく診療報酬算定のきまりを理解し、診療報酬明細書に関わる知識と作成する技能を習得し、医療の現場で活躍できる人材を育成する。

**[学習成果] [A]**

診療報酬明細書に対する算定方法及び記載要領の知識や技術を身につけることができる。

**[授業計画]**

- 1 特掲診療料 投薬料①
- 2 特掲診療料 投薬料②
- 3 特掲診療料 注射料①
- 4 特掲診療料 注射料②
- 5 特掲診療料 処置料①
- 6 特掲診療料 処置料②
- 7 特掲診療料 手術・麻酔料①
- 8 特掲診療料 手術・麻酔料②
- 9 特掲診療料 検査料①
- 10 特掲診療料 検査料②
- 11 特掲診療料 検査料③
- 12 特掲診療料 画像診断料①
- 13 特掲診療料 画像診断料②
- 14 カルテ症例
- 15 まとめ

**[授業方法]**

算定方法と診療報酬明細書の記載要領、明細書の作成、点検など演習を中心に行う。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業への取組状況 (20%)  
課題、レポート等 (30%)  
試験 (50%)

**[教科書]**

「医療事務講座 医科テキスト1、3」  
「医科スタディブック1」  
「医科ハンドブック」  
「診療点数早見表」

**[参考書]**

医科技能審査問題集

**[準備学習 (予習・復習)]**

授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、テキストで確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。次回の授業の準備をすること。問題集を活用し、積極的に自主学習をする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

**[備考]**

欠席をすると授業についていくことが難しくなる。配布資料をファイルすること。  
資格取得を目指す。

[科目名] 医療事務演習Ⅲ  
[担当教員名] 小川 美樹・早川 裕巳  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCIO\_A11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

医療保険に基づく診療報酬算定のきまりを理解し、診療報酬明細書に関わる知識と点検する技能を習得し資格試験対策を踏まえた演習を行うことにより、医療現場における実践力を培う。

#### [学習成果] [A]

診療報酬明細書が正しく算定、記載されているか、また、誤りを見つけ正しく修正することのできる力を身につけ、資格取得を目指すことができる。

#### [授業計画]

- 1 窓口対応①
- 2 窓口対応②
- 3 明細書記載要領
- 4 レセプト作成①<外来>
- 5 レセプト作成②<入院>
- 6 レセプト作成③<入院>
- 7 レセプト点検①<外来>
- 8 レセプト点検②<入院>
- 9 レセプト点検③<入院>
- 10 技能審査試験対策①：患者接遇
- 11 技能審査試験対策②：医療事務一般知識
- 12 技能審査試験対策③：医療事務一般知識
- 13 技能審査試験対策④：診療報酬請求業務
- 14 技能審査試験対策⑤：医療事務一般知識
- 15 まとめ

#### [授業方法]

資格取得を目標に算定練習及び診療報酬明細書の記載など演習を中心に行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (20%)  
課題、レポート等 (30%)  
試験 (50%)

#### [教科書]

「医療事務講座 医科テキスト1、3」  
「医科スタディブック1」  
「医科ハンドブック」  
「診療点数早見表」

#### [参考書]

医科技能審査問題集

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、テキストで確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。次回の授業の準備をすること。問題集を活用し、積極的に自主学習をする。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

欠席をすると授業についていくことが難しくなる。配布資料をファイルすること。  
資格取得を目指す。

[科目名] 医療事務演習Ⅳ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCIO\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

医療事務演習ⅠⅡⅢをもとに、カルテから診療報酬明細書の作成を行う。医療保険に基づく診療報酬算定のきまりを理解し、診療報酬明細書に関わる知識と点検する技能を習得し、実践力を身につける。資格取得を目指す。

#### [学習成果] [A]

診療報酬明細書の作成を通して、診療報酬を正しく算定し、記載できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 診療報酬請求について
- 2 レセプトチェック①
- 3 レセプトチェック②
- 4 学科 (医療保険制度等)
- 5 レセプト作成 (外来①)
- 6 レセプト作成 (外来②)
- 7 レセプト作成 (外来③)
- 8 レセプト作成 (入院①)
- 9 レセプト作成 (入院②)
- 10 レセプト作成 (入院③)
- 11 技能審査試験・認定試験対策①
- 12 技能審査試験・認定試験対策②
- 13 技能審査試験・認定試験対策③
- 14 学外 地域の活動 (医療機関・消防署) に参加
- 15 まとめ

#### [授業方法]

資格取得を目標に、算定練習及び診療報酬明細書記載など演習を中心に行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (20%)  
課題、レポート等 (30%)  
試験 (50%)

#### [教科書]

「診療報酬請求事務能力認定試験問題集」  
「医療事務講座 医科テキスト1、3」  
「医科スタディブック1」  
「医科ハンドブック」  
「診療点数早見表」

#### [参考書]

医科技能審査問題集  
診療報酬請求事務能力認定試験 各種検定問題集

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業後に復習をし、わからないところはそのままにせず、テキストで確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。次回の授業の準備をすること。問題集を活用し、積極的に自主学習をする。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考] 地域志向科目

授業は必ず出席すること。  
課題はしっかり取り組み、期限までに提出すること。  
提出物はファイリングすること。  
資格取得をめざしましょう！

[科目名] 医師事務作業補助演習  
[担当教員名] 野村 敬二・小島 敏美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

医療機関での医師事務作業補助業務の実態を講演で学び、実際に書類作成、退院サマリー作成などを演習し、医師事務作業補助業務を身につける。

#### [学習成果] [A]

実際の医療機関で行っている医師事務作業補助業務・役割を学び、医師事務作業補助業務を知る、実践力を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 医師事務作業補助とは
- 2 医療文書の作成①
- 3 医療文書の作成②
- 4 医療文書の作成③
- 5 代行入力①
- 6 代行入力②
- 7 代行入力③
- 8 医療の質の向上に資する事務作業①
- 9 医療の質の向上に資する事務作業②
- 10 行政への対応
- 11 演習
- 12 演習
- 13 演習
- 14 演習
- 15 まとめ

#### [授業方法]

医師事務作業補助実践入門BOOKに沿った授業で知識を深め、診断書、介護保険・主治医意見書、退院サマリー、経過報告書の作成を実践する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (45%)  
試験 (55%)

#### [教科書]

「医師事務作業補助実践入門BOOK」  
「医師、医療クラークのための医療文書の書き方」

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

次の授業前には、前回の授業内容を見直すこと  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 医事コンピュータ演習

[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_A12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

「医事Navi」(医療事務教育用ソフト)を使用し、医療機関における医事コンピュータの活用方法を実践的に学ぶ。医療事務およびコンピュータの基礎知識を学び、カルテ(診療録)や診療伝票をもとに医療機関のパソコンを活用した医療情報処理の方法を習得する。

#### [学習成果] [A]

医事コンピュータの知識と操作方法を身につけ、カルテ及び診療伝票を読み取り、傷病名・診断・診察内容等を適正に入力処理し、レセプトを作成できる。

#### [授業計画]

- 1 医事NAVIの操作方法について  
医事コンピュータによる業務の流れ
- 2 患者登録・外来カルテ入力①
- 3 外来カルテ入力②
- 4 外来カルテ入力③
- 5 外来カルテ入力④
- 6 外来カルテ入力⑤
- 7 入院情報入力・入院カルテ入力①
- 8 入院カルテ入力②
- 9 入院カルテ入力③
- 10 入院カルテ入力④
- 11 入院カルテ入力⑤
- 12 演習①
- 13 演習②
- 14 演習③
- 15 まとめ

#### [授業方法]

「医事Navi」を使用した演習中心の授業である。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (20%)  
課題、レポート提出状況 (30%)  
試験 (50%)

#### [教科書]

医事Navi 操作テキスト  
カルテ例題集  
診療報酬点数早見表

#### [参考書]

医療事務演習テキスト

#### [準備学習(予習・復習)]

診療報酬の算定方法について見直す。  
わからないところはそのままにせず、確認すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

授業は必ず出席すること。  
課題はしっかり取り組み、期限までに提出すること。  
提出物はファイリングすること。



[科目名] 解剖生理学  
[担当教員名] 窪田 傑文  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

解剖学と生理学は生物学のなかでもっとも基礎的な学問で、前者は構造を、後者は機能に関する領域を探究する学問である。しかし、構造と機能は互いに密接に関係して身体を形成していることから、形態と機能を切り離すことは不可能である。本講座では、病態・病因を理解するために必要不可欠な人間の基本的構造と機能を同時に学び、さまざまな組織・器官・臓器がどのように関連しあっているかを形づくり、また維持しているか学ぶ。

#### [学習成果] [A]

医療に携わる人間として、メディカルスタッフ・コメディカルスタッフおよび患者とのコミュニケーションをとるために必要な基礎的な人体構造および機能に関する知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 解剖生理学概論  
人体の構造：人体の解剖学的特徴と構成要素
- 2 人体の構造：細胞・組織・器官
- 3 骨格系：形状と構造、骨化と成長・機能、骨組成
- 4 筋肉系：構造と生理、主要骨格筋と機能
- 5 循環器系：心・血管系の構造と機能
- 6 循環器系：血球の種類、血漿成分と凝固
- 7 呼吸器系：気道・肺の構造
- 8 呼吸器系：呼吸と肺機能、胸膜腔
- 9 消化器系：咀嚼、嚥下、消化管の構造・消化吸収
- 10 消化器系：肝臓・膵臓の構造および機能
- 11 泌尿器系：腎臓・膀胱の構造と機能、排尿機構
- 12 生殖系：性腺の構造および機能
- 13 生殖系：乳腺、卵巣ホルモンと性周期
- 14 神経組織：中枢神経と末梢神経の構造と機能
- 15 感覚器系：感覚器の構造と機能、皮膚と体温調節

#### [授業方法]

教科書を主教材として用いた講義を行う。補助的にプロジェクターや配布資料を用いる。

#### [成績評価]

- 定期試験 (70%)
- 授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

前回までの講義の復習をし、予習として該当講義分野の教科書を読んでおくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 公衆衛生学  
[担当教員名] 脇田 嘉宏  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LC10\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

公衆衛生学は、集団としての人の健康保持と増進を図る学問で幅広い分野を含むものである。そのために集団を取りまく自然環境や社会環境等を理解し、集団の健康のために必要な基本的事項を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

健康的な生活の保持増進と疾病予防のために、広い視野に立って考え行動することができるような知識修得ができる。

また、新聞やテレビ等のニュースから、公衆衛生に関する情報を理解し社会的要求に応える。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 地域保健
- 3 母子保健・老人保健
- 4 産業保健・学校保健
- 5 感染症 1
- 6 感染症 2
- 7 健康増進 1
- 8 健康増進 2
- 9 医療 1
- 10 医療 2
- 11 医療 3
- 12 生活衛生 1
- 13 生活衛生 2
- 14 動物由来感染症
- 15 環境衛生

#### [授業方法]

プロジェクターを活用した講義が中心。  
課題によっては討論。(ディスカッション)  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 小テスト (30%)
- 授業への取組状況 (20%)
- 定期試験 (50%)

#### [教科書]

適宜プリントを配布

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎日新聞を読むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 茶道  
[担当教員名] 飯田 春子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_D11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

日本の伝統文化である茶の湯。  
道としての茶、文化としての茶、修業としての茶といった、道(心)、学(茶道学)、実(実技を通しての働き)の三つを実践しながら日本人の心の豊かさと和らぎを得、現代の激しい移り変わりに対処できる人間像の形成。

#### [学習成果] [D]

茶道を学ぶことにより、「客のもてなし方」「美しい立ち居振る舞い」などの、日常生活の作法が身につく。

#### [授業計画]

- 1 割り稽古(1) 座り方・立ち方・おじぎのし方・客の作法
- 2 割り稽古(2) ふすまの開け方・閉め方・歩き方・客の作法
- 3 割り稽古(3) 床入りのし方・帛紗の扱い・棗のふき方・茶杓のふき方
- 4 割り稽古(4) 茶筌とおし・茶碗のふき方・水屋の作業
- 5 割り稽古 茶の歴史・略盆点て
- 6 略盆点て(亭主と客)
- 7 略盆点て(亭主と客)
- 8 略盆点て(亭主と客)
- 9 風炉薄茶点前 柄杓の扱い
- 10 風炉薄茶点前(亭主と客)
- 11 風炉薄茶点前(亭主と客)
- 12 風炉薄茶点前(亭主と客)
- 13 風炉薄茶点前(亭主と客)
- 14 立礼卓で点前
- 15 立礼卓で点前 お茶会

#### [授業方法]

点前作法など、実技中心。  
アクティブラーニング導入。  
裏千家師範としての実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

点前確認小テスト(30%)  
授業への取組状況(70%)

#### [教科書]

学校茶道 初級編

#### [参考書]

随時プリント配布

#### [準備学習(予習・復習)]

教科書にて予習・復習  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 日本文化演習  
[担当教員名] 奥村 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCI0\_D11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

着物の着装方法とTPOに応じた装い方を学び、日本の伝統文化である着物の着装の楽しさを体得する。着物の色合わせ、自装・他装のスキルを身につける。

#### [学習成果] [D]

きもの文化についての基礎的な知識を身につけ、ひとりでゆかたやきもの、袴が着ることができるようになる。また、人に着せつけることができるようになる。和装での立ち居振る舞いが身につく。

#### [授業計画]

- 1 和服のTPOと着付けの小物
- 2 ゆかたの着装
- 3 ゆかたの着装
- 4 ゆかた・反幅帯の基礎
- 5 ゆかた・反幅帯の応用
- 6 街着の着装
- 7 街着・名古屋帯の着装
- 8 街着・名古屋帯の着装
- 9 式服のマナーと着装
- 10 袴の着装
- 11 袴の着装
- 12 他装・ゆかた
- 13 他装・ゆかた
- 14 他装・車いすユーザーの着付け
- 15 まとめ・ゆかたでおもてなし

#### [授業方法]

配布資料で知識を学び、毎回着付けの実技を行う。2人ペアで実技を行うこともある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実技試験(50%)  
レポート(20%)  
授業への取組状況(30%)

#### [教科書]

随時プリント配付

#### [参考書]

随時プリント配付

#### [準備学習(予習・復習)]

授業前に、関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネットで着方や結びなど調べ学習をして臨むこと。授業後は、自主的に練習に取り組むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考](地域志向科目)

着付けは実習の積み重ねで体得することになるので、欠席しないようにすること。  
実習の際に着用するゆかた・半幅帯・着物・名古屋帯・着付け用具は、できるだけ手持ちのものを用意しておくこと。  
集大成として自分自身でゆかたを着用し、学外で活動を行う。

[科目名] トータルコーディネート

[担当教員名] 奥村 智子

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCI0\_D12

[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

自分らしさを演出しながら、好印象を与えるきちんとした着こなしやフォーマルシーンでの洋服のマナーを学び、総合的な美しさを作り出す方法を考えると共に、ファッションの選び方や使用法など、正しい商品知識と併せて学ぶ。

また、日本フォーマル協会 フォーマルスペシャリスト検定準2級（ブロンズライセンス）に対応し、フォーマルウェアの正しい着こなし方、祝儀・不祝儀の各シーンにおける正しいアクセサリーの知識を習得する。

#### [学習成果] [D]

イメージシーンに合わせた基本的なコーディネートテクニックや快適に装うための正しい知識を習得し、自分演出ができるおしゃれを実践できる素養を身に付けることができる。

#### [授業計画]

- 1 ファッションと印象
- 2 イメージ別コーディネートテクニック①
- 3 イメージ別コーディネートテクニック②
- 4 ファッションと錯覚
- 5 体型別コーディネートテクニック
- 6 TPOと装い
- 7 オケーション別コーディネートテクニック①
- 8 オケーション別コーディネートテクニック②
- 9 フォーマル知識①正礼装
- 10 フォーマル知識②準礼装
- 11 フォーマル知識③略礼装
- 12 フォーマル知識④弔事
- 13 フォーマル知識⑤和服
- 14 フォーマル知識⑥ブライダル
- 15 ブライダルコーディネート提案

#### [授業方法]

基本的にはファッション雑誌の写真や映像を用いて実際の場面を理解できるような講義方式で行い、学生とのディスカッションを積極的に行いながら授業を進めていく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

提出物(70%)

授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「フォーマルウェア・ルールブック」(日本フォーマル協会)

#### [参考書]

随時プリント配布

#### [準備学習(予習・復習)]

普段からファッション雑誌や店舗などで展開しているコーディネートの仕方を観察しておくこと。次の授業に関連する分野の内容に興味・関心を持ち、インターネット調べ学習をして臨むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

日本フォーマル協会 フォーマルスペシャリスト検定準2級(ブロンズライセンス)には是非チャレンジしてほしい。

## 2 専門科目

生活文化学科 生活文化専攻

情報医療コース 2年

情報ビジネスコース 2年

[科目名] 衣生活論  
[担当教員名] 奥村 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_D22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

「衣食住」の中の『衣』は人間特有のものであり、衣服は人間性や精神面と深く関わっており、人が服を着て社会生活を営む中でどのような関係があるかを様々な視点から考える。被服について、生産技術、歴史、素材、デザイン、設計、衛生、管理などを思考する基礎的な能力を養う。そしてより豊かで快適な衣生活を営む工夫を習得する。

#### [学習成果] [D]

衣生活の設計や素材の選択と認識、衣服の構成や管理など基礎知識を身につけることができる。また、より良い衣生活のあり方について考え、より良く装うことができるようになる。簡単な裁縫技術が身につく。

#### [授業計画]

- 1 装うことの意味
- 2 衣生活の歴史
- 3 衣服の形と民族衣装
- 4 既製服のサイズ知識
- 5 衣服の品質表示と衣服素材
- 6 衣服の取り扱い絵表示
- 7 衣服の管理：洗濯
- 8 衣服の管理：収納・保管
- 9 素材の特性を学ぶ
- 10 素材の特性を学ぶ
- 11 衣服のマナー
- 12 デザインの基礎
- 13 染色技術を学ぶ
- 14 裁縫技術：手縫いの基礎
- 15 裁縫技術：ミシン縫いの基礎

#### [授業方法]

講義形式で、資料を配付して授業を進める。毎回、理解度を確認するためのレポート課題を行う。演習的な取り組みをすることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

提出物(70%)  
授業への取組状況(30%)

#### [教科書]

随時プリント配付

#### [参考書]

随時プリント配付

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業後に示すレポートを提出すること。また、授業前には関連する分野の内容に興味・関心を持ち、テレビ、インターネットで調べ学習をして臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

製作のための材料費が一部必要である。

[科目名] 食生活論  
[担当教員名] 山口 由貴  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_D22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

「食べる」ことは生きるために必要だが、「食べる」理由は生理的な欲求や栄養補給とは関係のないものもある。本講義では、「食べる」ということについて「栄養」や「健康」という観点からだけでなく、様々な視点から見つめ直し、正しい食生活を営む力を身につける。

#### [学習成果] [D]

食生活の現状や課題についての理解を深めることができる。また「食」に関する基礎的な知識を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 食の歴史
- 3 食生活における諸問題
- 4 食事バランスガイド
- 5 災害時の食事
- 6 若い女性の痩せ問題
- 7 食品ロス
- 8 食品の色とおいしさ
- 9 食品加工(1)
- 10 食品加工(2)
- 11 食品加工(3)
- 12 食文化(1)
- 13 食物アレルギー(1)
- 14 食物アレルギー(2)
- 15 食物アレルギー(3)

#### [授業方法]

講義主体だが、グループワークやプレゼンテーションなどを取り入れることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験(60%)  
課題・提出物(30%)  
授業への取組状況(10%)

#### [教科書]

毎回レジュメを配布する

#### [参考書]

随時紹介する

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業前に、関連する分野の新聞・テレビ等にふれ、問題意識をもって授業に臨むこと。また、授業後はさらに理解を深めるため調べ学習すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

生活するために「食」の知識は必要不可欠なものです。興味を持ち積極的に取り組むこと。  
簡単な実習、試食をするので食材費が必要になる。

[科目名] 住生活論  
[担当教員名] 森本 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_D22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

住まい及び住生活に関する知識は、日々の暮らしに密接であるため、様々な分野（教育、保育、介護、医療、家庭など）で役立てることができる。

特に、実生活において、加齢と共にライフサイクルの変化する中で、住まい手として“快適で健康な空間とは何か”を考えることで、社会に求められる“快適で健康な空間とは何か”について考察する内容とし、住宅のプロの入口としてだけでなく、保育、医療、介護などの分野で応用のできるような授業とする。

#### [学習成果] [D]

住まいに関する基本的な知識と、応用力・想像力を身につけると同時に、関連資格取得を目指す。

特に、医療、介護の分野に特化した介護・住宅系の資格「福祉住環境コーディネーター」の受験を目指せる知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 第1章 空間計画は芸術か
- 2 第2章 人は自然の中でどんな住居を作ったか
- 3 第3章 現代における和風空間とは何か
- 4 第4章 空間は人のためにどのように作られたか
- 5 第5章 人は環境をどのように眺めているか
- 6 第6章 人の動きと空間の変化
- 7 第7章 インテリアイメージの世界
- 8 第8章 家事の合理性とは何か
- 9 第9章 快適感とは何か
- 10 第10章 人はいかに休むか
- 11 第11章 人の生理と空間設備
- 12 第12章 装飾は機能より劣るか
- 13 第13章 日常空間と非日常空間
- 14 第14章 コミュニケーション空間のインテリア
- 15 第15章 未来空間はどのように作られるか

#### [授業方法]

講義を中心に、レポートや小テストを織り交ぜながら、ディスカッションも行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

学習意欲を含めた授業への取組状況 (50%)  
課題等提出物 (50%)

#### [教科書]

インテリア教本 ～ワークブック～

#### [参考書]

福祉住環境コーディネーター3級検定試験公式テキスト (受験希望者)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業時に、その都度指示する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

福祉住環境コーディネーター3級の取得に是非チャレンジして欲しい。

[科目名] 保育学  
[担当教員名] 真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_F22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

少子化の現代、女性が活躍するための家庭の在り方様々な子育て支援の現状を知り、ワークライフバランスについて課題意識を持ちながら、子どもが健やかに育つ未来、子どもを産み育てる環境と社会について考える。

#### [学習成果] [F]

少子化の現状と課題を認識し、現代の保育の問題に目を向けるとともに、子どもの発達や遊びを理解し、子どもとの関わり方や育児についての基本的な知識を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 保育を学ぶ意義
- 3 子どもの発達
- 4 実践演習 ～赤ちゃん人形を使って～
- 5 絵本・紙芝居の世界
- 6 実践演習 ～絵本を読んでみよう～
- 7 保育現場見学の事前指導
- 8 保育現場見学 フィールドワーク
- 9 保育現場見学の振り返り
- 10 フィールドワークのグループ発表
- 11 子どもが育つ環境
- 12 子どもの遊び ①
- 13 子どもの遊び ②
- 14 子どもの病気
- 15 まとめとレポート

#### [授業方法]

テーマごとに個人やグループで課題意識を持ちながら、子どもの発達や子どもとの関わり方について演習を取り入れながら学び、現代の子どもを取り巻く環境について考えを深める。適宜、赤ちゃん人形や折り紙などの保育教材等も使用しながら、後半には、おやこ園見学や児童館などを訪問して実際に子どもと触れ合い、子どもへの理解を深め保育と子育てについて考える。

#### [成績評価]

授業への取組状況・提出物 (50%)  
レポート (50%)

#### [教科書]

使用しない

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

日常的に出産や子育て関連のニュースや新聞記事に関心を持ち目を通しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

ここにコラムでの実践演習や、文教おやこ園の見学、学外に出向いて実際の保育現場で子どもたちと関わる体験等をするので、その心構えが必要である。

[科目名] 卒業研究  
[担当教員名] 小川 美樹・奥村 智子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年全期 [科目コード] LCI0\_E29  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

地域・学内外でのイベント・講座の企画から実施までの流れを体験する。情報発信の方法を学び活用する。

さらに実務学習として学んだ専門知識やスキル、コミュニケーション能力を活用して、チームで課題を決め、イベント・講座を開くことで、総合的な実践実務を行う。

#### [学習成果] [E]

実践の場で、責任感を持って取り組み、役割を果たし、多様な人と関わることにより、その場に応じた対応が出来る力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 情報発信の方法と活用方法
- 3 コミュニケーションツールの活用方法
- 4 企画内容の説明
- 5 実施要項と役割分担
- 6 実施準備 ①
- 7 実施準備 ②
- 8 実施デモ
- 9 実施準備 ③
- 10 実施準備 ④
- 11 実施 ①
- 12 実施 ②
- 13 実施 ③
- 14 実践結果のふりかえり
- 15 報告会(発表)
- 16 オリエンテーション
- 17 企画書の書き方
- 18 実施要項の書き方
- 19 実施準備 ①
- 20 実施準備 ②
- 21 実施準備 ③
- 22 中間発表
- 23 実施デモ
- 24 実施準備 ④
- 25 実施準備 ⑤
- 26 実施 ①
- 27 実施 ②
- 28 実施後のまとめ
- 29 実践後のまとめ
- 30 報告会(発表)

#### [授業方法]

グループ学習形態で授業を進める。毎回の実践内容を情報機器を使用して報告する。授業内で解決できない課題については自宅学習を行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
学習意欲 (30%)  
発表内容 (40%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

特になし

#### [準備学習(予習・復習)]

調べ学習、まとめ、レポート作成など、事前・事後もしっかり取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

地域志向科目

毎回必ず報告すること。課題は、提出期限を必ず守ること。

[科目名] 社会福祉  
[担当教員名] 池田 信子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

#### [学習成果] [A]

社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション「人間発達と福祉の問題」
- 2 社会福祉と権利
- 3 社会福祉とネットワーク
- 4 福祉と健康
- 5 家族問題と福祉
- 6 高齢者の生活問題
- 7 少年非行と福祉問題
- 8 不登校問題
- 9 子ども虐待
- 10 家庭内暴力
- 11 福祉の情報化
- 12 ソーシャルワーク
- 13 多文化共生社会
- 14 事例検討1
- 15 事例検討2

#### [授業方法]

講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単位ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

レポート (50%)  
授業態度 (25%)  
課題 (5回) (25%)

#### [教科書]

「社会福祉を学ぶ」(みらい)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習しておくこと。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後には授業内容のポイントを復習しておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科目名] 人間関係論  
[担当教員名] 松井 美穂  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_B22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

人間は、成長過程において様々な人間関係を経験し、自己を形成していく。そして、社会生活において、人間関係はストレスの要因となることも多い一方で、人生を豊かにしてくれるものでもある。本講義では、人間関係について理解を深め、人間関係はどのように築き上げられていくのか学んでいく。

#### [学習成果] [B]

心理学的な観点から、人間関係の中の自己についての知識を深め、人間関係で生じやすい問題とその対処について学習することにより、社会生活の中で良好な人間関係を築き上げる手掛かりを習得できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 人間関係の中の自己 (1)
- 3 人間関係の中の自己 (2)
- 4 人間関係の展開 (1)
- 5 人間関係の展開 (2)
- 6 好きと嫌いの人間関係 (1)
- 7 好きと嫌いの人間関係 (2)
- 8 家族の中の人間関係
- 9 友人との人間関係
- 10 援助の人間関係
- 11 支配と服従の人間関係
- 12 攻撃と対立の人間関係
- 13 集団の中の人間関係 (1)
- 14 集団の中の人間関係 (2)
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループワーク・ディスカッション等を取り入れ様々な角度から学習する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題や授業への取組状況 (50%)  
筆記試験 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

適宜授業中に紹介する

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業時間以外で関連する分野の書籍、雑誌、インターネット等に触れ、問題意識を持って授業に臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] コミュニケーション心理学  
[担当教員名] 松井 美穂  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_B21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

社会生活において、人間関係を円滑にするため、またお互いの信頼関係を築くためには、コミュニケーションを行うことが必要となる。本講義では、コミュニケーションとは何か、なぜコミュニケーションが大切であるのかについて学んでいく。

#### [学習成果] [B]

心理学的な観点から、さまざまなコミュニケーションについての理解を深め、社会生活を送る上で必要となるコミュニケーション能力を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 コミュニケーションとは何か
- 3 なぜコミュニケーションを学ぶのか
- 4 コミュニケーションにおいて話すことの意味
- 5 自分を知らせるコミュニケーション
- 6 自分を演出するコミュニケーション
- 7 傾聴とは (1)
- 8 傾聴とは (2)
- 9 言語以外のコミュニケーション (1)
- 10 言語以外のコミュニケーション (2)
- 11 コミュニケーションのための自己理解
- 12 コミュニケーションのための他者理解
- 13 異文化コミュニケーション
- 14 職場におけるコミュニケーション
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループワーク・ディスカッション等を取り入れ様々な角度から学習する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題や授業への取組状況 (50%)  
筆記試験 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

適宜授業中に紹介する

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業時間以外で関連する分野の書籍、雑誌、インターネット等に触れ、問題意識を持って授業に臨むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]



[科目名] 介護概論  
[担当教員名] 池田 信子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LC10\_A21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

介護問題は、現在の長寿社会にあって、いまや誰もが避けて通ることができない生活問題である。介護の現状を知り、どのような支援が必要なのかを考え、支援者としてソーシャルワークの方法を取り入れた対応方法を学ぶ。また、高齢者の心身の変化、認知症について、また障害者の現状も理解し、その周辺症状に合った適切な対応を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

我が国の介護や障害の現況を理解し、介護を必要とする対象者へのアプローチを実践できるようになる。  
常に介護とは何かを考え、高齢者や障害者の生命を守り、生きる意欲を引き出し、人権の守り手として介護を創造していける人材になる。  
老化に伴う心身の変化を説明でき、高齢者に生じやすい疾病や障がいについて理解できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 障害の理解(身体・知的・精神)
- 3 認知症の基礎知識
- 4 「老い」と介護問題
- 5 高齢者虐待防止
- 6 終末期
- 7 介護離職
- 8 災害弱者
- 9 事例検討(事例を用い介護について考える)
- 10 事例検討(事例を用い介護について考える)
- 11 事例検討(事例を用い介護について考える)
- 12 事例検討(事例を用い介護について考える)
- 13 事例発表(グループ)
- 14 事例発表(グループ)
- 15 まとめ

#### [授業方法]

DVDや事例検討を通して、障害や認知症の理解を深める。時には、当事者の話を直接聞き、当事者への関心を深めるようにする。支援者や援助者としての視点を持ち、問題を解決できる力をつけていけるようグループで討議する時間を取る。

授業中に様々なシチュエーションを想定し、グループワークを行うので、消極的な授業態度は減点の対象となることに留意すること。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

レポート(50%)  
授業態度(25%)  
課題(5回)(25%)

#### [教科書]

「私と介護」(新日本出版社)

#### [参考書]

適宜紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

社会福祉関連の報道や新聞記事などに注意を払い、読むようにする。  
グループでの事例発表のための準備を計画的に行う。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 秘書実務演習Ⅰ  
[担当教員名] 加藤 洋美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LC10\_B21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

ビジネス社会に貢献できる人材の育成および資質の向上を目標とし、実習とロールプレイングを通して秘書実務の基本を繰り返し学ぶことにより、実務を体得する。

#### [学習成果] [B]

1年生で学んだ秘書として求められている知識や技能を総括し、演習形式で実践力を高めることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 コミュニケーションと人間関係
- 3 話し方と聞き方の基本
- 4 敬語の基本と接遇用語
- 5 接遇用語演習
- 6 ビジネスマナーを学ぶ意義
- 7 接遇の意義と心構え
- 8 来客対応の基本
- 9 来客対応の実際
- 10 名刺交換
- 11 状況対応ロールプレイング
- 12 電話対応の意義
- 13 ビジネス電話の掛け方
- 14 ビジネス電話の受け方
- 15 まとめ

#### [授業方法]

基本知識を確認し、ロールプレイング、グループワークなどをとり入れた演習形式にて知識をアウトプットする。

アクティブラーニング導入。  
企業(秘書室・秘書技能検定1級)の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験(50%)  
課題や授業への取組状況(50%)

#### [教科書]

「秘書・オフィス実務テキストワークブック」

#### [参考書]

ビジネスのマナー・文書・実務の基礎知識

#### [準備学習(予習・復習)]

授業に関連することについて、日常的に関心を持ち、問題意識をもって授業に臨むこと。知識として得たことは、すぐに実践を心がけること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 秘書実務演習Ⅱ  
[担当教員名] 加藤 洋美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_B22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

前期開講の秘書実務演習Ⅰを基にビジネス社会に貢献できる人材の育成および資質の向上を目標とする。実習とロールプレイングを通して秘書実務の基本と応用を繰り返し学ぶことにより、実務を体得する。

#### [学習成果] [B]

前期で学んだ秘書として求められている知識や技能を総括し、さらに演習形式で実践力と応用力を高めることができる。

#### [授業計画]

- 1 指示の受け方
- 2 報告の仕方
- 3 慶弔業務
- 4 お祝い、贈り物のマナー
- 5 お葬式のマナー
- 6 スケジュールリング
- 7 出張業務
- 8 ファイリング
- 9 ビジネス文書
- 10 社外文書
- 11 社外文書
- 12 インバスケット①
- 13 インバスケット②
- 14 インバスケット③
- 15 インバスケット④

#### [授業方法]

基本知識を確認し、ロールプレイング、グループワークなどをとり入れた演習形式にて知識をアウトプットする。

アクティブラーニング導入。  
企業（秘書室・秘書技能検定1級）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 試験（50%）
- 課題や授業への取組状況（50%）

#### [教科書]

「秘書・オフィス実務テキストワークブック」

#### [参考書]

ビジネスのマナー・文書・実務の基礎知識

#### [準備学習（予習・復習）]

授業に関連することについて、日常的に関心を持ち、問題意識をもって授業に臨むこと。知識として得たことは、すぐに実践を心がけること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 事務管理Ⅰ  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

事務の本質、経営の側面からみた役目を理解することによって、企業にとって有力な人材の育成を目指す。特に近年は事務の機械化が進んでいる。データベースソフトの実習を通じてシステム開発・運用等に必要な知識の基本を習得する。

#### [学習成果] [C]

企業における自己の役割を認識し、主体的に業務に取り組めるようになる。またITスキルの基礎を身につけ、様々なシステムに臨機応変に対応できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 事務の本質、概念（1）
- 2 事務の本質、概念（2）
- 3 事務の本質、概念（3）
- 4 データベースの基本（1）
- 5 データベースの基本（2）
- 6 データベースの基本（3）
- 7 文書管理、ファイリングシステム（1）
- 8 文書管理、ファイリングシステム（2）
- 9 オフィスレイアウト、ファシリティチェック
- 10 実務とセキュリティ（個人情報保護など）（1）
- 11 実務とセキュリティ（個人情報保護など）（2）
- 12 業務分析の手法（1）
- 13 業務分析の手法（2）
- 14 業務分析の手法（3）
- 15 経営と事務の関わりについて、まとめ

#### [授業方法]

演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。

学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード（ファイルを開く）して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 定期試験（50%）
- 課題提出（50%）

#### [教科書]

配布資料・検定問題集等

#### [参考書]

「栢木先生のITパスポート教室」（技術評論社）

#### [準備学習（予習・復習）]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず課題を完成させ提出すること。またメール等を確認し次回の授業の準備をすること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 事務管理Ⅱ  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LC10\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

事務管理Ⅰの内容を踏まえ、より応用的なビジネス一般知識の習熟を目的とする。また、高度なデータベースの構築及び操作を習得するため、MicrosoftソフトウェアのAccessの操作方法についても学習する。

#### [学習成果] [C]

企業における自己の役割を一層高め、より積極的に高度な業務に取り組めるようになる。ITスキル及びデータベース操作の応用を身につけ、より広範なシステムに臨機応変に対応できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 データの標準化
- 2 業務改善の手法 (1)
- 3 業務改善の手法 (2)
- 4 業務改善の手法 (3)
- 5 データベース基本操作 (1)
- 6 データベース基本操作 (2)
- 7 データベース基本操作 (3)
- 8 データベース基本操作 (4)
- 9 データベース基本操作 (5)
- 10 ビジネス一般知識 (1)
- 11 ビジネス一般知識 (2)
- 12 ビジネス一般知識 (3)
- 13 ビジネス一般知識 (4)
- 14 ビジネス一般知識 (5)
- 15 事務の機械化について、まとめ

#### [授業方法]

演習形式で、ほぼ毎回の授業で課題を課す。授業では例題を中心に学習し、関連の練習問題を宿題とする。また、実技試験で理解度をチェックする。最後に総合課題としてレポートの提出を求める。

学内web、メール等で操作方法、課題を提示するのでダウンロード(ファイルを開く)して、操作を進める。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況、理解度を把握し授業を進める。課題提出、質問等はメール、共有フォルダを活用する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 定期試験 (50%)
- 課題提出 (50%)

#### [教科書]

配布資料・検定問題集等

#### [参考書]

「栢木先生のITパスポート教室」(技術評論社)

#### [準備学習(予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず課題を完成させ提出すること。またメール等を確認し次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 情報処理概論  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LC10\_C21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

本講義では情報処理の基礎的知識全般、特にストラテジ系の分野である「企業の組織、戦略、会計、法律」、マネジメント系の分野である「システム開発技術」について重点的に学ぶ。

#### [学習成果] [C]

本講義を受講することで(独)情報処理推進機構が実施している国家試験「情報処理技術者試験」の一部であるITパスポート試験の試験範囲の知識習熟を目指すことができる。

#### [授業計画]

- 1 情報処理概論 資格試験について
- 2 企業の組織  
企業の全体像、組織の形態、システム責任者
- 3 企業の戦略(1)  
経営手法・差別化戦略・市場での地位
- 4 企業の戦略(2)  
他社との協力・製品の生産方式・IT利用
- 5 企業の戦略(3)  
マーケティング・分析・標準化
- 6 会計(1) 会計書類の名前、損益分岐点
- 7 会計(2) 会計に関する用語、計算問題
- 8 法律(1) 知的財産権
- 9 法律(2) 派遣と請負・その他法律
- 10 経営とシステム EC、ERPパッケージ
- 11 システム開発 開発の準備・全体像
- 12 システム運用  
ソフトウェア開発手法と開発モデル
- 13 プロジェクトとサービスマネジメント  
スケジュール管理、ファシリティマネジメント
- 14 ITパスポート過去問題実践演習
- 15 まとめ

#### [授業方法]

板書による説明とパワーポイントを利用した授業を行う。知識の説明が主体となるため受け身の授業にならないように適宜考察、質問、小テスト、発表を行う予定である。

#### [成績評価]

- 課題・試験 (70%)
- 学習意欲・授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「パプロフくと学ぶITパスポート」よせだあつこ著  
(中央経済社)

#### [参考書]

情報処理関連の解説書(授業の中で紹介)

#### [準備学習(予習・復習)]

授業後、学んだ内容に対応する問題を解き、必ず復習すること。次回学習予定の教科書の範囲に、前もって目を通すこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

ITパスポートは情報処理技術者への第一歩である。合格できるよう日頃からコンピュータに対して苦手意識を持たず、興味を持って接すること。仲よくなればなるほど、自然と試験にも合格できるような知識が身についてくる。試験範囲は広大なため、常に教科書、問題集などで予習復習することを強く勧める。

[科目名] 情報機器演習Ⅰ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

収集した情報を整理し、他者にわかりやすく伝える能力(情報コミュニケーション力)を身につける。

Word、Excel、PowerPointの活用を身につけ、実社会で求められる実践的なスキルを学習する。

#### [学習成果] [C]

Word、Excel、PowerPointを実務で活用できる能力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信ができる。

#### [授業計画]

- 1 ビジネス文書作成 1
- 2 ビジネス文書作成 2
- 3 ビジネス文書作成 3
- 4 リーフレット作成 1
- 5 リーフレット作成 2
- 6 プレゼンテーション
- 7 Word、Excel活用 差し込み印刷
- 8 Word、Excel活用 商取引 1
- 9 Word、Excel活用 商取引 2
- 10 Word、Excel活用 申請書 1
- 11 Word、Excel活用 申請書 2
- 12 ビジネス文書作成 4
- 13 ビジネス文書作成 5
- 14 ビジネス文書作成 6
- 15 まとめ 発表

#### [授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード(ファイルを開く)して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールを活用する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況(30%)  
課題、試験(70%)

#### [教科書]

メールにファイル添付  
授業プリントを配布

#### [参考書]

Word、Excel、PowerPoint操作方法書  
各種検定問題集

#### [準備学習(予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

課題は期日までに必ず提出すること。

日本語ワープロ検定、文書デザイン検定、情報処理検定、日商PC検定の資格取得を目指す。

[科目名] 情報機器演習Ⅱ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

Word、Excel、PowerPointの実践的な活用術を身につけ、社会におけるコミュニケーション力を磨く。実践力・応用力を養い、また、情報を扱う上での知識やマナーも身につける。

情報収集能力を高め、自分から情報を発信するための能力を身につける。

#### [学習成果] [C]

Word、Excel、PowerPointを実務で活用できる能力を身につける。

わかりやすく伝える力を身につける。

インターネット・電子メールを活用して、情報収集や情報発信ができる。

#### [授業計画]

- 1 セキュリティと情報モラル 1
- 2 セキュリティと情報モラル 2
- 3 セキュリティと情報モラル 3
- 4 プレゼンテーション 1
- 5 プレゼンテーション 2
- 6 レポートの作成 1
- 7 レポートの作成 2
- 8 リーフレット作成 1
- 9 リーフレット作成 2
- 10 ポスター作成 1
- 11 ポスター作成 2
- 12 ビジネス文書作成 1
- 13 ビジネス文書作成 2
- 14 ビジネス文書作成 3
- 15 まとめ

#### [授業方法]

学内Web、メールで操作方法・課題を提示するので、ダウンロード(ファイルを開く)して、操作をする。システムを利用し、操作方法は画面を送信し説明する。また、学生の状況・理解度を把握し、授業をすすめる。課題提出・質問等は、メールを活用する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況(30%)  
課題、試験(70%)

#### [教科書]

メールにファイル添付  
授業プリントを配布

#### [参考書]

Word、Excel、PowerPoint操作方法書  
各種検定問題集

#### [準備学習(予習・復習)]

授業後には復習をし、作成したファイルについて見直し、操作方法を確認する。必ず、課題を完成させ提出すること。また、メールを確認し、次回の授業の準備をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

課題は期日までに必ず提出すること。

日本語ワープロ検定、文書デザイン検定、情報処理検定、日商PC検定の資格取得を目指す。

[科目名] 生活統計学  
[担当教員名] 水野 重夫  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_C21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

日常生活の中で出会う様々な資料（データ）の整理の仕方や、統計処理の手法を学ぶ。題材はすべて日常生活の身近な事例を取り上げることで統計処理に対する興味・関心を喚起し、パソコン（EXCEL）の助けも借りながら解説を進めていく。

#### [学習成果] [C]

私たちの周囲には様々なデータがあふれているが、統計処理の手法を身につけることにより、それらのデータが持つ意味を理解することができるようになる。さらに、収集した一部のデータから全体を推定したり、立てた仮説が正しいかどうかを判断することができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 統計とは
- 2 資料の整理
- 3 度数分布
- 4 相関と回帰
- 5 回帰分析
- 6 確率分布
- 7 二項分布
- 8 正規分布1
- 9 正規分布2
- 10 点推定
- 11 区間推定1
- 12 区間推定2
- 13 検定1
- 14 検定2
- 15 検定3

#### [授業方法]

EXCELの基本的な操作ができることは前提として、用意されたEXCELのデータを用いて、統計処理の様々な手法を説明していく。

#### [成績評価]

- 試験 (60%)  
課題や授業への取組状況 (40%)

#### [教科書]

授業プリントを配布

#### [参考書]

「統計学の図鑑」 涌井良幸・涌井貞美著（技術評論社）

#### [準備学習（予習・復習）]

復習として、授業の中で学習した統計用語の意味を理解し、EXCELを用いた統計量の計算の仕方やグラフの描き方を確認しておくこと。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

授業は毎回EXCELを操作しながら進めるので、EXCELの基本操作ができるようにしておくこと。

[科目名] プログラミング理論  
[担当教員名] 砂田 治弥  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_C22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要・到達目標]

プログラミング言語の基礎理論を学び、Microsoftアプリケーションにおける機能拡張のためのプログラミング言語である、VBAの基本を習得する。実際にコンピュータを利用しプログラミング言語を記述して、理論を実践へと展開していく。

#### [学習成果] [C]

プログラミングを習得することでITリテラシーが高まり、さらにコンピュータを使いこなすことができるようになるため仕事の効率を高めることができる。

#### [授業計画]

- 1 プログラミングの基本概念
- 2 VBAについて（マクロとは）
- 3 変数と定数
- 4 理論と実践（流れ図とアルゴリズム）
- 5 セルの操作
- 6 関数
- 7 プログラミング理論と演習1
- 8 プログラミング理論と演習2
- 9 プログラミング理論と演習3
- 10 プログラミング理論と演習4
- 11 プログラミング理論と演習5
- 12 プログラミング理論と演習6
- 13 プログラミング理論と演習7
- 14 プログラミング理論と演習8
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義とコンピュータを用いたプログラミング演習を行う授業である。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 試験 (50%)  
課題や授業への取組状況 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

必要に応じて授業内で紹介

#### [準備学習（予習・復習）]

今回の講義までの課題を提示するので、事前に調査等を行い、準備をして講義の望むこと。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 簿記応用Ⅰ  
[担当教員名] 木原 明日香  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LC10\_A21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

企業経営の根幹となる財務会計について、  
①様々な視点から学ぶこと  
②社会人に必要な会計知識の取得・活用  
を狙いとしている。

[学習成果] [A]

日商簿記3級の内容を理解し、同級に合格できる。市場の流れや、経理状況を取り巻く現状を理解し、社会人に必要な会計知識を取得・活用ができる。

[授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 簿記の歴史①
- 3 簿記の歴史②
- 4 会計取引の種類について
- 5 貸借対照表・損益計算書について
- 6 仕訳の計上・証ひょう・伝票について
- 7 売掛金・買掛金について
- 8 3分法・商品有高帳について
- 9 固定資産・減価償却について
- 10 試算表の作成①
- 11 試算表の作成②
- 12 試算表の作成③
- 13 総合問題①
- 14 総合問題②
- 15 前期まとめ・総合問題③

[授業方法]

配布資料を基に簿記の基礎を学ぶ。社会人になってから役立つ会計に関する知識を深め、活用できるようにする。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

試験 (70%)  
課題や授業への取組状況 (30%)

[教科書]

特になし

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

日商簿記3級の学習継続  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

授業に必要なもの：筆記用具、電卓  
日商簿記3級を受験する。  
受験費用は各自で負担する。  
進み具合により、内容は前向きに変更するものとする。

[科目名] 簿記応用Ⅱ  
[担当教員名] 木原 明日香  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LC10\_A22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

企業経営の根幹となる財務会計について、  
①様々な視点から学ぶこと  
②社会人に必要な会計知識の取得・活用  
を狙いとしている。  
また、実際に企業の経理が行っているような経理方法を、会計ソフトを用いて体験する。

[学習成果] [A]

日商簿記3級の内容を理解し、同級に合格できる。市場の流れや、経理状況を取り巻く現状を理解し、社会人に必要な会計知識を取得・活用ができる。また、会計ソフトを用いた経理入力ができるようになることを目的としている。

[授業計画]

- 1 前期の復習
- 2 試算表の作成①
- 3 試算表の作成②
- 4 試算表の作成③
- 5 試算表の作成④
- 6 総合問題①
- 7 総合問題②
- 8 弥生会計の入力① 経費
- 9 弥生会計の入力② 仕入・買掛金
- 10 弥生会計の入力③ 売上・売掛金
- 11 弥生会計の入力④ 在庫・減価償却
- 12 弥生会計の入力⑤ 試算表
- 13 年末調整について
- 14 所得税の確定申告について
- 15 後期のまとめ

[授業方法]

配布資料を基に簿記の基礎を学び、会計ソフト (弥生会計) を用いた演習を基本とする。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

試験 (70%)  
課題や授業への取組状況 (30%)

[教科書]

特になし

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

日商簿記3級の学習継続  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

授業に必要なもの：筆記用具、電卓  
日商簿記3級を受験する。  
受験費用は各自で負担する。  
進み具合により、内容は前向きに変更するものとする。

[科目名] ビジネス実務Ⅰ  
[担当教員名] 村田 剛  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LC10\_A21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

卒業後は就職して様々な「仕事」に就くことになるがその時点で社会人として基本的な知識や心構えを備えていることは、自分の価値を高めるに有用である。本講では種々の演習を通じて、そのための具体的な手法を学びトレーニングを行う。

[学習成果] [A]

社会人として組織の内外で自分を確立するための具体的な方法を知ると同時に、コミュニケーションの重要性について理解することができる。

[授業計画]

- 1 オリエンテーション、演習の進め方
- 2 ビジネスの場で必要とされる能力①
- 3 ビジネスの場で必要とされる能力②
- 4 ビジネス文書における日本語の使い方①
- 5 ビジネス文書における日本語の使い方②
- 6 ビジネス文書における日本語の使い方③
- 7 ビジネス文書の取扱いとマナー①
- 8 ビジネス文書の取扱いとマナー②
- 9 必要なコミュニケーション能力①
- 10 必要なコミュニケーション能力②
- 11 情報機器の活用と情報処理①
- 12 情報機器の活用と情報処理②
- 13 情報機器の活用と情報処理③
- 14 経理および労務の実務
- 15 まとめ

[授業方法]

講義を交えながらその都度テーマに沿った課題について自分の考えをまとめ、発表を通じて、参加者全員で共有・ディスカッションして深掘りしていく。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

課題や授業への取組状況 (60%)  
筆記試験 (40%)

[教科書]

特になし  
適宜プリントなどを配布

[参考書]

「ビジネス実務総論」森脇道子 (実教出版)

[準備学習 (予習・復習)]

次回授業までに前回の授業内容を見直しておくこと。  
関連する分野の内容に関し、書籍・インターネット等で積極的に情報収集を行い知見を得ておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科目名] ビジネス実務Ⅱ  
[担当教員名] 村田 剛  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LC10\_A22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

インターネットが発達し、各種の情報が容易に入手できるようになった現在、ビジネスの場で最も大切なことは「自分の頭で考えることができる」ことである。本講では、組織人として有用な「知識ではなく思考する」ための技術を学ぶと同時に、自身のコミュニケーション能力の向上を図り、本当になりたい自分像を確立する。

[学習成果] [A]

単なる知識をひけらかすのではなく、自分の頭で考えることの重要性を学ぶことで、これからの組織人として有用な人材像について理解することができる。

[授業計画]

- 1 オリエンテーション、演習の進め方
- 2 知識と思考の違い
- 3 問うことの重要性
- 4 判断基準とは
- 5 自分のフィルターを持つ
- 6 意味のあるデータ分析①
- 7 意味のあるデータ分析②
- 8 生産性を高めるビジネスグラフ①
- 9 生産性を高めるビジネスグラフ②
- 10 市場と価値
- 11 有益なマーケット感覚①
- 12 有益なマーケット感覚②
- 13 なりたい自分像を描く①
- 14 なりたい自分像を描く②
- 15 まとめ

[授業方法]

講義を交えながらその都度テーマに沿った課題について自分の考えをまとめ、発表を通じて、参加者全員で共有・ディスカッションして深掘りしていく。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

課題や授業への取組状況 (60%)  
筆記試験 (40%)

[教科書]

「自分のアタマで考えよう」ちきりん  
(ダイヤモンド社)

[参考書]

「マーケット感覚を身につけよう」ちきりん  
(ダイヤモンド社)

[準備学習 (予習・復習)]

次回授業までに前回の授業内容を見直しておくこと。  
関連する分野の内容に関し、書籍・インターネット等で積極的に情報収集を行い知見を得ておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科目名] マーケティング論  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_A21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

普段の生活の中には「マーケティング」を学べる材料が溢れていて、その中に囲まれて生活をしている。そんな身近な材料から「マーケティング」に親しんでほしい。覚える理論ではなく、自由に使い込む理論の習得を目指す。マーケティングマインドやセンスを得ることで、賢い学生、賢い社会人、賢い家庭人として将来の活動や日々の生活に必ず役に立つ。マーケティングは価値を創造し、その価値を伝え、利用し、利用し続けていくための実務的な理論である。社会に出て、業種や業態を問わず有用に活用できるメリットも沢山ある。また、「マーケティング」を「個人」に置き換えると、「個人の価値を創造し」「個人の価値を伝える」ことにも活用でき、この講義の冒頭は個人のブランド創造…マーケティングを就活に利用することにもチャレンジする。

#### [学習成果] [A]

マーケティングが得意科目となり、基礎的なマーケティングセオリーを自在に使い、貴女を取巻く社会で日々継続的に行われているマーケティング事象について自身で評価し、方向性を考える能力が身につく。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション&身の回りのマーケティング
- 2 マーケティング基礎①  
(環境分析とマーケティング)
- 3 マーケティング基礎② (価値創造 STP-4P)
- 4 マーケティング基礎③  
(価値の伝達：コミュニケーション)
- 5 マーケティング基礎④ (価値のブランド化)
- 6-7 マーケティング基礎⑤ (フィールドワーク：企業施設見学)
- 8 中間レポート作成①
- 9 中間レポート作成②
- 10 中間レポート発表とマーケティング評価
- 11 マーケティング演習に向けての講義
- 12 マーケティング演習①
- 13 マーケティング演習②
- 14 マーケティング演習③
- 15 クロージングセッション：就職に使うマーケティング

※フィールドワークはメンバーの都合日を相談して決定する。

※フィールドワークは2限分の内容を1日の中で実施する予定。

#### [授業方法]

講義+個人、グループワーク  
アクティブラーニング導入。  
企業(マーケティング)の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
期末レポート (30%)、中間レポート (20%)

#### [教科書]

「マーケティング基礎読本」  
(日経BP社 日経BPムック2017)

#### [参考書]

授業毎に資料を配布します。

#### [準備学習(予習・復習)]

興味関心をもって身の回りを観察すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

ワード、エクセル、パワーポイントを多用します。

[科目名] 社会調査法演習  
[担当教員名] 武本 勉  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_A22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

社会調査論演習では、1年時に社会調査法の入門編を学習し、調査の基礎実務を体験いただきました。さらに学習されたマーケティング論の知識も活用し、より高度なマーケティングリサーチの演習を行う。

ポイントは、「調査計画書」「調査票作成」「実査」「集計」「分析」「報告書」の内、「報告書」の後半に「提案」を組み込むことである。マーケティング論で学習した「STP」や「4P」に繋げていく提案を組み込むことが「基礎編」と「演習編」の差である。

社会調査法演習は調査によって単に事実や実態を把握するに留まらず、「マーケティング」で学習した、「新しい価値を創造する」、「今の価値を持続する」、或いは、「強いブランドに育成する」ことのためにヒントになるような提案を付加できるかが重要である。

#### [学習成果] [A]

既学習のマーケティングの知識と調査実務の知識を合わせて、初級マーケティングリサーチ実務が出来るようになる。課題に応じて適切な調査計画書が企画でき、自分自身でも調査推進が可能なことと、調査専門業者との基本的な交渉が可能になる。

実社会でマーケティングマインドを持ったビジネスリーダーとして活躍の入り口が作れる。

#### [授業計画]

- 1 イントロダクション(社会調査論/マーケティング論を振り返る)
- 2 調査実習1-1 (社会調査法での個人実施をベースにした調査続編を考える)
- 3 調査実習2-1 (調査企画書～調査票作成)
- 4 調査実習2-1 (調査票完成)
- 5 調査実習3-1 (実査結果集計～分析～報告書)
- 6 調査実習4-1 (報告書完成)
- 7 調査実習1 調査報告書発表(特にマーケティング的提案を意識)
- 8 調査実習1-2 (グループインタビュー実習)
- 9 調査実習2-2 (グループインタビュー実習)
- 10 調査実務1-3 (与えられた課題に対しての調査企画書～調査票の作成)
- 11 調査実務2-3 (調査企画書と調査票の発表/議論…実査はしない)
- 12 調査実務：自由課題 (個人設定課題：調査企画書・調査票作成)
- 13 調査実務：自由課題 (調査票完成)
- 14 調査実務：自由課題 (実査結果集計と分析～報告書作成)
- 15 調査実務：自由課題 (報告書完成：期末レポート)  
※課題進捗によってはシラバスの内容変更の可能性 (事前案内)

#### [授業方法]

講義+グループワーク、個人ワーク  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
調査実習1~3 (30%)  
調査実務 (期末レポート) (30%)

#### [教科書]

必要な教材・資料配布

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

自分自身、家族、友人の消費行動に関心、観察を行う。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

ワード、エクセル、パワーポイントの高いスキルを活用する。



[科目名] 電子カルテ演習Ⅰ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_A21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

**[授業概要]**

医療の現場では電子カルテをはじめとする各種業務を支援する多様な医療情報システムの知識とスキルが必須である。医事コンピュータシステム・電子カルテシステム（医療事務教育ソフト）を使用し、その機能と基本的操作方法を習得する。

**[学習成果] [A]**

医事コンピュータシステム、電子カルテシステムの現状と役割を知り、基本的な仕組みと操作の流れを理解し、外来カルテの代行入力ができる。

**[授業計画]**

- 1 電子カルテシステムとは
- 2 医事コンピュータ レセプト演習①
- 3 医事コンピュータ レセプト演習②
- 4 IT化の流れと診療録の電子化、電子カルテの定義、機能
- 5 患者受付、問診入力等、基本的入力操作
- 6 診療録の記載方法（SOAP形式の入力操作）
- 7 診療所 外来カルテの代行入力①
- 8 診療所 外来カルテの代行入力②
- 9 診療所 外来カルテの代行入力③
- 10 病院 外来カルテの代行入力①
- 11 病院 外来カルテの代行入力②
- 12 病院 外来カルテの代行入力③
- 13 演習 外来カルテの代行入力①
- 14 演習 外来カルテの代行入力②
- 15 演習 外来カルテの代行入力③、まとめ

**[授業方法]**

医事コンピュータシステム、電子カルテシステムを使用した演習中心の授業である。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業への取組状況（20%）  
課題、レポート提出状況（30%）  
定期試験（50%）

**[教科書]**

カルテ例題集  
電子カルテシステムの理解と演習  
C&C電子カルテシステムⅡ操作テキスト

**[参考書]**

診療報酬点数早見表  
医療事務演習テキスト

**[準備学習（予習・復習）]**

わからないところはそのままにせず、確認すること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

**[備考]**

授業は必ず出席すること。  
課題はしっかり取り組み、期限までに提出すること。  
提出物はファイリングすること。

[科目名] 電子カルテ演習Ⅱ  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_A22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

**[授業概要]**

電子カルテ演習Ⅰで学んだ電子カルテシステムの操作方法に加え、医療現場のニーズに対応した電子カルテシステムの理解、関連知識等を習得する。また、医師事務作業補助者に求められる、医療現場のニーズに対応した医事OAスキルを習得する。

**[学習成果] [A]**

必要な関連知識の習得に加え、実際に医事コンピュータシステム・電子カルテシステムを使い、入力カルテの代行入力、診断文書の代行入力ができる。

**[授業計画]**

- 1 前期の振り返り・入力操作方法の復習
- 2 外来カルテの代行入力
- 3 病院 入院カルテの代行入力①
- 4 病院 入院カルテの代行入力②
- 5 病院 入院カルテの代行入力③
- 6 病院 入院カルテの代行入力④
- 7 医師事務作業補助の必要性
- 8 文章作成の代行入力①（紹介状）
- 9 文章作成の代行入力②（診療情報提供書）
- 10 文章作成の代行入力③（診断書等）
- 11 文章作成の代行入力④（診断書等）
- 12 演習①
- 13 演習②
- 14 演習③
- 15 まとめ

**[授業方法]**

医事コンピュータシステム、電子カルテシステムを使用した演習中心の授業である。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業への取組状況（20%）  
課題、レポート提出状況（30%）  
定期試験（50%）

**[教科書]**

電子カルテシステムの理解と演習  
C&C電子カルテシステムⅡ操作テキスト

**[参考書]**

診療報酬点数早見表  
医療事務演習テキスト

**[準備学習（予習・復習）]**

わからないところはそのままにせず、確認すること。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

**[備考]**

授業は必ず出席すること。  
課題はしっかり取り組み、期限までに提出すること。  
提出物はファイリングすること。

[科目名] 医療秘書実務演習  
[担当教員名] 堀 智美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_A21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

医療秘書や医療機関に必要な対応を体得する。実習室の受付カウンターで役割分担し、患者対応などをロールプレイを行う。実際に想定されるケーススタディも踏まえ、それぞれの立場から感じられることをディスカッションする。

#### [学習成果] [A]

医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応を実際に行い、身につける。役割を演じることで、必要な判断能力やスピード、適切な対応、優先順位などを考え、医療機関での役割を確認する。患者対応はもちろん、チーム医療を行うために必要なスタッフとのコミュニケーション能力も向上させることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 接遇①
- 3 接遇②
- 4 感じのよい話し方
- 5 対象別対応について
- 6 ロールプレイ①
- 7 ロールプレイ②
- 8 ロールプレイ③
- 9 実習に向けて (服装・心構え・注意事項等)
- 10 実習の振り返り
- 11 電話応対
- 12 高齢者について
- 13 総合演習ロールプレイ①
- 14 総合演習ロールプレイ②
- 15 総合演習ロールプレイ③

#### [授業方法]

各項目演習で理解を深め、課題に対してロールプレイを繰り返し行う。

フィードバックを行い、客観的な自己の評価を受け止めて相手に届けられる技術を確認する。

アクティブラーニング導入。

総合病院 (医療事務) の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (60%)

試験 (40%)

#### [教科書]

「医療における接遇の基本」 (建帛社)

#### [参考書]

配布資料、随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。

授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

医療スタッフに必要なことを理解するだけでなく、行動して相手に届いていることが自覚できるように心がける。

[科目名] 医療秘書実務実習  
[担当教員名] 小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_A21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

医療機関における医事および診療実務等を実習し、業務の流れを理解することにより、医療秘書実務士の役割と実務を体得する。また、医師を中心とするメディカルスタッフの相互連携と機能の実際と患者対応を習得する。

#### [学習成果] [A]

学外実習は医療機関 (病院) において行い、実習を通し医療機関で働くことの意義を知り、実習体験を就職活動に活かせるようにする。医師、スタッフ、患者様とのコミュニケーションの大切さを学び、現場で必要とされる技術と知識を習得することができる。

#### [授業計画]

##### 事前指導

- 1 医療秘書実務実習の意義、実習に向けて、実習先希望調査、面接・個別指導
- 2 実習先の情報収集、実習先決定
- 3 心構えと事前指導、実習ノートに関する指導

##### 実習

- 1 病院組織の総理解 (医事および事務部門、診療検査、薬剤、看護、入院の各部門など)
- 2 医事課業務の実習 (受付、診察券の発行、カルテの作成配布回収、レセプトの作成など)
- 3 病棟業務の実習 (入院手続き、カルテの処理、看護業務の処理、退院手続きとその処理など)
- 4 検査業務の実習 (検査票の処理、検査の準備、検査結果関係書類の処理、器具の整備など)
- 5 診療秘書の実習 (診察室や診療器具の整備、患者の呼び込み、診療体制の準備、患者への指示、カルテの処理、来客の応対など)

##### 事後指導

- 1 実習ノート、報告書提出
- 2 個別の事後指導
- 3 事後報告会

#### [授業方法]

学内で実習に向けての事前指導の後、実際に医療機関での実習。実習後にレポート等の提出と報告会を行う。

#### [成績評価]

授業・実習への取組状況 (評価表含む) (70%)

実習ノート、報告書 (30%)

#### [教科書]

医療秘書実習実習ノート

#### [参考書]

「医療における接遇の基本」 (建帛社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

実習先医療機関について十分な事前予習を行う。

実習後は報告書の作成をする。

日頃から、医療に関わるニュース・記事に関心を持ち目を通す。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

連絡をきちんと行い、提出物など、必ず期日を守ること。実習中の健康管理に注意すること。

[科目名] 介護事務演習  
[担当教員名] 岩田 聡  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_A22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

平成30年4月に6度目の介護保険制度改正が実施されました。法改正後の介護保険制度の仕組みや、介護報酬請求の実務について学ぶとともに、介護福祉施設の事務担当者の実際の仕事や責務等を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

介護保険サービス別に算定のポイントを学び、介護保険請求を手書き学習することで、正確に介護給付費明細書を作成できる知識・技術を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 介護保険制度の概要
- 2 介護保険制度の基本構成①
- 3 介護保険制度の基本構成②
- 4 給付管理業務
- 5 介護報酬の原則
- 6 介護報酬算定のポイント①
- 7 介護報酬算定のポイント②
- 8 サービスコード表の活用方法
- 9 介護給付費明細書の作成・演習 (居宅サービス①)
- 10 介護給付費明細書の作成・演習 (居宅サービス②)
- 11 介護給付費明細書の作成・演習 (居宅サービス③)
- 12 介護給付費明細書の作成・演習 (居宅サービス④)
- 13 介護給付費明細書の作成・演習 (施設サービス①)
- 14 介護給付費明細書の作成・演習 (施設サービス②)
- 15 介護給付費明細書の作成・演習 (施設サービス③)

#### [授業方法]

授業及び演習を主体とし、授業ごとに理解力テストを実施する。毎回、授業の冒頭に理解力テストの解説と復習を行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
試験 (50%) 授業ごとに理解力テストを実施する。  
※施設研修時はレポート提出がある。

#### [教科書]

「介護報酬基本テキスト (手書き学習用)」  
「介護報酬サービスコード表」

#### [参考書]

必要資料は随時配布する。

#### [準備学習 (予習・復習)]

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

電卓を準備してくること。

[科目名] 調剤事務演習  
[担当教員名] 中島 沙耶加  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_A21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

基礎知識から処方せんの解説、レセプト作成作業等を学び、資格取得を目指す。

また、実際の業務内容を伝え、知識を深めることにより、社会に出た時に役立つ能力を身につけることがねらい。

#### [学習成果] [A]

調剤薬局がどのような役割を果たしているのかを理解し、現場で即戦力となるための知識、能力を養うことができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 医療保険と保険薬局
- 3 医療品の基礎知識
- 4 調剤基本料
- 5 調剤料
- 6 調剤料の加算
- 7 薬学管理料
- 8 薬剤料・特定保険医療材料
- 9 公費・労災・介護保険
- 10 前半まとめ
- 11 レセプト作成
- 12 レセプト作成
- 13 レセプト作成
- 14 受付ロールプレイ
- 15 模擬試験・まとめ

#### [授業方法]

テキストを主教材として用いた講義が主体。グループディスカッション、ロールプレイ、レセプト作成演習を取り入れ学習する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
模擬試験 (50%)

#### [教科書]

「調剤報酬テキスト」  
「調剤報酬処方箋問題集」

#### [参考書]

必要資料は適宜配布

#### [準備学習 (予習・復習)]

テキストをしっかりと見直し、授業内容のポイントを復習すること。関連する分野に関心を持ち、授業に臨むこと。分からないことや疑問に思ったことはそのままにせず、質問したり、考える努力をすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

授業ではノート、必要に応じてプリントを使用。レセプト作成時には、電卓・定規を用意すること。

[科目名] 薬理学  
[担当教員名] 窪田 傑文  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

[授業概要]

薬理学とは医薬品(薬物)が生体にいかに作用するかを解析する学問である。主な疾患の病態・病因を理解した上で、分子、細胞、組織レベルでの医薬品の作用機序を理解し、薬物による治療戦略、副作用、禁忌などの薬物治療における基礎知識を習得する。

[学習成果] [A]

医療に携わる人間として、メディカルスタッフ・メディカルスタッフおよび患者とのコミュニケーションをとるために必要な基礎的な薬理学的知識を習得できる。

[授業計画]

- 1 薬理学概論  
～薬の役割、剤形、法的分類、投与経路～
- 2 薬が作用するしくみと薬物動態
- 3 神経の疾患と治療
- 4 循環器に関連する疾患と治療1
- 5 循環器に関連する疾患と治療2
- 6 ホルモンに関連する疾患と治療
- 7 ビタミン・ミネラルの薬
- 8 呼吸器系の疾患と治療
- 9 消化器系の疾患と治療1
- 10 消化器系の疾患と治療2
- 11 免疫系の疾患と治療
- 12 がんと治療
- 13 感染症と治療
- 14 眼・耳・鼻・皮膚に作用する薬、妊婦と薬、小児と薬
- 15 薬理学総論・まとめ

[授業方法]

教科書を主教材として用いた講義を行う。補助的にプロジェクターや配布資料を用いる。

[成績評価]

- 定期試験 (70%)
- 授業態度 (30%)

[教科書]

「イラストで理解するかみくだき薬理学」(南山堂)

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

解剖生理学の復習をしておくこと。前回までの講義の復習をし、予習として該当講義分野の教科書を読んでおくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

[科目名] 健康フィットネス演習Ⅰ  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_D21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

身体活動は健康な生活の維持・増進に必要である。毎回のエアロビクスダンス等の実技によって、自分自身の健康的なからだ作りのために、栄養と運動について考える、実践する力をつける。運動では、特にエアロビクスダンスエクササイズの実技を通して、体を動かす意義を理解する。

[学習成果] [D]

運動を通して、自身の体と向き合うことで、自身の健康管理やより快適な体づくりに向けた、正しい有酸素運動やトレーニング、ストレッチングの方法を修得できる。

[授業計画]

- 1 エアロビクスダンスエクササイズ体組成測定と理解
- 2 エアロビクス①ウォーミングアップ
- 3 エアロビクス②ストレッチング
- 4 筋力と健康—疾病の理解—
- 5 エアロビクス③トレーニング
- 6 栄養と身体活動①
- 7 エアロビクス④ローインパクトの動きⅠ
- 8 エアロビクス⑤ローインパクトの動きⅡ
- 9 エアロビクス⑥ハイインパクトの動き
- 10 心と健康
- 11 エアロビクス⑦コンビネーションプログラム
- 12 エアロビクス⑧コンビネーション①
- 13 エアロビクス⑨コンビネーション②
- 14 エアロビクス⑩コンビネーション③
- 15 体組成測定・体力測定

[授業方法]

実技は、エアロビクスダンスエクササイズのレッスン形式で行う。リズムに合わせてウォーミングアップ、メインエクササイズ、ウォームダウンの一連の流れを行う。演習は、資料作成、グループワークを行い、アクティブラーニングを導入する。

[成績評価]

- 授業への取組状況 (40%)
- 課題 (20%)
- 実技試験 (40%)

[教科書]

教材プリント配布

[参考書]

GFIのためのフィットネス基礎理論・  
エアロビクスダンスエクササイズ指導理論  
(社)日本フィットネス協会)

[準備学習(予習・復習)]

毎回毎回の授業の振り返り、次週の学びについて解説を行うことから予習・復習を求める。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

フィットネスウェア、運動シューズ、タオル、水分補給用の飲み物が毎回必要となる。どのようなものが適しているかは、初回のオリエンテーションで解説するので、各自用意願いたい。

[科目名] 健康フィットネス演習Ⅱ  
[担当教員名] 西澤 早紀子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_D22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

身体活動は健康な生活の維持・増進に必要である。前期の健康フィットネス演習Ⅰを発展させ、自身はもちろんのこと、公共的な政策を学び、自身が社会の一員として健康増進政策をどのように立案するかを考える。

#### [学習成果] [D]

自身の身体を客観的に捉えることができるようになる。健康づくりに必要な知識を修得できる。エアロビクスの動きとその名称を理解し、動きを組み合わせることで実演できる。また、集大成として、動きを組み合わせることでプログラムを作成し、実演できるようになる。

健康増進政策を学び、自身の健康づくりの問題点、解決法、今後の自身の健康増進法について考えられる力がつく。

#### [授業計画]

- 1 体組成測定・体力測定 (有酸素能力)
- 2 エアロビクス①ローインパクト
- 3 エアロビクス②ハイインパクトⅠ
- 4 エアロビクス③ハイインパクトⅡ
- 5 エアロビクス④ハイインパクトⅢ
- 6 エアロビクス⑤ハイインパクトⅣ
- 7 エアロビクス⑥ハイインパクトⅤ
- 8 エアロビクス⑦ダンスエアロ
- 9 エアロビクス⑧プログラム作成
- 10 日本の健康づくり政策
- 11 エアロビクス⑨プログラム実技Ⅰ
- 12 世界の健康づくり政策
- 13 エアロビクス⑩プログラム実技Ⅱ
- 14 エアロビクス⑪プログラム実技Ⅲ
- 15 体組成測定・体力測定 (有酸素能力)

#### [授業方法]

実技は、エアロビクダンエクササイズのリッスン形式で行う。

演習は、資料作成、グループワークを行い、アクティブラーニングを導入する。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (40%)  
課題 (20%)  
実技試験 (40%)

#### [教科書]

教材プリント配布

#### [参考書]

GFIのためのフィットネス基礎理論  
エアロビクダンエクササイズ指導理論  
グループエクササイズ指導理論  
(社)日本フィットネス協会

#### [準備学習 (予習・復習)]

1年間の集大成として、エアロビクダンエクササイズ授業外学習 (復習・予習)、練習に励むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習)を参照)

#### [備考]

フィットネスウェア、運動シューズ、タオル、水分補給用の飲み物が毎回必要となる。

[科目名] 調理実習  
[担当教員名] 山本 景子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCI0\_D21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

日常生活における「食と健康」について調理実習を通して学ぶ。日本の食文化の基本となる和食を献立の組み合わせ、栄養バランス、食材の選択と調理、盛り付けまで知識と技術を習得する。

#### [学習成果] [D]

- ・日本の食生活の中で自ら健康を考えて食を選ぶ力が身につく。
- ・調理の基本技術を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 食と健康について
- 2 日本料理①
- 3 日本料理②
- 4 日本料理③
- 5 日本料理④
- 6 中国料理①
- 7 中国料理②
- 8 アジア料理
- 9 洋風料理①
- 10 洋風料理②
- 11 食物アレルギーに配慮した食事①
- 12 食物アレルギーに対応した食事②
- 13 幼児期の食事
- 14 高齢期の食事
- 15 お弁当

#### [授業方法]

デモンストレーションのあと、グループに分かれて調理実習を行い、試食をする。

途中グループを組み替え、コミュニケーションスキルを高める。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (45%)  
提出物 (55%)

#### [教科書]

配布資料

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

実習献立を確認し、事前に予習をして授業に臨むこと。  
実習後は復習をして毎回レポートにまとめ提出すること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習)を参照)

#### [備考]

実習時にはエプロン・三角布を着用する。

グループワークでのコミュニケーションスキルの向上を心がける。

[科目名] 製菓・製パン実習  
[担当教員名] 山本 景子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 生活文化  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCI0\_D22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

製菓・製パンの材料について理解を深める。さらに実習を通じて製菓・製パンの基礎的知識と技術を学習することをねらいとする。

#### [学習成果] [D]

製菓・製パンにおいて素材の知識や調理過程の食材の変化についての理解は重要である。本実習ではそれらを十分に学習する。製菓・製パンの技術を向上させ、正確かつ、美味しい菓子・パンを製作するスキルが身につく。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 洋菓子 (1)
- 3 洋菓子 (2)
- 4 洋菓子 (3)
- 5 洋菓子 (4)
- 6 洋菓子 (5)
- 7 洋菓子 (6)
- 8 パン (1)
- 9 パン (2)
- 10 パン (3)
- 11 パン (4)
- 12 和菓子
- 13 洋菓子 (7)
- 14 洋菓子 (8)
- 15 まとめ

#### [授業方法]

はじめに教員によるデモンストレーションを行ったのち、学生が菓子およびパンの製作を行う。この実習は、学生ひとりひとりで製作するため、実習中は個別に教員が指導する。毎回授業で学んだことをレジユメに書き留め、次の授業でふりかえりを実践する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

実習への取組状況 (70%)  
レポート (30%)

#### [教科書]

オリジナルレシピのレジユメ配布

#### [参考書]

適宜紹介する

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業で押さえたポイントをレジユメに書き留め、次の授業の前にふりかえり、実習に活かすこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

菓子作りが好きな人はもちろん、挑戦してみたいけれど機会がなかった人や菓子作りが初めての人にも丁寧に教えるので安心して受講してほしい。菓子やパンは生活に潤いを与えるものである。製菓・製パン実習を通じて、手作りの楽しさや美味しさを一緒に体得してほしい。

なお、各自実習した菓子・パンは持ち帰る。

## 2 専門科目

幼児教育学科 第1部 1年

[科目名] 保育原理  
[担当教員名] 庄子 佳吾  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保育士養成課程の必修科目「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。①保育の意義及び目的、②保育に関する法令及び制度、③保育所保育指針における保育の基本、④保育の思想と歴史の変遷、⑤保育の現状と課題について概説する。

#### [学習成果] [A]

①保育の意義及び目的、②保育に関する法令及び制度、③保育所保育指針における保育の基本、④保育の思想と歴史の変遷、⑤保育の現状と課題について理解し、保育者としての基本的知識・態度を身に付ける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 保育の意義及び目的
- 3 子どもと保育に関する法令及び制度(1): 保育所①
- 4 子どもと保育に関する法令及び制度(2): 保育所②
- 5 子どもと保育に関する法令及び制度(3): 幼稚園
- 6 子どもと保育に関する法令及び制度(4): 幼保連携型認定こども園
- 7 子どもと保育に関する法令及び制度(5): 子ども・子育て支援新制度
- 8 保育所保育指針における保育の基本(1): 保育の目標・内容
- 9 保育所保育指針における保育の基本(2): 保育の環境・方法
- 10 保育所保育指針における保育の基本(3): 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環①
- 11 保育所保育指針における保育の基本(4): 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環②
- 12 諸外国の保育の思想と歴史
- 13 日本の保育の思想と歴史
- 14 諸外国の保育の現状
- 15 日本の保育の現状と課題

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループワークや視覚教材、体験学習等を取り入れ、子どもと保育の営みの理解が深まるようにする。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

定期試験 (50%)  
授業への取組状況 (50%)

#### [教科書]

特になし。授業中に適宜資料を配付する。

#### [参考書]

「教育原理 (シリーズ 生活事例からはじめる)」  
竹石聖子・内山絵美子 編著 (青踏社)  
「保育所保育指針解説」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

#### [準備学習 (予習・復習)]

次回のテーマの予習並びに授業前に前回の授業内容を見直し、復習を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日日時は掲示で確認) に受け付けます。

[科目名] 社会的養護 I

[担当教員名] 倉橋 幸彦  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童の保育や福祉のために必要な基礎知識を学ぶ。我が国の社会的養護の施策を学び、社会的養護を必要とする児童や家庭の諸問題をより深く理解する。

#### [学習成果] [A]

我が国の社会的養護の施策を学び、保育の現場で活かせる実践的指導力の基礎知識を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 授業の導入 社会的養護の考え方と理念
- 2 社会的養護の現状①
- 3 社会的養護の現状②
- 4 社会的養護の領域①
- 5 社会的養護の領域②
- 6 社会的養護の運営と財政
- 7 社会的養護に関する関係諸機関と連携①
- 8 社会的養護に関する関係諸機関と連携②
- 9 社会的養護に関する制度と育成支援①
- 10 社会的養護に関する制度と育成支援②
- 11 社会的養護の領域における権利保障①
- 12 社会的養護の領域における権利保障②
- 13 実践事例から学ぶ児童養護理論①
- 14 実践事例から学ぶ児童養護理論②
- 15 社会的養護の歴史 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体であるが、DVDの視聴や事例をもとに社会的養護の現状はじめ、基礎知識を学ぶ。

#### [成績評価]

筆記試験 (70%)  
課題・レポート等 (20%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護」  
喜多一憲監修・堀場純矢編 (株式会社みらい)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

予告した単元については購入した教科書を読んで授業に参加すること。毎授業後に示すレポートやノートの提出をし、再度教科書を読み授業内容を見直すこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

積極的に参加し、社会的養護の問題をみんなで深めあっていきましょう。



[科目名] 保育者論  
[担当教員名] 鈴木 真知子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保育とは子どもだけでなく、保護者支援、地域との連携など様々な子育てに関するニーズに応える役割があり、保育者としての責務があることを理解する。理論と実践を結び付け、保育者の専門性について理解を深めると共に、目指す保育者像を具体化していく。

#### [学習成果] [A]

保育者の役割や制度的な位置づけを理解した上で、保育現場で実践し、成長していく保育者としての視点を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 目指す保育者像
- 2 現在の保育事情 (少子化と保育士不足と待機児童問題)
- 3 いま「保育者」をめざす人たちへ
- 4 幼稚園・保育園・認定こども園の特色
- 5 保育者の仕事と役割
- 6 保育者になるための学び
- 7 保育者に求められる資質とは
- 8 職場で学びあう専門家
- 9 子どもの育ちの危機と子育て支援
- 10 子どもの育ちの危機と子育て支援
- 11 現代社会の変化と保育者の仕事や課題
- 12 日本の保護者のあゆみ
- 13 資料に見る保育者の姿
- 14 諸外国の保育者
- 15 キャリアビジョン

#### [授業方法]

第4回までは、グループワークによる課題への取り組み、発表、まとめを、アクティブラーニングによって相互に学び、理解を深めていく。

第5回以降はテーマに合わせた個人発表を行い、質疑応答、評価反省を行って主体的な学びを行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況、授業の振り返りプリント提出等 (20%)  
発表 (30%)  
筆記試験 (50%)

#### [教科書]

「新時代の保育双書 今に生きる 保育者論 第4版」  
(みらい)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

(予習) 課題、テーマに関する下調べ、プレゼン準備  
(復習) 課題、テーマに関する振り返り、まとめ  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

グループワークでは、よりよい学びのために一人一人の積極的な参加を期待します。  
個人発表では、発表形態は自由でそれぞれの工夫を期待します。

[科目名] 保育の心理学  
[担当教員名] 林 貴子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_B12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

乳幼児期の知的な発達、身体的な発達、そして対人関係や人格の発達などを具体的に学びながら、保育と発達との関係について理解を深めることを目的とする。特に人とのかかわりの中で子どもをどのように捉えていくかなどを理解する。

#### [学習成果] [B]

- 1 保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解することができる。
- 2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となることへの理解を深めることができる。
- 3 乳幼児期の学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互作用や体験、環境の意義を理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 発達を理解することの意義
- 2 保育実践の評価
- 3 発達観と保育観
- 4 発達を規定する要因
- 5 感情の発達
- 6 運動機能の発達
- 7 知覚と認知の発達
- 8 言葉の発達
- 9 基本的信頼感の獲得
- 10 愛着の形成
- 11 初期経験と発達援助
- 12 新生児の発達
- 13 乳幼児期の発達
- 14 乳幼児期の学びの過程と特性
- 15 乳幼児期の学びを支える保育

#### [授業方法]

講義による授業形態。学生に理解を深めさせるために、事例を検討し発表する。DVD等を用い発達心理学における最新の研究を視覚的に提示する。さらに、子育て支援センターで子どもたちを観察することによって、子どもたちの発達評価等を体験的に学ぶ。公務員試験の過去問の中で、授業内容の関連過去問を抽出し解く。

#### [成績評価]

中間テスト (20%)  
小テスト・レポート (50%)  
平常点 (30%) (平常点：授業参加度、授業態度等)

#### [教科書]

「保育の心理を学ぶ」長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子 著 (ななみ書房)

#### [参考書]

「保育を支える発達心理学」鯨岡峻・鯨岡和子著 (ミネルヴァ書房)  
「発達心理学」無藤隆・中坪史典・西山修編著 (ミネルヴァ書房)

#### [準備学習 (予習・復習)]

レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

毎回授業の学習量が多いため、授業の終わりに予習事項を知らせる。毎回予習を持って授業に臨むことが望ましい。

[科目名] 子ども家庭支援の心理学  
[担当教員名] 林 貴子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_B12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

生涯発達全般及び、乳児期の発達の重要性について発達段階、発達課題等の概念から学習する。また生活の大部分を過ごす家庭の役割、親子関係など発達の観点から家庭について学習する。その他に社会の変化に伴う近年の子育て家庭の現状と課題、子どもの精神保健について理解できるよう学習する。

#### [学習成果] [B]

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。家庭の意義や機能を理解するとともに、発達の観点から家庭・家族を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解する。

#### [授業計画]

- 1 生涯発達の概念と発達課題
- 2 乳幼児期から学童期までの発達
- 3 学童期後期から青年期までの発達
- 4 成人期、老年期の発達
- 5 家族・家庭の意義と機能
- 6 現代の家庭における人間関係
- 7 子どもの発達と家庭
- 8 子育てを取り巻く社会状況
- 9 ライフコースと仕事・子育て
- 10 子育ての経験と親としての育ち
- 11 多様な家庭とその理解
- 12 特別な配慮を要する家庭
- 13 子どもの心の健康と発達
- 14 子どもの生活・生育環境とその影響
- 15 子どもの心の健康に関わる問題

#### [授業方法]

講義が主体であるが、グループワークを通しての実践的なアクティビティを取り入れ、家庭支援に関わる心理学的なアプローチを学べるように構成する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験(70%)  
課題や授業への参加状況(30%)

#### [教科書]

「子ども家庭支援の心理学」原信夫・井上美鈴編著

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

テキストを事前に講読してくる。授業内容に関する課題に取り組み、提出する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 子どもの食と栄養 I  
[担当教員名] 小野内 初美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_B11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

はじめに、栄養学の基礎である栄養生理、栄養素を理解する。さらに、子どもの発育・発達に必要な栄養素と、それらを含む食品、咀嚼・嚥下・消化・吸収機能の発達にともなった、栄養素摂取と食生活を学ぶ。また、保育者として、子どもの食生活上の問題点を考えながら、子どもに適した栄養素摂取や食生活の必要性、子どもが体得した食習慣が成人に達してからの心身の健康に及ぼす影響を認識する。

#### [学習成果] [B]

子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるための、栄養学や食生活の知識を習得し、保育者として子どもや保護者への食生活支援ができる知識が身につく。また、健康であることの大切さを理解し、食育を実践できる知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 子どもの健康と食生活の意義
- 2 子どもを取り巻く食環境と課題
- 3 栄養に関する基礎知識①(栄養の生理、栄養素の種類と機能)
- 4 栄養に関する基礎知識②(栄養素の種類と機能)
- 5 食事摂取基準とその活用、保育所等における献立
- 6 保育所における食事の提供ガイドライン
- 7 妊娠のメカニズムと出産、妊娠期・授乳期の食生活
- 8 乳児期(乳汁期・離乳期)の発育と食生活
- 9 幼児期の発育・発達と食生活
- 10 学童期、思春期の発育・発達と食生活
- 11 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 12 食育の基本と内容及びその環境
- 13 食育の計画及び評価
- 14 疾病及び体調不良、障がいのある子どもへの食生活の対応
- 15 食物アレルギーのある子どもへの対応  
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン

#### [授業方法]

理論を学びながら演習を中心とする。学生が主体的に学べるようにグループ学習や調べ学習を行う。問題点やその解決のための対応について、ディスカッションを取り入れる。単元終了ごとに小テストやレポート作成を行う。アクティブラーニング導入。  
産業給食(企業内)栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況(20%)  
筆記試験(小テスト含む)(60%)  
レポート等の提出物(20%)

#### [教科書]

「新版 子どもの食と栄養」岩田章子他編(みらい)

#### [参考書]

「保育所における食事の提供ガイドライン」  
平成24年3月(厚生労働省)  
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン  
(2019年改訂版)」(厚生労働省)

#### [準備学習(予習・復習)]

今回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心掛けると良い。

[科目名] 子どもの食と栄養Ⅱ  
[担当教員名] 小野内 初美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_B12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

調理を多く取り入れ、食材に触れることにより、「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容に対する理解を深めていくとともに、子どもの発育・発達に適した調理形態の変化、食品選択、食生活を実践的に学ぶ。また、子どもの養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育について理解する。

#### [学習成果] [B]

調理を通して食材を知り、基本的な調理技術を身に付け望ましい食生活への理解を深めることができる。子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるための、栄養学や食生活の知識を実践的に習得し、子どもや保護者への食生活支援、食育実践ができる能力が身につく。食事を楽しむ気持ち、健康であることの大切さを理解できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション (実習室の使い方、衛生管理)
- 2 乳汁栄養 (調乳) ・果汁・スープ
- 3 離乳初期 (生後5、6か月)
- 4 離乳中期 (生後7、8か月)
- 5 離乳後期 (生後9～11か月)
- 6 離乳完了期 (生後12～18か月)
- 7 幼児食 (1、2才)
- 8 幼児食 (3～5才)
- 9 学童期の食事
- 10 間食 (おやつ)
- 11 行事食
- 12 偏食、食欲不振時の食事
- 13 食物アレルギー対応の食事①
- 14 食物アレルギー対応の食事②
- 15 食育

#### [授業方法]

演習を中心とするが、実際に食材に触れ、調理を行うことを多く取り入れ、食への関心を高める。テーマごとにレポート作成を行う。

アクティブラーニング導入。

産業給食 (企業内) 栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 授業への取組状況 (20%)
- 筆記試験 (50%)
- レポート等の提出物 (30%)

#### [教科書]

「新版 子どもの食と栄養」岩田章子他編 (みらい)

#### [参考書]

- 「子どもの食と栄養演習ブック」松本峰雄監修 (ミネルヴァ書房)
- 「授乳・離乳の支援ガイド」2019年3月
- 「授乳・離乳の支援ガイド」改定に関する研究会

#### [準備学習 (予習・復習)]

次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心掛けると良い。

[科目名] 領域「人間関係」

[担当教員名] 和仁 正子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

乳幼児期に人とどのようにかかわっていくのかその過程と発達の姿を理解し、人とかかわる力を身に付けていくために保育者はどのように保育計画を立て援助すべきかを考える。

#### [学習成果] [C]

乳幼児期における人と関わる力の発達や幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されている内容や保育者としての保育・指導方法が理解できる。

#### [授業計画]

- 1 今日の人間関係
- 2 乳幼児期の発達・愛着の形成
- 3 身近な大人との関わり・受容と応答
- 4 子どもと保育者との関わり (1) 信頼関係を築く
- 5 自立と依存
- 6 遊びと生活の中で人との関わりを育てる
- 7 子どもと保育者との関わり (2)  
子ども同士の関係をつなぐ
- 8 個と集団の育ち
- 9 自己主張と自己抑制 (1) 自己主張を支える
- 10 自己主張と自己抑制 (2) トラブルを通して
- 11 協同性の育ち
- 12 道徳性の芽生え・人の役に立つ喜び
- 13 規範意識の芽生え
- 14 地域や家庭生活の中で人との関わりを育てる
- 15 人との関わりを育む幼児教育の今日的課題

#### [授業方法]

具体的な事例から子どもが人との関わりから何を体験し保育者はどう援助すべきかを考えるようにする。

アクティブラーニング導入・・・事例検討しグループ討議することで、子どもの内面や保育者の援助について多様に考えていく。

#### [成績評価]

- 試験 (70%)
- 授業取組状況 (30%)

#### [教科書]

「事例で学ぶ保育内容 領域人間関係」無藤隆監修 (萌文書林)

#### [参考書]

- 「幼稚園教育要領」
- 「保育所保育指針」
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に、前回の授業内容を見直しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

授業の中で、事例を読み取り発表します。人の考えは様々です。自分とは違った感じ方や考え方に触れることも大切です。グループ討議では、積極的に自分の思ったことや考えたことを発表しましょう。また、他の人の発言を聞く態度も、グループ討議の効果を出すためには重要な要素です。他の人の発言を黙って聞いているだけではなく、うなずいたり質問したり同意したりしましょう。

[科目名] 領域「健康」  
[担当教員名] 星野 秀樹  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

授業の到達目標及びテーマ  
当該科目では、領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。

#### [学習成果] [C]

乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的な生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの実践を通して指導法を修得する。

#### [授業計画]

- 1 健康の定義・幼児期の健康とは
- 2 健康・安全な生活を送るための環境整備
- 3 基本的な生活習慣とその意義
- 4 乳幼児期の身体の発育(身長・体重・骨)
- 5 乳幼児期の身体の発達(生理機能)
- 6 乳幼児期の体力・運動能力の発達(動きの発達)
- 7 乳幼児期の運動能力低下の背景
- 8 乳児期の遊びの実例
- 9 幼児期の遊びの実例
- 10 幼児期運動指針のポイントと運動の意義
- 11 幼児期運動指針における多様な動きとは
- 12 幼児期のあそびと安全
- 13 乳幼児期の怪我と疾病
- 14 リスクとハザードの違いと危険の予測
- 15 健康のねらいと内容

#### [授業方法]

講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしてゆく。

#### [成績評価]

筆記試験(80%)  
指導法修得度(20%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配布

#### [参考書]

「演習保育内容健康」(建帛社)、  
「柳沢運動プログラム」(オフィスエム)  
「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」

#### [準備学習(予習・復習)]

乳幼児の発育・発達について理解するとともに領域「健康」の指導法を受講するための基礎知識を身につける。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 領域「言葉」  
[担当教員名] 田村 佳世  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育内容の領域「言葉」の指導の基盤となる、発達理解、保育のねらい、内容、指導・援助方法、児童文化財に関する知識と実践力を学ぶ。また、保育者として求められるコミュニケーションの役割や方法を学び、伝える力、聴く力を習得していく。

#### [学習成果] [C]

領域「言葉」のねらい及び内容を理解すると共に、乳幼児及び障がい児、日本語を母語としない子どもの言葉の発達、援助方法を学習する。さらに、グループ学習、模擬保育を通して、発達にあった児童文化財の理解、指導計画の作成、保育実践、保育者として必要なコミュニケーション力が習得できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション：言葉とは
- 2 保育における言葉の発達
- 3 0歳児の言葉
- 4 1歳児の言葉
- 5 2歳児の言葉
- 6 3歳児の言葉
- 7 4歳児の言葉
- 8 5歳児の言葉
- 9 領域「言葉」のねらい及び内容
- 10 言葉の発達のサポート
- 11 日本語を母語としない子どもへのサポート
- 12 言葉の発達を促す児童文化財(3歳未満児)
- 13 言葉の発達を促す児童文化財(3歳児以上児)
- 14 言葉を育てる指導と指導計画(3歳未満児)
- 15 言葉を育てる指導と指導計画(3歳児以上児)

#### [授業方法]

教科書及び幼稚園教育要領等を基にし、乳幼児期の子どもの言葉の発達、指導、援助方法についてICTを活用し、具体的事例を紹介しながら講義を行う。また、演習内容として、読み聞かせの発表、課題に対してグループ学習、模擬保育等を行い、実践力を養っていく。  
アクティブラーニング導入。  
保育士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況・提出物(50%)  
試験(50%)

#### [教科書]

コンパス 保育内容言葉(建帛社)

#### [参考書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び各解説書」

#### [準備学習(予習・復習)]

発表、模擬保育等の準備及び振り返り  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

グループワーク等での積極的な姿勢を期待する。

[科目名] 領域「表現」  
[担当教員名] 伊藤 久美子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」のねらいと内容をふまえ、ICTを活用しながら、乳幼児の表現の理論、技術、援助方法を習得する。様々な表現活動を体験しながら、保育者として必要な感性や表現力を磨く。

#### [学習成果] [C]

保育者として必要な感性、表現力、想像力を身につける。子どもの表現活動を理解し、発達に応じた保育計画の立案と援助ができる。

#### [授業計画]

- 1 表現とは (子どもの興味・関心を知る)
- 2 乳幼児の表現とコミュニケーション
- 3 児童文化と表現 (わらべ歌と伝承あそび)
- 4 作って遊ぶ① (教材研究と計画)
- 5 作って遊ぶ② (制作・グループ練習)
- 6 作って遊ぶ③ (遊びの展開をグループで発表)
- 7 自然を楽しむ表現活動
- 8 絵本を使った表現遊びの方法① (音遊び)
- 9 絵本を使った表現遊びの方法② (音遊びの発表)
- 10 体を使った表現遊び (リトミック)
- 11 様々な舞台表現と子どもの感性の発達
- 12 舞台表現の実践① (サンドアートの構想を練る)
- 13 舞台表現の実践② (サンドアートの発表準備と練習)
- 14 舞台表現の実践③ (サンドアートの発表)
- 15 援助・指導方法の検討 (指導計画の立案)

#### [授業方法]

実際に保育現場で行われている表現遊びや子どもの姿を考えながら、子どもの立場になって表現の楽しさを体感し、子どもの表現活動の理解を深める。

グループワーク、グループディスカッション等を取り入れ、新たな表現方法を研究し、実践を通して応用力を身につけていく。アクティブラーニング導入。

幼稚園での実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

製作過程 (計画性・積極性・授業への取組状況等)  
(30%)  
提出作品・レポート提出・発表内容 (70%)

#### [教科書]

「音楽と語りで夢を育む絵本ケア」真下あさみ編著  
(三恵社)

#### [参考書]

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

#### [準備学習 (予習・復習)]

(予習) 保育雑誌などを参考に、作品の構想を考えておくこと。また、人前で発表する際は事前の練習をしっかりと行うこと。

(復習) 振り返りレポートの提出  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

日頃から様々な事象に触れ、想像力を働かせるように意識すること。

考えや思いを心の中に秘めるだけでなく、外に表し、他者とのコミュニケーションを深めていけるように心がけること。

[科目名] 領域「環境」の指導法

[担当教員名] 今村 光章  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

領域「環境」のねらいと内容を学ぶとともに、その背景となる専門的な知識と技術を身につける。また、子どもの発達に即して、「環境」の領域で、主体的かつ対話的な深い学びができるような指導ができるような基本的な技術と方法を身につける。

#### [学習成果] [C]

領域「環境」のねらいと内容を理解することができる。保育者として、幼児が環境にかかわる活動の意義を理解し、実践的な「環境」に関する保育の指導法を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と構造
- 2 領域「環境」の変遷と現在の社会的背景
- 3 領域「環境」のねらいと内容Ⅰ：自然環境
- 4 領域「環境」のねらいと内容Ⅱ：社会環境
- 5 幼児の環境の諸側面：物的、人的、社会的環境
- 6 幼児の環境と認識の発達：自然物と生物
- 7 幼児の身近な環境とのかかわり：数量と図形
- 8 保育計画の意味、ねらいと内容
- 9 保育方法と記録、情報機器と教材の活用、評価
- 10 3歳児・4歳児・5歳児の各年齢の特徴を理解する
- 11 指導案作成実践上の留意点と評価
- 12 領域「環境」の模擬保育Ⅰ：自然環境
- 13 領域「環境」の模擬保育Ⅱ：社会環境
- 14 作成した指導案の発表と模擬保育の振り返り
- 15 指導案および保育の評価の観点

#### [授業方法]

講義では、様々な環境の意義を理解し、演習では、アイスブレイクやグループワークを採り入れて、環境構成の方法と保育における援助技術について学ぶ。

アクティブラーニングを導入。

#### [成績評価]

筆記試験 (70%)  
授業への取組状況と提出物 (30%)

#### [教科書]

「保育内容 環境」榎沢良彦・入江礼子編著 (建帛社)

#### [参考書]

「環境」吉田淳・横井一之編著 (福村出版)

#### [準備学習 (予習・復習)]

プリント等を配布して事前に課題を伝え、次回の授業日に提出する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 領域「健康」の指導法  
[担当教員名] 星野 秀樹  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

#### [学習成果] [C]

乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの保育実践とその映像を視聴し客観的に評価する。

#### [授業計画]

- 1 健康のねらいと内容
- 2 内容の具体的事例
- 3 幼児の生活習慣の獲得
- 4 領域「健康」と保健体育との連続性
- 5 幼児の運動能力調査方法と評価
- 6 伝承あそびの指導案作成
- 7 伝承あそびの保育実践 (けん玉・コマ回し)
- 8 伝承あそび保育実践 (竹馬)
- 9 鉄棒あそびの指導案作成
- 10 鉄棒あそびの保育実践 (すずめ、前回り、ぶたの丸跳き)
- 11 鉄棒あそびの保育実践 (えんとつ、地球回り、逆上がり)
- 12 跳び箱を使った遊びの指導案作成
- 13 跳び箱を使ったあそびの保育実践
- 14 保育実践時の映像を用いての振り返り
- 15 保育実践時の映像に基づいた保育方法へのフィードバック

#### [授業方法]

講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしてゆく。

#### [成績評価]

指導案 (50%)  
実践指導の評価 (50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配布

#### [参考書]

「演習保育内容健康」(建帛社)  
「柳沢運動プログラム」(オフィスエム)  
「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」

#### [準備学習 (予習・復習)]

あそびについて体験はもちろん、自身が見本を見せられることを目標とし、授業時間内に修得できない場合は自主練習とし、達成まであきらめずに取り組むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 音楽表現指導法

[担当教員名] 山本 雅士・国藤 真理子・玉田 裕人  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために音楽の基礎的な知識・技能を身につける。子どもの豊かな感性を引き出すために歌、楽器などを用いて保育現場での表現活動に展開できる音楽表現を学ぶ。

#### [学習成果] [C]

様々な表現を感じる・見る・聴く・楽しむことを通じてイメージし保育現場における「音楽」表現の可能性を深め習得する。

#### [授業計画]

- 1 保育における音楽表現の概念
- 2 歌唱1 (童唄・唱歌の楽曲研究)
- 3 歌唱2 (2回目授業で取り上げた楽曲を表現)
- 4 歌唱3 (歌・演奏の表現)
- 5 楽器編成と各楽器の特性を学ぶ
- 6 楽器実技1 (楽器奏法基礎)
- 7 楽器実技2 (合奏奏法基礎)
- 8 楽器実技3 (音楽表現法基礎)
- 9 楽曲の簡易編曲
- 10 歌唱と器楽の演奏法1
- 11 歌唱と器楽の演奏法2
- 12 11回目の授業で取り上げた楽曲にあった振り付けを取り入れる
- 13 合奏・マーチング・歌唱・振り付け
- 14 歌唱・器楽・踊りの総合表現の映像を鑑賞
- 15 合奏・マーチング・歌唱の総合的表現の発表

#### [授業方法]

グループ指導。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)  
音楽活動の内容と提出した活動計画 (20%)  
実技発表評価 (50%)

#### [教科書]

「幼児のための表現指導 うたって、つくって、あそぼう」  
(音楽之友社)

教材プリント配布

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

音楽指導案の作成、演習の準備。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 乳児保育 I  
[担当教員名] 柴田 法子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

3歳未満児の発育・発達過程や、特性を踏まえた援助や関わり方を学び、保育者の役割を知る。  
乳児保育の歴史、意義や必要性について学び、保育所や保育所以外の乳児保育を知る。

#### [学習成果] [C]

3歳未満児の発育・発達や保育所での生活について理解し、乳児保育に必要な知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
- 2 乳児保育の役割と機能
- 3 乳児保育における養護及び教育
- 4 乳児保育及び子育てで家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
- 5 保育所における乳児保育
- 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
- 7 家庭的保育等における乳児保育
- 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援
- 9 3歳未満児の生活と環境
- 10 3歳未満児の遊びと環境
- 11 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
- 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
- 13 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
- 14 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
- 15 乳児保育における職員間の連携・協働

#### [授業方法]

テキストや視聴覚教材を使用し、乳児の発達や保育内容について講義を行う。  
アクティブラーニング導入。  
保育者や保護者など様々な面から乳児保育を考え、グループディスカッションをしていく。

#### [成績評価]

筆記試験 (80%)  
授業への取組状況 (20%)

#### [教科書]

「乳児保育—子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み—」  
入江慶太 編著 (教育情報出版)

#### [参考書]

「保育所保育指針」(フレーベル館)  
「音楽と語りで夢を育む絵本ケア」  
真下あさみ編著 (三恵社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

乳児の発達段階が理解できるよう、テキストを読み、予習しておくこと。また、授業後はノートをまとめたり、見直したりして理解を深めること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

乳児期の発達や関わり方を理解し、保育実習に活かしましょう。また、子育ての現状や子育て支援の重要性を理解し、保護者支援の出来る保育者を目指しましょう。

[科目名] 障がい児保育  
[担当教員名] 上島 遥  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

- ・「障がい」とは何を指すのか、どう捉えるのか、について基礎的な知識とあわせてその視点を学ぶ。
- ・障がい児とその家族の気持ちを知り、その思いに寄り添った支援について学ぶ。
- ・障がい児の「生活」や「遊び」に重点を置いた、保育者としての支援のあり方について学ぶ。
- ・障がい児に関わる療育施設での取り組みや、保育所、幼稚園などでの保育実践、またそれぞれの役割や連携について学ぶ。

#### [学習成果] [C]

乳幼児期の子どもは、「障がい」がはっきりしている場合だけでなく「ちょっと気になる」という段階から子どもの特徴に寄り添った支援が必要である。障がい児の専門施設はもちろん、保育所や幼稚園などで保育者としての力を発揮するための理解を深めることができる。

#### [授業計画]

- 1 障がい児保育を学ぶ意義、障がい児保育の目的
- 2 障がい児保育を取り巻く歴史の変遷
- 3 障がいの基礎知識 (自閉症スペクトラム)
- 4 障がいの基礎知識 (LD、ADHD)
- 5 障がいの基礎知識 (発達の遅れ、知的障害)
- 6 障がいの基礎知識 (視覚障害)
- 7 障がいの基礎知識 (聴覚障害)
- 8 障がいの基礎知識 (運動障害)
- 9 障がいの基礎知識 (医療的ケアの必要な子ども)
- 10 障がいの発見と対応 (乳幼児健診と親子教室)
- 11 障がい児のための専門施設 (通所、入所)
- 12 家族への支援 (親の思いを知る、家族支援の実際)
- 13 幼稚園・保育所における障がい児保育
- 14 進路選択、移行支援について (就園・就学)
- 15 障がい児と家族を支える福祉サービス

#### [授業方法]

教科書を中心とした講義に加えて、障がい児の困り感や支援方法について、グループワーク等の体験的な授業を展開する。また、家族の気持ちに寄り添うことを目的とした、事例の紹介やDVD視聴等も取り入れていく。  
アクティブラーニング導入。  
障害児通園施設 (現: 児童発達支援センター) の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題の提出、発表等の取組状況 (30%)

#### [教科書]

「テキスト障害児保育」  
近藤直子・白石正久・中村尚子編 (全障研出版)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業ごとの要点を、自分の言葉で説明できるように復習すること。次の授業開始時に確認を行います。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

**[科目名]** 国語表現法  
**[担当教員名]** 保科 潤一  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
**[開講学期]** 1年後期 **[科目コード]** IE10\_C12  
**[単位数]** 2単位 **[授業形態]** 講義

**[授業概要]**

保育者として必要とされる国語表現を中心に学ぶ。会話・文章・実習日誌・指導案・実習礼状・小論文など、あらゆる国語表現について学習する。敬語表現はもちろんのこと、読み書き・正確な文章が書けるよう、現場に備えて基本的な国語表現を確実に身に付けることを目的とする。

**[学習成果] [C]**

保育者としての国語表現の基礎を習得することにより、保育現場における実務力、保護者への対応力、子どもに対する言葉の指導力を高めることができる。また、日本語に対する子どもの興味関心を高めるための保育内容を考えていく力を身に付けることができる。

**[授業計画]**

- 1 保育者としての国語の基礎力
- 2 会話表現基礎・・・発声・発音・アクセント
- 3 会話表現基礎・・・挨拶・敬語
- 4 会話表現応用・・・保育者の発声・自己紹介
- 5 会話表現応用・・・保育現場での話し方
- 6 文章表現基礎・・・正しい文章の書き方
- 7 文章表現基礎・・・正しい現代表記
- 8 文章表現応用・・・はがき・手紙の書き方
- 9 文章表現応用・・・履歴書の書き方
- 10 文章表現応用・・・実習日誌の書き方
- 11 文章表現応用・・・事務文書の書き方
- 12 文章表現応用・・・小論文の書き方
- 13 文章表現応用・・・小論文の実践 I
- 14 文章表現応用・・・小論文の実践 II
- 15 文章表現応用・・・文章作成の口頭発表

**[授業方法]**

講義により知識、基本的な技術について学ぶ。その後、毎時間のワークシートによる実践学習により、国語の基礎実践力を確実に習得していく。会話学習については、対話形式により、聴きあうこと、発話していくことを相互に学んでいく。

アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

- 筆記試験(50%)
- レポート等提出物(30%)
- 授業への取組状況(20%)

**[教科書]**

「保育者になるための国語表現」 田上貞一郎著  
(萌文書林)

**[参考書]**

**[準備学習(予習・復習)]**

漢字テストの準備  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

**[科目名]** 子ども音楽 I A  
**[担当教員名]** 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・大橋 昌代  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

**[開講学期]** 1年前期 **[科目コード]** IE10\_C11  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

**[授業概要]**

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

**[学習成果] [C]**

保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得を目指す。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

**[授業計画]**

- 1 授業説明、ピアノ経験実態調査、実技指導
- 2 標準バイエルピアノ教則本No.3～、楽典(譜表)
- 3 // 、楽典(高音部記号、低音部記号)
- 4 // 、楽典(音名・階名)、弾き歌い
- 5 // 、楽典(音符と休符)、弾き歌い
- 6 // 、楽典(音程)、弾き歌い
- 7 // 、楽典(拍子記号)、弾き歌い
- 8 // 、楽典(付点のリズム)、弾き歌い
- 9 // 、グループ別実技発表会
- 10 // 、楽典(反復記号)、弾き歌い
- 11 // 、楽典(3連符)、弾き歌い
- 12 // 、楽典(装飾音)、弾き歌い
- 13 // 、楽典(強弱記号)、弾き歌い
- 14 実技発表会
- 15 標準バイエルピアノ教則本No.3～、楽典(臨時記号)、弾き歌い

**[授業方法]**

1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

- 授業への取組状況(50%)
- 実技発表評価(30%)
- 自主練習の取組(チェックシート)(20%)

**[教科書]**

標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)  
こどものうた100(チャイルド本社)  
うたって、つくって、あそぼう(音楽之友社)  
教材プリント配布

**[参考書]**

楽譜がスラスラ読める本(永岡書店)  
「ブルグミュラー25の練習曲」(全音楽出版社)  
「ソナチネアルバムI」(全音楽出版社)

**[準備学習(予習・復習)]**

自主練習 毎日30分(初心者には1時間以上が好ましい)  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。



[科目名] 子ども音楽ⅠB  
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・  
倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・  
大橋 昌代  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子ども音楽ⅠAに引き続き、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

#### [学習成果] [C]

保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得ができる。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

#### [授業計画]

- 1 授業説明、グループ分け、実技指導
- 2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い
- 3 // 、楽典(長調と短調)、弾き歌い
- 4 // 、楽典(同名調)、弾き歌い
- 5 // 、楽典(平行調、移調)、弾き歌い
- 6 // 、楽典(オクターブ記号)、弾き歌い
- 7 // 、楽典(複付点音符)、弾き歌い
- 8 // 、楽典(発想記号)、弾き歌い
- 9 // 、グループ別実技発表会
- 10 // 、楽典(ハ長調の主和音)、弾き歌い
- 11 // 、楽典(ヘ長調の主和音)、弾き歌い
- 12 // 、楽典(ト長調の主和音)、弾き歌い
- 13 // 、楽典(色々な指使い)、弾き歌い
- 14 実技発表会
- 15 標準バイエルピアノ教則本、楽典(演奏上の諸記号)、弾き歌い

#### [授業方法]

1クラスを7~8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況(50%)  
1年後期の進捗(30%)  
実技発表評価(10%)  
自主練習の取組〈チェックシート〉(10%)

#### [教科書]

標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)  
こどものうた100(チャイルド本社)  
うたって、つくって、あそぼう(音楽之友社)  
教材プリント配布

#### [参考書]

楽譜がスラスラ読める本(永岡書店)  
「ブルグミュラー25の練習曲」(全音楽出版社)  
「ソナチネアルバムⅠ」(全音楽出版社)

#### [準備学習(予習・復習)]

自主練習 毎日30分(初心者には1時間以上が好ましい)  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科目名] 造形表現指導法Ⅰ  
[担当教員名] 上山 明子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現できるような活動についての研究を行う。材料の選択、道具の取り扱い、活動場所の設定など具体的に考え模擬保育を行うなど、造形分野の保育力を高める。

#### [学習成果] [C]

幼児の造形表現の理解を深めるとともに、造形表現を指導する力を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と造形表現のねらい・内容
- 2 幼児の表現の発達 自由な視点から見た絵画表現について
- 3 表現の原理(色彩心理学、線と面)
- 4 素材研究(絵の具)絵の具の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
- 5 素材研究(絵の具)技法研究の振り返りまとめ(情報機器と教材の活用)
- 6 幼児の表現の発達 単純な形から生まれる豊かな立体表現
- 7 素材研究(粘土、木材、紙など)の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
- 8 素材研究(粘土、木材、紙など)の技法研究の振り返り・まとめ
- 9 素材研究(版画(転写))の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
- 10 素材研究(版画(転写))の技法研究の振り返り・まとめ
- 11 指導案作成と模擬保育
- 12 協働しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作
- 13 協働しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作・展示
- 14 作品鑑賞と子どもの造形活動方法の理解
- 15 子どもの発達に合わせた指導計画の理解と保育の評価

#### [授業方法]

具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況  
(事前準備、保育者としての適応性) (50%)  
提出物の充実度 (50%)

#### [教科書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園・保育要領」

#### [参考書]

適宜プリント配布

#### [準備学習(予習・復習)]

予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。  
復習として次回講義にプリント・レポート提出。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

- ・指示された準備物は忘れずに持ってくる。
- ・実習では服を汚すことがあるので、そのことに対応できる服装をすること。またはエプロン等をすること。
- ・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科目名] リズム表現指導法  
[担当教員名] ほり みか  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼児期に感受性を高め、表現力豊かで健康的な生活を送るために、保育の中で何をどう取り組むべきかを工夫する。

そのための環境作り、準備、リズム遊び、リズム表現の教材を作成したり使用したり、実習を行う。

#### [学習成果] [C]

健康的で安全な環境作り、またそのための気配りができるようにする。幼児が楽しみながら健康、リズム感、運動能力を向上できる方法を知る。

グループワークを通し、協調性、リーダーシップ、考える力、を養うことができる。

就職後に役立つスキルを習得。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション お遊戯・振付体験
- 2 基礎トレーニング リズム遊び①
- 3 基本のリズム・ステップ① リズム遊び②
- 4 基本のリズム・ステップ② リズム遊び③
- 5 身体表現 色々な動き、ステップの習得
- 6 身体表現 色々な動き、ステップの習得
- 7 リズム表現の基礎 構成、振付を学ぶ①
- 8 " ②
- 9 " ③
- 10 " ④
- 11 作品制作①・選曲、小道具、衣装プラン作成
- 12 " ②・構成、フォーメーション、振付を考える
- 13 " ③・振付
- 14 " ④・スキルアップ、指導を工夫
- 15 " ⑤発表・他の作品を評価

#### [授業方法]

演習

身体表現・リズム運動・振付の基礎習得

グループワークでの作品制作

アクティブラーニング導入

#### [成績評価]

共同制作作品評価 (60%)

実技小テスト (30%)

協調性、リーダーシップ、授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

学んだストレッチを日常に取り入れ、健康的な体作りをする。

休暇時に、舞台、美術など、芸術に触れ見識を広める。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

運動のできる服装に着替えること。

バレエシューズを購入 (2,600円程度)

[科目名] 総合表現 I

[担当教員名] 国藤 真理子・ほり みか・山本 雅士・  
玉田 裕人

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育者として音楽における総合的な表現法を身につける。保育における音楽劇、アンサンブル、子どもの歌、楽器、音楽遊びなどを通して表現を幅広く身につける。

#### [学習成果] [C]

音を通して表現力、音楽力を高め人前で発表することで応用力、対応力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 総合表現の概念
- 2 音楽理論
- 3 言葉と音符とリズムの表現
- 4 歌と身体とリズムの表現
- 5 歌と楽器の表現
- 6 歌と身体表現1
- 7 歌と身体表現2
- 8 表現の映像を鑑賞 (レポート提出)
- 9 音楽劇1
- 10 音楽劇2
- 11 音楽劇3
- 12 アンサンブル1
- 13 アンサンブル2
- 14 アンサンブル3
- 15 総合的表現の発表

#### [授業方法]

グループ指導・体験学習と振り返り

アクティブラーニング導入

#### [成績評価]

授業への取組状況 (30%)

実技発表 (70%)

#### [教科書]

教材プリント配布

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

演習の準備

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] レクリエーション理論  
[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

本講義では、レクリエーション理論としてのレクリエーションとは何かを考え、指導から支援への考え方の変化、集団を中心に一方に個人、また子どもたちとのコミュニケーションのとり方、遊び方などをテーマにレクリエーションの基礎を学習することを目的とする。

#### [学習成果] [C]

ホスピタリティートレーニングとアイスブレイキングを通して、個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団のコミュニケーションを促進する方法を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 アイスブレイキング法 (道具を使わないレクリエーション)
- 3 福祉とレクリエーション・クラフト製作
- 4 子どもとレクリエーション・自然活動
- 5 障害児とレクリエーション・ものづくり
- 6 レクリエーション支援の理論
- 7 レクリエーション組織の経営論
- 8 市町村レク協会の役割 (ポスター作り)
- 9 季節に合ったレクリエーション
- 10 レクリエーション指導法
- 11 レクリエーション：サービ論遊びを実施する
- 12 レクリエーション案の発表 1.2.3グループ
- 13 レクリエーション案の発表 4.5.6グループ
- 14 レクリエーション案の発表 7.8.9グループ
- 15 まとめ

#### [授業方法]

内容によっては演習形式をとることもある。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (10%)  
課題提出 (20%)

#### [教科書]

授業内で参考資料を配布

#### [参考書]

「レクリエーション支援の基礎」楽しさ・心地よさを活かす理論と技術 (日本レクリエーション協会)

「楽しいをつくる」やさしいレクリエーション実践 (日本レクリエーション協会)

#### [準備学習 (予習・復習)]

地域等でのレクリエーション活動に関心を持つ。  
積極的に事業参加に取り組むこと。グループワークを取り入れる事が多いので、自ら積極的に先行い事前準備や授業後に復習しておくとなお良い。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

楽しく学べる授業展開です。  
一緒にレクリエーションの世界を学びましょう。

[科目名] レクリエーション実技  
[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実技

#### [授業概要]

指導演習により、対象にあわせたアレンジ、活動領域にあわせたアクティビティを指導体験する。

#### [学習成果] [C]

ホスピタリティートレーニングとアイスブレイキングを通して、個人や集団とのコミュニケーションをとる能力、集団のコミュニケーションを促進する方法を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 ニュースポーツ (アルティメット)
- 3 ペタンク
- 4 グランドゴルフ
- 5 3サークルA (大縄、キャッチザスティック、大縄)
- 6 ネイチャーゲーム (稲沢公園)
- 7 インディアカ
- 8 3サークルB (スラックライン、クロリティー、ラダーゲッター)
- 9 キンボール
- 10 ネイチャーゲーム (自然観察)
- 11 ウォークラリー作成
- 12 ウォークラリー完成
- 13 スポーツてんか
- 14 バルーンアート・つみき体験
- 15 活動まとめ

#### [授業方法]

実技主体で、作ったり体験したり発表を行う。  
作品を作り、完成した達成感を味わう。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
授業への取組状況 (10%)  
課題提出 (20%)

#### [教科書]

授業内で参考資料を配布

#### [参考書]

「レクリエーション支援の基礎」楽しさ・心地よさを活かす理論と技術 (日本レクリエーション協会)

「楽しいをつくる」やさしいレクリエーション実践 (日本レクリエーション協会)

#### [準備学習 (予習・復習)]

積極的に事業参加に取り組むこと。グループワークを取り入れる事が多いので、自ら積極的に先行い事前準備や授業後に復習しておくとなお良い。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

レクリエーション実技では、様々なニュースポーツを紹介します。運動が苦手、嫌いと言うイメージが強い方でもスポーツの楽しさを学ぶ事が出来る授業です。

[科目名] レクリエーション現場実習  
[担当教員名] 星野 秀樹  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年全期 [科目コード] IE10\_C19  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

**[授業概要]**

レクリエーション理論・レクリエーション実技での学習を踏まえ、実際に開催されているイベントに参加することにより、主催者・参加者の双方の立場を体験する。資格取得後に自身がイベントの立案・準備・運営を行う企画者としての基礎を養うことを目的とする。

**[学習成果] [C]**

事業参加を通してレクリエーションイベントの参加者との交流・楽しむ態度を経験し、指導参加ではイベントの運営・スタッフの活動の実際を理解し、授業で体得したことを実践する機会を得ることができる。

**[授業計画]**

- 1 レクリエーション協会から認定されたイベントに自ら参加し、実習を行う。イベントの大半は週末に予定されているため、授業時間外となるので、学生は各自で時間調整を行い遅刻や無断欠席をすることのないように注意する。
- 2 本学では学校行事の中でレクリエーション選択者による子供向けイベントを義務付けている。イベントの企画・運営・評価を行うことにより、将来レクリエーションインストラクターとして活動してゆく際にリーダーシップを発揮するための基礎を培う。
- 3 現場実習はホスピタリティトレーニング、アイスブレイキングの技術を体験できる場となるため、学内での授業で習得したことを実践する。

**[授業方法]**

愛知県レクリエーション協会が指定するレクリエーションイベントに各自で参加申込をし、実習を行う。各イベントについては授業・掲示にて案内する。

**[成績評価]**

実習への取組状況(20%)  
実習レポート(80%)

**[教科書]**

必要に応じて資料を配布

**[参考書]**

レクリエーション支援の基礎  
(日本レクリエーション協会)

**[準備学習(予習・復習)]**

現場実習へ参加が決定したら、事前に当該イベントの目的・内容を十分に理解し、円滑な運営に協力すること。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

実習終了後は指定の用紙を使用してレポートを提出すること。

[科目名] こども音楽療育概論  
[担当教員名] 松浦 晴美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

**[授業概要]**

講義形式で、音楽療法、音楽療育について、子どもの発達や音楽的発達について学んでいく。それと並行して、実践の援助のためのテクニックを学ぶ。また、子どもに対する音楽療育における音楽の役割、機能、選択/活用の仕方について学び、具体的な目標をもった活動を計画、実践、評価するための方法を学ぶ。後半では、具体例を見たりロールプレイをしながら学び、学生自身が課題の発表をする。

**[学習成果] [C]**

子どもの発達、子どもの音楽的な発達について理解することができる。  
子どもに対する音楽療法、音楽療育の意義について理解することができる。  
音楽療育の実践方法に関する技術、知識を習得することができる。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション、音楽療法、音楽療育の意義と必要性
- 2 子どもの心身の発達、音楽療育のテクニック1(援助や声の使い方)
- 3 子どもの心身の発達、音楽療育のテクニック2(行動分析的な手法)
- 4 子どもの心身の発達、音楽療育のテクニック3(行動分析的な手法)
- 5 子どもの心身の発達、音楽療育のテクニック4(環境作り)
- 6 音楽療育における音楽の役割、機能
- 7 音楽療育におけるアセスメント
- 8 音楽療育の計画方法
- 9 音楽療育の評価方法
- 10 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 11 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 12 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 13 課題発表
- 14 課題発表
- 15 まとめ

**[授業方法]**

講義が主体だが、実践例の紹介、DVDを見る、子どもの歌を歌う、ロールプレイなどを交えて行っていく。アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業、課題への取組状況(30%)  
課題提出物の点数(30%)  
試験(40%)

**[教科書]**

「音楽療法の必須100曲：子ども編」菅田文子著  
(あおぞら音楽社、2010.)  
その他の資料は授業中に配布する。

**[参考書]**

**[準備学習(予習・復習)]**

事前学習に取り組む。また、前回までの授業の内容を読み返したり、関連する分野の情報を収集したりして、授業内容に対する理解を深めておくこと。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

課題の提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科目名] こども音楽療育演習  
[担当教員名] 松浦 晴美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

[授業概要]

楽器の使い方、伴奏の方法を学び、また子ども向けの曲のレパートリーを広げるために、練習する。対象者の障害種別、目標別、形態別の活動例を実際にロールプレイで行ってみる。それを踏まえ、実際に学生自身が活動内容を計画してロールプレイで行う等の活動を並行して行っていく。

[学習成果] [C]

子どもに対する音楽療育活動を行うための音楽的技術を修得することができる。

子どもに対する音楽療育活動を行うための療育的な援助技術を修得することができる。

障害種別、目標別、形態別の音楽療育の具体的な方法を身につけることができる。

[授業計画]

- 1 オリエンテーション、楽器の紹介、鳴らし方などを学ぶ。曲の割り当て
- 2 子どもを対象とした音楽療法(音楽療育)について、子ども向けの曲の練習
- 3 身体障害児を対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 4 知的障害児を対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 5 感覚障害児を対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 6 自閉症の子どもを対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 7 ダウン症の子どもを対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 8 割り当てられた曲を使って、実際にロールプレイを行う。
- 9 割り当てられた曲を使って、実際にロールプレイを行う。
- 10 割り当てられた曲を使って、実際にロールプレイを行う。
- 11 目標や手順について考えながら、楽器ごとの活動の例を行う。
- 12 目標や手順について考えながら、楽器ごとの活動の例を行う。
- 13 目標や手順について考えながら、楽器ごとの活動の例を行う。弾き歌いのテスト
- 14 課題の発表、評価
- 15 課題の発表、評価

[授業方法]

毎回、ロールプレイを行うが、講義も少しずつ取り入れて授業をする。ロールプレイは行う順番を決め、各自が子ども役、療育者役、伴奏者の役目を必ず数回ずつ経験するようにする。また、ロールプレイの後に話し合いをして、意見を交換し合って技術を高めていく。

アクティブラーニング導入。

[成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
音楽療育活動の内容と提出した活動計画 (30%)  
提出課題 (20%)

[教科書]

「音楽で育てよう：子どものコミュニケーション・スキル」 二俣泉、鈴木涼子著(春秋社、2011.)

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

活動計画立案作成、ピアノ伴奏練習、グループ内での打ち合わせなど、演習の準備をしておく。また、演習後に自己評価、観察記録を記す。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

課題の提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科目名] こども音楽療育実習  
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・朴 賢晶・  
星野 秀樹・松浦 晴美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_D12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

[授業概要]

幼児・児童と関わるなかで音楽療育の実践的な体験を行う。実習施設の子ども達は障害の有無や状況、年齢も異なっているために幅広い知識と能力が必要と考えられる。そのため、実習に参加する学生は事前指導、オリエンテーションを行い、十分な準備をして実習を迎えることが重要である。

[学習成果] [D]

こども音楽療育概論、こども音楽療育演習にて学んだ内容をふまえ、実習施設において幼児・児童との活動を通して音楽療育の実践方法などを身につけることができる。

[授業計画]

- 1 事前指導  
こども音楽療育実習の目的を理解する
- 2 オリエンテーション  
実習する施設について理解する  
実習に参加する態度を確認する
- 3~8  
児童養護(障がい児)施設での実習(見学実習、参加実習)
- 9~14  
本学主催の「お姉さんと遊ぼう」(障がい児とその親で構成されたグループ)での実習(参加実習)
- 15 事後指導  
実習の反省とディスカッション

実習期間については「こども音楽療育概論」、「こども音楽療育演習」の開講と並行して行う場合がある。

[授業方法]

障害のある子ども達との交流を通して音や音楽を使った音楽療育の具体的な実践方法を学ぶ。

[成績評価]

実習の取組状況 (70%)  
レポート (30%)

[教科書]

教材プリント配布

[参考書]

[準備学習(予習・復習)]

課題の自主練習  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

[備考]

[科目名] 短期海外保育実習  
[担当教員名] 赤塚 徳子・田村 佳世・山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_D12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

ニュージーランドの保育現場において、春季休業期間に2週間の研修に参加する。異文化圏のコミュニケーション能力の向上及び保育実習を通して異文化保育について深く理解する。研修参加者は、渡航前の事前オリエンテーションに参加し、終了後は短期海外保育研修発表会を行う。

#### [学習成果] [D]

子育て先進国であるニュージーランドの保育を体験することにより、ニュージーランドのナショナルカリキュラムであるテファリキについて学び、保育現場でどのように実践されているかを具体的に理解することができる。また、英語によるコミュニケーション能力が身につく、異文化保育について理解することができる。

#### [授業計画]

【参考】2019年度 短期海外保育研修の日程  
2019年4月～8月 短期海外保育研修説明会  
2019年6月 申込締切り  
2019年9月～2020年1月 渡航手続き  
事前オリエンテーション  
2020年3月 6日 関西国際空港発  
2020年3月 7日 ニュージーランド着  
2020年3月 8日 フリータイム (ホストファミリー交流)  
2020年3月 9日～13日 語学研修  
2020年3月14日 保育研修・オークランド観光  
2020年3月15日 フリータイム  
2020年3月16日～18日 保育研修  
2020年3月19日 コハンガレオ見学  
2020年3月20日 ニュージーランド発  
関西国際空港着  
2020年4月、11月 BH及び大学祭にて短期海外保育研修報告

#### [授業方法]

事前指導：担当教員による講義に加えて、英語教員による指導を行う。現地スタッフや研修のOG等による説明会を行う。  
事後指導：短期海外保育研修報告会を行う。研修の学びをパネル、報告書を作成し、掲示する。

#### [成績評価]

実習における成績 (50%)  
事前指導 (25%)  
事後指導 (25%)

#### [教科書]

過去の短期海外保育研修報告書

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

予習：事前指導において、英語による自己紹介や保育実習の準備。ニュージーランドの保育の概要について調べる。

復習：報告書作成や報告会の準備を通して、演習の振り返りと反省を行う。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

【他の授業との関連】

「英会話」「英語演習」を受講し、「保育英語検定」を受験することが望ましい。

「幼児教育実習 (附属園)」を単位取得していること。

[科目名] 保育実習 I (保育所)  
[担当教員名] 真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_D12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

保育所での生活を体験することで、保育所の役割や機能、保育士の業務内容について具体的に理解する。また既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。

#### [学習成果] [D]

保育所の生活の流れや役割、子どもの発達過程を具体的に理解することができる。また、観察や保育への参加を通して、子どもへの理解を深め、記録や指導案の書き方を習得することができる。

#### [授業計画]

##### ○事前指導

- ・保育実習 I の目的・実習の流れ
- ・実習生としての心構え
- ・事前オリエンテーションの目的
- ・実習記録および実習関連書類の書き方
- ・実習のための保育教材の準備

##### ○実習の内容

- ・保育所の機能と、保育の一日の流れを理解する
- ・保育士の職務内容を具体的に理解する
- ・生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する

##### ○巡回訪問指導

##### ○実習のまとめ・事後指導

- ・礼状の書き方
- ・実習を振り返り、自己課題を明確にする

#### [授業方法]

保育所においての実習 (2週間)  
観察実習・参加実習・日誌の記録を行う。

#### [成績評価]

実習園の評価 (70%)  
実習日誌・提出物 (30%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」 (みらい)  
「保育士をめざす人の福祉施設実習」 (みらい)

#### [参考書]

保育所保育指針 (平成29年3月告示)

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前に担当する子どもの発達段階を調べ、理解しておくこと。また、年齢にあった手遊びや絵本を準備し、練習すること。1日を振り返り、反省点、自己課題に気付くようにすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

授業で学んだことを理解し、年齢や発達に合わせた関わりができるよう、日頃からイメージしておく。また、手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習や保育教材研究をしておく。

実習の必要書類は正確かつ丁寧に作成し、提出期限を厳守すること。

[科目名] 保育実習指導ⅠA  
[担当教員名] 真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE10\_D11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場に必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

#### [授業計画]

- 1 実習の概要と流れ
- 2 実習の意義と目的
- 3 実習生としての心構え
- 4 プライバシーの保護と守秘義務について
- 5 観察実習について
- 6 参加実習について
- 7 園生活の一日の流れ
- 8 子どもの接し方・保育者とのかかわり方
- 9 実習記録の書き方①
- 10 実習記録の書き方②
- 11 実習目標と自己課題
- 12 事前課題・実習事前準備について
- 13 保育実践指導・絵本の読み方
- 14 保育実践発表①
- 15 保育実践発表②

#### [授業方法]

テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習や、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。

アクティブラーニング導入。

保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（保育教材の作製・実践テスト・レポート等）（60%）  
筆記試験（40%）

#### [教科書]

「幼稚園・保育所・施設 実習ワーク」（萌文書林）  
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」（みらい）

#### [参考書]

保育所保育指針

#### [準備学習（予習・復習）]

教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

初めての实習に向けて心構えをし、日常的に言葉遣いなどにも気を付ける。

実習で使用する保育教材をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておく。

[科目名] 保育実習指導ⅠB  
[担当教員名] 真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_D12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場に必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

#### [授業計画]

- 1 児童福祉施設について
- 2 児童福祉施設での実習について
- 3 実習の振り返りと自己課題の明確化
- 4 部分・全日実習について
- 5 指導案の立案について
- 6 指導案の書き方について
- 7 指導案作成
- 8 保育教材研究①
- 9 保育教材研究②
- 10 模擬保育①
- 11 模擬保育②
- 12 模擬保育③
- 13 実習前の準備
- 14 実習の注意事項
- 15 実習の総括と自己課題の明確化

#### [授業方法]

テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習や、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。

アクティブラーニング導入。

保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（保育教材の作製・実践テスト・レポート等）（60%）  
筆記試験（40%）

#### [教科書]

「幼稚園・保育所・施設 実習ワーク」（萌文書林）  
「保育士をめざす人の福祉施設実習」（みらい）

#### [参考書]

保育所保育指針

#### [準備学習（予習・復習）]

教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

福祉分野の学びを深めながら具体的な保育実習の内容について理解する。

実習で使用する保育教材等をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておく。

## 2 専門科目

幼児教育学科 第1部 2年



[科目名] 子ども家庭福祉  
[担当教員名] 上島 遥  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

- ・子ども家庭福祉を取り巻く状況や支援の仕組みを理解する。
- ・子ども家庭福祉に関わるサービスや機関・施設について理解する。
- ・事例を通して、ソーシャルワークの視点を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

- ・子ども家庭福祉に関わる幅広い機関との連携を図りながら援助ができるように、基礎的な知識と援助のための視点を身につける。

#### [授業計画]

- 1 子ども家庭福祉の考え方
- 2 子ども家庭福祉を取り巻く少子化問題
- 3 子ども家庭福祉の歴史的背景
- 4 行政の仕組みとかわる法律
- 5 子ども家庭福祉にかかわる機関および施設
- 6 健全育成について
- 7 母子保健について
- 8 保育の現状と課題
- 9 要保護児童への支援
- 10 障がい児への支援
- 11 非行少年およびひとり親家庭への支援
- 12 子ども虐待防止とその対応
- 13 ソーシャルワークのプロセス
- 14 事例から学ぶソーシャルワーク
- 15 子ども家庭福祉における多機関連携

#### [授業方法]

基本的な知識に関しては講義が中心となるが、事例検討やロールプレイを取り入れることにより、実践的な学びにつなげるとともに、保護者支援や多機関連携における保育者の役割や援助方法についての学びを深める。

アクティブラーニング導入。

障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験（60%）  
授業参加への積極性、提出物、発表（40%）

#### [教科書]

「児童家庭福祉」 福田公教/山縣文治編著  
(ミネルヴァ書房)

#### [参考書]

「ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データブック」全国保育士養成協議会監修（中央法規）

#### [準備学習（予習・復習）]

特に、重要語句について説明できるように、復習しておく。授業開始時に、前回の振り返りをペアワークで行う。

予習として日頃から、子ども家庭福祉に関連するニュースをチェックし、何が問題になっているのかを説明できるようにしておく。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 社会福祉

[担当教員名] 祢宜 佐統美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_A21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

#### [学習成果] [A]

社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 社会福祉の考え方と概念
- 2 社会福祉のあゆみ
- 3 変革期の社会福祉
- 4 諸外国の社会福祉・動向
- 5 社会福祉の制度・法体系・機関
- 6 社会福祉の専門職
- 7 利用者の保護に関わる仕組み
- 8 子ども家庭支援と社会福祉
- 9 高齢者の福祉
- 10 介護保険制度
- 11 障がいのある人の福祉
- 12 地域の福祉
- 13 相談援助
- 14 社会保障
- 15 事例検討

#### [授業方法]

講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単位ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。

#### [成績評価]

試験（70%）  
授業への取組状況（15%）  
課題（15%）

#### [教科書]

「社会福祉を学ぶ」 山田美津子・稲葉光彦編  
(みらい)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習（予習・復習）]

毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習をしてこること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後には、授業内容のポイントを復習しておくこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科目名] 子ども家庭支援論

[担当教員名] 祢宜 佐統美

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_A21

[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

子育てを取り巻く様々な問題や環境・家庭支援の意義や目的を理解し、保育者に必要な家庭支援を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

個々の家庭環境を知り、家庭支援の意義や目的・限界について理解することで、子育て家庭支援の基本的視点や支援方法を自ら考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 家庭を取り巻く環境
- 2 子ども家庭支援の基本的考え方
- 3 保育者の専門性を生かした支援・基本的態度
- 4 子育て家庭を支える法・制度
- 5 子育て家庭を支える社会資源
- 6 相談を受ける者の基本的態度
- 7 相談場面で必要な技術
- 8 幼稚園・保育所等を利用する子ども家庭への支援
- 9 地域子育て支援・関係機関等との連携と協力
- 10 家庭の状況に応じた支援—ひとり親家庭・新たな親子関係
- 11 要保護児童等及びその家庭に対する支援
- 12 障がいなどのある家庭への支援
- 13 子どもの貧困の理解
- 14 切れ目のない家庭支援
- 15 事例検討 (児童虐待・障がい)

#### [授業方法]

講義が主体であるが、グループワークや事例を活用したグループディスカッションも行い、家庭支援について理解を深めていく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 試験 (70%)
- レポート (15%)
- 授業への取組状況 (15%)

#### [教科書]

「保育と子ども家庭支援論」石動瑞代・中西遍彦・隣谷正範編 (株) みらい

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前には、20分程度テキストの該当範囲を読んで予習してきて下さい。授業の最初に、前回の授業の振り返りをしますので、毎授業後には、25分程度授業内容のポイントを復習しておいて下さい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

普段から子育てに関するニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨んで下さい。

[科目名] 子どもの理解と援助

[担当教員名] 朴 賢晶

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_B22

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

生涯を通して変化・成長を続けるものとして発達を捉え、各発達段階での特徴と保育士と子どもの連鎖的關係を理解することを目的とする。

授業では、子どもの理解、保育実践、保育援助、遊びを通しての学びなどに理解を深めると共に、保育士として必要とされる知識や発達援助のあり方について議論する。

#### [学習成果] [B]

各発達段階における具体的な課題を理解することによって、一生の中での乳幼児期発達を支援する視点を持つ保育者育成が可能となる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 PPTによる発表準備の指導
- 3 生きる力の基礎
- 4 多様な経験の重要性
- 5 子ども理解における発達把握
- 6 保育者と子どもとの関わり
- 7 子どもの仲間関係
- 8 子どもの遊び
- 9 基本的生活習慣の獲得
- 10 主体性の獲得
- 11 発達課題に応じた援助
- 12 発達課題に応じた協働
- 13 乳幼児を持つ家族の現状
- 14 子どもの発達に影響する要因①
- 15 子どもの発達に影響する要因②

#### [授業方法]

グループに分かれ、それぞれに与えられたテーマについてまとめ、ICTを活用し調べ学習をし、その成果を発表する。発表後には質疑応答の時間を設け、発表内容をより深めていく。さらに、発表グループに対して、フロアから、発表に関する建設的な意見を述べることによって、口頭発表技術をより高める。

アクティブラーニングの導入。

#### [成績評価]

- 発表等70% (発表40%、コメンテーター30%)
- 授業への取組状況 (授業参加度、授業態度等)

#### [教科書]

「子どもの理解と援助」無藤隆ら編著 (光生館)

#### [参考書]

「発達心理学の基礎1, 2, 3」平山論・鈴木隆男編著 (ミネルヴァ書房)

#### [準備学習 (予習・復習)]

発表に向けてICTを活用し予習する。発表後は、振り返りを含め、質問に答えられなかった部分を復習する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

本のまとめ、調べ学習、発表スライド作成、発表の練習などは予習による。グループで一つのテーマについて学習し、発表準備をするために必要な協調性と伝える力を養うことが予習のねらいである。

[科目名] 子どもの保健  
[担当教員名] 留田 由美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_B21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

子どもの健康の保持・増進を図るために、子どもの心身の機能や発育・発達を理解し、子どもの心身の健康状態の把握方法や疾病の予防と罹患時の対応などについて学ぶ。さらに、多職種連携方法や連携の重要性も学ぶ。

#### [学習成果] [B]

- ① 子どもの心身の健康増進を図り保健活動の意義について理解する。
- ② 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
- ③ 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
- ④ 子どもの疾病と予防法及び他職種連携・協働の下での適切な対応について理解する。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの健康に関する現状と課題
- 3 子どもの発達障害と心の健康問題
- 4 地域における保健活動と児童虐待防止
- 5 子どもの身体発育及び運動機能の発達と保健
- 6 子どもの生理機能の発達と保健
- 7 子どもの慢性疾患
- 8 子どものアレルギー疾患とその対応
- 9 子どもの心身の不調への対応
- 10 子どもの発育・発達の把握と健康診断
- 11 子どもの呼吸器・循環器・消化器の病気と対応
- 12 子どもの泌尿器・生殖器・皮膚の病気と対応
- 13 子どもの骨・関節・悪性腫瘍・その他の病気と対応
- 14 子どもの感染症と対応
- 15 まとめの小テスト

#### [授業方法]

各単元について、講義内容や提示された資料など、毎回整理し、学習内容の復習を確実にを行う。

#### [成績評価]

小テスト (70%)  
レポート課題など授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「子どもと社会の未来を拓く 子どもの保健」  
(青踏社)

#### [参考書]

「学校保健マニュアル 学校保健安全法 学校保健の動向」(日本学校保健会)  
「幼稚園指導要領」(文部科学省)  
「保育所指針」(厚生労働省)

#### [準備学習(予習・復習)]

毎回授業のまとめをレスポンス確認する。  
質問は次の授業で回答する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

・自己の目的意識をもって授業に参加すること。  
・毎回学習した内容をノートにまとめること。  
・疑問点や、理解できなかったことは確認作業を行うこと。

[科目名] 子どもの健康と安全  
[担当教員名] 岩瀬 好美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_B22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子どもの病気や看護を実践するとき用いる基礎的な知識と技術を理解し、身体的、精神的、社会的側面からの健康との関連を知識的に学ぶことを目的とする。

保育における感染症対策や安全管理について、各種ガイドラインを踏まえ、具体的に理解することを目的とする。

#### [学習成果] [B]

- ① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
- ② 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策・衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
- ③ 子どもの発達や状態などを踏まえた体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。
- ④ 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの健康と保育の環境
- 3 子どもの保健と保育環境
- 4 子どもの生活習慣と発達援助① 睡眠・食事・排泄
- 5 子どもの生活習慣と発達援助② 抱っこ・おんぶ
- 6 子どもの生活習慣と発達援助③ 沐浴・身体の清潔
- 7 個別対応ち集団全体の健康および安全の管理
- 8 保育における衛生管理
- 9 保育における事故防止および安全対策
- 10 保育における危機・災害管理
- 11 子どもの体調不良などに対する適切な対応
- 12 緊急を要する子どもの状況への対処方法
- 13 救命手当および救急蘇生法
- 14 子どもの感染症対策
- 15 健康および安全の管理の実施体制

#### [授業方法]

毎回授業のまとめをレスポンスカードで確認し、コメントを入れ返却する。

#### [成績評価]

授業のレポートや課題提出 (70%)  
授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「子どもの健康と安全」(学健書院)

#### [参考書]

「保育におけるアレルギー対応ガイドライン」(厚生労働省)  
「2012年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省)  
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)  
「保育所指針」(厚生労働省)

#### [準備学習(予習・復習)]

授業中に出された内容、提示された資料などは、毎回整理し、学習内容の復習を確実にを行う。  
授業後はレポート提出を行うため、授業で配布された資料等を確実に保管すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

・演習に対して、真剣に取組む姿勢と探究心を持って授業に臨むこと。  
・課題に対するやる気や、レポート作成に期待します。

[科目名] 乳幼児食物アレルギー演習

[担当教員名] 山本 景子

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_B21

[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

食物アレルギーの子どもたちと関わる保育士として知ってほしい基礎知識を学ぶ。栄養士、調理員と連携して、保育所での食物アレルギー対応の一助となり、誤食事故を防ぎ、乳幼児の生命を守る。さらに、食物アレルギーの子どもと保護者を支援できる保育士を育成することをねらいとする。

#### [学習成果] [B]

食物アレルギーの知識の習得や、食物アレルギーの子どもが、保育所で安全・安心な生活を送ることができるように対応するための知識が習得できる。保育所で発生している誤食事故防止のためには、保育所の全職員が協力して取り組むチームワークの大切さを認識できる。

#### [授業計画]

- 1 アレルギーの現状、アレルギーとは
- 2 食物アレルギーの基礎知識①
- 3 食物アレルギーの基礎知識②
- 4 食物アレルギー疾患対応のポイント  
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
- 5 保育士に知ってほしいこと①
- 6 保育士に知ってほしいこと②
- 7 食物アレルギー対応の取り組み
- 8 食物アレルギー対応食のポイント
- 9 食物アレルギー対応食の調理①
- 10 食物アレルギー対応食の調理②
- 11 食物アレルギー対応食の調理③
- 12 食物アレルギー対応食の調理④
- 13 食物アレルギー対応食の調理⑤
- 14 食物アレルギー対応食の調理⑥
- 15 まとめ

#### [授業方法]

理論を学びながら演習を中心とするが、実際に食物アレルギー対応食の調理を多く取り入れることにより、食物アレルギーへの理解と関心を深めていく。

アクティブラーニング導入。

産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（20%）

筆記試験（50%）

ノート、レポート等の提出物（30%）

#### [教科書]

「新版 子どもの食と栄養」岩田章子他編（みらい）

#### [参考書]

「これだけでわかる食物アレルギー」宇理須厚雄他監修（みらい）

「愛知文教女子短期大学がお届けするみんないっしょの楽しい給食」安藤京子編著（芽ばえ社）

「保育所における食物アレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）（厚生労働省）

#### [準備学習（予習・復習）]

次のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

自ら食物アレルギーについて学び、理解する姿勢を持ち、意欲的に学ぶことを望む。新聞、ニュース等で取り上げられている話題や、食物アレルギー対応の加工食品等にも関心を持っていただきたい。「子どもの食と栄養」で学んだ内容が基礎となっているので、予習をして授業に臨むとよい。

[科目名] 保育内容総論

[担当教員名] 真下 あさみ

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期

[科目コード] IE10\_C21

[単位数] 1単位

[授業形態] 演習

#### [授業概要]

学校で色々な教科を学ぶように保育所や幼稚園にも保育内容がある。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針の基本的事項を踏まえ、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から保育の全体像を理解する。様々な事例を通して保育者の役割や、子どもにとって望ましい保育内容について検討する。

#### [学習成果] [C]

保育を総合的に捉え、幼稚園、保育所の保育の全体的な構造を理解するとともに、日々積み重ねていく保育を見通しながら子どもの生活や遊びは養護と教育が一体となって展開されることを知り保育の内容を具体的に考え実践できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 遊びから捉える保育内容
- 3 生活から捉える保育内容
- 4 環境から捉える保育内容
- 5 幅広い教材の工夫と研究
- 6 様々な子どもと人間関係
- 7 保育の年間計画
- 8 行事のねらいと保育内容
- 9 保護者支援について
- 10 様々な保育形態と保育方法
- 11 障害のある子ども
- 12 5領域を意識した模擬保育
- 13 子ども理解を深める模擬保育
- 14 小学校との連携について
- 15 今後の課題とまとめ

#### [授業方法]

テーマごとにグループでの話し合いや発展課題に取り組むなどアクティブラーニングを導入する。適宜、保育教材の作成や実践を取り入れることで実際の保育をしっかりとイメージし、具体的な保育の内容を検討しながら総合的に学ぶ。保育現場の経験を活かし、実践的な方法を豊富に取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

筆記試験（70%）

授業への取組状況・提出物（30%）

#### [教科書]

「演習 保育内容総論」金澤妙子・佐伯一弥編著  
(建帛社)

#### [参考書]

「幼稚園教育要領」

「保育所保育指針」

#### [準備学習（予習・復習）]

授業内容やテーマごとの課題に対しては、各自の実習経験を振り返ったり、自分が考える望ましい保育者像や保育内容についてしっかりと検討する時間を十分にとって取り組む。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

子どもが安心してくつろげる環境のなかでどのような保育が展開されているのか、子どもの姿、子どもの成長を思い描きながら、望ましい保育とは何かを考え授業に臨むと良い。

[科目名] 保育の計画と評価

[担当教員名] 田村 佳世

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_C21

[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保育の基本とカリキュラム及び幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園での教育・保育課程、指導計画の基礎理解。さらに、乳幼児期の発達、保育の目的を踏まえた、指導計画、保育実践、評価・反省（カリキュラムマネジメント）の理解と模擬保育による応用。

#### [学習成果] [C]

幼稚園教育要領、保育所保育指針等の教育・保育の基本を理解し、発達を踏まえた指導計画、保育実践、評価・反省の意義と方法が理解できる。また、グループ学習、模擬保育等の取組みを通して、様々な保育場面に応用できる保育実践力が習得できる。

#### [授業計画]

- 1 保育カリキュラムの意義と保育の基本
- 2 保育カリキュラムと保育実践
- 3 教育・保育課程と指導計画
- 4 指導計画の理解①（ねらいと内容）
- 5 指導計画の理解②（環境構成・保育者の援助）
- 6 保育の指導計画①：0, 1, 2歳児
- 7 保育の指導計画②：3, 4, 5歳児
- 8 様々な指導計画
- 9 指導計画の作成と実践①（乳児の保育）
- 10 指導計画の作成と実践②（幼児の保育）
- 11 指導計画の作成と実践③（異年齢児の保育）
- 12 保育の評価・反省（ポートフォリオの作成）
- 13 カリキュラムマネジメントと保育の質
- 14 子ども主体の保育実践①：レゾエミリア市の挑戦
- 15 子ども主体の保育実践②：見守る保育

#### [授業方法]

教科書及び幼稚園教育要領、保育所保育指針等を基にして講義を行う。具体的な保育方法、子どもの姿を学ぶためICTを活用していく。また、グループ学習、模擬保育、ポスター発表等を通して、課題に対する主体的な学び、積極的な取組みを重視する。

アクティブラーニング導入。

保育現場での実務経験を活かし、実践的な指導、環境で授業を行う。

#### [成績評価]

定期試験（50%）

授業への取組状況（提出物・発表等）（50%）

#### [教科書]

保育カリキュラム論－計画と評価－（建帛社）

#### [参考書]

「保育所保育指針」

「幼稚園教育要領」

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び各解説書

#### [準備学習（予習・復習）]

教科書をよく読んでおくこと。

模擬保育、グループ発表等の準備及び振り返り。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 領域「環境」

[担当教員名] 仲森 みどり

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期

[科目コード] IE10\_C21

[単位数] 1単位

[授業形態] 演習

#### [授業概要]

領域「環境」は生活や遊びの中、子ども達がどのような環境にかかわり活動を生み出していくのか、また季節や状況に応じて保育者がどのような環境を設定すれば良いのかを具体的な事例を取り入れながら学び、習得する。

#### [学習成果] [C]

領域「環境」のねらいと内容を理解することができる。保育者の立場となって子ども達が「環境」に関わる活動の意義を理解し、実践的な保育環境を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション 学習のねらいと進め方
- 2 幼児教育の基本、領域環境とは
- 3 子どもの育ちと環境にかかわる力
- 4 人とかかわる力（保育者、友達、さまざまな人）
- 5 安全な環境づくり（園外）
- 6 園外保育
- 7 自然にかかわる力（自然、季節、命）
- 8 ものや道具にかかわる力
- 9 日常生活の中での興味・関心（文字、数量、時間）
- 10 食と農
- 11 身近な植物への関心
- 12 身近な小動物への関心
- 13 領域「環境」の実践力
- 14 行事と記念日
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義で、様々な環境の意義を理解する。演習で保育者として必要な環境構成、援助の仕方を考えていく。

アクティブラーニング導入。

実践を通し、保育者としてのイメージを膨らませ、活動・援助の仕方を身に付けていく。

保育園、児童相談所、母子生活支援施設の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

筆記試験（50%）

授業への取組状況（提出物を含む）（50%）

#### [教科書]

保育実践に生かす保育内容「環境」〔第2版〕  
（保育出版社）

#### [参考書]

「保育内容 子どもと環境 ―基本と実践例―」  
（同文書院）

#### [準備学習（予習・復習）]

事前に課題を伝えるので、次の授業までに30分程度の準備をし、すぐに取り組めるようにしておく。

復習を兼ね、グループで作成したものは個人でも製作してみる。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 領域「言葉」の指導法

[担当教員名] 加藤 智子

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_C21

[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

乳幼児期に育みたい資質・能力や領域「言葉」のねらい及び内容の理解と、児童文化財の活用に関する実践的応用力を学ぶ。また、発達にあった具体的な指導場面を想定した模擬保育を行い、保育を構想し、評価する力を習得していく。

#### [学習成果] [C]

乳幼児期に育みたい資質・能力や領域「言葉」のねらい及び内容の理解と、児童文化財の活用に関する実践的応用力を学習することができる。また、紙芝居の作成、わらべうたの模擬保育などのグループ学習、発表を通して、具体的な保育の構成、指導方法、評価反省する力が習得できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション：領域「言葉」のねらいと内容
- 2 言葉の発達過程 (1)：言葉を生む基盤と話し言葉の発達
- 3 言葉の発達過程 (2)：書き言葉の発達と小学校における書き言葉
- 4 児童文化財の研究 (1)：紙芝居の分析
- 5 児童文化財の研究 (2)：紙芝居の活用方法
- 6 児童文化財の研究 (3)：紙芝居の作成
- 7 児童文化財の研究 (4)：紙芝居の発表
- 8 児童文化財の研究 (5)：振り返り
- 9 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (1) わらべ歌の分析
- 10 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (2) わらべ歌の指導計画作成
- 11 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (3) わらべ歌などの模擬保育
- 12 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (4) わらべ歌の振り返り
- 13 子どもの言葉を育む保育実践：指導計画の作成
- 14 子どもの言葉を育む保育実践：模擬保育
- 15 子どもの言葉を育む保育の実践：振り返り

#### [授業方法]

参考書及びICTを用いた事例動画、画像を活用し、具体的な言葉の発達、援助方法、児童文化財の活用方法について実技指導をする。また、小テストで学習内容を振り返りつつ、グループ学習、模擬保育等を行い、実践力を養っていく。アクティブラーニング導入。

幼稚園（教育課程作成・教育実習生指導 等）の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

提出物（製作物・指導計画等）（50%）

授業への取組状況（グループ学習・発表等）（30%）

小テスト（20%）

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

「保育者のための言語表現の技術子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践」編著 古橋和夫（萌文書林）

「幼稚園教育要領」

「保育所保育指針」

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

及び各解説書

#### [準備学習（予習・復習）]

発表等の準備及び振り返り。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

グループワーク等での積極的な姿勢を期待します。

[科目名] 乳児保育Ⅱ

[担当教員名] 赤塚 徳子

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_C21

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

「乳児保育Ⅰ」の学びを踏まえ、事例検討を取り入れながら、多角的・総合的に学ぶ。

乳児保育の計画・内容および具体的な援助の方法について、乳児と直接かかわる体験や、保育教材作製・保育実技の演習を通して具体的に学ぶ。

#### [学習成果] [C]

3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわり方を理解する。

保育計画や保育教材について具体的に学び、保育者としての実践力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 乳児保育の重要性
- 2 乳児期の発育・発達 ①
- 3 乳児期の発育・発達 ②
- 4 1日の生活の流れと保育環境
- 5 乳児のあそび（保育教材作り）
- 6 乳児のあそび（保育実技）①
- 7 乳児のあそび（保育実技）②
- 8 実践学習（乳児の観察）
- 9 実践学習（乳児保育実習）
- 10 乳児保育における指導計画の特徴
- 11 指導計画書の書き方
- 12 保育環境と保健
- 13 保育事故の防止と対策
- 14 保護者とのパートナーシップ
- 15 保育者の役割と専門性

#### [授業方法]

講義により乳児期の保育内容や保育者の役割について学ぶ。

学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での観察実習を通し、乳児期の発育・発達について具体的に学ぶ。また、保育計画を立てて保育実技を実践するアクティブラーニングを導入する。

保育士の実務経験があり、保育現場での事例を提示しながら具体的な講義や実技指導を行う。

#### [成績評価]

保育教材の作製・実技発表（30%）

実践学習の参加態度・観察レポート（30%）

ワークシート（30%）

授業への取組状況（10%）

#### [教科書]

適宜プリント教材配布

#### [参考書]

「乳児保育—子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み—」

入江慶太 編著（教育情報出版）

#### [準備学習（予習・復習）]

参考書をよく読み、乳児期の発達段階を理解した上で講義や実習に臨むこと。また、乳児期の発育・発達をワークシートにまとめ、提出すること。

計画的に保育教材の作製や実技練習を行い、実技発表後は反省を踏まえて繰り返し練習すること。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考] 地域志向科目

地域の親子との交流の機会では、保育者としてふさわしい身なりと言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。

[科目名] 社会的養護Ⅱ  
[担当教員名] 倉橋 幸彦  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_A22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童の保育や福祉のために必要な基礎知識を学ぶ。我が国の社会的養護の施策を学び、社会的養護を必要とする児童や家庭の諸問題をより深く理解することで、保育の現場で活かせる実践的指導力の基礎知識を身につける。

#### [学習成果] [A]

我が国の社会的養護の施策を学び、社会的養護を必要とする児童や家庭の諸問題をより深く理解することで、保育の現場で活かせる実践的指導力の基礎知識を理解できる。

#### [授業計画]

- 1 授業の導入 社会的養護の考え方と理念
- 2 社会的養護の現状①
- 3 社会的養護の現状②
- 4 社会的養護の領域①
- 5 社会的養護の領域②
- 6 社会的養護の運営と財政
- 7 社会的養護に関する関係諸機関と連携①
- 8 社会的養護に関する関係諸機関と連携②
- 9 社会的養護に関する制度と育成支援①
- 10 社会的養護に関する制度と育成支援②
- 11 社会的養護の領域における権利保障①
- 12 社会的養護の領域における権利保障②
- 13 実践事例から学ぶ児童養護理論①
- 14 実践事例から学ぶ児童養護理論②
- 15 社会的養護の歴史 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体であるが、DVDの視聴や事例をもとに社会的養護の現状はじめ、基礎知識を学ぶ。

#### [成績評価]

- 筆記試験 (70%)  
課題・レポート等 (20%)  
授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護」  
喜多一憲編修・堀場純矢編 (株式会社みらい)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

予告した単元については購入した教科書を読んで授業に参加すること。毎授業後に示すレポートやノートの提出をし、再度教科書を読み授業内容を見直すこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

積極的に参加し、社会的養護の問題をみんなで深めあっていきましょう。

[科目名] 子育て支援  
[担当教員名] 赤塚 徳子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

現代の子育て家庭を取り巻く社会状況や子育て支援に関する制度や施策について学ぶとともに、国際的な視点を持ち、支援のあり方について考察する。また、子育て支援施設におけるフィールドワークを通じて、子育て家庭の現状や保護者のニーズを知り、子育て支援の具体的な展開や支援者の役割について実践的に学ぶ。

#### [学習成果] [C]

子育ての現状と課題、子育て支援の意義と必要性を理解する。また、子育て家庭に対する支援の内容や具体的な支援方法を理解し、保護者支援の技能を身につける。

#### [授業計画]

- 1 子育て支援が求められる社会背景
- 2 保育者の基本的態度と信頼関係の形成
- 3 保育所等における子育て支援
- 4 地域で展開される子育て支援
- 5 海外の子育てと子育て支援
- 6 子育て家庭に対する支援の展開
- 7 子育て家庭に対する支援の実践
- 8 障害のある子ども及び家庭に対する支援
- 9 子ども虐待の予防と対応
- 10 多様な支援ニーズをかかえる家庭に対する支援
- 11 子育て支援の場における環境
- 12 親子ふれあい遊びの実践
- 13 フィールドワーク①
- 14 フィールドワーク②
- 15 まとめ (保育士の専門的な知識・技術)

#### [授業方法]

講義により、子育ての現状や子育て支援の内容について学ぶ。

学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での親子の様子を観察実習や保護者インタビューを通し、子育てについて具体的に学ぶアクティブラーニングを導入する。

子育て支援施設での実務経験があり、子育て家庭の実情や子育て支援の事例を提示しながら、具体的な講義や技術指導を行う。

#### [成績評価]

- レポート課題 (80%)  
授業・フィールドワークへの取り組み (20%)

#### [教科書]

適宜プリント教材配布

#### [参考書]

「子育て支援」西村重稀・青井夕貴編集 (中央法規)

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前後に教科書をよく読み、内容の理解を深めること。

日頃から子育ての現状に関心や問題意識をもち、情報を得ておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考] 地域志向科目

地域の親子との交流の機会では、保育者としてふさわしい身なりと言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。

**[科目名]** 子ども音楽ⅡA  
**[担当教員名]** 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・  
倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・  
大橋 昌代  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
**[開講学期]** 2年前期 **[科目コード]** IE10\_C21  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

**[授業概要]**

子ども音楽ⅠA・ⅠBで習得した内容を基礎として、音楽的な表現力や知識を高めていく。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な表現力を研究していく。

**[学習成果] [C]**

保育現場で活用できるピアノ技術・弾き歌い、コード伴奏や初見演奏の習得を目指す。音楽表現の実践力と応用力を身に付け、心豊かな子どもを育てる保護者としての力を養う。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション、グループ分け、個別実技指導
- 2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、コード
- 3 //
- 4 //
- 5 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、初見
- 6 //
- 7 //
- 8 試験曲選び、グループ別実技発表会
- 9 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、自由曲
- 10 //
- 11 //
- 12 //
- 13 //
- 14 実技発表会・就職試験練習
- 15 //

**[授業方法]**

1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、自主練習（復習と予習）を行い、練習成果をチェックシートに提出する。

アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業への取組状況(50%)  
実技発表評価(30%)  
自主練習の取組〈チェックシート〉(20%)

**[教科書]**

標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)  
こどものうた100(チャイルド本社)  
うたって、つくって、あそぼう(音楽之友社)  
教材プリント配布

**[参考書]**

楽譜がスラスラ読める本(永岡書店)  
ブルグミュラー25の練習曲(全音楽出版社)  
ソナチネアルバムⅠ(全音楽出版社)

**[準備学習(予習・復習)]**

自主練習 毎日30分以上  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

日々の積み重ねが非常に大切な科目です。音楽的な表現力や知識を高め、心豊かな子どもを育てることの出来る保護者を目指しましょう。

**[科目名]** 子ども音楽ⅡB  
**[担当教員名]** 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・  
倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・  
大橋 昌代  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
**[開講学期]** 2年後期 **[科目コード]** IE10\_C22  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

**[授業概要]**

子ども音楽ⅡAに引き続き、音楽的な表現力や知識を高めていく。「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを広げるだけでなく、動きのための効果音や即興音楽を学習することで、保育・幼児教育現場における実践的なスキルを身につける。

**[学習成果] [C]**

保育現場で活用できるピアノ技術・弾き歌い、動きのための効果音や即興音楽の習得を目指す。音楽表現の実践力と応用力を身に付け、心豊かな子どもを育てる保護者としての力を養う。また、保育者自身も音楽を楽しむ力を養う。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション、グループ分け、個別実技指導
- 2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、動きのための効果音
- 3 //
- 4 //
- 5 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い、動きのためのイメージ音楽
- 6 //
- 7 //
- 8 発表会の曲選び、グループ別実技発表会
- 9 自由曲、弾き歌い、動きのための即興音楽
- 10 //
- 11 //
- 12 自由曲、弾き歌い、就職後対策
- 13 //
- 14 実技発表会
- 15 //

**[授業方法]**

1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、自主練習（復習と予習）を行い、練習成果のチェックシートを提出する。

アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

授業への取組状況(50%)  
2年後期の進度(30%)  
実技発表評価(10%)  
自主練習の取組〈チェックシート〉(10%)

**[教科書]**

標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)  
こどものうた100(チャイルド本社)  
うたって、つくって、あそぼう(音楽之友社)  
教材プリント配布

**[参考書]**

楽譜がスラスラ読める本(永岡書店)  
ブルグミュラー25の練習曲(全音楽出版社)  
ソナチネアルバムⅠ(全音楽出版社)

**[準備学習(予習・復習)]**

自主練習 毎日30分以上  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

日々の積み重ねが非常に大切な科目です。音楽的な表現力や知識を高め、音楽を楽しみましょう。



[科目名] 造形表現指導法Ⅱ  
[担当教員名] 上山 明子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_D21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

現場に即した活動を取り上げて、授業計画から教材の選択、制作、発表までを行う。子どもの造形表現の指導においての要点・注意すべきことについて理解する。また保育者が求められる表現力を実践的に学ぶ。

#### [学習成果] [D]

子どもの成長発達を理解して年齢にあった造形活動の修得、保育に関わる多くの描画画材や素材の扱いや特徴を理解する、造形活動の意味を理解しその制作の喜びを享受することができる。

#### [授業計画]

- 1 「造形表現指導法」の概要及び年間計画提示
- 2 はさみとのりの使用の指導
- 3 「気持ちを色で表現する」自己紹介を兼ねた制作
- 4 「つくってあそぶ」への展開 身近な素材を生かしたつくったもので遊ぶ楽しさを味わう
- 5 「つくってあそぶ」への展開 制作・発表・意見交流
- 6 「観察画」テーマのある絵画活動
- 7 「布を使った造形」生活素材を使った造形
- 8 「布を使った造形」制作・発表・展示
- 9 「五感を養う造形」音・色・手触り・動きなどを気がついたり感じたりする造形
- 10 「五感を養う造形」制作・発表
- 11 「自然と素材」自然の素材を用いた造形活動
- 12 「季節の行事」園の行事・季節の行事について(行事の由来から造形活動まで)
- 13 「季節の行事」身近なもの、廃材を活用した小道具・衣装制作
- 14 「季節の行事」ごっこ遊び、振り返り
- 15 幼児の造形表現を指導するということ(まとめ)

#### [授業方法]

具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況(事前準備、保育者としての適応性)  
(50%)

提出物の充実度(50%)

#### [教科書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園・保育要領」

#### [参考書]

適宜プリント配布

#### [準備学習(予習・復習)]

予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。

復習として次回講義にプリント・レポート提出。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

- ・指示された準備物は忘れずに持ってくること。
- ・実習では服を汚すことがあるので、そのことに対応できる服装をすること。またはエプロン等をする。
- ・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科目名] 総合表現(オペレッタ)Ⅱ  
[担当教員名] 国藤 真理子・ほり みか  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_D21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

大学行事において履修生全員が一つの作品を上演する。演目を制作していく中で、すべてに関わる人との協調性の大切さを学び舞台に集約される総合表現を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

全員で一つの作品を作り上げて行く上で忍耐力、決断力、協調性や自主性などの内面的な成長も培われ、人間形成の糧とすることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション 授業内容の説明と導入 課題の予告と予習事項の説明及び方法の提示 復習事項及び次回課題予告
- 2 発声の基礎と指導、指定の教材の指導と点検 指定の教材練習 総合芸術に対するプランや役割構成を学ぶ (1)
- 3 発声の基礎と指導 指定の教材の指導と点検 指定の教材練習、総合芸術に対するプランや役割構成を学ぶ (2)
- 4 発声の基礎と指導 演目の役割ごとの教材練習 舞台制作 (1)
- 5 発声の基礎と指導 演目の役割ごとの教材練習 舞台制作 (2)
- 6 発声の基礎と指導 演目の役割ごとの教材練習 舞台制作 (3)
- 7 発声の基礎と指導 演目の役割ごとの教材練習 舞台制作 (4)
- 8 発声の基礎と指導 演目の役割ごとの教材練習 舞台制作 (5)
- 9 発声の基礎と指導 演目の役割ごとの教材練習 舞台制作 (6)
- 10 発声の基礎と指導 演目の教材を理解する総合練習 (1) 舞台製作 (7)
- 11 発声の基礎と指導 演目の教材を理解する総合練習 (2) 舞台製作 (8)
- 12 発声の基礎と指導 演目の教材を理解する総合練習 (3) 舞台製作 (9)
- 13 発声の基礎と指導 演目の教材を理解する総合練習 (4) 舞台製作 (10)
- 14 発声の基礎と指導 演目の教材を理解する総合練習 (5) 舞台製作 (11)
- 15 発声の基礎と指導 演目の教材を理解する総合練習 (6) 舞台製作 (12)

#### [授業方法]

授業の計画内容に沿って個人レッスン、グループレッスンの形態で進めていく。

#### [成績評価]

課題及び授業への取組状況(30%)  
実技点検(70%)

#### [教科書]

「こどものミュージカル」城野賢一・清水監修、振付  
(ドレミ楽譜出版)

及び教材プリント配布

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

課題の自主練習及び舞台制作  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

**[科目名]** こども音楽療育実習  
**[担当教員名]** 国藤 真理子・玉田 裕人・朴 賢晶・  
星野 秀樹・松浦 晴美  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
**[開講学期]** 2年全期 **[科目コード]** IE10\_D29  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 実習

#### **[授業概要]**

幼児・児童と関わるなかで音楽療育の実践的な体験を行う。実習施設のこども達は障害の有無や状況、年齢も異なっているために幅広い知識と能力が必要と考えられる。そのため、実習に参加する学生は事前指導、オリエンテーションを行い、十分な準備をして実習を迎えることが重要である。

#### **[学習成果] [D]**

こども音楽療育概論、こども音楽療育演習にて学んだ内容をふまえ、実習施設において幼児・児童との活動を通して音楽療育の実践方法などを身につけることができる。

#### **[授業計画]**

- 1 事前指導  
こども音楽療育実習の目的を理解する
- 2 オリエンテーション  
実習する施設について理解する  
実習に参加する態度を確認する
- 3 児童養護（障がい児）施設での実習（見学実習、参加実習）
- 4 //
- 5 //
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9 本学主催の「お姉さんと遊ぼう」（障がい児とその親で構成されたグループ）での実習（参加実習）
- 10 //
- 11 //
- 12 //
- 13 //
- 14 //
- 15 事後指導  
実習の反省とディスカッション

#### **[授業方法]**

障害のあるこども達との交流を通して音や音楽を使った音楽療育の具体的実践方法を学ぶ。

#### **[成績評価]**

実習の取組状況（70%）  
レポート（30%）

#### **[教科書]**

教材プリント配布

#### **[参考書]**

#### **[準備学習（予習・復習）]**

課題の自主練習  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### **[備考]**

実習期間については「こども音楽療育概論」、「こども音楽療育演習」の開講と並行して行う場合がある。

**[科目名]** 保育実習Ⅰ（施設）  
**[担当教員名]** 赤塚 徳子  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
**[開講学期]** 2年前期 **[科目コード]** IE10\_C21  
**[単位数]** 2単位 **[授業形態]** 実習

#### **[授業概要]**

児童福祉施設の生活に参加し、施設の役割や機能について具体的に学ぶ。また子ども（利用者）とのかかわりを通して、施設で生活する子ども（利用者）への理解を深める。

#### **[学習成果] [E]**

児童福祉施設の役割や保育士の職務について具体的に理解する。観察や生活への参加を通して、子ども（利用者）への支援の方法を習得する。

#### **[授業計画]**

- 事前オリエンテーション
  - ・児童福祉施設の概要や施設実習の流れについて
  - ・実習の準備・心構え・態度について
  - ・実習日誌の書き方・指導案等について
- 実習内容
  - ・施設の1日の流れを理解して参加する
  - ・子ども（利用者）の観察や関わりを通して、ニーズや家族への対応の仕方を学ぶ。
  - ・生活や援助の一部を担当する
  - ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する
  - ・保育士としての職業倫理を理解する
- 巡回訪問指導
- 実習のまとめ
  - ・実習日誌の整理をする
  - ・実習の自己評価をし、反省点や自己の課題を明確にする

#### **[授業方法]**

保育所以外の児童福祉施設に宿泊または通所して、おおむね10日間実習を行う。

#### **[成績評価]**

実習施設の評価（70%）  
実習日誌・提出物（30%）

#### **[教科書]**

「保育士をめざす人のための福祉施設実習」  
愛知県保育実習連絡協議会編（みらい）

#### **[参考書]**

#### **[準備学習（予習・復習）]**

実習先の施設の概要について調べ、理解しておくこと。生活全般の援助ができるよう、掃除・洗濯などの家事の能力を身につけておきましょう。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### **[備考]**

日頃から福祉施設に関するニュースに目を向け、新聞や著書などから社会問題に関する情報の収集をしておきましょう。

[科目名] 保育実習Ⅱ  
[担当教員名] 赤塚 徳子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_E21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要・到達目標]

授業概要:既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえての実習。

到達目標:保育士の職務を体感し、保育士としての技術を習得する。保育計画の立案、実践、記録、振り返りを通し、自己課題を明確にする。

#### [学習成果] [E]

保育所実習を通して、様々な保育ニーズを含む保育所の機能および保育士の役割と専門性について理解することができる。

実習での経験、指導等から、保育士に求められる資質能力・技術に照らして自己課題が明確となり、今後の学習の指針を得ることができる。

#### [授業計画]

##### ○事前オリエンテーション

- ・保育所実習の意義と目的
- ・保育所実習の流れ
- ・実習の心構えと事前訪問について
- ・実習記録のとり方
- ・指導計画の立て方 (部分実習・全日実習)

##### ○実習内容

- ・保育所の一日の流れを把握し、積極的に子どもと関わる
- ・子どもの年齢に即した発達段階を理解した上で、指導案を作成し実践する(部分実習・全日実習)
- ・保育士としての倫理観を理解し、サービス態度を習得する
- ・家庭や地域との連携に関する理解を深める

##### ○実習巡回訪問指導

##### ○事後指導

- ・実習のまとめ、実習日誌の整理
- ・実習全体を振り返り、実習の反省点や保育者としての課題を明確にする

#### [授業方法]

保育所にて2週間の観察・参加・指導(部分・全日)実習を行う。

#### [成績評価]

- 実習園の評価(70%)
- 実習日誌・提出物(30%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(みらい)

#### [参考書]

「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子  
(萌文書林)

#### [準備学習 (予習・復習)]

予習:担当する乳幼児の発達段階や年齢に即した遊びの理解。保育教材の作製、ピアノの練習の継続など実習に向けての準備

復習:日誌等の指導の反省、振り返り  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

社会人としてのマナーや心構えを日ごろから意識して身につけましょう。提出書類の期限は必ず守りましょう。

[科目名] 保育実習指導Ⅱ  
[担当教員名] 赤塚 徳子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_E21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

授業概要:保育実習に向け、保育計画や保育技術、職業倫理について学ぶ。

到達目標:指導計画の作成、模擬保育等を通して保育技術の取得及び向上と、自己課題の明確化。

#### [学習成果] [E]

- ・保育計画の立て方や自己評価の仕方を理解することができる。
- ・教材研究や模擬保育を通し、保育技術を習得することができる。
- ・保育者の専門性と職業倫理について理解することができる。
- ・事後指導を通して、保育に対する課題を明確化することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション・保育実習の心構え
- 2 保育実習Ⅱについて
- 3 施設実習について
- 4 児童福祉施設の概要と保育士の役割
- 5 保育計画について
- 6 保育計画作成①
- 7 保育計画作成②
- 8 教材研究①グループワーク
- 9 教材研究②発表
- 10 教材研究③振り返り
- 11 事例検討①乳児の保育
- 12 事例検討②3歳以上児の保育
- 13 保育実習Ⅱの振り返りと今後の課題
- 14 事例検討③異年齢保育・統合保育等
- 15 学びの振り返りとまとめ

#### [授業方法]

保育計画の作成、模擬保育、アクティブラーニング等によって積極的に考えを発表し合い、相互に学び合うことを通して、よりよい教材や保育方法を探る。

アクティブラーニング導入。

保育所・子育て支援センターの実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 提出物(50%)
- 授業への取組状況(30%)
- 発表(20%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(みらい)

#### [参考書]

「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子  
(萌文書林)

#### [準備学習 (予習・復習)]

予習:絵本の読み聞かせ、手遊びの練習や保育教材を作製するなど、保育実習に向けての準備を計画的に進める。

福祉施設の機能や保育者の役割等について見識を深め、各自課題意識をもって授業に臨む。

復習:提出物、製作物等の反省、修正。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

社会人としてのマナーや心構えを身につけられるように日ごろから挨拶や言葉遣いを意識しましょう。提出書類の期限は必ず守りましょう。

## 2 専門科目

幼児教育学科 第3部 1年

[科目名] 保育原理  
[担当教員名] 庄子 佳吾  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保育士養成課程の必修科目「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。①保育の意義及び目的、②保育に関する法令及び制度、③保育所保育指針における保育の基本、④保育の思想と歴史の変遷、⑤保育の現状と課題について概説する。

#### [学習成果] [A]

①保育の意義及び目的、②保育に関する法令及び制度、③保育所保育指針における保育の基本、④保育の思想と歴史の変遷、⑤保育の現状と課題について理解し、保育者としての基本的知識・態度を身につける。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 保育の意義及び目的
- 3 子どもと保育に関する法令及び制度(1): 保育所①
- 4 子どもと保育に関する法令及び制度(2): 保育所②
- 5 子どもと保育に関する法令及び制度(3): 幼稚園
- 6 子どもと保育に関する法令及び制度(4): 幼保連携型認定こども園
- 7 子どもと保育に関する法令及び制度(5): 子ども・子育て支援新制度
- 8 保育所保育指針における保育の基本(1): 保育の目標・内容
- 9 保育所保育指針における保育の基本(2): 保育の環境・方法
- 10 保育所保育指針における保育の基本(3): 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環①
- 11 保育所保育指針における保育の基本(4): 子どもの理解に基づく保育の過程とその循環②
- 12 諸外国の保育の思想と歴史
- 13 日本の保育の思想と歴史
- 14 諸外国の保育の現状
- 15 日本の保育の現状と課題

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループワークや視覚教材、体験学習等を取り入れ、子どもと保育の営みの理解が深まるようにする。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 定期試験 (50%)
- 授業への取組状況 (50%)

#### [教科書]

特になし。授業中に適宜資料を配付する。

#### [参考書]

- 「教育原理 (シリーズ 生活事例からはじめる)」  
竹石聖子・内山絵美子 編著 (青踏社)
- 「保育所保育指針」及び解説書
- 「幼稚園教育要領」及び解説書
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説書

#### [準備学習 (予習・復習)]

次回のテーマの予習並びに授業前に前回の授業内容を見直し、復習を行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日日時は掲示で確認) に受け付けます。

[科目名] 社会福祉  
[担当教員名] 祢宜 佐統美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

社会福祉の歴史を学ぶとともに、社会福祉の意義について理解する。社会福祉の理念や概念、法制度や実践方法、相談援助、権利擁護や苦情解決について学ぶ。

#### [学習成果] [A]

社会福祉の歴史的背景や考え方・役割を理解することで、自らの生活や人々の生活について考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 社会福祉の考え方と概念
- 2 社会福祉のあゆみ
- 3 変革期の社会福祉
- 4 諸外国の社会福祉・動向
- 5 社会福祉の制度・法体系・機関
- 6 社会福祉の専門職
- 7 利用者の保護に関わる仕組み
- 8 子ども家庭支援と社会福祉
- 9 高齢者の福祉
- 10 介護保険制度
- 11 障がいのある人の福祉
- 12 地域の福祉
- 13 相談援助
- 14 社会保障
- 15 事例検討

#### [授業方法]

講義が主体であるが、社会福祉について自らの考えをその都度ディスカッションしていく。また、単位ごとに「確認シート」で重要事項の理解を深める。

#### [成績評価]

- 試験 (70%)
- 授業への取組状況 (15%)
- 課題 (15%)

#### [教科書]

「社会福祉を学ぶ」山田美津子・稲葉光彦編  
(みらい)

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習をしてこること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後には、授業内容のポイントを復習しておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

普段からニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科目名] 社会的養護 I  
[担当教員名] 倉橋 幸彦  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

[授業概要]

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童の保育や福祉のために必要な基礎知識を学ぶ。我が国の社会的養護の施策を学び、社会的養護を必要とする児童や家庭の諸問題をより深く理解する。

[学習成果] [A]

我が国の社会的養護の施策を学び、保育の現場で活かせる実践的指導力の基礎知識を身につけることができる。

[授業計画]

- 1 授業の導入 社会的養護の考え方と理念
- 2 社会的養護の現状①
- 3 社会的養護の現状②
- 4 社会的養護の領域①
- 5 社会的養護の領域②
- 6 社会的養護の運営と財政
- 7 社会的養護に関する関係諸機関と連携①
- 8 社会的養護に関する関係諸機関と連携②
- 9 社会的養護に関する制度と育成支援①
- 10 社会的養護に関する制度と育成支援②
- 11 社会的養護の領域における権利保障①
- 12 社会的養護の領域における権利保障②
- 13 実践事例から学ぶ児童養護理論①
- 14 実践事例から学ぶ児童養護理論②
- 15 社会的養護の歴史 まとめ

[授業方法]

講義が主体であるが、DVDの視聴や事例をもとに社会的養護の現状はじめ、基礎知識を学ぶ。

[成績評価]

- 筆記試験 (70%)
- 課題・レポート等 (20%)
- 授業への取組状況 (10%)

[教科書]

「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護」  
喜多一憲監修・堀場純矢編 (株式会社みらい)

[参考書]

随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]

予告した単元については購入した教科書を読んで授業に参加すること。毎授業後に示すレポートやノートの提出をし、再度教科書を読み授業内容を見直すこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

積極的に参加し、社会的養護の問題をみんなで深めあっていきましょう。

[科目名] 保育者論  
[担当教員名] 鈴木 真知子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

[授業概要]

保育とは子どもだけでなく、保護者支援、地域との連携など様々な子育てに関するニーズに応える役割があり、保育者としての責務があることを理解する。理論と実践を結び付け、保育者の専門性について理解を深めると共に、目指す保育者像を具体化していく。

[学習成果] [A]

保育者の役割や制度的な位置づけを理解した上で、保育現場で実践し、成長していく保育者としての視点を身につけることができる。

[授業計画]

- 1 目指す保育者像
- 2 現在の保育事情 (少子化と保育士不足と待機児童問題)
- 3 いま「保育者」をめざす人たちへ
- 4 幼稚園・保育園・認定こども園の特色
- 5 保育者の仕事と役割
- 6 保育者になるための学び
- 7 保育者に求められる資質とは
- 8 職場で学びあう専門家
- 9 子どもの育ちの危機と子育て支援
- 10 子どもの育ちの危機と子育て支援
- 11 現代社会の変化と保育者の仕事や課題
- 12 日本の保護者のあゆみ
- 13 資料に見る保育者の姿
- 14 諸外国の保育者
- 15 キャリアビジョン

[授業方法]

第4回までは、グループワークによる課題への取り組み、発表、まとめを、アクティブラーニングによって相互に学び、理解を深めていく。

第5回以降はテーマに合わせた個人発表を行い、質疑応答、評価反省を行って主体的な学びを行う。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 授業への取組状況、授業の振り返りプリント提出等 (20%)
- 発表 (30%)
- 筆記試験 (50%)

[教科書]

「新時代の保育双書 今に生きる 保育者論 第4版」  
(みらい)

[参考書]

随時紹介

[準備学習 (予習・復習)]

(予習) 課題、テーマに関する下調べ、プレゼン準備  
(復習) 課題、テーマに関する振り返り、まとめ  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

グループワークでは、よりよい学びのために一人一人の積極的な参加を期待します。  
個人発表では、発表形態は自由でそれぞれの工夫を期待します。

[科目名] 保育の心理学  
[担当教員名] 朴 賢晶  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_B11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

乳幼児期の知的な発達、身体的な発達、そして対人関係や人格の発達などを具体的に学びながら、保育と発達との関係について理解を深めることを目的とする。特に人とのかかわりの中で子どもをどのように捉えていくかなどを理解する。

#### [学習成果] [B]

- 1 保育実践に関わる発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達をとらえる視点について理解することができる。
- 2 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる。
- 3 乳幼児期の学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互作用や体験、環境の意義を理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 発達を理解することの意義
- 2 保育実践の評価
- 3 発達観と保育観
- 4 発達を規定する要因
- 5 感情の発達
- 6 運動機能の発達
- 7 知覚と認知の発達
- 8 言葉の発達
- 9 基本的信頼感の獲得
- 10 愛着の形成
- 11 初期経験と発達援助
- 12 新生児の発達
- 13 乳幼児期の発達
- 14 乳幼児期の学びの過程と特性
- 15 乳幼児期の学びを支える保育

#### [授業方法]

講義による授業形態。学生に理解を深めさせるために、事例を検討し発表するなど、DVD等を用い発達心理学における最新の研究を視覚的に提示する。さらに、子育て支援センターで子どもたちを観察することによって、子どもたちの発達評価等を体験的に学ぶ。公務員試験の過去問の中で、授業内容の関連過去問を抽出し解く。

#### [成績評価]

- 中間テスト (20%)  
小テスト・レポート (50%)  
平常点 (30%) (平常点：授業参加度、授業態度等)

#### [教科書]

「保育の心理学」長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子 著  
(ななみ書房)

#### [参考書]

「保育を支える発達心理学」鯨岡峻・鯨岡和子著  
(ミネルヴァ書房)  
「発達心理学」無藤隆・中坪史典・西山修編著  
(ミネルヴァ書房)

#### [準備学習 (予習・復習)]

レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

毎回授業の学習量が多いため、授業の終わりに予習事項を知らせる。毎回予習を持って授業に臨むことが望ましい。

[科目名] 子ども家庭支援の心理学  
[担当教員名] 林 貴子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_B11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

生涯発達全般及び、乳幼児期の発達の重要性について発達段階、発達課題等の概念から学習する。また生活の大部分を過ごす家庭の役割、親子関係など発達の観点から家庭について学習する。その他に社会の変化に伴う近年の子育て家庭の現状と課題、子どもの精神保健について理解できるよう学習する。

#### [学習成果] [B]

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。家庭の意義や機能を理解するとともに、発達の観点から家庭・家族を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や課題について理解する。子どもの精神保健とその課題について理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 生涯発達の概念と発達課題
- 2 乳幼児期から学童期までの発達
- 3 学童期後期から青年期までの発達
- 4 成人期、老年期の発達
- 5 家族・家庭の意義と機能
- 6 現代の家庭における人間関係
- 7 子どもの発達と家庭
- 8 子育てを取り巻く社会状況
- 9 ライフコースと仕事・子育て
- 10 子育ての経験と親としての育ち
- 11 多様な家庭とその理解
- 12 特別な配慮を要する家庭
- 13 子どもの心の健康と発達
- 14 子どもの生活・生育環境とその影響
- 15 子どもの心の健康に関わる問題

#### [授業方法]

講義が主体であるが、グループワークを通しての実践的なアクティビティを取り入れ、家庭支援に関わる心理学的なアプローチを学べるように構成する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 試験 (70%)  
課題や授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「子ども家庭支援の心理学」原信夫・井上美鈴編 著

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

テキストを事前に講読しておく。授業内容に関する課題に取り組み、提出する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 領域「人間関係」  
[担当教員名] 村上 浩美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

乳幼児期に人とのようにかかわっていくのかその過程と発達の姿を理解し、人とかかわる力を身につけていくために保育者はどのように保育計画を立て援助すべきかを考える。

#### [学習成果] [C]

乳幼児期における人と関わる力の発達や幼稚園教育要領・保育所保育指針の「人間関係」の領域に示されている内容や保育者としての保育・指導方法が理解できる。

#### [授業計画]

- 1 今日の人間関係
- 2 乳幼児期の発達・愛着の形成
- 3 身近な大人との関わり・受容と応答
- 4 子どもと保育者との関わり (1) 信頼関係を築く
- 5 自立と依存
- 6 遊びと生活の中で人との関わりを育てる
- 7 子どもと保育者との関わり  
(2) 子ども同士の関係をつなぐ
- 8 個と集団の育ち
- 9 自己主張と自己抑制 (1) 自己主張を支える
- 10 自己主張と自己抑制 (2) トラブルを通して
- 11 協同性の育ち
- 12 道徳性の芽生え・人の役に立つ喜び
- 13 規範意識の芽生え
- 14 地域や家庭生活の中で人との関わりを育てる
- 15 人との関わりを育む幼児教育の今日的課題

#### [授業方法]

具体的な事例から子どもが人との関わりから何を体験し保育者はどう援助すべきかを考えるようにする。

アクティブラーニング導入・・・事例検討しグループ討議することで、子どもの内面や保育者の援助について多様に考えていく。

#### [成績評価]

- 試験(70%)
- 授業への取組状況(30%)

#### [教科書]

「事例で学ぶ保育内容 領域人間関係」 無藤隆監修  
(萌文書林)

#### [参考書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

#### [準備学習(予習・復習)]

授業前に、前回の授業内容を見直しておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

授業の中で、事例を読み取り発表します。人の考えは様々です。自分とは違った感じ方や考え方に触れることも大切です。グループ討議では、積極的に自分の思ったことや考えたことを発表しましょう。また、他の人の発言を聞く態度も、グループ討議の効果を出すためには重要な要素です。他の人の発言を黙って聞いているだけでなく、うなずいたり質問したり同意したりしましょう。

[科目名] 領域「言葉」  
[担当教員名] 加藤 智子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育内容の領域「言葉」の指導の基盤となる、発達理解、保育のねらい、内容、指導・援助方法、児童文化財に関する知識と実践力を学ぶ。また、保育者として求められるコミュニケーションの役割や方法を学び、伝える力、聴く力を習得していく。

#### [学習成果] [C]

領域「言葉」のねらい及び内容を理解すると共に、乳幼児及び障がい児、日本語を母語としない子どもの言葉の発達、援助方法を学習することができる。さらに、グループ学習、模擬保育を通して、発達にあった児童文化財の理解、指導計画の作成、保育実践、保育者として必要なコミュニケーション力が習得できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション：言葉とは
- 2 保育における言葉の発達
- 3 0歳児の言葉
- 4 1歳児の言葉
- 5 2歳児の言葉
- 6 3歳児の言葉
- 7 4歳児の言葉
- 8 5歳児の言葉
- 9 領域「言葉」のねらい及び内容
- 10 言葉の発達のサポート
- 11 日本語を母語としない子どもへのサポート
- 12 言葉の発達を促す児童文化財 (3歳未満児)
- 13 言葉の発達を促す児童文化財 (3歳児以上児)
- 14 言葉を育てる指導と指導計画 (3歳未満児)
- 15 言葉を育てる指導と指導計画 (3歳児以上児)

#### [授業方法]

教科書及び幼稚園教育要領等を基にし、乳幼児期の子どもの言葉の発達、指導、援助方法についてICTを活用し、具体的事例を紹介しながら講義を行う。また、演習内容として、読み聞かせの発表、課題に対してグループ学習、模擬保育等を行い、実践力を養っていく。

アクティブラーニング導入。  
幼稚園(教育課程作成・教育実習生指導等)の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 授業への取組状況・提出物(50%)
- 試験(50%)

#### [教科書]

コンパス 保育内容言葉 (建帛社)

#### [参考書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び各解説書」

#### [準備学習(予習・復習)]

発表、模擬保育等の準備及び振り返り。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

グループワーク等での積極的な姿勢を期待する。



[科目名] 領域「環境」の指導法  
[担当教員名] 今村 光章  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_C12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

領域「環境」のねらいと内容を学ぶとともに、その背景となる専門的な知識と技術を身につける。また、子どもの発達に即して、「環境」の領域で、主体的かつ対話的な深い学びができるような指導ができるような基本的な技術と方法を身につける。

#### [学習成果] [C]

領域「環境」のねらいと内容を理解することができる。保育者として、幼児が環境にかかわる活動の意義を理解し、実践的な「環境」に関する保育の指導法を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と構造
- 2 領域「環境」の変遷と現在の社会的背景
- 3 領域「環境」のねらいと内容Ⅰ：自然環境
- 4 領域「環境」のねらいと内容Ⅱ：社会環境
- 5 幼児の環境の諸側面：物的、人的、社会的環境
- 6 幼児の環境と認識の発達：自然物と生物
- 7 幼児の身近な環境とのかかわり：数量と図形
- 8 保育計画の意味、ねらいと内容
- 9 保育方法と記録、情報機器と教材の活用、評価
- 10 3歳児・4歳児・5歳児の各年齢の特徴を理解する
- 11 指導案作成実践上の留意点と評価
- 12 領域「環境」の模擬保育Ⅰ：自然環境
- 13 領域「環境」の模擬保育Ⅱ：社会環境
- 14 作成した指導案の発表と模擬保育の振り返り
- 15 指導案および保育の評価の観点

#### [授業方法]

講義では、様々な環境の意義を理解し、演習では、アイスブレイクやグループワークを採り入れて、環境構成の方法と保育における援助技術について学ぶ。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

筆記試験 (70%)  
授業への取組状況と提出物 (30%)

#### [教科書]

「保育内容 環境」榎沢良彦・入江礼子編著 (建帛社)

#### [参考書]

「環境」吉田淳・横井一之編著 (福村出版)

#### [準備学習 (予習・復習)]

プリント等を配布して事前に課題を伝え、次回の授業日に提出する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 乳児保育Ⅰ

[担当教員名] 柴田 法子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_C12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

3歳未満児の発育・発達過程や、特性を踏まえた援助や関わり方を学び、保育者の役割を知る。

乳児保育の歴史、意義や必要性について学び、保育所や保育所以外の乳児保育を知る。

#### [学習成果] [C]

3歳未満児の発育・発達や保育所での生活について理解し、乳児保育に必要な知識を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷
- 2 乳児保育の役割と機能
- 3 乳児保育における養護及び教育
- 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
- 5 保育所における乳児保育
- 6 保育所以外の児童福祉施設 (乳児院等) における乳児保育
- 7 家庭的保育等における乳児保育
- 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援
- 9 3歳未満児の生活と環境
- 10 3歳未満児の遊びと環境
- 11 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
- 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり
- 13 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮
- 14 乳児保育における計画・記録・評価とその意義
- 15 乳児保育における職員間の連携・協働

#### [授業方法]

テキストや視聴覚教材を使用し、乳児の発達や保育内容について講義を行う。  
保育者や保護者など様々な面から乳児保育を考え、グループディスカッションをしていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

筆記試験 (80%)  
授業への取組状況 (20%)

#### [教科書]

「乳児保育ー子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー」  
入江慶太 編著 (教育情報出版)

#### [参考書]

「保育所保育指針」 (フレーベル館)  
「音楽と語りで夢を育む絵本ケア」  
真下あさみ編著 (三恵社)

#### [準備学習 (予習・復習)]

乳児の発達段階が理解できるよう、テキストを読み、予習をしておくこと。また、授業後はノートをまとめたり、見直したりして理解を深めること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

乳児期の発達や関わり方を理解し、保育実習に活かしましょう。また、子育ての現状や子育て支援の重要性を理解し、保護者支援の出来る保育者を目指しましょう。

[科目名] リズム表現指導法  
[担当教員名] ほり みか  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_C11  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼児期に感受性を高め、表現力豊かで健康的な生活を送るために、保育の中で何をどう取り組むべきかを工夫する。

そのための環境作り、準備、リズム遊び、リズム表現の教材を作成したり使用したり、実習を行う。

#### [学習成果] [C]

健康的で安全な環境作り、またそのための心配りができるようにする。幼児が楽しみながら健康、リズム感、運動能力を向上できる方法を知る。

グループワークを通し、協調性、リーダーシップ、考える力、を養うことができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション お遊戯・振付体験
- 2 基礎トレーニング リズム遊び①
- 3 基本のリズム・ステップ① リズム遊び②
- 4 基本のリズム・ステップ② リズム遊び③
- 5 身体表現 色々な動き、ステップの習得
- 6 身体表現 色々な動き、ステップの習得
- 7 リズム表現の基礎 構成、振付を学ぶ①
- 8 " ②
- 9 " ③
- 10 " ④
- 11 作品制作①・選曲、小道具、衣装プラン作成
- 12 " ②・構成、フォーメーション、振付を考える
- 13 " ③・振付
- 14 " ④・スキルアップ、指導を工夫
- 15 " ⑤発表・他の作品を評価

#### [授業方法]

演習

身体表現・リズム運動・振付の基礎習得

グループワークでの作品制作

アクティブラーニング導入

#### [成績評価]

共同制作作品評価 (60%)

実技小テスト (30%)

協調性、リーダーシップ、授業への取組状況 (10%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

学んだストレッチを日常に取り入れ、健康的な体作りをする。

休暇時に、舞台、美術など、芸術に触れ見識を広める。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

運動のできる服装に着替えること。

バレエシューズを購入(2,600円程度)

[科目名] こども音楽療育概論

[担当教員名] 池田 信子

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年前期 [科目コード] IE30\_C11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

講義形式で、音楽療法、音楽療育について、子どもの発達や音楽的発達について学んでいく。それと並行して、実践の援助のためのテクニックを学ぶ。また、子どもに対する音楽療育における音楽の役割、機能、選択/活用の仕方について学び、具体的な目標をもった活動を計画、実践、評価するための方法を学ぶ。後半では、具体例を見たりロールプレイをしながら学び、学生自身が課題の発表をする。

#### [学習成果] [C]

子どもの発達、子どもの音楽的発達について理解することができる。

子どもに対する音楽療法、音楽療育の意義について理解することができる。

音楽療育の実践方法に関する技術、知識を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション「音楽療法・音楽療育」
- 2 リズム運動の必要性1  
子どものからだの変化
- 3 リズム運動の必要性2  
子どもの発達
- 4 リズム表現、リズムあそび、リズム運動
- 5 音楽療育における音楽の役割、機能  
アセスメント1
- 6 音楽療育における音楽の役割、機能  
アセスメント2
- 7 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 8 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 9 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 10 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 11 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 12 音楽療育活動の具体的なテクニック、実践例
- 13 課題発表
- 14 課題発表
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、実践例の紹介、DVDを見る、子どもの歌を歌う、ロールプレイなどを交えて行っていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業、課題への取組状況 (30%)

課題提出物の点数 (30%)

試験 (40%)

#### [教科書]

「さくらんぼのリズムとうた」 斎藤公子著  
(群羊社)

その他の資料は授業中に配布する。

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

前回までの授業の内容を読み返したり、関連する分野の情報を収集したりして、授業内容に対する理解を深めておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

課題の提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科目名] こども音楽療育演習  
[担当教員名] 池田 信子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_C12  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

楽器の使い方、伴奏の方法を学び、また子ども向けの曲のレパートリーを広げるために、練習する。対象者の障害種別、目標別、形態別の活動例を実際にロールプレイで行ってみる。それを踏まえ、実際に学生自身が活動内容を計画してロールプレイで行う等の活動を並行して行っていく。

#### [学習成果] [C]

子どもに対する音楽療育活動を行うための音楽的技術を修得することができる。

子どもに対する音楽療育活動を行うための療育的な援助技術を修得することができる。

障害種別、目標別、形態別の音楽療育の具体的な方法を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもを対象とした音楽療法(音楽療育)について、子ども向けの曲の練習
- 3 身体障害児を対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 4 知的障害児を対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 5 感覚障害児を対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 6 自閉症の子どもを対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 7 ダウン症の子どもを対象とした音楽療育活動、子ども向けの曲の練習
- 8 割り当てられた曲を使って、実際にロールプレイを行う。
- 9 割り当てられた曲を使って、実際にロールプレイを行う。
- 10 割り当てられた曲を使って、実際にロールプレイを行う。
- 11 目標や手順について考えながら、楽器ごとの活動の例を行う。
- 12 目標や手順について考えながら、楽器ごとの活動の例を行う。
- 13 目標や手順について考えながら、楽器ごとの活動の例を行う。弾き歌いのテスト
- 14 課題の発表、評価
- 15 課題の発表、評価

#### [授業方法]

毎回、ロールプレイを行うが、講義も少しずつ取り入れて授業をする。ロールプレイは行う順番を決め、各自が子ども役、療育者役、伴奏者の役目を必ず数回ずつ経験するようにする。また、ロールプレイの後に話し合いをして、意見を交換し合って技術を高めていく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (50%)  
提出課題 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

活動計画立案作成、ピアノ伴奏練習、グループ内での打ち合わせなど、演習の準備をしておく。また、演習後に自己評価、観察記録を記す。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

課題の提出遅れ等は減点となるので注意すること。

[科目名] 短期海外保育実習  
[担当教員名] 赤塚 徳子・田村 佳世・山崎 宜久  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_D12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

ニュージーランドの保育現場において、春季休業期間に2週間の研修に参加する。異文化圏のコミュニケーション能力の向上及び保育実習を通して異文化保育について深く理解する。研修参加者は、渡航前の事前オリエンテーションに参加し、終了後は短期海外保育研修発表会を行う。

#### [学習成果] [D]

子育て先進国であるニュージーランドの保育を体験することにより、ニュージーランドのナショナルカリキュラムであるテファリキについて学び、保育現場でどのように実践されているかを具体的に理解することができる。また、英語によるコミュニケーション能力が身につく、異文化保育について理解することができる。

#### [授業計画]

【参考】2019年度 短期海外保育研修の日程

2019年4月～8月 短期海外保育研修説明会

2019年6月 申込締切り

2019年9月～2020年1月 渡航手続き

事前オリエンテーション

2020年3月 6日 関西国際空港発

2020年3月 7日 ニュージーランド着

2020年3月 8日 フリータイム(ホストファミリー交流)

2020年3月 9日～13日 語学研修

2020年3月14日 保育研修・オークランド観光

2020年3月15日 フリータイム

2020年3月16日～18日 保育研修

2020年3月19日 コハンガレオ見学

2020年3月20日 ニュージーランド発

関西国際空港着

2020年4月、11月 BH及び大学祭にて短期海外保育研修報告

#### [授業方法]

事前指導：担当教員による講義に加えて、英語教員による指導を行う。現地スタッフや研修のOG等による説明会を行う。

事後指導：短期海外保育研修報告会を行う。研修の学びをパネル、報告書を作成し、掲示する。

#### [成績評価]

実習における成績 (50%)

事前指導 (25%)

事後指導 (25%)

#### [教科書]

過去の短期海外保育研修報告書

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

予習：事前指導において、英語による自己紹介や保育実習の準備。ニュージーランドの保育の概要について調べる。

復習：報告書作成や報告会の準備を通して、演習の振り返りと反省を行う。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

【他の授業との関連】

「英会話」「英語演習」を受講し、「保育英語検定」を受験することが望ましい。

## 2 専門科目

幼児教育学科 第3部 2年

[科目名] 子ども家庭福祉  
[担当教員名] 上島 遥  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_A22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

- ・子ども家庭福祉を取り巻く状況や支援の仕組みを理解する。
- ・子ども家庭福祉に関わるサービスや機関・施設について理解する。
- ・事例を通して、ソーシャルワークの視点を学ぶ。

#### [学習成果] [A]

- ・子ども家庭福祉に関わる幅広い機関との連携を図りながら援助ができるように、基礎的な知識と援助のための視点を身につける。

#### [授業計画]

- 1 子ども家庭福祉の考え方
- 2 子ども家庭福祉を取り巻く少子化問題
- 3 子ども家庭福祉の歴史的背景
- 4 行政の仕組みとのかかわる法律
- 5 子ども家庭福祉にかかわる機関および施設
- 6 健全育成について
- 7 母子保健について
- 8 保育の現状と課題
- 9 要保護児童への支援
- 10 障がい児への支援
- 11 非行少年およびひとり親家庭への支援
- 12 子ども虐待防止とその対応
- 13 ソーシャルワークのプロセス
- 14 事例から学ぶソーシャルワーク
- 15 子ども家庭福祉における多機関連携

#### [授業方法]

基本的な知識に関しては講義が中心となるが、事例検討やロールプレイを取り入れることにより、実践的な学びにつなげるとともに、保護者支援や多機関連携における保育者の役割や援助方法についての学びを深める。

アクティブラーニング導入。

障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験（60％）

授業参加への積極性、提出物、発表（40％）

#### [教科書]

「児童家庭福祉」 福田公教/山縣文治編著  
(ミネルヴァ書房)

#### [参考書]

「ひと目でわかる保育者のための児童家庭福祉データベース」全国保育士養成協議会監修（中央法規）

#### [準備学習（予習・復習）]

特に、重要語句について説明できるように、復習しておいてください。授業開始時に、前回の振り返りをペアワークで行う。

予習として日頃から、子ども家庭福祉に関連するニュースをチェックし、何が問題になっているのかを説明できるようにしておく。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 子どもの食と栄養Ⅰ  
[担当教員名] 小野内 初美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_B21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

はじめに、栄養学の基礎である栄養生理、栄養素を理解する。さらに、子どもの発育・発達に必要な栄養素と、それらを含む食品、咀嚼・嚥下・消化・吸収機能の発達にともなった、栄養素摂取と食生活を学ぶ。また、保育者として、子どもの食生活上の問題点を考えながら、子どもに適した栄養素摂取や食生活の必要性、子どもが体得した食習慣が成人に達してからの心身の健康に及ぼす影響を認識する。

#### [学習成果] [B]

子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるための、栄養学や食生活の知識を習得し、保育者として子どもや保護者への食生活支援ができる知識が身につく。また、健康であることの大切さを理解し、食育を実践できる知識を習得できる。

#### [授業計画]

- 1 子どもの健康と食生活の意義
- 2 子どもを取り巻く食環境と課題
- 3 栄養に関する基礎知識①（栄養の生理、栄養素の種類と機能）
- 4 栄養に関する基礎知識②（栄養素の種類と機能）
- 5 食事摂取基準とその活用、保育所等における献立
- 6 保育所における食事の提供ガイドライン
- 7 妊娠のメカニズムと出産、妊娠期・授乳期の食生活
- 8 乳児期（乳汁期・離乳期）の発育と食生活
- 9 幼児期の発育・発達と食生活
- 10 学童期、思春期の発育・発達と食生活
- 11 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
- 12 食育の基本と内容及びその環境
- 13 食育の計画及び評価
- 14 疾病及び体調不良、障がいのある子どもへの食生活の対応
- 15 食物アレルギーのある子どもへの対応  
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン

#### [授業方法]

理論を学びながら演習を中心とする。学生が主体的に学べるようにグループ学習や調べ学習を行う。問題点やその解決のための対応について、ディスカッションを取り入れる。単元終了ごとに小テストやレポート作成を行う。アクティブラーニング導入。

産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（20％）

筆記試験（小テスト含む）（60％）

レポート等の提出物（20％）

#### [教科書]

「新版 子どもの食と栄養」岩田章子他編（みらい）

#### [参考書]

「保育所における食事の提供ガイドライン」

平成24年3月（厚生労働省）

「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン

（2019年改訂版）」（厚生労働省）

#### [準備学習（予習・復習）]

今回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心掛けると良い。

[科目名] 子どもの食と栄養Ⅱ  
[担当教員名] 小野内 初美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_B22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

調理を多く取り入れ、食材に触れることにより、「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ内容に対する理解を深めていくとともに、子どもの発育・発達に適した調理形態の変化、食品選択、食生活を実践的に学ぶ。また、子どもの養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育について理解する。

#### [学習成果] [B]

調理を通して食材を知り、基本的な調理技術を身に付け望ましい食生活への理解を深めることができる。子どもに望ましい食習慣を身に付けさせるための、栄養学や食生活の知識を実践的に習得し、子どもや保護者への食生活支援、食育実践ができる能力が身につく。食事を楽しむ気持ち、健康であることの大切さを理解できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション (実習室の使い方、衛生管理)
- 2 乳汁栄養 (調乳) ・果汁・スープ
- 3 離乳初期 (生後5、6か月)
- 4 離乳中期 (生後7、8か月)
- 5 離乳後期 (生後9～11か月)
- 6 離乳完了期 (生後12～18か月)
- 7 幼児食 (1、2才)
- 8 幼児食 (3～5才)
- 9 学童期の食事
- 10 間食 (おやつ)
- 11 行事食
- 12 偏食、食欲不振時の食事
- 13 食物アレルギー対応の食事①
- 14 食物アレルギー対応の食事②
- 15 食育

#### [授業方法]

演習を中心とするが、実際に食材に触れ、調理を行うことを多く取り入れ、食への関心を高める。テーマごとにレポート作成を行う。

アクティブラーニング導入。

産業給食 (企業内) 栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況 (20%)  
筆記試験 (50%)  
レポート等の提出物 (30%)

#### [教科書]

「新版 子どもの食と栄養」岩田章子他編 (みらい)

#### [参考書]

「子どもの食と栄養演習ブック」松本峰雄監修  
(ミネルヴァ書房)  
「授乳・離乳の支援ガイド」2019年3月  
「授乳・離乳の支援ガイド」改定に関する研究会

#### [準備学習 (予習・復習)]

次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

子どもの食に関する雑誌、新聞記事等を読むように心掛けると良い。

[科目名] 保育内容総論  
[担当教員名] 真下 あさみ  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

学校で色々な教科を学ぶように保育所や幼稚園にも保育内容がある。本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針の基本的事項を踏まえ、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から保育の全体像を理解する。様々な事例を通して保育者の役割や、子どもにとって望ましい保育内容について検討する。

#### [学習成果] [C]

保育を総合的に捉え、幼稚園、保育所の保育の全体的な構造を理解するとともに、日々積み重ねていく保育を見通しながら子どもの生活や遊びは養護と教育が一体となって展開されることを知り保育の内容を具体的に考え実践できるようになる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 遊びから捉える保育内容
- 3 生活から捉える保育内容
- 4 環境から捉える保育内容
- 5 幅広い教材の工夫と研究
- 6 様々な子どもと人間関係
- 7 保育の年間計画
- 8 行事のねらいと保育内容
- 9 保護者支援について
- 10 様々な保育形態と保育方法
- 11 障害のある子ども
- 12 5領域を意識した模擬保育
- 13 子ども理解を深める模擬保育
- 14 小学校との連携について
- 15 今後の課題とまとめ

#### [授業方法]

テーマごとにグループでの話し合いや発展課題に取り組むなどアクティブラーニングを導入する。適宜、保育教材の作成や実践を取り入れることで実際の保育をしっかりとイメージし、具体的な保育の内容を検討しながら総合的に学ぶ。

保育現場の経験を活かし、実践的な方法を豊富に取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

筆記試験 (70%)  
授業への取組状況・提出物 (30%)

#### [教科書]

「演習 保育内容総論」金澤妙子・佐伯一弥編著  
(建帛社)

#### [参考書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業内容やテーマごとの課題に対しては、各自の実習経験を振り返ったり、自分が考える望ましい保育者像や保育内容についてしっかりと検討する時間を十分にとって取り組む。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

子どもが安心してくつろげる環境のなかでどのような保育が展開されているのか、子どもの姿、子どもの成長を思い描きながら、望ましい保育とは何かを考え授業に臨むと良い。幼稚園教育要領や保育指針等に目を通しておく。

[科目名] 保育の計画と評価  
[担当教員名] 上島 遥  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_C21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

保育の基本とカリキュラム及び幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園での教育・保育課程、指導計画の基礎理解。さらに、乳幼児期の発達、保育の目的を踏まえた、指導計画、保育実践、評価・反省（カリキュラムマネジメント）の理解と模擬保育による応用。

#### [学習成果] [C]

幼稚園教育要領、保育所保育指針等の教育、保育の基本を理解し、発達を踏まえた指導計画、保育実践、評価・反省の意義と方法が理解できる。また、グループ学習、模擬保育等の取組みを通して、様々な保育に応用できる保育実践力が習得できる。

#### [授業計画]

- 1 保育カリキュラムの意義と保育の基本
- 2 保育カリキュラムとの保育実践
- 3 教育・保育課程と指導計画
- 4 指導計画の作成①（ねらいと内容）
- 5 指導計画の作成②（環境・保育者の援助）
- 6 保育の指導計画①：0, 1, 2歳児
- 7 保育の指導計画②：3, 4, 5歳児
- 8 様々な指導計画
- 9 指導計画の作成と実践①（乳児の保育）
- 10 指導計画の作成と実践②（幼児の保育）
- 11 指導計画の作成と実践③（異年齢児の保育）
- 12 保育の評価とカリキュラムマネジメント
- 13 保育の評価・反省（ポートフォリオの作成）
- 14 子ども主体の保育実践①：レッジョエミリア市の挑戦
- 15 子ども主体の保育実践②：見守る保育

#### [授業方法]

教科書及び保育所保育指針、幼稚園教育要領等を基にして講義を行う。具体的な保育方法、子どもの姿を学ぶためICTを活用していく。また、グループ学習、模擬保育、ポスター発表等を通して、課題に対する学び、積極的な取り組みを重視する。

アクティブラーニング導入。  
障害児通園施設（現：児童発達支援センター）の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

定期試験（50%）  
授業への取組状況（提出物・発表等）（50%）

#### [教科書]

「保育カリキュラム論—計画と評価—」建帛社

#### [参考書]

「保育所保育指針」  
「幼稚園教育要領」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」  
及び各解説書

#### [準備学習（予習・復習）]

教科書をよく読んでおくこと。  
保育研究、グループ発表等の準備及び振り返り。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

実習で使用する保育教材をできるだけ多く準備し、レパートリーを増やしておくこと。

[科目名] 領域「健康」  
[担当教員名] 岡田 摩紀  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。

#### [学習成果] [C]

乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的な生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの実践を通して指導法を修得する。

#### [授業計画]

- 1 健康の定義・幼児期の健康とは
- 2 健康・安全な生活を送るための環境整備
- 3 基本的な生活習慣とその意義
- 4 乳幼児期の身体の発育（身長・体重・骨）
- 5 乳幼児期の身体の発達（生理機能）
- 6 乳幼児期の体力・運動能力の発達（動きの発達）
- 7 乳幼児期の運動能力低下の背景
- 8 乳児期の遊びの実践
- 9 幼児期の遊びの実践
- 10 幼児期運動指針のポイントと運動の意義
- 11 幼児期運動指針における多様な動きとは
- 12 幼児期のあそびと安全
- 13 乳幼児期の怪我と疾病
- 14 リスクとハザードの違いと危険の予測
- 15 健康のねらいと内容

#### [授業方法]

講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしてゆく。

#### [成績評価]

筆記試験（50%）  
指導法修得度（50%）

#### [教科書]

必要に応じて資料を配布

#### [参考書]

「新 子どもの健康」(三晃書房)、  
「柳沢運動プログラム」(オフィスエム)  
「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」

#### [準備学習（予習・復習）]

乳幼児の発育・発達について理解するとともに領域「健康」の指導法を受講するための基礎知識を身につける。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 領域「表現」  
[担当教員名] 伊藤 久美子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」のねらいと内容をふまえ、ICTを活用しながら、乳幼児の表現の理論、技術、援助方法を習得する。様々な表現活動を体験しながら、保育者として必要な感性や表現力を磨く。

#### [学習成果] [C]

保育者として必要な感性、表現力、想像力を身につける。子どもの表現活動を理解し、発達に応じた保育計画の立案と援助ができる。

#### [授業計画]

- 1 表現とは(子どもの興味・関心を知る)
- 2 乳幼児の表現とコミュニケーション
- 3 児童文化と表現(わらべ歌と伝承あそび)
- 4 作って遊ぶ①(教材研究と計画)
- 5 作って遊ぶ②(制作・グループ練習)
- 6 作って遊ぶ③(遊びの展開をグループで発表)
- 7 自然を楽しむ表現活動
- 8 絵本を使った表現遊びの方法①(音遊び)
- 9 絵本を使った表現遊びの方法②(音遊びの発表)
- 10 体を使った表現遊び(リトミック)
- 11 様々な舞台表現と子どもの感性の発達
- 12 舞台表現の実践①(サンドアートの構想を練る)
- 13 舞台表現の実践②(サンドアートの発表準備と練習)
- 14 舞台表現の実践③(サンドアートの発表)
- 15 援助・指導方法の検討(指導計画の立案)

#### [授業方法]

実際に保育現場で行われている表現遊びや子どもの姿を考えながら、子どもの立場になって表現の楽しさを体感し、子どもの表現活動の理解を深める。

グループワーク、グループディスカッション等を取り入れ、新たな表現方法を研究し、実践を通して応用力を身につけていく。

アクティブラーニング導入。

幼稚園での実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

製作過程(計画性・積極性・授業への取組状況等)  
(30%)

提出作品・レポート提出・発表内容(70%)

#### [教科書]

「音楽と語りで夢を育む絵本ケア」真下あさみ編著  
(三恵社)

#### [参考書]

幼稚園教育要領 保育所保育指針  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領

#### [準備学習(予習・復習)]

(予習) 保育雑誌などを参考に、作品の構想を考えておくこと。また、人前で発表する際は事前の練習をしっかりと行うこと。

(復習) 振り返りレポートの提出

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

日頃から様々な事象に触れ、想像力を働かせるように意識すること。

考えや思いを心の中に秘めるだけでなく、外に表し、他者とのコミュニケーションを深めていけるように心がけること。

[科目名] 領域「健康」の指導法

[担当教員名] 岡田 摩紀

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_C22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

領域「健康」は、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。

#### [学習成果] [C]

乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的な生活習慣・あそび・安全に関する知識を学習する。さらに運動あそび・伝承あそびの保育実践とその映像を視聴し客観的に評価する。

#### [授業計画]

- 1 健康のねらいと内容
- 2 内容の具体的事例
- 3 幼児の生活習慣の獲得
- 4 領域「健康」と保健体育との連続性
- 5 幼児の運動能力調査方法と評価
- 6 伝承あそびの指導案作成
- 7 伝承あそびの保育実践(けん玉・コマ回し)
- 8 伝承あそび保育実践(竹馬)
- 9 鉄棒あそびの指導案作成
- 10 鉄棒あそびの保育実践(すずめ、前回り、ぶたの丸焼き)
- 11 鉄棒あそびの保育実践(えんとつ、地球回り、逆上がり)
- 12 跳び箱を使った遊びの指導案作成
- 13 跳び箱を使ったあそびの保育実践
- 14 保育実践時の映像を用いた振り返り
- 15 保育実践時の映像に基づいた保育方法へのフィードバック

#### [授業方法]

講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしてゆく。

#### [成績評価]

指導案(50%)

実践指導の評価(50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配布

#### [参考書]

「新 子どもの健康」(三晃書房)  
「柳沢運動プログラム」(オフィスエム)  
「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」

#### [準備学習(予習・復習)]

あそびについて体験はもちろん、自身が見本を見せられることを目標とし、授業時間内に修得できない場合は自主練習とし、達成まであきらめずに取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]



[科目名] 領域「言葉」の指導法

[担当教員名] 田村 佳世

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_C22

[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

乳幼児期に育みたい資質・能力や領域「言葉」のねらい及び内容の理解と、児童文化財の活用に関する実践的応用力を学ぶ。また、発達にあった具体的な指導場面を想定した模擬保育を行い、保育を構想し、評価する力を習得していく。

#### [学習成果] [C]

乳幼児期に育みたい資質・能力や領域「言葉」のねらい及び内容の理解と、児童文化財の活用に関する実践的応用力が身につく。また、紙芝居の作成、わらべうたの模擬保育などのグループ学習、発表を通して、具体的な保育の構成、指導方法、評価反省する力が習得できる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション：領域「言葉」のねらいと内容
- 2 言葉の発達過程 (1)：言葉を生む基盤と話し言葉の発達
- 3 言葉の発達過程 (2)：書き言葉の発達と小学校における書き言葉
- 4 児童文化財の研究 (1)：紙芝居の分析
- 5 児童文化財の研究 (2)：紙芝居の活用方法
- 6 児童文化財の研究 (3)：紙芝居の作成
- 7 児童文化財の研究 (4)：紙芝居の発表
- 8 児童文化財の研究 (5)：振り返り
- 9 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (1) わらべ歌の分析
- 10 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (2) わらべ歌の指導計画作成
- 11 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (3) わらべ歌などの模擬保育
- 12 言葉に対する感覚を豊かにする保育実践 (4) わらべ歌の振り返り
- 13 子どもの言葉を育む保育実践：指導計画の作成
- 14 子どもの言葉を育む保育実践：模擬保育
- 15 子どもの言葉を育む保育の実践：振り返り

#### [授業方法]

参考書及びICTを用いた事例動画、画像を活用し、具体的な言葉の発達、援助方法、児童文化財の活用方法について実技指導をする。また、小テストで学習内容を振り返りつつ、グループ学習、模擬保育等を行い、実践力を養っていく。

アクティブラーニング導入。

保育士の実務経験を活かして、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

提出物（製作物・指導計画等）（50%）

授業への取組状況（グループ学習・発表等）（30%）

小テスト（20%）

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

「保育者のための言語表現の技術子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践」編著 古橋和夫（萌文書林）  
「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」  
及び各解説書

#### [準備学習（予習・復習）]

発表等の準備及び振り返り。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

グループワーク等での積極的な姿勢を期待します。

[科目名] 乳児保育Ⅱ

[担当教員名] 赤塚 徳子

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期

[科目コード] IE30\_C22

[単位数] 1単位

[授業形態] 演習

#### [授業概要・到達目標]

「乳児保育Ⅰ」の学びを踏まえ、事例検討を取り入れながら、多角的・総合的に学ぶ。

乳児保育の計画・内容および具体的な援助の方法について、乳児と直接かかわる体験や、保育教材作製・保育実技の演習を通して具体的に学ぶ。

#### [学習成果] [C]

3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわり方を理解する。

保育計画や保育教材について具体的に学び、保育者としての実践力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 乳児保育の重要性
- 2 乳児期の発育・発達 ①
- 3 乳児期の発育・発達 ②
- 4 1日の生活の流れと保育環境
- 5 乳児のあそび（保育教材作り）
- 6 乳児のあそび（保育実技）①
- 7 乳児のあそび（保育実技）②
- 8 実践学習（乳児の観察）
- 9 実践学習（乳児保育実習）
- 10 乳児保育における指導計画の特徴
- 11 指導計画書の書き方
- 12 保育環境と保健
- 13 保育事故の防止と対策
- 14 保護者とのパートナーシップ
- 15 保育者の役割と専門性

#### [授業方法]

講義により乳児期の保育内容や保育者の役割について学ぶ。

学内の子育て支援施設「文教おやこ園」での観察実習を通し、乳児期の発育・発達について具体的に学ぶ。また、保育計画を立てて保育実技を実践するアクティブラーニングを導入する。

保育士の実務経験があり、保育現場での事例を提示しながら具体的な講義や実技指導を行う。

#### [成績評価]

保育教材の作製・実技発表（30%）

実践学習の参加態度・観察レポート（30%）

ワークシート（30%）

授業への取組状況（10%）

#### [教科書]

適宜プリント教材配布

#### [参考書]

「乳児保育—子ども・家庭・保育者が紡ぐ営み—」  
入江慶太 編著（教育情報出版）

#### [準備学習（予習・復習）]

参考書をよく読み、乳児期の発達段階を理解した上で講義や実習に臨むこと。また、乳児期の発育・発達をワークシートにまとめ、提出すること。

計画的に保育教材の作製や実技練習を行い、実技発表後は反省を踏まえて繰り返し練習すること。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考] 地域志向科目

地域の親子との交流の機会では、保育者としてふさわしい身なりと言葉遣いを心がけ、マナーを遵守しましょう。

[科目名] 障がい児保育  
[担当教員名] 上島 遥  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_C21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

- ・「障害」とは何を指すのか、どう捉えるのか、について基礎的な知識と併せてその視点を学ぶ。
- ・障がい児とその家族の気持ちを知り、その思いに寄り添った支援について学ぶ。
- ・障がい児の「生活」や「遊び」に重点を置いた、保育者としての支援のあり方について学ぶ。
- ・障がい児に関わる療育施設での取り組みや、保育所、幼稚園などでの保育実践、またそれぞれの役割や連携について学ぶ。

#### [学習成果] [C]

乳幼児期の子どもは、「障がい」がはっきりしている場合だけでなく「ちょっと気になる」という段階から子どもの特徴に寄り添った支援が必要である。障がい児の専門施設はもちろん、保育所や幼稚園などで保育者としての力を発揮するための理解を深めることができる。

#### [授業計画]

- 1 障がい児保育を学ぶ意義、障がい児保育の目的
- 2 障がい児保育を取り巻く歴史の変遷
- 3 障がいの基礎知識 (自閉症スペクトラム)
- 4 障がいの基礎知識 (LD、ADHD)
- 5 障がいの基礎知識 (発達の遅れ、知的障害)
- 6 障がいの基礎知識 (視覚障害)
- 7 障がいの基礎知識 (聴覚障害)
- 8 障がいの基礎知識 (運動障害)
- 9 障がいの基礎知識 (医療的ケアの必要な子ども)
- 10 障がいの発見と対応 (乳幼児健診と親子教室)
- 11 障がい児のための専門施設 (通所、入所)
- 12 家族への支援 (親の思いを知る、家族支援の実際)
- 13 幼稚園・保育所における障がい児保育
- 14 進路選択、移行支援について (就園・就学)
- 15 障がい児と家族を支える福祉サービス

#### [授業方法]

教科書を中心とした講義に加えて、障がい児の困り感や支援方法について、グループワーク等の体験的な授業を展開する。また、家族の気持ちに寄り添うことを目的とした、事例の紹介やDVD視聴等も取り入れていく。  
アクティブラーニング導入。  
障害児通園施設 (現: 児童発達支援センター) の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題の提出、発表等への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「テキスト障害児保育」  
近藤直子・白石正久・中村尚子編 (全障研出版)

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業ごとの要点を、自分の言葉で説明できるように復習すること。次の授業開始時に確認を行います。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 社会的養護Ⅱ  
[担当教員名] 倉橋 幸彦  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童の保護や社会的養育について、事例を通じて学びを深める。本時では社会的養護の仕組みを学び、社会的養護を必要とする子どもの保護、措置、社会的養育の三つのプロセスで演習を重ね、保育現場での実践的指導力を学ぶ。

#### [学習成果] [C]

我が国の社会的養護の施策を学び、社会的養護を必要とする児童や家庭の諸問題をより深く理解することで、保育の現場で活かせる実践的指導力の基礎知識を身につける。

#### [授業計画]

- 1 授業の導入 社会的養護の考え方と理念
- 2 社会的養護の仕組みの理解
- 3 事例1 社会的養護必要とする児童の保護①
- 4 事例1 社会的養護必要とする児童の保護②
- 5 事例1 社会的養護必要とする児童の保護③
- 6 事例1 フィードバック
- 7 事例2 児童相談所の機能と児童の権利保障①
- 8 事例2 児童相談所の機能と児童の権利保障②
- 9 事例2 児童相談所の機能と児童の権利保障③
- 10 事例2 フィードバック
- 11 事例3 社会的養育実践 社会的養育と発達保障①
- 12 事例3 社会的養育実践 社会的養育と発達保障②
- 13 事例3 社会的養育実践 社会的養育と発達保障③
- 14 事例3 フィードバック
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義が主体であるが、DVDの視聴や事例をもとに社会的養護の現状はじめ、基礎知識を学ぶ。

#### [成績評価]

授業への取組状況、課題、レポート、ノートの提出 (70%)  
グループワーク (30%)

#### [教科書]

「みらい×子どもの福祉ボックス 社会的養護」

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

予告した単元については購入した教科書を読んで授業に参加すること。毎授業後に示すレポートやノートの提出をし、再度教科書を読み授業内容を見直すこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

積極的に参加し、社会的養護の問題をみんなで深めあっていきましょう。

[科目名] 子ども音楽ⅠA  
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・  
倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・  
大橋 昌代  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

#### [学習成果] [C]

保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得を目指す。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

#### [授業計画]

- 1 授業説明、ピアノ経験実態調査、実技指導
- 2 標準バイエルピアノ教則本No.3～、楽典(譜表)
- 3 // 、楽典(高音部記号、低音部記号)
- 4 // 、楽典(音名・階名)、弾き歌い
- 5 // 、楽典(音符と休符)、弾き歌い
- 6 // 、楽典(音程)、弾き歌い
- 7 // 、楽典(拍子記号)、弾き歌い
- 8 // 、楽典(付点のリズム)、弾き歌い
- 9 // 、グループ別実技発表会
- 10 // 、楽典(反復記号)、弾き歌い
- 11 // 、楽典(3連符)、弾き歌い
- 12 // 、楽典(装飾音)、弾き歌い
- 13 // 、楽典(強弱記号)、弾き歌い
- 14 実技発表会
- 15 標準バイエルピアノ教則本No.3～、楽典(臨時記号)、弾き歌い

#### [授業方法]

1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況(50%)  
実技発表評価(30%)  
自主練習の取組〈チェックシート〉(20%)

#### [教科書]

標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)  
こどものうた100(チャイルド本社)  
うたって、つくって、あそぼう(音楽之友社)  
教材プリント配布

#### [参考書]

楽譜がスラスラ読める本(永岡書店)  
「ブルグミュラー25の練習曲」(全音楽出版社)  
「ソナチネアルバムⅠ」(全音楽出版社)

#### [準備学習(予習・復習)]

自主練習 毎日30分(初心者には1時間以上が好ましい)  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科目名] 子ども音楽ⅠB  
[担当教員名] 国藤 真理子・玉田 裕人・伊藤 真理子・  
倉田 弓・天石 佐保子・松浦 晴美・  
大橋 昌代  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子ども音楽ⅠAに引き続き、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な基礎的ピアノ技術及び音楽理論、知識の習得を図る。季節や行事にあわせた「童謡」や「わらべ歌」のレパートリーを増やすことで、保育現場で必要とされる豊かな表現力を養う。

#### [学習成果] [C]

保育現場で必要とされる、基礎的ピアノ技術及び伴奏・弾き歌いの習得ができる。それらを習得するため、チェックシートを用い、目標を立てて講義に臨む事で、保育者に必要な主体性や計画性、思考力や豊かな表現力も同時に養う。

#### [授業計画]

- 1 授業説明、グループ分け、実技指導
- 2 標準バイエルピアノ教則本、弾き歌い
- 3 // 、楽典(長調と短調)、弾き歌い
- 4 // 、楽典(同名調)、弾き歌い
- 5 // 、楽典(平行調、移調)、弾き歌い
- 6 // 、楽典(オクターブ記号)、弾き歌い
- 7 // 、楽典(複付点音符)、弾き歌い
- 8 // 、楽典(発想記号)、弾き歌い
- 9 // 、グループ別実技発表会
- 10 // 、楽典(ハ長調の主和音)、弾き歌い
- 11 // 、楽典(ヘ長調の主和音)、弾き歌い
- 12 // 、楽典(ト長調の主和音)、弾き歌い
- 13 // 、楽典(色々な指使い)、弾き歌い
- 14 実技発表会
- 15 標準バイエルピアノ教則本、楽典(演奏上の諸記号)、弾き歌い

#### [授業方法]

1クラスを7～8名のレベル別グループに編成し、一人ひとりの進度に合わせた個別指導を行う。次の授業までに、チェックシートと音楽の基礎学習プリントの課題をこなし提出する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業への取組状況(50%)  
1年全期の進度(30%)  
実技発表評価(10%)  
自主練習の取組〈チェックシート〉(10%)

#### [教科書]

標準バイエルピアノ教則本併用曲付(全音楽譜出版社)  
こどものうた100(チャイルド本社)  
うたって、つくって、あそぼう(音楽之友社)  
教材プリント配布

#### [参考書]

楽譜がスラスラ読める本(永岡書店)  
「ブルグミュラー25の練習曲」(全音楽出版社)  
「ソナチネアルバムⅠ」(全音楽出版社)

#### [準備学習(予習・復習)]

自主練習 毎日30分(初心者には1時間以上が好ましい)  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

この科目は、日々の積み重ねが非常に大切です。努力をすれば、必ずピアノが弾けるようになります。

[科目名] 造形表現指導法 I  
[担当教員名] 上山 明子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_D21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子どもが感じたことや考えたことを自分なりに表現できるような活動についての研究を行う。材料の選択、道具の取り扱い、活動場所の設定など具体的に考え模擬保育を行うなど、造形分野の保育力を高める。

#### [学習成果] [D]

幼児の造形表現の理解を深めるとともに、造形表現を指導する力を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本と造形表現のねらい・内容
- 2 幼児の表現の発達 自由な視点から見た絵画表現について
- 3 表現の原理(色彩心理学、線と面)
- 4 素材研究(絵の具) 絵の具の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
- 5 素材研究(絵の具) 技法研究の振り返りまとめ(情報機器と教材の活用)
- 6 幼児の表現の発達 単純な形から生まれる豊かな立体表現
- 7 素材研究(粘土、木材、紙など)の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
- 8 素材研究(粘土、木材、紙など)の技法研究の振り返り・まとめ
- 9 素材研究(版画(転写))の基礎的理解と幼児を対象とした技法の試作制作
- 10 素材研究(版画(転写))の技法研究の振り返り・まとめ
- 11 指導案作成と模擬保育
- 12 協働しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作
- 13 協働しての表現季節や行事、文化を反映させた壁面デザイン創作・展示
- 14 作品鑑賞と子どもの造形活動方法の理解
- 15 子どもの発達に合わせた指導計画の理解と保育の評価

#### [授業方法]

具体的なイメージを持って制作に取り組めるよう、各単元の始めに主要な素材、用具・技法を理解し、習作から本作へと進める。作品発表・意見交流・模擬授業など適宜行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況(事前準備、保育者としての適応性)(50%)  
提出物の充実度(50%)

#### [教科書]

「幼稚園教育要領」  
「保育所保育指針」  
「幼保連携型認定こども園・保育要領」

#### [参考書]

適宜プリント配布

#### [準備学習(予習・復習)]

予習として次回課題のアイデアを練る、資料収集、道具準備を行う。

復習として次回講義にプリント・レポート提出。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

- ・指示された準備物は忘れずに持ってくること。
- ・実習では服を汚すことがあるので、そのことに対応できる服装をすること。またはエプロン等をする事。
- ・片づけ掃除を含めて授業です。後の人のことを考えて責任を果たすこと。

[科目名] こども音楽療育実習

[担当教員名] 池田 信子・国藤 真理子・星野 秀樹・  
朴 賢晶

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年全期 [科目コード] IE30\_D29  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

幼児・児童と関わるなかで音楽療育の実践的な体験を行う。実習施設のこども達は障害の有無や状況、年齢も異なっているために幅広い知識と能力が必要と考えられる。そのため、実習に参加する学生は事前指導、オリエンテーションを行い、十分な準備をして実習を迎えることが重要である。

#### [学習成果] [D]

こども音楽療育概論、こども音楽療育演習にて学んだ内容をふまえ、実習施設において幼児・児童との活動を通して音楽療育の実践方法などを体験し、理解する。

#### [授業計画]

- 1 事前指導  
こども音楽療育実習の目的を理解する
- 2 オリエンテーション  
実習する施設について理解する  
実習に参加する態度を確認する
- 3 児童養護(障がい児)施設での実習(見学実習、参加実習)
- 4 //
- 5 //
- 6 //
- 7 //
- 8 //
- 9 本学主催の「お姉さんと遊ぼう」(障がい児とその親で構成されたグループ)での実習(参加実習)
- 10 //
- 11 //
- 12 //
- 13 //
- 14 //
- 15 事後指導  
実習の反省とディスカッション

実習期間については「こども音楽療育概論」、「こども音楽療育演習」の開講と並行して行う場合がある。

#### [授業方法]

障害のあるこども達との交流を通して音や音楽を使った音楽療育の具体的実践方法を学ぶ。

#### [成績評価]

実習の取組状況(70%)  
レポート(30%)

#### [教科書]

教材プリント配布

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

課題の自主練習  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 保育実習 I (保育所)  
[担当教員名] 伊藤 久美子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_E21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

保育所での生活を体験することで、保育所の役割や機能、保育士の業務内容について具体的に理解する。また既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。

#### [学習成果] [E]

保育所の生活の流れや役割、子どもの発達過程を具体的に理解することができる。また、観察や保育への参加を通して、子どもへの理解を深め、記録や指導案の書き方を習得することができる。

#### [授業計画]

##### ○事前指導

- ・保育実習 I の目的・実習の流れ
- ・実習生としての心構え
- ・事前オリエンテーションの目的
- ・実習記録および実習関連書類の書き方
- ・実習のための保育教材の準備

##### ○実習の内容

- ・保育所の機能と、保育の一日の流れを理解する
- ・保育士の職務内容を具体的に理解する
- ・生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を習得する

##### ○巡回訪問指導

##### ○実習のまとめ・事後指導

- ・礼状の書き方
- ・実習を振り返り、自己課題を明確にする

#### [授業方法]

保育所においての実習 (2週間)  
観察実習・参加実習・日誌の記録を行う。

#### [成績評価]

実習園の評価 (70%)  
実習日誌・提出物 (30%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育園・施設 実習ワーク」(萌文書林)  
「保育士をめざす人のための福祉施設実習」(みらい)

#### [参考書]

保育所保育指針(平成29年3月告示)

#### [準備学習(予習・復習)]

事前に担当する子どもの発達段階を調べ、理解しておくこと。また、年齢にあった手遊びや絵本を準備し、練習すること。1日を振り返り、反省点、自己課題に気付くようにすること。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

授業で学んだことを理解し、年齢や発達に合わせた関わりができるように、日頃からイメージしておく。また、手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習や保育教材研究をしておく。

実習の必要書類は正確かつ丁寧に作成し、提出期限を厳守すること。

[科目名] 保育実習 I (施設)

[担当教員名] 伊藤 久美子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_E22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

児童福祉施設の生活に参加し、施設の役割や機能について具体的に学ぶ。また子ども(利用者)とのかかわりを通して、施設で生活する子ども(利用者)への理解を深める。

#### [学習成果] [E]

児童福祉施設の役割や保育士の職務について具体的に理解する。観察や生活への参加を通して、子ども(利用者)への支援の方法を習得する。

#### [授業計画]

##### ○事前オリエンテーション

- ・児童福祉施設の概要や施設実習の流れについて
- ・実習の準備・心構え・態度について
- ・実習日誌の書き方・指導案等について

##### ○実習内容

- ・施設の1日の流れを理解して参加する
- ・子ども(利用者)の観察や関わりを通して、ニーズや家族への対応の仕方を学ぶ
- ・生活や援助の一部を担当する
- ・職員間の役割分担とチームワークについて理解する
- ・保育士としての職業倫理を理解する

##### ○巡回訪問指導

##### ○実習のまとめ

- ・実習日誌の整理をする
- ・実習の自己評価をし、反省点や自己の課題を明確にする

#### [授業方法]

保育所以外の児童福祉施設に宿泊または通所して、おおむね10日間実習を行う。

#### [成績評価]

実習施設の評価(70%)  
実習日誌・提出物(30%)

#### [教科書]

「保育士をめざす人のための福祉施設実習」  
愛知県保育実習連絡協議会編(みらい)

#### [参考書]

#### [準備学習(予習・復習)]

実習先の施設の概要について調べ、理解しておくこと。生活全般の援助ができるよう、掃除・洗濯などの家事の能力を身につけておきましょう。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

日頃から福祉施設に関するニュースに目を向け、新聞や著書などから社会問題に関する情報の収集をしておきましょう。

[科目名] 保育実習指導 I A  
[担当教員名] 伊藤 久美子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE30\_E21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

#### [学習成果] [E]

保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場に必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

#### [授業計画]

- 1 実習の概要と流れ
- 2 実習の意義と目的
- 3 実習生としての心構え
- 4 プライバシーの保護と守秘義務について
- 5 観察実習について
- 6 参加実習について
- 7 園生活の一日の流れ
- 8 子どもの接し方・保育者とのかかわり方
- 9 実習記録の書き方①
- 10 実習記録の書き方②
- 11 実習目標と自己課題
- 12 事前課題・実習事前準備について
- 13 保育実践指導・絵本の読み方
- 14 保育実践発表①
- 15 保育実践発表②

#### [授業方法]

テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習や、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。

アクティブラーニング導入。

現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況

(保育教材の作製・実践テスト・レポート等) (60%)  
筆記試験 (40%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育所・施設 実習ワーク」(萌文書林)  
「幼稚園・保育所実習ハンドブック」(みらい)

#### [参考書]

保育所保育指針

#### [準備学習(予習・復習)]

教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

初めての实習に向けて心構えをし、日常的に言葉遣いなどにも気を付ける。

実習で使用する保育教材をできるだけ多く準備し、レポーターを増やしておく。

[科目名] 保育実習指導 I B  
[担当教員名] 伊藤 久美子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_E22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育所と施設で行う実習の意義と目的を認識し、それぞれの機能と役割を理解する。実習の具体的な内容および心構えや態度を養いながら、基本的な保育技術を学ぶ。

#### [学習成果] [E]

保育実習の意義や目的、実習の流れを具体的に理解することができる。また、実践発表を通して、実習に必要な記録や指導案の作成方法、保育現場に必要な保育技術を習得するとともに、自己課題や目標を明確にすることができる。

#### [授業計画]

- 1 児童福祉施設について
- 2 児童福祉施設での実習について
- 3 実習の振り返りと自己課題の明確化
- 4 部分・全日実習について
- 5 指導案の立案について
- 6 指導案の書き方について
- 7 指導案作成
- 8 保育教材研究①
- 9 保育教材研究②
- 10 模擬保育①
- 11 模擬保育②
- 12 模擬保育③
- 13 実習前の準備
- 14 実習の注意事項
- 15 実習の総括と自己課題の明確化

#### [授業方法]

テキストやワークシートを使用し、保育実習の流れと内容を理解し、実習態度を身につける。また、実習に必要な教材研究や実技の練習や、グループワーク、ロールプレイング等を行い、実践力を養う。

アクティブラーニング導入。

現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況

(保育教材の作製・実践テスト・レポート等) (60%)  
筆記試験 (40%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育園・施設 実習ワーク」(萌文書林)  
「保育士をめざす人の福祉施設実習」(みらい)

#### [参考書]

保育所保育指針

#### [準備学習(予習・復習)]

教科書・ワークブックをよく読んでおくこと。また、技術向上のため、日頃から手遊びや絵本の読み聞かせなどの実技練習を繰り返し行うこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

福祉分野の学びを深めながら具体的な保育実習の内容について理解する。

実習で使用する保育教材等をできるだけ多く準備し、レポーターを増やしておく。

## 2 専門科目

幼児教育学科 第3部 3年

[科目名] 相談援助  
[担当教員名] 祢宜 佐統美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年後期 [科目コード] IE30\_A32  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

相談援助に関する知識・技術・方法を学ぶことで、保育におけるソーシャルワークを理解し、必要な援助技術を習得する。

子どもたちや家族、地域とより良い関係を保ち、より良い援助を行うためにソーシャルワークの展開過程について演習を通して学ぶ。

#### [学習成果] [A]

保育における相談援助の概要や方法・技術を理解し、事例から利用者のニーズに対する理解を深めることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション・相談援助とは何か
- 2 相談援助の過程と連携
- 3 自己覚知
- 4 他者理解
- 5 基本的態度・コミュニケーションスキル
- 6 記録
- 7 生活課題の把握
- 8 社会資源の把握
- 9 相談援助の過程 1
- 10 相談援助の過程 2
- 11 事例検討の意義と方法
- 12 演習の準備
- 13 アセスメント演習 (文教おやこ園)
- 14 事例1ーロールプレイ
- 15 事例2ー権利擁護 (気持ちの代弁)

#### [授業方法]

講義と共に、事例を活用したグループディスカッションやロールプレイ等により、相談援助に関する理解の向上を図る。文教おやこ園を活用し、保護者の方からの情報収集の演習を行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 試験 (60%)
- 授業への取組状況 (20%)
- おやこ園演習ワークシート (20%)

#### [教科書]

「学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会 演習・保育と相談援助」前田敏雄監修 (株) みらい

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習してきて下さい。授業の最初に、前回の授業の振り返りをしますので、毎授業後には、授業内容のポイントを復習しておいて下さい。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

グループディスカッションやロールプレイを行います。積極的に参加し、相談援助技術を習得できるようにしましょう。

[科目名] 保育の心理学Ⅱ  
[担当教員名] 朴 賢晶  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年後期 [科目コード] IE30\_B32  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

生涯を通して変化・成長を続けるものとして発達を捉え、各発達段階での特徴と保育士と子どもの連鎖的關係を理解することを目的とする。授業では、「親の顔はいつ分かる?」「子離れはいつ起こる?」など発達心理学が取り組んできた100個のテーマを扱い、保育士として必要とされる知識や発達援助のあり方について議論する。

#### [学習成果] [B]

各発達段階における具体的な課題を理解することによって、一生の中での乳幼児期発達を支援する視点を持つ保育者育成が可能となる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 PPTによる発表準備の指導
- 3 子どもの性格
- 4 新生児期の能力
- 5 微笑の発達
- 6 親と子のやり取りに必要な子どもの能力
- 7 スキンシップと模倣から学ぶ
- 8 見立てる能力
- 9 社会性の発達による遊びの変化
- 10 子どものうそ
- 11 きょうだいげんか
- 12 子どもの論理性
- 13 一次的言葉から二次的言葉へ
- 14 集団から学ぶこと
- 15 自己主張と自己抑制

#### [授業方法]

グループに分かれ、それぞれに与えられたテーマについてまとめ、ICTを活用し調べ学習をし、その成果を発表する。発表後には質疑応答の時間を設け、発表内容をより深めていく。さらに、発表グループに対して、フロアから、発表に関する建設的な意見を述べることによって、口頭発表技術をより高める。

アクティブラーニングの導入。

#### [成績評価]

- 発表等70% (発表70%、コメンテーター30%)
- 授業態度30% (授業参加度、授業態度等)

#### [教科書]

「よくわかる発達心理学」無藤隆ら編著 (ミネルヴァ書房)

#### [参考書]

「発達心理学の基礎1, 2, 3」平山諭・鈴木隆男編著 (ミネルヴァ書房)

#### [準備学習 (予習・復習)]

発表に向けてICTを活用し予習する。発表後は、振り返りを含め、質問に答えられなかった部分を復習する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

本のまとめ、調べ学習、発表スライド作成、発表の練習などは予習による。グループで一つのテーマについて学習し、発表準備をするために必要な協調性と伝える力を養うことが予習のねらいである。



[科目名] 子どもの保健Ⅰ  
[担当教員名] 留田 由美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年全期 [科目コード] IE30\_B39  
[単位数] 4単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

子ども観や子どもの健康を維持するための理論と、保健行政の動向と対策、子どもに関する保健活動など、実際について学ぶ。さらに、子どもの心身の健康の保持・増進を図る保健活動の意義について理解し、実践的に活用できる。

#### [学習成果] [B]

- ⑤ 子どもの健康の理念・目的・目標と保育者の役割について説明することができる。
- ⑥ 子どもの各期の成長・発達及び発達課題について述べることができる。
- ⑦ 保健行政の動向と対策、子どもに関する保健活動の実際について説明することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの保健と母子保健
- 3 子どもの保健の諸統計
- 4 子どもの身体発育・発達とその評価① 胎児
- 5 子どもの身体発育・発達とその評価② 乳幼児期
- 6 子どもの生理機能の発達① 生理機能・呼吸・体温
- 7 子どもの生理機能の発達② 循環・血液
- 8 子どもの生理機能の発達③ 消化吸収・排泄・睡眠
- 9 子どもの脳神経系の発達
- 10 子どもの運動機能の発達
- 11 子どもの感覚機能の発達
- 12 子どもの精神発達とその評価
- 13 障害のある子どもの理解とその支援
- 14 子どもの歯の発達とケア
- 15 まとめの小テスト
- 16 子どもと先天性異常
- 17 子どもの感染症
- 18 子どもの呼吸器系の病気
- 19 子どもの循環器系・血液系の病気
- 20 子どもの消化器系の病気と悪性腫瘍
- 21 子どもの精神神経系の病気
- 22 子どもの泌尿器・生殖器・皮膚の病気
- 23 子どもの整形外科の病気
- 24 子どもの口腔・眼・耳・鼻の病気
- 25 子どもの内分泌・アレルギー系の病気
- 26 子どもと予防接種
- 27 学校感染症と出席停止
- 28 子どもと保健指導
- 29 子どもと保健安全管理
- 30 まとめの小テスト

#### [授業方法]

各単元について、講義内容や提示された資料など、毎回整理し、学習内容の復習を確実にを行う。

#### [成績評価]

- 小テスト (70%)  
レポート課題など授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「心とからだを育む子どもの保健Ⅰ」(保育出版社)

#### [参考書]

「学校保健マニュアル 学校保健安全法 学校保健の動向」(日本学校保健会)  
「保育所指針」(厚生労働省)

#### [準備学習(予習・復習)]

毎回授業のまとめをレスポンス確認する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

- ・自己の目的意識をもって授業に参加すること。
- ・疑問点や、理解できなかったことは確認作業を行うこと。

[科目名] 子どもの保健Ⅱ

[担当教員名]  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年後期 [科目コード] IE30\_B31  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

子どもの病気や看護を実践するとき用いる基礎的な知識と技術を理解し、身体的、心身的、社会的側面からの健康との関連を知識的に学ぶことを目的とする。

子どもの身体発育や生理機能、運動機能、精神機能の発達など子どもについて全般的に演習を行いながら実践的に学び、基礎知識・力量の形成、子どもの健康に関する一定のスキルの獲得ができ理解を深めることを目的とする。

#### [学習成果] [B]

- ① 体的なイメージがわき、さらに演習の授業を行うことでより実践的なスキルを習得することができる。
- ② グループワークを積極的に取り入れ、参加型授業として授業内容の質を高め体得することができる。
- ③ 演習を通して、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力を獲得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 子どもの保育・教育環境設定と保健衛生
- 3 子どもの保健と母子手帳
- 4 子どもの養護① 抱き方・背負い方
- 5 子どもの養護② 沐浴指導・体の清潔
- 6 子どもの身体的発達と身体測定の方法とその評価
- 7 子どもの生理的発達とその評価
- 8 子どもの運動機能の発達とその評価
- 9 子どもの精神的な発達とその評価
- 10 子どもの保健指導 手洗い・歯みがき指導
- 11 子どもの心に関する指導
- 12 子どもの病気とその手当
- 13 子どものけがとその手当
- 14 保育現場における事故と現状
- 15 災害時の救命・処置方法

#### [授業方法]

毎回授業のマロ目をレスポンスカードで確認し、コメントを入れ返却する。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 授業のレポートや課題提出 (30%)  
授業への取組状況 (70%)

#### [教科書]

「心とからだを育む子どもの保健(演習)」  
(保育出版社)

#### [参考書]

「学校保健マニュアル」(日本学校保健会)  
「ぜひ知っておきたい小児科知識」(診断と治療社)  
「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)  
「保育所保育指針」(厚生労働省)

#### [準備学習(予習・復習)]

各項目についての基礎的知識は「子どもの保健Ⅰ」で受講しているため、その講義内容を復習し授業に臨むこと。

授業中に話された内容、提示された資料など、レポートにまとめ授業での復習を確実にを行うこと。

授業後はレポートの提出を行うため、授業で配布された資料等を確実に保管すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

- ・演習に対して、真剣に取組む姿勢と探求心を持って授業に臨むこと。
- ・保育者になるための基礎基本であることを自覚し、意欲的に授業に臨むこと。
- ・課題に対するやる気や、レポート作成に向けての完成度などに特に期待する。

[科目名] 乳幼児食物アレルギー演習

[担当教員名] 小野内 初美

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年前期

[科目コード] IE30\_B31

[単位数] 2単位

[授業形態] 演習

#### [授業概要]

食物アレルギーの子どもたちと関わる保育士として知ってほしい基礎知識を学ぶ。栄養士、調理員と連携して、保育所での食物アレルギー対応の一助となり、誤食事故を防ぎ、乳幼児の生命を守る。さらに、食物アレルギーの子どもと保護者を支援できる保育士を育成することをねらいとする。

#### [学習成果] [B]

食物アレルギーの知識の習得や、食物アレルギーの子どもが、保育所で安全・安心な生活を送ることができるように対応するための知識が習得できる。保育所で発生している誤食事故防止のためには、保育所の全職員が協力して取り組むチームワークの大切さを認識できる。

#### [授業計画]

- 1 アレルギーの現状、アレルギーとは
- 2 食物アレルギーの基礎知識①
- 3 食物アレルギーの基礎知識②
- 4 食物アレルギー疾患対応のポイント  
保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
- 5 保育士に知ってほしいこと①
- 6 保育士に知ってほしいこと②
- 7 食物アレルギー対応の取り組み
- 8 食物アレルギー対応食のポイント
- 9 食物アレルギー対応食の調理①
- 10 食物アレルギー対応食の調理②
- 11 食物アレルギー対応食の調理③
- 12 食物アレルギー対応食の調理④
- 13 食物アレルギー対応食の調理⑤
- 14 食物アレルギー対応食の調理⑥
- 15 まとめ

#### [授業方法]

理論を学びながら演習を中心とするが、実際に食物アレルギー対応食の調理を多く取り入れることにより、食物アレルギーへの理解と関心を深めていく。

アクティブラーニング導入。

産業給食（企業内）栄養士、病院栄養士の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（20%）

筆記試験（50%）

ノート、レポート等の提出物（30%）

#### [教科書]

「新版 子どもの食と栄養」岩田章子他編（みらい）

#### [参考書]

「これだけでわかる食物アレルギー」宇理須厚雄他監修（みらい）

「愛知文教女子短期大学がお届けするみんないっしょの楽しい給食」安藤京子編著（芽ばえ社）

「保育所における食物アレルギー対応ガイドライン（2019年改訂版）（厚生労働省）

#### [準備学習（予習・復習）]

次回のテーマについて、下調べ等の予習と毎回の授業内容をノートに整理し、復習を行う。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

自ら食物アレルギーについて学び、理解する姿勢を持ち、意欲的に学ぶことを望む。新聞、ニュース等で取り上げられている話題や、食物アレルギー対応の加工食品等にも関心を持っていただきたい。「子どもの食と栄養」で学んだ内容が基礎となっているので、予習をして授業に臨むとよい。

[科目名] 家庭支援論

[担当教員名] 祐宜 佐統美

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年前期

[科目コード] IE30\_B31

[単位数] 2単位

[授業形態] 講義

#### [授業概要]

子育てを取り巻く様々な問題や環境・家庭支援の意義や目的を理解し、保育者に必要な家庭支援を学ぶ。

#### [学習成果] [B]

個々の家庭環境を知り、家庭支援の意義や目的・限界について理解することで、子育て家庭支援の基本的視点や支援方法を自ら考えることができる。

#### [授業計画]

- 1 地域社会の変容と子育て家庭
- 2 家族と家庭
- 3 現代における夫婦・親子関係の理解と支援
- 4 現代における親の理解と支援
- 5 現代における子育て家庭の就労の理解と支援
- 6 児童養護の体系と家庭支援
- 7 子育て支援施策とサービス
- 8 子育て家庭支援の原理と支援方法
- 9 地域の子育て家庭への支援
- 10 グループワーカー社会資源
- 11 子ども虐待への保育者の支援
- 12 事例－児童虐待
- 13 障がいへの理解
- 14 障がいのある子どもをもつ家庭への支援
- 15 事例－障がい

#### [授業方法]

講義が主体であるが、グループワークや事例を活用したグループディスカッションも行い、家庭支援について理解を深めていく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験（70%）

レポート（15%）

授業への取組状況（15%）

#### [教科書]

「学ぶ・わかる・みえるシリーズ 保育と現代社会 保育と家庭支援」上田衛編集（株）みらい

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習（予習・復習）]

毎授業前には、テキストの該当範囲を読んで予習してくること。授業の最初に、前回の授業の振り返りをするので、毎授業後には、授業内容のポイントを復習しておくこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

普段から子育てに関するニュースや新聞を読む機会を持ち、社会の動きに関心をもつようにして授業に臨むこと。

[科目名] 保育内容指導法Ⅰ・環境

[担当教員名] 仲森 みどり

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年後期 [科目コード] IE30\_C32

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

領域「環境」は生活や遊びの中、子ども達がどのような環境にかかわり活動を生み出していくのか、また季節や状況に応じて保育者がどのような環境を設定すれば良いのかを具体的な事例を取り入れながら学び、習得する。

#### [学習成果] [C]

領域「環境」のねらいと内容を理解することができる。保育者の立場となって子ども達が「環境」に関わる活動の意義を理解し、実践的な保育環境を習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション 学習のねらいと進め方
- 2 幼児教育の基本、領域環境とは
- 3 子どもの育ちと環境にかかわる力
- 4 人とかわる力 (保育者、友達、さまざまな人)
- 5 安全な環境づくり (園外)
- 6 園外保育
- 7 自然にかかわる力 (自然、季節、命)
- 8 ものや道具にかかわる力
- 9 日常生活の中での興味・関心 (文字、数量、時間)
- 10 食と農
- 11 身近な植物への関心
- 12 身近な小動物への関心
- 13 領域「環境」の実践力
- 14 行事と記念日
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義で、様々な環境の意義を理解する。演習で保育者として必要な環境構成、援助の仕方を考えていく。

実践を通し、保育者としてのイメージを膨らませ、活動・援助の仕方を身に付けていく。

アクティブラーニング導入。

保育園、児童相談所、母子生活支援施設の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

筆記試験 (50%)

授業への取組状況 (提出物を含む) (50%)

#### [教科書]

保育実践に生かす保育内容「環境」〔第2版〕  
(保育出版社)

#### [参考書]

「保育内容 子どもと環境 ー基本と実践例ー」  
(同文書院)

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前に課題を伝えるので、次の授業までに準備をし、すぐに取り組めるようにしておく。

復習を兼ね、グループで作成したものは個人でも製作してみる。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 保育内容指導法Ⅰ・健康

[担当教員名] 星野 秀樹

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年後期 [科目コード] IE30\_C32

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

領域「健康」の指導に関する、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身につける。

#### [学習成果] [C]

乳幼児の心身の健康・発育発達・基本的な生活習慣・あそび・安全に関する知識を体得する。さらに運動あそび・伝承あそびの実践を通して指導法を修得する。

#### [授業計画]

- 1 健康の定義・幼児期の健康とは
- 2 健康・安全な生活を送るための環境整備
- 3 基本的な生活習慣とその意義
- 4 乳幼児期の身体の発育(身長・体重・骨)
- 5 乳幼児期の身体の発達(生理機能)
- 6 乳幼児期の体力・運動能力の発達 (動きの発達)
- 7 乳幼児期の運動能力低下の背景
- 8 伝承あそびの実践と指導 (けん玉・コマ回し)
- 9 伝承あそび実践と指導 (竹馬)
- 10 鉄棒あそびの実践と指導  
(すずめ、前回り、ぶたの丸焼き)
- 11 鉄棒あそびの実践と指導  
(えんとつ、地球回り、逆上がり)
- 12 跳び箱を使ったあそびの実践と指導
- 13 乳幼児期のあそびと安全
- 14 乳幼児期の怪我と疾病
- 15 健康のねらいと内容

#### [授業方法]

講義で理解した内容を演習にて実践する。演習の後は振り返りを行い学んだことについてのさらなる理解ができるようにしてゆく。

#### [成績評価]

筆記試験 (50%)

実技 (50%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配布

#### [参考書]

「演習保育内容健康」 (建帛社)

「柳沢運動プログラム」 (オフィスエム)

「幼稚園教育要領」

#### [準備学習 (予習・復習)]

あそびについて体験はもちろん、自身が見本を見せられることを目標とし、授業時間内に修得できない場合は自主練習とし、達成まであきらめずに取り組むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 保育内容指導法Ⅱ・表現Ⅱ  
[担当教員名] 山本 雅士  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_C31  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

音楽・表現指導、幼児に音楽を通して表現、創造力を深める上で色々な楽器とマーチングを体験しどのように構成されているか学ぶ。さらにそれらが成り立っているか楽譜や歩行表課程について学ぶ。さらに、器楽合奏の楽譜のスコアリーディングを取り入れながら理解を深める。

#### [学習成果] [C]

合奏実技を通して、保育における音楽の大切さを理解し、音楽・表現指導の応用力、保育の現場で活かせる実践的指導力を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 楽器編成と各楽器の特性を学ぶ
- 2 楽曲の構成とリズム
- 3 楽曲の簡易編曲
- 4 合奏実技1 (楽器奏法基礎)
- 5 合奏実技2 (合奏奏法基礎)
- 6 合奏実技3 (音楽表現法基礎)
- 7 マーチング基本的動作
- 8 個人の動きの確認1
- 9 個人の動きの確認2
- 10 各人の動きのコンビネーション1
- 11 各人の動きのコンビネーション2
- 12 楽器を取り入れた動き1
- 13 楽器を取り入れた動き2
- 14 楽器を取り入れた動き3
- 15 合奏・マーチングの総合表現

#### [授業方法]

合奏実技が主体だが、前半は楽譜の構成、簡易な編曲を通して合奏楽譜を理解する。色々リズムパターン等も取り入れ、表現の幅を広げる。音楽表現をさまざまな角度から取り上げ可能性を探っていく。

後半はマーチングを取り入れ身体全体を通して音楽表現を体験する。

#### [成績評価]

実技 (70%)  
課題への取組や授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

課題の自主練習  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 保育相談支援  
[担当教員名] 青山 加代子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_C31  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育相談支援とは、乳幼児の保護者等の質問や相談に応じる業務である。この業務での保育者の役割は、保護者自ら考え、方法を選択し、子育てができるように支援することである。本講座では、学生が保育現場での保護者支援の内容と技術について学び、理解することをねらいとする。授業では、現場での支援の実際を体験的に理解できるよう事例を多く導入して解説していく。

#### [学習成果] [C]

- ・保育現場での保護者支援の意義及び内容・手順・技術について理解することができる。
- ・保育相談支援業務に携わる準備として、実践事例をとおして理解を深めることができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション・自己を知る
- 2 保育相談支援の意義
- 3 保育相談支援の原則
- 4 保育相談支援の進め方
- 5 保育相談支援技術の基本1
- 6 保育相談支援技術の基本2
- 7 保育相談支援技術の基本3
- 8 保育相談支援の実践1
- 9 保育相談支援の受信と発信1
- 10 保育相談支援の受信と発信2
- 11 相談事例 検討1
- 12 相談事例 検討2
- 13 保育相談支援の実践2
- 14 保育相談支援の実践3
- 15 支援者としてのあり方・まとめ

#### [授業方法]

理論の解説に加え、資料映像を用いて学生の理解を促す。また、事例を元に保育相談支援場面を想定してシミュレーションを行い、その過程をクラスで発表する。このほか、グループワークによる学びあいを行う。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

各回のペーパーワーク (20%)  
授業への取組状況 (聴講・グループワーク・発表) (30%)  
試験 (50%)

#### [教科書]

「演習 保育相談支援 <第2版>」小林育子 著  
(萌文書林)

#### [参考書]

必要に応じて適宜紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎々授業時に配布するワークシートを提出すること。  
次の授業前には、30分程度は新聞・テレビ・インターネット・雑誌などで子どもにかかわる記事に目を通し、幅広い情報収集に心がけて授業に臨むこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

第1回授業にて、受講ルールや評価方法等について説明をしますので、必ず出席してください。

演習科目であるため当事者意識をもって授業で積極的に発言をしてください。

**[科目名]** 保育の表現技術・音楽実践演習Ⅰ  
**[担当教員名]** 国藤 真理子・玉田 裕人・松浦 晴美・  
伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・  
大橋 昌代  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
**[開講学期]** 3年前期 **[科目コード]** IE30\_C31  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

**[授業概要]**

保育士、幼稚園教諭2種免許取得のために必要なピアノ技術をより高め、保育所、幼稚園等の就職実技試験に対応できる学生を育てる。またピアノ技術の遅れている学生の技術向上を目指す。

**[学習成果] [C]**

童謡曲弾き歌い、行進曲等のレパートリーを増やすと共に子どもの年齢に応じた分かり易い表現力を身につけることができる。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション及びレベル別グループ分け実技指導
- 2 個別指導  
(自由曲、行進曲、保育現場で使用する日常の歌)
- 3 個別指導 ( " )
- 4 個別指導 ( " )
- 5 個別指導 ( " )
- 6 個別指導  
(自由曲、行進曲、保育現場で使用する季節の歌)
- 7 個別指導 ( " )
- 8 個別指導 ( " )
- 9 個別指導 ( " )
- 10 個別指導  
(自由曲、行進曲、保育現場で使用する行事の歌)
- 11 個別指導 ( " )
- 12 個別指導 ( " )
- 13 個別指導 ( " )
- 14 模擬授業 (園児に対するの導入から歌唱指導)
- 15 模擬授業 (園児に対するの導入から歌唱指導)

**[授業方法]**

個別指導・体験学習(模擬授業)と振り返り。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

学期中の進捗 (80%)  
実技発表評価 (10%)  
自主練習の取組状況(チェックシート) (10%)

**[教科書]**

ブルグミュラー25練習曲 ソナチネアルバムⅠ  
必要に応じてプリント配布  
こどもの歌100(チャイルド本社)  
続こどもの歌200(チャイルド本社)

**[参考書]**

**[準備学習 (予習・復習)]**

自主練習 毎日  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

**[科目名]** 保育の表現技術・音楽実践演習Ⅱ  
**[担当教員名]** 国藤 真理子・玉田 裕人・松浦 晴美・  
伊藤 真理子・倉田 弓・天石 佐保子・  
大橋 昌代  
**[授業クラス]** (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
**[開講学期]** 3年後期 **[科目コード]** IE30\_C32  
**[単位数]** 1単位 **[授業形態]** 演習

**[授業概要]**

勤務先で必要とされる曲をあらかじめ練習し即戦力となれるよう指導する。

**[学習成果] [C]**

幼児の音楽指導に必要な弾き歌いのレパートリーを多く身に付け、保育の現場で自信を持って音楽表現を行うことができる。

**[授業計画]**

- 1 オリエンテーション及びレベル別グループ分け実技指導
- 2 個別指導(自由曲と童謡弾き歌い、内定園で使用する曲)
- 3 個別指導 ( " )
- 4 個別指導 ( " )
- 5 個別指導 ( " )
- 6 個別指導 ( " )
- 7 個別指導 ( " )
- 8 個別指導 ( " )
- 9 個別指導 ( " )
- 10 個別指導 ( " )
- 11 個別指導 ( " )
- 12 個別指導 ( " )
- 13 個別指導 ( " )
- 14 ピアノ実技のまとめ及び発表
- 15 ピアノ実技のまとめ及び発表

**[授業方法]**

個別指導・体験学習(模擬授業)と振り返り。  
アクティブラーニング導入。

**[成績評価]**

学期中の進捗 (80%)  
実技発表評価 (10%)  
自主練習の取組状況(チェックシート) (10%)

**[教科書]**

こどもの歌100(チャイルド本社)  
続こどもの歌200(チャイルド本社)  
保育園、幼稚園で使用される各種教材  
必要に応じてプリント配布

**[参考書]**

**[準備学習 (予習・復習)]**

自主練習 毎日  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

**[備考]**

[科目名] 保育実習Ⅱ  
[担当教員名] 田村 佳世  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_E31  
[単位数] 2単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえての実習である。

保育士の職務を体感し、保育士としての技術を習得する。保育計画の立案、実践、記録、振り返りを通し、自己課題を明確にする。

#### [学習成果] [E]

保育所実習を通して、様々な保育ニーズを含む保育所の機能および保育士の役割と専門性について理解することができる。

実習での経験、指導等から、保育士に求められる資質能力・技術に照らして自己課題が明確となり、今後の学習の指針を得ることができる。

#### [授業計画]

- 事前オリエンテーション
  - ・保育所実習の意義と目的
  - ・保育所実習の流れ
  - ・実習の心構えと事前訪問について
  - ・実習記録のとり方
  - ・指導計画の立て方（部分実習・全日実習）

#### ○実習内容

- ・保育所の一日の流れを把握し、積極的に子どもと関わる
- ・子どもの年齢に即した発達段階を理解した上で、指導案を作成し実践する（部分実習・全日実習）
- ・保育士としての倫理観を理解し、服務態度を習得する
- ・家庭や地域との連携に関する理解を深める

#### ○実習巡回訪問指導

#### ○事後指導

- ・実習のまとめ、実習日誌の整理
- ・実習全体を振り返り、実習の反省点や保育者としての課題を明確にする

#### [授業方法]

保育所にて2週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。

#### [成績評価]

実習園の評価（70%）  
実習日誌・提出物（30%）

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(みらい)

#### [参考書]

「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子  
(萌文書林)

#### [準備学習（予習・復習）]

予習：担当する乳幼児の発達段階や年齢に即した遊びの理解。保育教材の作製、ピアノの練習の継続など実習に向けての準備。

復習：日誌等の指導の反省、振り返り。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

#### [備考]

社会人としてのマナーや心構えを日ごろから意識して身につけましょう。提出書類の期限は必ず守りましょう。

[科目名] 保育実習指導Ⅱ  
[担当教員名] 田村 佳世  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_E31  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

保育実習に向け、保育計画や保育技術、職業倫理について学ぶ。

指導計画の作成、模擬保育等を通して保育技術の取得及び向上と、自己課題を明確にする。

#### [学習成果] [E]

- ・保育計画の立て方や自己評価の仕方を理解することができる。
- ・教材研究や模擬保育を通し、保育技術を習得することができる。
- ・保育者の専門性と職業倫理について理解することができる。
- ・事後指導を通して、保育に対する課題を明確化することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーションと保育実習Ⅱについて①
- 2 保育実習Ⅱについて②
- 3 施設実習について
- 4 児童福祉施設の概要と保育士の役割
- 5 保育計画について
- 6 保育計画作成①
- 7 保育計画作成②
- 8 教材研究①グループワーク
- 9 教材研究②発表
- 10 教材研究③振り返り
- 11 事例検討①乳児の保育
- 12 事例検討②3歳以上児の保育
- 13 保育実習Ⅱの振り返りと今後の課題
- 14 事例検討③異年齢保育・統合保育等
- 15 学びの振り返りとまとめ

#### [授業方法]

保育計画の作成、模擬保育、アクティブラーニング等によって積極的に考えを発表し合い、相互に学び合うことを通して、よりよい教材や保育方法を探る。

アクティブラーニング導入。  
保育所・子育て支援センターの実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

提出物（50%）  
授業への取組状況（30%）  
発表（20%）

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(みらい)

#### [参考書]

「実習日誌の書き方」相馬和子・中田カヨ子  
(萌文書林)

#### [準備学習（予習・復習）]

予習：絵本の読み聞かせ、手遊びの練習や保育教材を作製するなど、保育実習に向けての準備を計画的に進める。

福祉施設の機能や保育者の役割等について見識を深め、各自課題意識をもって授業に臨む。

復習：提出物、製作物等の反省、修正。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照)

#### [備考]

社会人としてのマナーや心構えを身にけられるように日ごろから挨拶や言葉遣いを意識しましょう。  
提出書類の期限は必ず守りましょう。

### 3 教職に関する科目

[科目名] 教職概論  
[担当教員名] 保科 潤一  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_F11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

[授業概要]

教員には、教育者としての使命感と教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力と幅広い豊かな人間性が要求される。本講義では、望ましい教育者になるための職務と教育専門職としての心構えについて講じる。

[学習成果] [F]

教職の意義および役割について理解させ、自分の意見を理論的に構成し教育への愛情と感動を身につけられるようにする。

[授業計画]

- 1 教職課程で学ぶこと
- 2 子どもの生活と学校
- 3 教師の仕事・・・学習指導・進路指導
- 4 教師の仕事・・・生徒指導・教育相談
- 5 教師の仕事・・・学級経営
- 6 教師に求められる資質・能力…教師に何を求めてきたか
- 7 教師に求められる資質・能力…教師に何が求められているか
- 8 教員養成の制度
- 9 教職課程の仕組みと内容
- 10 教員の養成と採用
- 11 教員の研修
- 12 教員の地位と身分
- 13 学校の管理・チーム学校運営
- 14 日本国憲法と教育基本法
- 15 学校教育法と教育公務員特例法

[授業方法]

教科書・プリント等に基づく講義を基本とするが、調査学習や学生による発表、討論も随時取り入れる。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 筆記試験 (50%)
- レポート (30%)
- 授業への取組状況 (20%)

[教科書]

「教職入門 教師への道」藤本典裕編著 (図書文化)

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

専門用語が多いので十分理解できるようにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]

[科目名] 教職・教育制度論  
(チーム学校運営への対応を含む。)

[担当教員名] 保科 潤一・御代田 桜子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

[授業概要]

教員には、教育者としての使命感と教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力と幅広い豊かな人間性が要求される。本講義では、望ましい教育者になるための職務と教育専門職としての心構えについて講じる。

[学習成果] [A]

教職の意義および役割について理解させ、また学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身につける。

[授業計画]

- 1 教職課程で学ぶこと
- 2 子どもの生活と学校
- 3 教師の仕事・・・進路指導・学級運営
- 4 教師の仕事・・・生徒指導・教育相談
- 5 教育観の変遷
- 6 教師に求められる資質・能力…教師に何を求めてきたか
- 7 教師に求められる資質・能力…教師に何が求められているか
- 8 教員養成の制度
- 9 教職課程の仕組みと内容
- 10 教員の養成と採用
- 11 教員の研修
- 12 教員の地位と身分
- 13 学校安全への対応とチーム学校運営
- 14 日本国憲法と教育関係法規
- 15 学校と地域との連携

[授業方法]

教科書・プリント等に基づく講義を基本とするが、調査学習や学生による発表、討論も随時取り入れる。  
アクティブラーニング導入。

[成績評価]

- 筆記試験 (50%)
- レポート (30%)
- 授業への取組状況 (20%)

[教科書]

「教職入門 教師への道」藤本典裕 編著  
(図書文化)

[参考書]

[準備学習 (予習・復習)]

専門用語が多いので十分理解できるようにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

[備考]



【科目名】 教職・教育制度論  
(チーム学校運営への対応を含む。)

【担当教員名】 保科 潤一・御代田 桜子

【授業クラス】 (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

【開講学期】 1年前期 【科目コード】 IE30\_A11

【単位数】 2単位 【授業形態】 講義

#### 【授業概要】

教員には、教育者としての使命感と教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力と幅広い豊かな人間性が要求される。本講義では、望ましい教育者になるための職務と教育専門職としての心構えについて講じる。

#### 【学習成果】 【A】

教職の意義および役割について理解させ、また学校教育に関する社会的、制度的事項について基礎的な知識を身につける。

#### 【授業計画】

- 1 教職課程で学ぶこと
- 2 子どもの生活と学校
- 3 教師の仕事・・・進路指導・学級運営
- 4 教師の仕事・・・生徒指導・教育相談
- 5 教育観の変遷
- 6 教師に求められる資質・能力…教師に何を求めてきたか
- 7 教師に求められる資質・能力…教師に何が求められているか
- 8 教員養成の制度
- 9 教職課程の仕組みと内容
- 10 教員の養成と採用
- 11 教員の研修
- 12 教員の地位と身分
- 13 学校安全への対応とチーム学校運営
- 14 日本国憲法と教育関係法規
- 15 学校と地域との連携

#### 【授業方法】

教科書・プリント等に基づく講義を基本とするが、調査学習や学生による発表、討論も随時取り入れる。  
アクティブラーニング導入。

#### 【成績評価】

- 筆記試験 (50%)
- レポート (30%)
- 授業への取組状況 (20%)

#### 【教科書】

「教職入門 教師への道」藤本典裕 編著  
(図書文化)

#### 【参考書】

#### 【準備学習 (予習・復習)】

専門用語が多いので十分理解できるようにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### 【備考】

【科目名】 教育原理

【担当教員名】 竹中 烈

【授業クラス】 (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

【開講学期】 1年前期 【科目コード】 LCF0\_F11

【単位数】 2単位 【授業形態】 講義

#### 【授業概要】

「教育とは何か」、現代社会においてはほぼすべての人が学校などでの「教育」経験を持っているにも関わらず、この間に明確に答えられる人は少ないと思う。自身の「教育」経験について振り返ってみることは、「学校」や「学び」について考えることにもつながっていくだろう。しかし、私たち一人ひとりの経験は非常に限定的なものにすぎない。自分の経験だけでなく、他者の経験も踏まえ、自らの経験を相対化、客観化することで、教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解していきたいと考える。

#### 【学習成果】 【F】

現代社会における「教育」の必要性を、自身の体験やこれまでの教育思想などをふまえて説明することができる。

#### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション (授業の目的、概要、評価の方法)
- 2 教育とは何か、学ぶことの意味づけ
- 3 自身の教育体験を振り返ろう①  
「ライフヒストリーとして物語る」
- 4 自身の教育体験を振り返ろう②  
「著名人の教育体験を知る」
- 5 自身の教育体験を振り返ろう③  
「ライフヒストリーの構築性」
- 6 教育思想史① - 系統主義に関わる思想 -
- 7 教育思想史② - 児童中心主義に関わる思想 -
- 8 教育思想史③ - 近代学校制度に関わる思想 -
- 9 現代教育の諸検討① 「学校とは何か」
- 10 現代教育の諸検討② 「子どもの発見」
- 11 現代教育の諸検討③ 「早期教育・就学前教育」
- 12 現代教育の諸検討④ 「学力をどう捉えるか」
- 13 現代教育の諸検討⑤ 「道徳教育の変遷」
- 14 現代教育の諸検討⑥ 「しつけの社会史」
- 15 まとめ - よりよい教育を求めて

#### 【授業方法】

「自身の教育体験を振り返ろう」では、自身の教育体験の振り返り、他者の教育体験をインタビューや資料を通して調べ、それらの結果をプレゼンテーションすることを具体的な方法とする。他の講義回は基本的に講義形式となるが、適宜ディスカッションなどを取り入れ、学習者が主体的かつ対話的に学習できるような構成としていく。  
アクティブラーニング導入。

#### 【成績評価】

- 授業中の課題 (70%)
- 定期試験 (30%)

#### 【教科書】

「哲学する教育原理」 (教育情報出版)  
(ISBN : 978-4-905493266)

#### 【参考書】

「教育思想の50人」リオラ・プレスラー、デイヴィッド・E・クーパー、ジョイ・パーマー (青土社)  
(ISBN : 97 8-4791766734)

「中学校学習指導要領」  
「高等学校学習指導要領」 (最新版)

#### 【準備学習 (予習・復習)】

その都度指示を出す。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### 【備考】

問い合わせはtakenaka@abu.ac.jpまで

[科目名] 幼児教育原理  
[担当教員名] 加藤 智子・田中 亨胤  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部・第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE00\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

教育の意義及び目的、児童福祉等との関連性、教育思想、幼児教育の歴史及び教育課程について、幼稚園教育要領における教育の基本について理解し、保育者として必要な基礎的知識を身につける。

#### [学習成果] [A]

教育の意義や目的・教育に関する基礎的な理論・教育の制度・幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本・教育実践の様々な取り組み等を理解し、保育者として必要な基礎的な知識が身につく。

#### [授業計画]

- 1 教育の意義、目的
- 2 幼稚園教育要領における教育の基本(資質・能力等)
- 3 幼稚園教育要領における教育の基本(教育課程・全体的な計画)
- 4 幼稚園教育要領における教育の基本(教育課程の編成)
- 5 幼稚園教育要領における教育の基本(指導計画・評価)
- 6 幼稚園教育要領における教育の基本(カリキュラムマネジメント)
- 7 ねらい及び内容
- 8 諸外国の教育思想と幼児教育の歴史
- 9 日本の教育思想と幼児教育の歴史
- 10 子どもの健康と教育環境
- 11 特別な配慮を必要とする幼児への指導
- 12 子育て支援
- 13 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と学校教育
- 14 生涯学習の中の幼児教育
- 15 現代の幼児教育課題

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループで学習、討議を行い、保育者としての基礎的な知識を学ぶ。

アクティブラーニング導入。  
幼稚園(教育課程作成・教育実習生指導 等)の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 筆記試験 (60%)
- 授業態度 (30%)
- レポート (10%)

#### [教科書]

「教育原理」矢藤誠慈郎、北野幸子 編(中央法規)  
「幼稚園教育要領」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

#### [参考書]

「幼稚園教育要領解説書」  
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」

#### [準備学習(予習・復習)]

次の授業前には、前回の授業の内容を見直しておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

日常から、保育や社会情勢に関心をもち、書籍を読んだりニュースを見たりするとよい。

[科目名] 教育心理学

[担当教員名] 朴 賢晶  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_F12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

教育の過程における心理学知識及び効果的な教育を展開するために教育心理学の基礎を学習することを目的とする。子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

#### [学習成果] [F]

子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を学習することによって、子どものそれぞれの発達に合わせた教育的対応できる。

#### [授業計画]

- 1 教育心理学について紹介。心理学の考え方を紹介すると共に教育心理学を学ぶ意義について
- 2 ピグマリオン効果の紹介と共にどのように子どもの学習を支えるのかディスカッション
- 3 学習無力感の紹介と共に、子どもの心理的な支援について考える
- 4 子どもの心身の発達について説明(発達と初期環境を愛着に焦点を当てる)
- 5 認知的発達理論について紹介すると共に、発達理解の意義を理解する
- 6 子どもの心身の発達について説明(人との関わりに焦点を当てる)
- 7 フロイトとエリクソンの発達段階と課題について紹介する
- 8 学習の形態や概念についての理論を紹介すると共に、主体的な学びについて考える
- 9 子どもの自己意識、言語機能、遊びの発達について説明する。
- 10 古典的条件づけについて説明
- 11 道具的条件づけについて説明
- 12 叱ることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
- 13 誉めることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
- 14 観察学習について説明する
- 15 子どもの観察学習の効果について説明すると共に、発達を支える指導法を考える

#### [授業方法]

講義を基本とする。回想法による児童・生徒時代の学校生活を振り返りながら、経験と理論を照らし合わせ理解を深める。グループ学習、調べ学習、資料作成等を取り入れ、学生が主体的に学習できるように工夫する。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 小レポート (70%)
- 平常点 (30%) (授業への取組状況等)

#### [教科書]

指定しない。プリント配布

#### [参考書]

「やさしい教育心理学」鎌原雅彦ら著(有斐閣)

#### [準備学習(予習・復習)]

レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

予習・復習を促すアクティブラーニングの導入を考えている。授業中に配布したプリント、資料等は常に持参して授業に参加することが望ましい。

【科目名】教育心理学

【担当教員名】朴 賢晶

【授業クラス】(学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

【開講学期】2年前期 【科目コード】IE10\_B21

【単位数】2単位 【授業形態】講義

#### 【授業概要】

教育の過程における心理学知識及び効果的な教育を展開するために教育心理学の基礎を学習することを目的とする。子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

#### 【学習成果】 [B]

子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を学習することによって、子どものそれぞれの発達に合わせた教育的対応できる。

#### 【授業計画】

- 1 教育心理学について紹介。心理学の考え方を紹介すると共に教育心理学を学ぶ意義について
- 2 ビグマリオン効果の紹介と共にどのように子どもの学習を支えるのかディスカッション
- 3 学習無力感の紹介と共に、子どもの心理的な支援について考える
- 4 子どもの心身の発達について説明(発達と初期環境を愛着に焦点を当てる)
- 5 認知的発達理論について紹介すると共に、発達理解の意義を理解する
- 6 子どもの心身の発達について説明(人との関わりに焦点を当てる)
- 7 フロイトとエリクソンの発達段階と課題について紹介する
- 8 学習の形態や概念についての理論を紹介すると共に、主体的な学びについて考える
- 9 子どもの自己意識、言語機能、遊びの発達について説明する。
- 10 古典的条件づけについて説明
- 11 道具的条件づけについて説明
- 12 叱ることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
- 13 誉めることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
- 14 観察学習について説明する
- 15 子どもの観察学習の効果について説明すると共に、発達を支える指導法を考える

#### 【授業方法】

講義を基本とする。回想法による児童・生徒時期の学校生活を振り返りながら、経験と理論を照らし合わせ理解を深める。グループ学習、調べ学習、資料作成等を取り入れ、学生が主体的に学習できるように工夫する。  
アクティブラーニング導入。

#### 【成績評価】

小レポート (70%)  
平常点 (30%) (授業への取組状況等)

#### 【教科書】

指定しない。プリント配布

#### 【参考書】

「やさしい教育心理学」鎌原雅彦ら著(有斐閣)

#### 【準備学習(予習・復習)】

レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### 【備考】

予習・復習を促すアクティブラーニングの導入を考えている。授業中に配布したプリント、資料等は常に持参して授業に参加することが望ましい。

【科目名】教育心理学

【担当教員名】朴 賢晶

【授業クラス】(学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

【開講学期】3年前期 【科目コード】IE30\_B31

【単位数】2単位 【授業形態】講義

#### 【授業概要】

教育の過程における心理学知識及び効果的な教育を展開するために教育心理学の基礎を学習することを目的とする。子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

#### 【学習成果】 [B]

子どもの心身の発達と学習過程において、基礎的な知識を身につけるとともに、学習を支える指導について基礎的な考え方を学習することによって、子どものそれぞれの発達に合わせた教育的対応できる。

#### 【授業計画】

- 1 教育心理学について紹介。心理学の考え方を紹介すると共に教育心理学を学ぶ意義について
- 2 ビグマリオン効果の紹介と共にどのように子どもの学習を支えるのかディスカッション
- 3 学習無力感の紹介と共に、子どもの心理的な支援について考える
- 4 子どもの心身の発達について説明(発達と初期環境を愛着に焦点を当てる)
- 5 認知的発達理論について紹介すると共に、発達理解の意義を理解する
- 6 子どもの心身の発達について説明(人との関わりに焦点を当てる)
- 7 フロイトとエリクソンの発達段階と課題について紹介する
- 8 学習の形態や概念についての理論を紹介すると共に、主体的な学びについて考える
- 9 子どもの自己意識、言語機能、遊びの発達について説明する。
- 10 古典的条件づけについて説明
- 11 道具的条件づけについて説明
- 12 叱ることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
- 13 誉めることの効果について説明すると共に、動機付けについて考える
- 14 観察学習について説明する
- 15 子どもの観察学習の効果について説明すると共に、発達を支える指導法を考える

#### 【授業方法】

講義を基本とする。回想法による児童・生徒時期の学校生活を振り返りながら、経験と理論を照らし合わせ理解を深める。グループ学習、調べ学習、資料作成等を取り入れ、学生が主体的に学習できるように工夫する。  
アクティブラーニング導入。

#### 【成績評価】

小レポート (70%)  
平常点 (30%) (授業への取組状況等)

#### 【教科書】

指定しない。プリント配布

#### 【参考書】

「やさしい教育心理学」鎌原雅彦ら著(有斐閣)

#### 【準備学習(予習・復習)】

レポートは、授業に問題意識をもって臨むための予習的なものと、学習した内容を深めるためのものにする。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### 【備考】

予習・復習を促すアクティブラーニングの導入を考えている。授業中に配布したプリント、資料等は常に持参して授業に参加することが望ましい。

【科目名】教育関係法規・教育課程の意義及び編成の方法

【担当教員名】竹中 烈・田中 亨胤

【授業クラス】(学科)生活文化  
(専攻)食物栄養

【開講学期】1年前期 【科目コード】LCF0\_F11

【単位数】1単位 【授業形態】講義

#### 【授業概要】

現代の学校教育には、地域との連携・教員の質の向上など様々な要求が突きつけられている。それらの課題は、現代の学校制度や経営の問題を内包しており、日本の学校教育の社会的かつ法規制度的な理解が必要不可欠である。本講義では、日本の学校制度や経営の特質を歴史的視点も取り入れながら解説した上で、近年の教育政策の動向や諸外国の教育事情等についてもそのあり方についても扱う。

#### 【学習成果】 [F]

日本の学校教育制度や教育課程の意義及び編成も含めた学校経営の特色について、教育関係法規や海外比較などの視点を通して理解する。

#### 【授業計画】

- 1 オリエンテーション (授業の目的、概要、評価の方法)
- 2 教育課程とは何か - 学習指導要領の位置づけ -
- 3 教育委員会制度の理念と仕組み
- 4 戦後教育史-学習指導要領及び教育法規の変遷-
- 5 昭和30年代の学校制度
- 6 「6・3・3制」と中等教育
- 7 近年の教育政策の動向と新学習指導要領
- 8 社会に開かれた教育課程-カリキュラムマネジメントの意義-
- 9 カリキュラム編成の基本原則及びカリキュラム評価の現状
- 10 地域や保護者がつくる学校-コミュニティスクールを事例に-
- 11 学校保健安全法と安全教育の現状
- 12 各国の学校教育制度①-アメリカ合衆国-
- 13 各国の学校教育制度②-フィンランド及び欧州-
- 14 各国の学校教育制度③-シンガポール及び台湾-
- 15 まとめ

#### 【授業方法】

基本的に講義形式となるが、適宜ディスカッションなどを取り入れ、学習者が主体的かつ対話的に学習できるような構成としていく。また「各国の学校教育制度」では、各自がテーマとなる国の教育事情や学校制度を事前に資料を通して調べ、それらの結果を持ち合い、ディスカッションすることを具体的な方法とする。

アクティブラーニング導入。

#### 【成績評価】

定期試験 (50%)

授業中の課題 (50%)

#### 【教科書】

授業プリントを配布

#### 【参考書】

「大衆教育社会のゆくえ - 学歴主義と平等神話の戦後史 -」 荻谷剛彦 (中公新書) (ISBN: 978-4121012494)

「義務教育を問い直す」 藤田英典 (ちくま新書) (ISBN: 978-4480062437)

「諸外国の教育動向」 文部科学省 (最新版)

「中学校学習指導要領」

「高等学校学習指導要領」 (平成29年3月公示)

(全て最新版)

#### 【準備学習 (予習・復習)】

その都度指示を出す。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### 【備考】

問い合わせはtakenaka@abu.ac.jpまで

【科目名】教育関係法規

【担当教員名】田中 基夫

【授業クラス】(学科)幼児教育 第3部  
(専攻)

【開講学期】3年前期

【科目コード】IE30\_A31

【単位数】1単位

【授業形態】講義

#### 【授業概要】

私たちは法規やルールに守られて日々の生活を送っているが、学校でもそれは同じである。「いざ」というときに子供たちや学校の教職員を守ってくれるのが教育法規の本来の姿である。今、保護者や社会の意識も変わってきて、学校でもさまざまな問題が発生するようになってきている。幼稚園教諭、保育士のいずれにも対応できるように、教育関連法規を幅広く学ぶ。

#### 【学習成果】 [A]

実際に幼稚園教諭や保育士として勤務して、現場でさまざまな問題に直面したとき、適切に対応できる法律知識や教養を身につけることができるようになる。

#### 【授業計画】

- 1 重要条文 (1) …日本国憲法、教育基本法
- 2 重要条文 (2) …学校教育法、学校教育法施行規則  
学校保健安全法
- 3 重要条文 (3) …教育公務員特例法、教育職員免許法、地方教育行政法
- 4 教育の基本理念 (1)
- 5 教育の基本理念 (2)
- 6 学校教育 (1)
- 7 学校教育 (2)
- 8 学校教育 (3)
- 9 児童・生徒
- 10 学校保健・環境
- 11 教育職員 (1)
- 12 教育職員 (2)
- 13 教育行政
- 14 社会福祉関係法規
- 15 児童福祉関係法規

#### 【授業方法】

授業中心に授業を進めるが、アクティブラーニングも随時取り入れ、具体的な問題解決方法を模索する。

#### 【成績評価】

試験 (70%)

課題や授業への取組状況 (30%)

#### 【教科書】

授業プリントを配布

#### 【参考書】

「図解・表解教育法規」 (教育開発研究所)

#### 【準備学習 (予習・復習)】

予習: 教科書を読む。

復習: 講義ノートを熟読する。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### 【備考】

[科目名] 道徳及び特別活動の指導法（総合的な学習の時間を含む。）

[担当教員名] 庄子 佳吾

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_F12

[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間の教育課程上の位置付けや各教科等との関連を踏まえ、目標や内容、特質、実際の指導方法等について理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習方法・指導方法について学ぶ。

#### [学習成果] [F]

道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間の目標・内容、指導理論について学び、授業づくりや指導方法についての基礎・基本を理解する。また、他教科及び人権教育、生徒指導、健康教育、食育など、教育全体との関連を理解する。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 道徳教育の変遷
- 3 道徳教育と他の教育活動との関連
- 4 道徳科の指導計画と実際の指導(1)
- 5 道徳科の指導計画と実際の指導(2)
- 6 特別活動の変遷と教育的意義
- 7 学習指導要領の「特別活動」の特質
- 8 特別活動の指導計画と実際の指導(1)
- 9 特別活動の指導計画と実際の指導(2)
- 10 特別活動の指導計画と実際の指導(3)
- 11 総合的な学習の時間の意義と教育課程上の役割
- 12 総合的な学習の時間の全体計画・単元構成
- 13 総合的な学習の時間の指導計画と実際の指導
- 14 総合的な学習の時間の評価
- 15 道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間のまとめ

#### [授業方法]

講義が主体だが、授業の中で行うグループワークや発表交流等で、積極的に発言・行動ができるようになること、自分自身の道徳性について考え、指導者としての資質を高めることを目指す。アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 定期試験 (60%)
- 授業への取組状況 (40%)

#### [教科書]

特になし。授業中に適宜資料を配付する。

#### [参考書]

- 「道徳教育の理論と方法」  
羽田積男・関川悦雄 編 (弘文堂)
- 「特別活動・総合的な学習の理論と指導法」  
関川悦雄・今泉朝雄 編 (弘文堂)
- 「小学校学習指導要領解説、中学校学習指導要領解説  
特別の教科 道徳編・特別活動編・総合的な学習の時間編」 (文部科学省)

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業前に前回の授業内容を見直し、復習を行うこと。また、発表前後には準備と振り返りを行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日時は掲示で確認) に受け付けます。

[科目名] 幼児理解と教育方法

[担当教員名] 村上 浩美

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期

[科目コード] IE10\_C21

[単位数] 2単位

[授業形態] 講義

#### [授業概要]

子どもを中心に考えた質の高い保育実践を進めるために、幼児理解を深めどのような教育方法が大切かを考え、教材や指導計画の作成を通して保育・教育方法を学ぶ。

#### [学習成果] [C]

一人ひとりの子どもの良さを認め引き出す保育の重要性が分かり、個々に応じた指導方法や個々の力が発揮できる集団の育ちを促す指導方法を考えることができる。  
子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、幼児理解する方法や教育方法の在り方を理解し、保育・指導技術を身につける。また、教材の作成や活用能力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 育みたい資質・能力と保育方法の基本
- 2 「幼児理解の方法」と「保育者の意図と援助」
- 3 3歳未満児の保育と3歳以上児の保育
- 4 指導計画の立て方 (1) ねらいと内容
- 5 指導計画の立て方 (2) 予想される子どもの活動
- 6 指導計画の立て方 (3) 環境設定・教材の活用
- 7 指導計画の立て方 (4) 保育者の援助
- 8 保育を行う上での基礎的な技術
- 9 生活や遊びの中での総合的な指導
- 10 幼児の発達の応じた指導方法
- 11 共に育ち合う保育の視点
- 12 幼児理解と映像によるカンファレンス
- 13 「幼児理解の評価」と「保育における評価と反省」
- 14 保護者の心情と基礎的な対応方法
- 15 教材の持つ意味と使い方・教育情報の活用

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループ討議、指導計画作成を通して、よりよい保育方法を考察する。  
「アクティブラーニング導入」グループ討議を行い、予想される子どもの姿や保育方法をより深く考える。  
幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 筆記テスト (50%)
- 授業態度 (25%)
- レポート (25%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

- 幼稚園教育要領、保育所保育指針、  
幼保連携型こども園教育・保育要領

#### [準備学習 (予習・復習)]

レポートは、授業内で作成する時間がある程度設けるが、完成するには、授業時間外に作成する必要がある。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

乳幼児とかかわれる機関でボランティア活動をしたりアルバイトをしたりして、学校で学んだことを生かして実践し、乳幼児への理解を深め保育技術を高めていくとよい。

[科目名] 幼児教育指導法  
[担当教員名] 村上 浩美  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_C31  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

子どもを中心に考えた質の高い保育実践を進めるためには、どのような指導方法が大切かを考え、教材や指導計画の作成を通して保育・指導方法を学ぶ。

#### [学習成果] [C]

一人ひとりの子どもの良さを認め引き出す保育の重要性が分かり、個々に応じた指導方法や個々の力が発揮できる集団の育ちを促す指導方法を考えることができる。

子どもたちに求められる資質・能力を育成するために、教育方法の在り方を理解し、保育・指導技術を身につける。また、教材の作成や活用能力を身につける。

#### [授業計画]

- 1 育みたい資質・能力と保育方法の基本
- 2 保育者の意図と援助
- 3 3歳未満児の保育と3歳以上児の保育
- 4 指導計画の立て方(1)ねらいと内容
- 5 指導計画の立て方(2)予想される子どもの活動
- 6 指導計画の立て方(3)環境設定・教材の活用
- 7 指導計画の立て方(4)保育者の援助
- 8 生活や遊びの中での総合的な指導
- 9 幼児の発達に応じた指導方法
- 10 共に育ち合う保育の視点
- 11 5領域における育みたい資質・能力
- 12 保育における評価と反省
- 13 指導計画の改善
- 14 教材の持つ意味と使い方・教育情報の活用
- 15 様々な保育形態 チーム保育・異年齢保育・統合保育

#### [授業方法]

講義が主体だが、グループ討議、指導計画作成を通して、よりよい保育方法を考察する。

「アクティブラーニング導入」・・・グループ討議を行い、予想される子どもの姿や保育方法をより深く考える。

幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

- 筆記テスト (50%)
- 授業への取組状況 (25%)
- レポート (25%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

- 「幼稚園教育要領」
- 「保育所保育指針」
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

#### [準備学習(予習・復習)]

レポートは、授業内で作成する時間をある程度設けるが、完成するには、授業時間外に作成する必要がある。(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

乳幼児とかがかわれる機関でボランティア活動をしたりアルバイトをしたりして、学校で学んだことを生かして実践し、乳幼児への理解を深め保育技術を高めていくとよい。

[科目名] 教育相談  
[担当教員名] 水谷 久康  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_B22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

教育相談を行うためには単にカウンセリングのスキルや考え方を理解するだけでは役には立たない。幼児教育を行う専門家として支援ニーズにどう応えるのか、子供の課題と保護者の背景にある家族の課題などを理解する力をつけ、役立つ援助とは何かを学ぶ。

#### [学習成果] [B]

子供を育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。様々な家族があり、様々な保護者の思いがあることを理解し、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出し活性化させる視点やスキルを身につけ、役立つ支援力を獲得する。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション、教育相談とカウンセリング
- 2 カウンセリングの基礎とフロイト
- 3 ロジャーズとカウンセリング
- 4 指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング
- 5 非指示的カウンセリングの実際
- 6 クライアントの変容
- 7 家族システムと家族療法の考え方
- 8 問題と解決とは
- 9 乳幼児への特別支援①
- 10 乳幼児への特別支援②
- 11 乳幼児への特別支援③
- 12 マズローの欲求階層と虐待児の問題
- 13 事例から考える保護者支援①
- 14 事例から考える保護者支援②
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義とともに、グループディスカッション、ロールプレイなどを取り入れ必要な知識スキルが身につくように学習する。毎回小テストで知識の定着を図る。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 筆記試験 (50%)
- 授業課題・授業への取組状況 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

- 「子どもたちとのソリューション・ワーク」  
インスー・キムバーク、テレサ・スタイナー 著  
長谷川啓三監訳 (株)金剛出版
- その他、授業中に随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

ノートと資料プリント・小テストを使い学習の振り返りを毎回行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

[科目名] 教育相談  
[担当教員名] 水谷 久康  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年前期 [科目コード] IE30\_B31  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

教育相談を行うためには単にカウンセリングのスキルや考え方を理解するだけでは役には立たない。幼児教育を行う専門家として支援ニーズにどう応えるのか、子供の課題と保護者の背景にある家族の課題などを理解する力をつけ、役立つ援助とは何かを学ぶ。

#### [学習成果] [B]

子供を育む家族を取り巻く環境は今日厳しさを増している。様々な家族があり、様々な保護者の思いがあることを理解し、問題を抱え支援を必要とする側に存在する解決のための資源を見出し活性化させる視点やスキルを身につけ、役立つ支援力を獲得する。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション、教育相談とカウンセリング
- 2 カウンセリングの基礎とフロイト
- 3 ロジャーズとカウンセリング
- 4 指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング
- 5 非指示的カウンセリングの実際
- 6 クライアントの変容
- 7 家族システムと家族療法の考え方
- 8 問題と解決とは
- 9 乳幼児への特別支援①
- 10 乳幼児への特別支援②
- 11 乳幼児への特別支援③
- 12 マズローの欲求階層と虐待児の問題
- 13 事例から考える保護者支援①
- 14 事例から考える保護者支援②
- 15 まとめ

#### [授業方法]

講義とともに、グループディスカッション、ロールプレイなどを取り入れ必要な知識スキルが身につくように学習する。毎回小テストで知識の定着を図る。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

筆記試験 (50%)  
授業課題・授業への取組状況 (50%)

#### [教科書]

特になし

#### [参考書]

「子どもたちとのソリューション・ワーク」  
インスー・キムバーク、テレサ・スタイナー著  
長谷川啓三監訳 (株)金剛出版  
その他、授業中に随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

ノートと資料プリント・小テストを使い学習の振り返りを毎回行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 特別支援教育  
[担当教員名] 丸川 裕司・光田 博英  
[授業クラス] (学科) 生活文化学科  
(専攻) 食物栄養専攻  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_F22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

障害のある子どもの教育に関する現状を理解し、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換を学習する。本学習では、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を理解する。

#### [学習成果] [F]

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の実態や適切な支援方法等を理解し、よき支援者としての資質を育てる。

#### [授業計画]

- 1 特別支援教育の歴史Ⅰ 我が国における特殊教育の始まりと発展、戦後の特殊教育の復興と完成
- 2 特別支援教育の歴史Ⅱ 特殊教育から特別支援教育への転換
- 3 特別支援教育の理念と仕組み
- 4 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅰ
- 5 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅱ
- 6 特別支援教育に関わる制度 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる制度
- 7 学習指導要領と教育課程の編成 学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項
- 8 特別支援学校の教育の概要 特別支援学校の教育の概要
- 9 特別支援学校における教育課程 特別支援学校における教育課程と実際の指導
- 10 自立活動の指導 自立活動の指導内容と方法
- 11 特別支援学校のセンター的機能 特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
- 12 小・中学校における特別支援教育Ⅰ
- 13 小・中学校における特別支援教育Ⅱ
- 14 個別の教育支援計画及び指導計画 個別の教育支援計画と個別の指導計画の実際
- 15 特別支援教育コーディネーターの役割

#### [授業方法]

特別支援教育の理念や制度、実際などを講義形式で行い、適宜グループワークや事例検討などのディスカッションを織り交ぜて理解を深める。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
小論文、提出物、講義への参加意欲 (30%)

#### [教科書]

「特別支援教育の基礎・基本 (新訂版)」  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
ジアース教育新社

#### [参考書]

特別支援学校 教育要領・学習指導要領  
特別支援学習指導要領解説 総則等編 自立活動編

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業内容に関連することについて日常的に関心を持ち、課題意識を持って授業に臨んでください。また、授業後には授業内容について必ず振り返り、内容のポイントを整理しておく。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 特別支援教育  
[担当教員名] 丸川 裕司・光田 博英  
[授業クラス] (学科) 幼児教育学科第1部  
(専攻)

[開講学期] 2年前期 [科目コード] IE10\_C21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

障害のある子どもの教育に関する現状を理解し、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換を学習する。本学習では、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を理解する。

#### [学習成果] [C]

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の実態や適切な支援方法等を理解し、よき支援者としての資質を育てる。

#### [授業計画]

- 1 特別支援教育の歴史Ⅰ 我が国における特殊教育の始まりと発展、戦後の特殊教育の復興と完成
- 2 特別支援教育の歴史Ⅱ 特殊教育から特別支援教育への転換
- 3 特別支援教育の理念と仕組み
- 4 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅰ
- 5 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅱ
- 6 特別支援教育に関わる制度 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる制度
- 7 学習指導要領と教育課程の編成 学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項
- 8 特別支援学校の教育の概要 特別支援学校の教育の概要
- 9 特別支援学校における教育課程 特別支援学校における教育課程と実際の指導
- 10 自立活動の指導 自立活動の指導内容と方法
- 11 特別支援学校のセンター的機能 特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
- 12 小・中学校における特別支援教育Ⅰ
- 13 小・中学校における特別支援教育Ⅱ
- 14 個別の教育支援計画及び指導計画 個別の教育支援計画と個別の指導計画の実際
- 15 特別支援教育コーディネーターの役割

#### [授業方法]

特別支援教育の理念や制度、実際などを講義形式で行い、適宜グループワークや事例検討などのディスカッションを織り交ぜて理解を深める。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
小論文、提出物、講義への参加意欲 (30%)

#### [教科書]

「特別支援教育の基礎・基本 (新訂版)」  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
ジアース教育新社

#### [参考書]

特別支援学校 教育要領・学習指導要領  
特別支援学習指導要領解説 総則等編 自立活動編

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業内容に関連することについて日常的に関心を持ち、課題意識を持って授業に臨んでください。また、授業後には授業内容について必ず振り返り、内容のポイントを整理しておく。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

[科目名] 特別支援教育  
[担当教員名] 丸川 裕司・光田 博英  
[授業クラス] (学科) 幼児教育学科第3部  
(専攻)

[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE30\_C22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

障害のある子どもの教育に関する現状を理解し、障害の程度等に応じて特別な場で指導を行う特殊教育から一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う特別支援教育への転換を学習する。本学習では、歴史的、理念的に振り返るとともに、個別の教育支援計画や特別支援教育コーディネーター、広域特別支援連携協議会等特別支援教育に関する基本的考え方を理解する。

#### [学習成果] [C]

発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の実態や適切な支援方法等を理解し、よき支援者としての資質を育てる。

#### [授業計画]

- 1 特別支援教育の歴史Ⅰ 我が国における特殊教育の始まりと発展、戦後の特殊教育の復興と完成
- 2 特別支援教育の歴史Ⅱ 特殊教育から特別支援教育への転換
- 3 特別支援教育の理念と仕組み
- 4 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅰ
- 5 特別支援教育の対象となる障害の理解Ⅱ
- 6 特別支援教育に関わる制度 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関わる制度
- 7 学習指導要領と教育課程の編成 学習指導要領と教育課程の編成及び配慮事項
- 8 特別支援学校の教育の概要 特別支援学校の教育の概要
- 9 特別支援学校における教育課程 特別支援学校における教育課程と実際の指導
- 10 自立活動の指導 自立活動の指導内容と方法
- 11 特別支援学校のセンター的機能 特別支援学校のセンター的機能と交流及び共同学習
- 12 小・中学校における特別支援教育Ⅰ
- 13 小・中学校における特別支援教育Ⅱ
- 14 個別の教育支援計画及び指導計画 個別の教育支援計画と個別の指導計画の実際
- 15 特別支援教育コーディネーターの役割

#### [授業方法]

特別支援教育の理念や制度、実際などを講義形式で行い、適宜グループワークや事例検討などのディスカッションを織り交ぜて理解を深める。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験70%、小論文、提出物、講義への参加意欲30%によって総合的に評価する。

#### [教科書]

「特別支援教育の基礎・基本 (新訂版)」  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所  
ジアース教育新社

#### [参考書]

特別支援学校 教育要領・学習指導要領  
特別支援学習指導要領解説 総則等編 自立活動編

#### [準備学習 (予習・復習)]

授業内容に関連することについて日常的に関心を持ち、課題意識を持って授業に臨んでください。また、授業後には授業内容について必ず振り返り、内容のポイントを整理しておく。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]



[科目名] 教育の方法及び技術  
[担当教員名] 中島 淑子・小川 美樹  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_F22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

教育方法の意義を知るとともに、よい授業とはどのような授業であるかを知り、授業を展開する方法や技術を習得し、実践に役立てるようにする。教育の方法や技術、教材の研究の歴史的経過を踏まえ、今日的課題である、アクティブラーニングや、情報機器を活用した授業についての理解を深める。

教科や内容により様々な指導法や教材があるが、それらの背景にある学習心理学や教育学の知見の存在を理解し、子どもたちの資質・能力を育成することのできる指導技術を身につける。

#### [学習成果] [F]

教育の方法と技術を理解し、情報機器の活用と適切な教材の作成活用の技術を身につける。

#### [授業計画]

- 1 教育方法と授業についての理解
- 2 授業の記録教育の方法と技術を学ぶ
- 3 発問、指示についての理解を深める
- 4 板書についての理解を深める
- 5 授業の記録教育の方法と技術を学ぶ
- 6 学習者心理についての理解を深める
- 7 様々な教育方法（系統学習と経験主義・アクティブラーニング）についての理解
- 8 学習指導案の書き方の基本（単元・目標・指導計画）の理解
- 9 学習指導案の書き方の基本（教材・教具・授業展開・学習形態）の理解
- 10 学習指導案の書き方の基本（評価）の理解
- 11 模擬授業の実践（1）
- 12 模擬授業の実践（2）
- 13 授業の評価と学び続ける教師に対する理解
- 14 教科指導におけるICT活用（1）
- 15 教科指導におけるICT活用（情報モラルを含む）（2）

#### [授業方法]

教育の方法や技術に対する課題に対して、グループでのディスカッションを通して学習を深め、学生が問題意識をもつことができるようにする。また、指導案の作成と模擬授業の実践、模擬授業に対する考察を通して、実践的な指導力の向上を図る。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験（60%）  
レポートと模擬授業（30%）  
授業への取組状況（10%）

#### [教科書]

適宜資料配布

#### [参考書]

「学習指導要領」  
「教育小六法」  
「教育史（世界・日本）」

#### [準備学習（予習・復習）]

予習：教科書を読む。  
復習：講義ノートを読み直す。  
（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 生徒指導論  
[担当教員名] 竹中 列・水谷 久康  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_F21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

生徒指導については、問題行動を起こす子どもへの指導のイメージが強く持たれているが、すべての子どもを対象にし、子どものキャリアも含めた自己実現の達成や自己肯定感を育むことを目的としたものである。生徒指導の本来の意味や理念、指導方略を、事例を通して具体的に理解することを目的とするとともに、どのような指導の在り方が教師として求められるのかを探究することを目的とする。また、昨今の学校教育現場では、いじめや不登校、発達障害や子どもの貧困など様々な対処すべき教育課題を抱えている。そういった中で、児童生徒の立場にたったカウンセリングマインド（受容や共感）の必要性をふまえて、子ども理解や支援の技法について具体例を交えながら学ぶ。また、教育相談や進路指導・キャリア教育の意義や、教職員同士、保護者、専門機関との連携などについても考察を加え、子どもを理解する上で、愛着形成の観点から「承認」をキーワードにして、子どもの「育ち」や「人格形成」のメカニズムについても学ぶ。

#### [学習成果] [F]

子どもの自己実現に向けた関わりをみずえた生徒指導や教育相談の在り方を探究することができる。

#### [授業計画]

- 1 刺戟エンション（授業の目的、概要、評価の方法）
- 2 生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義と位置づけ  
-自己指導能力とは何か-
- 3 集団指導と教育相談の方法原理  
-懲戒・出席停止の法的根拠や体罰の禁止も含めて-
- 4 教育相談の意義と課題
- 5 価値観の多様性を理解する -子どもの愛着形成-
- 6 子どもたちのサイン -カウンセリングマインド・アセスメント-
- 7 校則と生徒指導 -頭髪指導を巡って-
- 8 不登校の児童・生徒への対応-不登校対応へのポイント
- 9 いじめに関する児童・生徒への対応  
-いじめの多様性を事例から理解する-
- 10 発達障害のある児童・生徒への対応  
-発達障害を背景とする児童・生徒の理解-
- 11 保護者を対象とした教育相談
- 12 児童虐待の対応 -家庭への介入の是非をめぐって-
- 13 インターネット・携帯電話に関わる生徒指導  
-SNSでの人間関係の特質をふまえて-
- 14 生徒指導及び教育相談における信頼関係  
-自己肯定感を育む関わりかけ-
- 15 学校教育におけるチームによる指導体制と外部機関との連携

#### [授業方法]

基本的に講義形式となるが、適宜ロールプレイングやディスカッションなどを取り入れ、学習者が主体的かつ対話的に学習できるような構成としていく。

アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

授業中の課題（50%）  
定期試験（50%）

#### [教科書]

文部科学省『生徒指導提要』（平成22年3月）  
向後礼子・山本智子『ロールプレイで学ぶ 教育相談ワークブック：子どもの育ちを支える』ミネルヴァ書房（ISBN: 978-4623070558）

#### [参考書]

文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』（全て最新版）

#### [準備学習（予習・復習）]

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

[科目名] 学校栄養教育概論  
[担当教員名] 森 順子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_F21  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

子どもたちの望ましい食習慣形成のために、食教育や給食実務の知識を踏まえ、食に関わって派生する問題を具体的に挙げる。学校における食に関する指導の実践演習および問題解決の方法を考察する。更に栄養教諭に求められる専門性と教育活動の資質と能力を培い、実践的で有用な指導力の習得を図る。

#### [学習成果] [F]

子どもたちの食生活環境、学校における食育の必要性等を理解することにより、栄養教諭の職務内容がわかり、食育推進の取り組みを広げるための方法を考えることができるようになる。

#### [授業計画]

- 1 学校給食の意義、栄養教諭の役割
- 2 食文化の変遷と学校教育
- 3 子どもの発達と食生活
- 4 食に関する指導の全体計画
- 5 食に関する指導の展開
- 6 給食の時間における食に関する指導
- 7 発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材
- 8 家庭科・技術家庭科における食に関する指導
- 9 体育科・保健体育科における食に関する指導
- 10 道徳・特別活動における食に関する指導
- 11 生活科における食に関する指導
- 12 総合的な学習時間における食に関する指導
- 13 個別栄養相談指導
- 14 家庭・地域との連携
- 15 まとめ・試験

#### [授業方法]

講義が主体であるが、ディスカッションや指導案の作成、演習等も取り入れ、栄養教諭が行う指導方法を探っていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- レポート (50%)
- 演習 (30%)
- 発表 (20%)

#### [教科書]

「栄養教諭論」  
「食に関する指導の手引き」

#### [参考書]

#### [準備学習 (予習・復習)]

毎授業前に演習のための資料準備をすること。  
毎授業後にレポートを提出すること。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

授業では学校現場における食に関する指導の進め方について解説するが、「食」にかかわることがらについても関心を持ってもらいたい。

[科目名] 教職実践演習 (栄養教諭)  
[担当教員名] 有尾 正子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_F22  
[単位数] 2単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

栄養教育実習での経験を基に、児童生徒に対して食の持つ役割を理解させ、健康に配慮した食を選択する力を身につけさせるための、効果的な指導方法を実践的に学ぶ。

#### [学習成果] [F]

教員となるための課題を自覚することができる。学外演習では指導媒体を作成し実践する資質を身につけることができる。

#### [授業計画]

- 1 栄養教諭の役割について(教育実習の振り返り)
- 2 事例研究①
- 3 事例研究②
- 4 事例研究③
- 5 食育活動の計画
- 6 食育の実践①
- 7 食育の実践②
- 8 食育の実践③
- 9 媒体作成①
- 10 媒体作成②
- 11 媒体作成③
- 12 学外実践演習①
- 13 学外実践演習②
- 14 学外実践演習③
- 15 まとめ

#### [授業方法]

演習形式ですすめる。学内、学外ともに子どもとふれあう機会を設け、実践的に学ぶ。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

- 授業への取組状況 (60%)
- 提出物 (40%)

#### [教科書]

資料配布

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

演習のための事前準備 (予習) 授業前に必ず行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

食と栄養に関する知識だけではなく、子どもとのコミュニケーション力を養うために、ボランティア活動にも積極的に参加していく。

[科目名] 栄養教育実習  
[担当教員名] 渡辺 香織  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] LCF0\_F22  
[単位数] 1単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

「栄養」「教育」に関する科目の学習をもとに、学校教育の現場で教育実習を行う。実際に児童、生徒とかわる事で栄養教諭の役割を理解する。食に関する指導の実践に加えて、教師としての資質の向上を図る。

#### [学習成果] [F]

・児童・生徒に直接かわることで、教職に関する専門的知識、技術の指導方法を習得することができる。  
・教育の現場での言葉遣い、マナーを理解することができる。

#### [授業計画]

##### 実習内容

- ①学校の経営、校務分掌の理解、服務等
- ②児童及び生徒への個別相談、指導の実習
- ③教科、特別活動等における指導の実習  
学級活動及び給食の時間における指導の参観、補助  
教科等における教科担任等と連携した指導の参観、補助  
指導計画案、指導案の立案作成、教材研究
- ④食に関する指導の連携・調整の実習  
(校内・家庭・地域)
- ⑤実習日誌の記入と指導

#### [授業方法]

実習は10月1週目(5日間)を予定している。  
実習校でスケジュールにより、観察・参加・指導の実習を行う。期間中に1回の巡回指導を行う。

#### [成績評価]

実習校の評価(80%)  
実習日誌(20%)

#### [教科書]

「栄養教育実習記録」有尾正子

#### [参考書]

随時紹介

#### [準備学習(予習・復習)]

授業準備(予習)とともに他の教職科目の復習をしておくこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

事前準備を充分に行い、目的意識をもって実習にのぞむこと。栄養士学外実習での学びを活かして、子どもの食生活について理解を深めたい。

[科目名] 栄養教育実習事前事後指導  
[担当教員名] 森 順子  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_F21  
[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

栄養教育実習を有意義なものとするために、事前の指導と事後の反省を行う。教育の現場で実践的に学ぶことにより、栄養教諭としての資質を向上させる。

#### [学習成果] [F]

教育実習に臨む上での心構えと言葉遣いなどを身につけることができる。事前に指導案の作成、媒体の検討をすることで、実習を充実させ、事後の反省により、後期の学習への意欲を高め食育推進の担い手としての資質を向上させることができる。

#### [授業計画]

- 1 栄養教育実習の意義と目的(1)
- 2 栄養教育実習の意義と目的(2)
- 3 教材の検討(1)
- 4 教材の検討(2)
- 5 指導案の作成(1)
- 6 指導案の作成(2)
- 7 指導案の作成(3)
- 8 模擬授業(1)
- 9 模擬授業(2)
- 10 模擬授業(3)
- 11 模擬授業(4)
- 12 栄養教育実習記録について
- 13 栄養教育実習の心得
- 14 実習後の反省(1)
- 15 実習後の反省(2)

#### [授業方法]

講義、指導案と媒体の作成、模擬授業をおり交ぜて進める。一部は実習直前の夏期休暇中に集中開講となる。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

提出物(40%)  
授業への取組状況(60%)

#### [教科書]

必要に応じて資料を配布する

#### [参考書]

随時紹介する

#### [準備学習(予習・復習)]

授業に必要な資料や課題作成に取り組むこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習(予習・復習)を参照)

#### [備考]

日常生活において食と健康に事柄に関心を持ち、食育に関する情報収集をしておくこと。給食管理実習Ⅱ(学外)にも関連するので、早めの心構えが必要になる。

**【科目名】** 保育・教職実践演習（幼稚園）

**【担当教員名】** 伊藤 久美子

**【授業クラス】**（学科） 幼児教育学科第1部  
（専攻）

**【開講学期】** 2年後期

**【科目コード】** IE10\_E22

**【単位数】** 2単位

**【授業形態】** 演習

#### **【授業概要】**

前半は、保護者支援を学ぶために外部講師による講話を伺ったり地域の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施したりする。事前に調査学習を行い、様々な状況にある保護者の気持ちを考え、事後に支援の在り方に関するレポートを提出する。後半は、保育者として望ましい姿を再検討し自分の課題や目標を考えるとともに、指導力の向上を目指し模擬保育を行い、事前にねらいに適した保育内容になっているか検討し、事後に保育に対する評価をし、改善策を考える。

#### **【学習成果】 [E]**

子育て支援に対する現状や保育者の仕事内容・やりがい等について理解し、様々な状況にある保護者への支援に対する知識を深める。また、これまでに身につけた保育者としての知識や技能のさらなる向上を目指し、不足部分を補い定着を図る。そして、自身の保育観を築きながら感性を磨き、保育者としてのやりがいや使命感を再確認して自身の課題や責任を自覚する。

#### **【授業計画】**

- 1 教育実習振り返り
- 2 子ども理解と子育て支援①貧困家庭の現状
- 3 子ども理解と子育て支援②障がい児と保護者
- 4 子ども理解と子育て支援③外国人保護者
- 5 子育て支援 ～地域との連携～
- 6 フィールドワークのための事前準備
- 7 フィールドワーク（観察－職員の役割や仕事内容）
- 8 フィールドワーク（観察・参加－活動の意義や仕事における責任）
- 9 フィールドワークの発表とまとめ
- 10 社会人としてのマナー
- 11 望まれる保育者像
- 12 保育内容の研究①教材研究と保育方法
- 13 保育内容の研究②指導案の検討
- 14 保育内容の研究③模擬保育
- 15 保育内容の研究④反省・評価・改善

#### **【授業方法】**

外部講師による講話や稲沢市内の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施する。事前に調査学習を行い事後にレポートを提出する。後半は指導力の向上を目指し模擬保育を行い、それについて検討する。「アクティブラーニング導入」・・・調査学習やプレゼンテーション、グループ討議等を取り入れる。幼稚園での実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### **【成績評価】**

授業態度(30%)

提出物、発表(70%)

**【教科書】** 特になし

**【参考書】**

幼稚園教育要領、保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

#### **【準備学習（予習・復習）】**

フィールドワークや外部講師の講話の前には事前学習を行う。また、授業後レポートを提出する。授業内に事前学習やレポート作成を行うこともあるが、授業時間外に行う場合もある。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### **【備考】**

保育者には、協力する姿勢が求められます。グループ活動の際には、他人任せではなく、自分の考えを発したり他の人に助言したり手伝ったりしてグループとして成果があげられるよう行動しましょう。

**【科目名】** 保育・教職実践演習（幼稚園）

**【担当教員名】** 村上 浩美

**【授業クラス】**（学科） 幼児教育 第3部  
（専攻）

**【開講学期】** 3年後期

**【科目コード】** IE30\_E32

**【単位数】** 2単位

**【授業形態】** 演習

#### **【授業概要】**

前半は、保護者支援を学ぶために外部講師による講話を伺ったり地域の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施したりする。事前に調査学習を行い、様々な状況にある保護者の気持ちを考え、事後に支援の在り方に関するレポートを提出する。後半は、保育者として望ましい姿を再検討し自分の課題や目標を考えるとともに、指導力の向上を目指し模擬保育を行い、事前にねらいに適した保育内容になっているか検討し、事後に保育に対する評価をし、改善策を考える。

#### **【学習成果】 [E]**

子育て支援に対する現状や保育者の仕事内容・やりがい等について理解し、様々な状況にある保護者への支援に対する知識を深める。また、これまでに身につけた保育者としての知識や技能のさらなる向上を目指し、不足部分を補い定着を図る。そして、自身の保育観を築きながら感性を磨き、保育者としてのやりがいや使命感を再確認して自身の課題や責任を自覚する。

#### **【授業計画】**

- 1 教育実習振り返り
- 2 子ども理解と子育て支援①貧困家庭の現状
- 3 子ども理解と子育て支援②障がい児と保護者
- 4 子ども理解と子育て支援③外国人保護者
- 5 子育て支援 ～地域との連携～
- 6 フィールドワークのための事前準備
- 7 フィールドワーク（観察－職員の役割や仕事内容）
- 8 フィールドワーク（観察・参加－活動の意義や仕事における責任）
- 9 フィールドワークの発表とまとめ
- 10 社会人としてのマナー
- 11 望まれる保育者像
- 12 保育内容の研究①教材研究と保育方法
- 13 保育内容の研究②指導案の検討
- 14 保育内容の研究③模擬保育
- 15 保育内容の研究④反省・評価・改善

#### **【授業方法】**

外部講師による講話や稲沢市内の子育て支援センターを見学するフィールドワークを実施する。事前に調査学習を行い事後にレポートを提出する。後半は指導力の向上を目指し模擬保育を行い、それについて検討する。アクティブラーニング導入・・・調査学習やプレゼンテーション、グループ討議等を取り入れる。幼稚園、小学校の実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### **【成績評価】**

授業への取組状況(30%)

提出物・発表(70%)

**【教科書】** 特になし

**【参考書】**

幼稚園教育要領、保育所保育指針

幼保連携型こども園教育・保育要領

#### **【準備学習（予習・復習）】**

フィールドワークや外部講師の講話の前には事前学習を行う。また、授業後レポートを提出する。授業内に事前学習やレポート作成を行うこともあるが、授業時間外に行う場合もある。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### **【備考】**

保育者には、協力する姿勢が求められます。グループ活動の際には、他人任せではなく、自分の考えを発したり他の人に助言したり手伝ったりしてグループとして成果があげられるよう行動する。

【科目名】 幼児教育実習 I

【担当教員名】 真下 あさみ

【授業クラス】 (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

【開講学期】 1年後期 【科目コード】 IE10\_D12

【単位数】 1単位 【授業形態】 実習

#### 【授業概要】

観察や子どもへの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育者の子どもへの援助や配慮について学ぶ。

園生活の1日の流れを把握し、保育の環境や保育の準備などにも目を向ける。

また、学校で学んだ知識や技術を活かしながら、部分的に参加・実習することによって、基本的な保育技術を習得する。

幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、保育者としてふさわしい態度をとる。

#### 【学習成果】 【D】

実際に子どもの姿や保育者の援助を観察したり子どもに関わったりすることによって子どもへの理解を深め、保育者として子どもへの関わり方や保育技術を習得する。

#### 【授業計画】

##### ○ 事前オリエンテーション

- ・ 幼稚園実習の意義と目的、実習の流れについて
- ・ 実習の心構え及び事前訪問の意義と目的、方法について
- ・ 実習記録の意義と書き方について

##### ○ 実習内容

- ・ 幼稚園での実際の生活環境や生活や遊びを観察する
- ・ 園生活の1日の流れを把握して環境設定や保育の準備に参加する
- ・ 子どもへの理解を深め、保育者の子どもとのかかわりを学ぶ
- ・ 保育者としての服務態度や倫理観を理解する

##### ○ 実習巡回訪問指導

##### ○ 事後指導

- ・ 実習日誌を整理する
- ・ 礼状を書く
- ・ 実習全体を振り返り、実習の反省点や課題を明確にする

#### 【授業方法】

1週間附属幼稚園で観察・参加・実習を行う。

保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### 【成績評価】

実習園の評価 (70%)

実習日誌・提出物 (30%)

#### 【教科書】

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(株)みらい

#### 【参考書】

幼稚園教育要領

#### 【準備学習 (予習・復習)】

- ・ 実習前に担当する子どもの年齢の発達段階を十分調べておき、一人一人をより理解できるようにする。
  - ・ 発達に応じた手遊びや絵本を用意しておく。
  - ・ 実習記録を基に1日の振り返りを行い、明日の環境準備や子どもへの関わり方等をイメージする。
- (履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### 【備考】

実習では、絵本の読み聞かせをしたり手遊びをしたりするので、日ごろから様々な絵本を読んだり、手遊びなどを覚えて練習しておくとうい。

【科目名】 幼児教育実習 I

【担当教員名】 上島 遥

【授業クラス】 (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

【開講学期】 1年後期 【科目コード】 IE30\_D12

【単位数】 1単位 【授業形態】 実習

#### 【授業概要】

観察や子どもへの関わりを通して子どもへの理解を深め、保育者の子どもへの援助や配慮について学ぶ。

園生活の1日の流れを把握し、保育の環境や保育の準備などにも目を向ける。

また、学校で学んだ知識や技術を活かしながら、部分的に参加・実習することによって、基本的な保育技術を習得する。

幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、保育者としてふさわしい態度をとる。

#### 【学習成果】 【D】

実際に子どもの姿や保育者の援助を観察したり子どもに関わったりすることによって子どもへの理解を深め、保育者として子どもへの関わり方や保育技術を習得する。

#### 【授業計画】

##### ○ 事前オリエンテーション

- ・ 幼稚園実習の意義と目的、実習の流れについて
- ・ 実習の心構え及び事前訪問の意義と目的、方法について
- ・ 実習記録の意義と書き方について

##### ○ 実習内容

- ・ 幼稚園での実際の生活環境や生活や遊びを観察する
- ・ 園生活の1日の流れを把握して環境設定や保育の準備に参加する
- ・ 子どもへの理解を深め、保育者の子どもとのかかわりを学ぶ
- ・ 保育者としての服務態度や倫理観を理解する

##### ○ 実習巡回訪問指導

##### ○ 事後指導

- ・ 実習日誌を整理する
- ・ 礼状を書く
- ・ 実習全体を振り返り、実習の反省点や課題を明確にする

#### 【授業方法】

1週間附属幼稚園で観察・参加・実習を行う。

幼稚園 (教育課程作成・教育実習生指導 等) の実務経験を活かし、実践的な方法で授業を行う。

#### 【成績評価】

実習園の評価 (70%)

実習日誌・提出物 (30%)

#### 【教科書】

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(株)みらい

#### 【参考書】

#### 【準備学習 (予習・復習)】

- ・ 実習前に担当する子どもの年齢の発達段階を十分調べておき、一人一人をより理解できるようにする。
  - ・ 発達に応じた手遊びや絵本を用意しておく。
  - ・ 実習記録を基に1日の振り返りを行い、明日の環境準備や子どもへの関わり方等をイメージする。
- (履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### 【備考】

実習では、絵本の読み聞かせをしたり手遊びをしたりするので、日ごろから様々な絵本を読んだり、手遊びを覚えて練習するとよい。

[科目名] 幼児教育実習Ⅱ  
[担当教員名] 赤塚 徳子  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)  
[開講学期] 2年後期 [科目コード] IE10\_C22  
[単位数] 3単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要・到達目標]

1年次での実習経験をもとに、学習してきた知識や技能を幼児教育現場にて実践する。

幼稚園教諭として必要な幼児の指導法や技術を習得する。幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、社会人としての自覚をもち、資質の向上に努める。

#### [学習成果] [E]

実際に幼児の姿を観察することにより、幼児への理解を深める。また、幼稚園教諭の指導の様子を観察したり実践したりすることで、子どもへの指導法や技術を習得する。

#### [授業計画]

##### ○事前オリエンテーション

- ・幼稚園実習の意義と目的
- ・幼稚園実習の流れ
- ・実習の心構えと事前訪問について
- ・実習記録のとり方
- ・指導計画の立て方（部分実習・全日実習）

##### ○実習内容

- ・園生活の一日の流れを把握して観察・参加実習を行い、園児と積極的にかかわる。
- ・子どもの発達段階をふまえて指導計画を立て、実践する（部分実習・全日実習）。
- ・幼稚園教諭としての倫理観を理解し、服務態度を習得する。
- ・家庭や地域との連携について理解する。

##### ○実習巡回訪問指導

##### ○事後指導

- ・実習日誌の整理
- ・実習全体の振り返りを行い、保育者としての自己の課題を明確にする。

#### [授業方法]

幼稚園にて3週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。

#### [成績評価]

- 実習園の評価（70%）
- 実習日誌・提出物（30%）

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(株)みらい

#### [参考書]

授業にて随時紹介する。

#### [準備学習（予習・復習）]

実習の事前学習として、担当する幼児の発達段階や年齢に即したあそびを理解しておくこと。また、保育教材を作製したり、ピアノの練習を継続したりし、十分な準備をして実習に臨むこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

実習では、講義や事前学習で得た知識をもとに幼児を観察し、子どもの発達段階を考慮した指導計画を立案し、実践しましょう。

[科目名] 幼児教育実習（学外）  
[担当教員名] 田村 佳世  
[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)  
[開講学期] 3年後期 [科目コード] IE30\_E32  
[単位数] 3単位 [授業形態] 実習

#### [授業概要]

1年次での実習経験をもとに、学習してきた知識や技能を幼児教育現場にて実践する。

幼稚園教諭として必要な幼児の指導法や技術を習得する。幼稚園の社会的機能や保育者の役割を理解し、社会人としての自覚をもち、資質の向上に努める。

#### [学習成果] [E]

実際に幼児の姿を観察することにより、幼児への理解を深める。また、幼稚園教諭の指導の様子を観察したり実践したりすることで、子どもへの指導法や技術を習得する。

#### [授業計画]

##### ○事前オリエンテーション

- ・幼稚園実習の意義と目的
- ・幼稚園実習の流れ
- ・実習の心構えと事前訪問について
- ・実習記録のとり方
- ・指導計画の立て方（部分実習・全日実習）

##### ○実習内容

- ・園生活の一日の流れを把握して観察・参加実習を行い、園児と積極的にかかわる。
- ・子どもの発達段階をふまえて指導計画を立て、実践する（部分実習・全日実習）。
- ・幼稚園教諭としての倫理観を理解し、服務態度を習得する。
- ・家庭や地域との連携について理解する。

##### ○実習巡回訪問指導

##### ○事後指導

- ・実習日誌の整理
- ・実習全体の振り返りを行い、保育者としての自己の課題を明確にする。

#### [授業方法]

幼稚園にて3週間の観察・参加・指導（部分・全日）実習を行う。

#### [成績評価]

- 実習園の評価（70%）
- 実習日誌・提出物（30%）

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(株)みらい

#### [参考書]

授業にて随時紹介する。

#### [準備学習（予習・復習）]

実習の事前学習として、担当する幼児の発達段階や年齢に即したあそびを理解しておくこと。また、保育教材を作製したり、ピアノの練習を継続したりし、十分な準備をして実習に臨むこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

実習では、講義や事前学習で得た知識をもとに幼児を観察し、子どもの発達段階を考慮した指導計画を立案し、実践する。

[科目名] 幼児教育実習事前事後指導

[担当教員名] 真下 あさみ

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第1部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE10\_D12

[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

実習のねらいと内容、計画、準備等について学ぶ。幼稚園教諭の仕事と子どもへの理解を深め、保育者にとって必要な保育技術を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

実習を行う上でのふさわしい心構えと態度を知り、基本的な保育技術を身につけ、実習に臨むことができる。  
また、実習後、個々の新たな課題を見つけることができる。

#### [授業計画]

- 1 幼児教育実習の意義と目的
- 2 実習の計画と自己目標
- 3 実習の心構えと実習態度
- 4 事前訪問の準備と実習園の理解
- 5 保育実践と教材準備
- 6 保育の観察方法と記録について
- 7 実習日誌の書き方
- 8 保育者の仕事
- 9 参加実習について
- 10 指導計画の立て方、考え方
- 11 礼状の書き方
- 12 実習の振り返り
- 13 教材研究 (1)
- 14 教材研究 (2)
- 15 発表とまとめ

#### [授業方法]

教材研究や模擬実習も行いながら、実習方法を理解したり保育技術を学んだりしていく。

(適宜グループワーク・実践発表などのアクティブラーニングも取り入れる)

保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況・提出物 (50%)

実践発表 (50%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(株) みらい

#### [参考書]

幼稚園教育要領 フレーベル館

#### [準備学習 (予習・復習)]

実習では、絵本の読み聞かせをしたり手遊びをしたりするので、日ごろから様々な絵本を読んだり、手遊びを覚えたりして練習しておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

- ・自分から挨拶し、正しい言葉づかい・敬語が使えるよう日ごろの生活態度を見直すこと。
- ・自分の考えを人前で積極的に話せるようにして、意見交換をし、相互に高めあっているようにする。

[科目名] 幼児教育実習事前事後指導

[担当教員名] 上島 遥

[授業クラス] (学科) 幼児教育 第3部  
(専攻)

[開講学期] 1年後期 [科目コード] IE30\_D12

[単位数] 1単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

実習のねらいと内容、計画、準備等について学ぶ。幼稚園教諭の仕事と子どもへの理解を深め、保育者にとって必要な保育技術を学ぶ。

#### [学習成果] [D]

実習を行う上でのふさわしい心構えと態度を知り、基本的な保育技術を身につけ、実習に臨むことができる。  
また、実習後、個々の新たな課題を見つけることができる。

#### [授業計画]

- 1 幼児教育実習の意義と目的
- 2 実習の計画と自己目標
- 3 実習の心構えと実習態度
- 4 事前訪問の準備と実習園の理解
- 5 保育実践と教材準備
- 6 保育の観察方法と記録について
- 7 実習日誌の書き方
- 8 保育者の仕事
- 9 参加実習について
- 10 指導計画の立て方、考え方
- 11 礼状の書き方
- 12 実習の振り返り
- 13 教材研究 (1)
- 14 教材研究 (2)
- 15 発表とまとめ

#### [授業方法]

教材研究や模擬実習も行いながら、実習方法を理解したり保育技術を学んだりしていく。

(適宜グループワーク・実践発表などのアクティブラーニングも取り入れる)

保育現場経験を活かした実践的な方法を取り入れながら授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況・提出物 (50%)

実践発表 (50%)

#### [教科書]

「幼稚園・保育所実習ハンドブック」田中まさ子編  
(株) みらい

#### [参考書]

幼稚園教育要領 フレーベル館

#### [準備学習 (予習・復習)]

実習では、絵本の読み聞かせをしたり手遊びをしたりするので、日ごろから様々な絵本を読んだり、手遊びを覚えたりして練習しておくこと。

(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

- ・自分から挨拶し、正しい言葉づかい・敬語が使えるよう日ごろの生活態度を見直すこと。
- ・自分の考えを人前で積極的に話せるようにして、意見交換をし相互に高めあっているようにする。

## 4 医療科目



[科目名] 医療秘書実務  
[担当教員名] 堀 智美  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年後期 [科目コード] LCF0\_A12  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

医療機関の組織的しくみを理解し、医療秘書の役割や業務内容について学ぶ。

接遇・コミュニケーションの大切さを学び、技術を身につける。

#### [学習成果] [A]

医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応のイメージを持つことができる。ホスピタリティに富んだ患者対応やスタッフ同士のコミュニケーションを習得することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 医療秘書の役割
- 3 第一印象①
- 4 第一印象②
- 5 医療接遇
- 6 立ち居振る舞い
- 7 言葉遣い①
- 8 言葉遣い②
- 9 電話対応①
- 10 電話対応②
- 11 来客対応
- 12 クレーム対応
- 13 傾聴法
- 14 交際業務
- 15 総合実務

#### [授業方法]

各項目講義で理解を深めた後、必要に応じて課題に対応してロールプレイを行う。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

課題や授業への取組状況 (60%)  
試験 (40%)

#### [教科書]

病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務

#### [参考書]

配布資料、随時紹介

#### [準備学習 (予習・復習)]

事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。

授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

医療機関に関わることがあれば、そこで勤務するスタッフの行動や言動に着目し、観察してほしい。

[科目名] 医療事務総論  
[担当教員名] 坂下 重吾  
[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養  
[開講学期] 1年前期 [科目コード] LCF0\_A11  
[単位数] 2単位 [授業形態] 講義

#### [授業概要]

病院における事務職の中で、専門性の高い医療事務について、業務の流れ・仕事におけるルール・理解すべき知識を身につけることで、医療秘書実務士の資格取得を目指す。

#### [学習成果] [A]

医療事務業務に必要な基礎的知識を習得できる。また、病院における医療チームの一員として、医療事務員がどのような関わりを持つかを理解することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 病院の組織と業務管理
- 3 医療を支える職種
- 4 病院組織とチーム医療
- 5 医療保険制度
- 6 公費負担医療
- 7 労災保険と自賠責保険
- 8 介護保険
- 9 医療法規
- 12 個人情報保護
- 13 保険請求業務
- 12 診療情報管理実務
- 13 統計・DPC・がん登録
- 14 患者接遇
- 15 まとめ (医療機関で求められる人材)

#### [授業方法]

講義が主体。実際の現場で起こっている話を紹介しながら、ディスカッションを織り交ぜ進めていく。  
アクティブラーニング導入。

#### [成績評価]

試験 (70%)  
課題及び授業への取組状況 (30%)

#### [教科書]

「病院事務のための 医療事務総論/医療秘書実務」  
(建帛社)

#### [参考書]

配布資料 (随時)

#### [準備学習 (予習・復習)]

(予習) テキストを読み、疑問点 (医療用語) について調べる。

(復習) 学んだ事をノートに整理する。  
(履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習 (予習・復習) を参照)

#### [備考]

実際に医療現場に出て、患者さんの前に立った時、みなさんが、どのような振る舞いをし、どのような知識を得ていれば、自信を持って対応出来るのかを説明していく。最新の医療情報を織り交ぜながら話をするので、講義を通じて医療機関で働く楽しさを感じてほしい。

[科目名] 医療秘書実務演習

[担当教員名] 堀 智美・小川 美樹

[授業クラス] (学科) 生活文化  
(専攻) 食物栄養

[開講学期] 2年前期 [科目コード] LCF0\_A21

[単位数] 1単位 [授業形態] 演習

#### [授業概要]

医療秘書や医療機関で必要な対応を体得する。実習室の受付カウンターで役割分担し、患者対応などをロールプレイを行う。実際に想定されるケーススタディも踏まえ、それぞれの立場から感じられることをディスカッションする。

#### [学習成果] [A]

医療機関で必要とされる専門的な事務能力や窓口対応を実際に行い、身につける。役割を演じることで、必要な判断能力やスピード、適切な対応、優先順位などを考え、医療機関での役割を確認する。患者対応はもちろん、チーム医療を行うために必要なスタッフとのコミュニケーション能力も向上することができる。

#### [授業計画]

- 1 オリエンテーション
- 2 接遇①
- 3 接遇②
- 4 感じのよい話し方
- 5 対象別対応について
- 6 ロールプレイ①
- 7 ロールプレイ②
- 8 ロールプレイ③
- 9 医事コンピューター演習①
- 10 医事コンピューター演習②
- 11 電話応対
- 12 高齢者について
- 13 総合演習ロールプレイ①
- 14 総合演習ロールプレイ②
- 15 総合演習ロールプレイ③

#### [授業方法]

各項目講義で理解を深め、課題に対してロールプレイを繰り返し行う。

フィードバックを行い、客観的な自己の評価を受け止めて相手に届けられる技術を確認する。

アクティブラーニング導入。

総合病院（医療事務）での実務経験があり、実践的な方法で授業を行う。

#### [成績評価]

授業への取組状況（60%）

試験（40%）

#### [教科書]

「医療における接遇の基本」（建帛社）

#### [参考書]

配布資料、随時紹介

#### [準備学習（予習・復習）]

事前準備が必要な場合には、調べ学習・課題などに取り組むこと。

授業後にレポート作成も含め、復習を行うこと。

（履修案内のⅡ履修と単位の修得、2単位と学修時間・準備学習（予習・復習）を参照）

#### [備考]

医療スタッフに必要なことを理解するだけでなく、行動して相手に届いていることが自覚できるように心がける。